2020年度
経営学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2020/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

専門入門科目 100 番台　情報学入門Ⅰ/Ⅱ（2019 年度以降入学者）・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ（2018 年度以前入学者）［ ］ 1
専門入門科目 100 番台【A4001】組織論入門［小川　憲彦］春学期授業/Spring 2
専門入門科目 100 番台【A4002】組織論入門［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 3
専門入門科目 100 番台【A4003】組織論入門［橋本　諭］春学期授業/Spring 4
専門入門科目 100 番台【A4005】戦略論入門［近能　善範］春学期授業/Spring 5
専門入門科目 100 番台【A4007】戦略論入門［李　瑞雪］春学期授業/Spring 6
専門入門科目 100 番台【A4009】マーケティング入門［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 7
専門入門科目 100 番台【A4011】マーケティング入門［長谷川　翔平］春学期授業/Spring 8
専門入門科目 100 番台【A4013】ファイナンス入門［山嵜　輝］春学期授業/Spring 9
専門入門科目 100 番台【A4015】ファイナンス入門［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 10
専門入門科目 100 番台【A4016】経済学入門［高橋　理香, 大木　良子］春学期授業/Spring 11
専門入門科目 100 番台【A4017】経済学入門［大木　良子, 高橋　理香］春学期授業/Spring 13
専門入門科目 100 番台【A4018】経済学入門［宮澤　信二郎, 藤澤　利治］秋学期授業/Fall 15
専門入門科目 100 番台【A4019】経済学入門［藤澤　利治, 宮澤　信二郎］秋学期授業/Fall 17
専門入門科目 100 番台【A4020】統計学入門［猪狩　良介］春学期授業/Spring 19
専門入門科目 100 番台【A4022】統計学入門［高橋　慎］春学期授業/Spring 20
専門入門科目 100 番台【A4024】簿記入門Ⅰ［大下　勇二］春学期授業/Spring 21
専門入門科目 100 番台【A4026】簿記入門Ⅰ［川島　健司］春学期授業/Spring 22
専門入門科目 100 番台【A4028】簿記入門Ⅰ［高橋　美穂子］春学期授業/Spring 24
専門入門科目 100 番台【A4030】簿記入門Ⅰ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 25
【A4032】経営学総論Ⅰ（2016～2018 年度入学者）［木村　純子］春学期授業/Spring 26
専門入門科目 100 番台【A4038】情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者）［根岸　良征］春学期授業/Spring 28
専門入門科目 100 番台【A4044】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者）［根岸　良征］春学期授業/Spring 30
専門入門科目 100 番台【A4092】情報学入門Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者）［渡辺　英人］春学期授業/Spring 32
専門入門科目 100 番台【A4096】情報学入門Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者）［木村　昌史］春学期授業/Spring 34
専門入門科目 100 番台【A4098】情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者）［小寺　浩二］春学期授業/Spring 36
専門入門科目 100 番台【A4102】情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者）［永保　敏伸］春学期授業/Spring 38
専門入門科目 100 番台【A4104】情報学入門Ⅰ（メディア情報処理）（2019 年度以降入学者）［築城　厚三］春学期授業/Spring 40
専門入門科目 100 番台【A4106】情報学入門Ⅰ（言語データ処理）（2019 年度以降入学者）［石川　潔］春学期授業/Spring 42
専門入門科目 200 番台【A4301】会計学入門Ⅰ［筒井　知彦］春学期授業/Spring 43
専門入門科目 200 番台【A4303】会計学入門Ⅰ［山田　康裕］春学期授業/Spring 45
専門入門科目 200 番台【A4305】会計学入門Ⅰ［川島　健司］春学期授業/Spring 46
専門入門科目 200 番台【A4307】基礎統計学Ⅰ［猪狩　良介］春学期授業/Spring 48
専門入門科目 200 番台【A4308】基礎統計学Ⅱ［高橋　慎］秋学期授業/Fall 49
専門入門科目 200 番台【A4311】ミクロ経済学入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）［宮澤　信二郎］春学期授業/Spring . 50
専門入門科目 200 番台【A4313】ミクロ経済学入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）［大木　良子］春学期授業/Spring ... 52
専門入門科目 200 番台【A4315】情報学基礎（2019 年度以降入学者）［児玉　靖司］春学期授業/Spring 54
【A4325】マーケティング論Ⅰ［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 55
経営学科専門科目 200 番台【A4351】経営管理論Ⅰ（2019 年度以降入学者）［稲垣　保弘］春学期授業/Spring 57
【A4355】経営社会学Ⅰ［佐野　哲］春学期授業/Spring 58
経営学科専門科目 200 番台【A4357】検定会計Ⅰ（2019 年度以降入学者）［浅石　梨沙］春学期授業/Spring 59
経営学科専門科目 200 番台【A4359】組織行動論Ⅰ［西川　真規子］春学期授業/Spring 60
【A4360】組織行動論Ⅱ［西川　真規子］秋学期授業/Fall 61
経営学科専門科目 200 番台【A4361】キャリア・マネジメントⅠ（2019 年度以降入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 62
【A4363】経営組織論Ⅰ［長岡　健］春学期授業/Spring 63
【A4365】組織マネジメント論Ⅰ［永山　晋］春学期授業/Spring 65
【A4367】経営情報論Ⅰ［岸　眞理子］春学期授業/Spring 66
【A4369】人的資源管理Ⅰ［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 67
【A4375】財務会計論Ⅰ［川島　健司］春学期授業/Spring 69
【A4377】監査論Ⅰ［小澤　康裕］春学期授業/Spring 71
【A4379】税務会計論Ⅰ［大下　勇二］春学期授業/Spring 72

【A4381】管理会計論Ⅰ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 74
【A4383】原価計算論Ⅰ［福田　淳児］春学期授業/Spring 75
【A4385】国際会計論Ⅰ［筒井　知彦］春学期授業/Spring 77
【A4391】情報と倫理［寺本　卓史］春学期授業/Spring 78
【A4392】情報と職業［寺本　卓史］秋学期授業/Fall 79
【A4393】組織経済学Ⅰ［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 80
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4401】経営戦略論Ⅰ（2019 年度以降入学者）［孫　徳峰］春学期授業/Spring . . . 81
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4403】経営戦略論Ⅰ（2019 年度以降入学者）［葉山　彩蘭］春学期授業/Spring . 83
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4405】国際経営論Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 84
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4407】国際経済論Ⅰ［高橋　理香］春学期授業/Spring 86
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4409】戦略的意思決定論Ⅰ［福島　英史］春学期授業/Spring 87
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4411】日本経済論Ⅰ［平田　英明］春学期授業/Spring 88
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4413】産業史Ⅰ［藤澤　利治］春学期授業/Spring 90
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4415】中小企業論Ⅰ［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 92
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4416】中小企業論Ⅱ［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall 93
経営戦略学科専門科目 200 番台【A4417】オペレーションズ・マネジメント［立木　デニス］秋学期授業/Fall 94
【A4419】国際金融論Ⅰ［横内　正雄］春学期授業/Spring 96
【A4421】国際経営戦略論Ⅰ［笠原　民子］春学期授業/Spring 97
【A4423】日本経営史Ⅰ［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 98
【A4425】経営分析Ⅰ［高橋　美穂子］春学期授業/Spring 100
【A4427】経営分析Ⅲ［福多　裕志］春学期授業/Spring 101
【A4429】計量経営分析Ⅰ［高橋　慎］春学期授業/Spring 103
【A4430】計量経営分析Ⅱ［猪狩　良介］秋学期授業/Fall 104
【A4431】システム管理論Ⅰ［児玉　靖司］春学期授業/Spring 105
市場経営学科専門科目 200 番台【A4451】マーケティング・マネジメント論Ⅰ［竹内　淑恵］春学期授業/Spring . . 106
市場経営学科専門科目 200 番台【A4455】金融論Ⅰ（2019 年度以降入学者）［稲葉　圭一郎］春学期授業/Spring . . . 108
市場経営学科専門科目 200 番台【A4457】マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019 年度以降入学者）［西川　英彦］春学期授業/Spring 110
市場経営学科専門科目 200 番台【A4458】マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019 年度以降入学者）［本條　晴一郎］秋学期授業/Fall 111
市場経営学科専門科目 200 番台【A4459】消費者行動論Ⅰ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 112
市場経営学科専門科目 200 番台【A4461】流通論Ⅰ［横山　斉理］春学期授業/Spring 114
市場経営学科専門科目 200 番台【A4463】サービス・マネジメント論Ⅰ［木村　純子］春学期授業/Spring 115
市場経営学科専門科目 200 番台【A4465】日本経営論Ⅰ［金　容度］春学期授業/Spring 117
市場経営学科専門科目 200 番台【A4467】製品開発論Ⅰ［田路　則子］春学期授業/Spring 119
市場経営学科専門科目 200 番台【A4469】コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）［金　璡晋］春学期授業/Spring 121
市場経営学科専門科目 200 番台【A4471】デリバティブ入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）［山嵜　輝］春学期授業/Spring123
市場経営学科専門科目 200 番台【A4473】投資入門（2019 年度以降入学者）［岸本　直樹］春学期授業/Spring 125
市場経営学科専門科目 200 番台【A4474】ポートフォリオ理論入門（2019 年度以降入学者）［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 126
【A4475】産業組織論Ⅰ［大木　良子］春学期授業/Spring 127
【A4477】情報技術論Ⅰ［入戸野　健］春学期授業/Spring 129
【A4479】技術管理論Ⅰ［近能　善範］春学期授業/Spring 130
【A4481】応用経済学Ⅰ［宮澤　信二郎］春学期授業/Spring 131
【A4491】非営利組織経営論Ⅰ［湧口　清隆］春学期授業/Spring 133
【A4493】財政論Ⅰ［徐　一睿］春学期授業/Spring 135
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4501】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［永山　晋］春学期授業/Spring136
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4503】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［福多　裕志］春学期授業/Spring137
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4505】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［檜野　智子］春学期授業/Spring138
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4508】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［高橋　理香］秋学期授業/Fall139
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4509】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［平田　英明］秋学期授業/Fall141
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4510】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［パワー　トーマス　G］秋学期授業/Fall 143
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4512】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［檜野　智子］秋学期授業/Fall144
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4513】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［岡本　慶子］春学期授業/Spring145
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4514】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall146

グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4518】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［西川　真規子］秋学期授業/Fall148
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4519】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［荻原　啓佑］春学期授業/Spring149
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4521】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［立木　デニス］春学期授業/Spring150
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4522】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［戎谷　梓］春学期授業/Spring152
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4527】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［李　瑞雪］春学期授業/Spring153
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4531】国際コミュニケーション論Ⅰ（2019 年度以降入学者）［パワー　トーマス　G］春学期授業/Spring 154
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4533】ビジネス英語Ⅰ（初級）［ジョナサン・エーブル］春学期授業/Spring . . . 156
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4535】ビジネス英語Ⅰ（中級）［ジョナサン・エーブル］春学期授業/Spring . . . 157
連環科目【A4581】インターンシップⅠ［小林　健一］秋学期授業/Fall 158
【A4587】キャリア・マネジメントⅠ（2018 年度以前入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 159
【A4588】キャリア・マネジメントⅡ（2018 年度以前入学者）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 160
演習【A4601】入門演習（2019 年度以降入学者）［檜野　智子］春学期授業/Spring 161
演習【A4603】入門演習（2019 年度以降入学者）［小林　一夫］春学期授業/Spring 162
演習【A4607】入門演習（2019 年度以降入学者）［宮澤　信二郎］春学期授業/Spring 164
演習【A4608】入門演習（2019 年度以降入学者）［小林　健一］秋学期授業/Fall 165
演習【A4609】入門演習（2019 年度以降入学者）［稲垣　保弘］春学期授業/Spring 166
演習【A4611】入門演習（2019 年度以降入学者）［猪狩　良介］春学期授業/Spring 167
演習【A4612】入門演習（2019 年度以降入学者）［筒井　知彦］春学期授業/Spring 168
【A4651】演習 1［安藤　直紀　（代講：笠原　民子）］春学期授業/Spring 169
【A4657】演習 1［猪狩　良介］春学期授業/Spring 171
【A4663】演習 1［池田　宏一郎］春学期授業/Spring 173
【A4669】演習 1［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 175
【A4675】演習 1［稲垣　保弘］春学期授業/Spring 177
【A4681】演習 1［大木　良子］春学期授業/Spring 179
【A4687】演習 1［大下　勇二］春学期授業/Spring 181
【A4693】演習 1［小川　孔輔］春学期授業/Spring 183
【A4699】演習 1［小川　憲彦］春学期授業/Spring 185
【A4705】演習 1［奥西　好夫］春学期授業/Spring 187
【A4711】演習 1［神谷　健司］春学期授業/Spring 189
【A4717】演習 1［川島　健司］春学期授業/Spring 191
【A4723】演習 1［河内谷　幸子］春学期授業/Spring 193
【A4729】演習 1［岸　眞理子］春学期授業/Spring 195
【A4735】演習 1［岸本　直樹］春学期授業/Spring 197
【A4741】演習 1［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 199
【A4747】演習 1［木原　章］春学期授業/Spring 201
【A4753】演習 1［金　璐晋］春学期授業/Spring 203
【A4759】演習 1［金　容度］春学期授業/Spring 205
【A4765】演習 1［木村　純子］春学期授業/Spring 207
【A4771】演習 1［倉田　俊彦］春学期授業/Spring 209
【A4777】演習 1［児玉　靖司］春学期授業/Spring 211
【A4783】演習 1［近能　善範］春学期授業/Spring 213
【A4789】演習 1［坂上　学］春学期授業/Spring 215
【A4795】演習 1［佐野　哲］春学期授業/Spring 217
【A4801】演習 1［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 219
【A4807】演習 1［高橋　慎］春学期授業/Spring 221
【A4813】演習 1［高橋　美穂子］春学期授業/Spring 223
【A4819】演習 1［高橋　理香］春学期授業/Spring 225
【A4825】演習 1［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 227
【A4831】演習 1［田路　則子］春学期授業/Spring 229
【A4837】演習 1［筒井　知彦］春学期授業/Spring 231
【A4843】演習 1［長岡　健］春学期授業/Spring 233
【A4849】演習 1［永山　晋］春学期授業/Spring 235
【A4855】演習 1［新倉　貴士］春学期授業/Spring 237
【A4861】演習 1［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 239
【A4867】演習 1［西川　英彦　（秋学期代講：本條　晴一郎）］春学期授業/Spring 241
【A4873】演習 1［西川　真規子］春学期授業/Spring 243

【A4879】演習 1［入戸野　健］春学期授業/Spring 245
【A4885】演習 1［長谷川　翔平］春学期授業/Spring 247
【A4891】演習 1［平田　英明］春学期授業/Spring 249
【A4897】演習 1［福島　英史］春学期授業/Spring 251
【A4903】演習 1［福田　淳児］春学期授業/Spring 253
【A4909】演習 1［福多　裕志］春学期授業/Spring 255
【A4915】演習 1［藤澤　利治］春学期授業/Spring 257
【A4921】演習 1［藤村　博之］春学期授業/Spring 259
【A4927】演習 1［洞口　治夫］春学期授業/Spring 261
【A4933】演習 1［宮澤　信二郎］春学期授業/Spring 263
【A4939】演習 1［山嵜　輝］春学期授業/Spring 265
【A4945】演習 1［横内　正雄］春学期授業/Spring 267
【A4951】演習 1［横山　斉理］春学期授業/Spring 269
【A4957】演習 1［吉田　健二　（代講：高橋　正泰）］春学期授業/Spring 271
【A4963】演習 1［吉田　康伸］春学期授業/Spring 273
【A4969】演習 1［李　瑞雪（代講：恩田　登志夫）］春学期授業/Spring 275
情報関係科目【A5201】プログラミング言語Ⅰ（C 言語）（2019 年度以降入学者）［寺脇　由紀］春学期授業/Spring 277
情報関係科目【A5205】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring . 279
情報関係科目【A5207】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）［神林　靖］春学期授業/Spring . . . 281
情報関係科目【A5211】プログラミング言語Ⅰ（VBA）（2019 年度以降入学者）［高田　美樹］春学期授業/Spring . . 283
情報関係科目【A5213】プログラミング言語Ⅰ（スクリプト言語）（2019 年度以降入学者）［入戸野　健］春学期授業/Spring 284
【A5250】応用プログラミングⅠ（計量分析）［長原　徹］春学期授業/Spring 285
【A5252】応用プログラミングⅠ（統計）［中平　千彦］春学期授業/Spring 286
【A5254】応用プログラミングⅠ（2016～2017 年度入学者）［長原　徹］春学期授業/Spring 288
【A5256】応用プログラミングⅠ（2016～2017 年度入学者）［中平　千彦］春学期授業/Spring 289
情報関係科目【A5260】情報学応用Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者）［木村　昌史］春学期授業/Spring . . 291
情報関係科目【A5264】情報学応用Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者）［三宅　修平］春学期授業/Spring . . 293
情報関係科目【A5268】情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring . . 295
情報関係科目【A5272】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring297
情報関係科目【A5276】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［江島　夏実］春学期授業/Spring299
情報関係科目【A5278】情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019 年度以降入学者）［沼尻　治樹］春学期授業/Spring 301
情報関係科目【A5330】情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）［入戸野　健］春学期授業/Spring303
情報関係科目【A5332】情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring305
情報関係科目【A5334】情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring . . 307
情報関係科目【A5336】情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）［高田　美樹］春学期授業/Spring . . 309
情報関係科目【A5340】情報学発展Ⅰ（システム科学）（2019 年度以降入学者）［高田　美樹］春学期授業/Spring . . 311
連環科目【A5381】民法［松田　佳久］年間授業/Yearly 312
連環科目【A5382】会社法［鬼頭　俊泰］年間授業/Yearly 314
連環科目【A5383】労働法［山本　圭子］年間授業/Yearly 316
特殊講義【A5401】広告論［小林　健一］オータムセッション/Autumn Session 317
特殊講義【A5404】Skills for SA［パワー　トーマス　G］春学期授業/Spring 318
特殊講義【A5406】社会貢献活動と企業［洞口　治夫、小池　祐二］秋学期授業/Fall 320
特殊講義【A5407】EU 経済とドイツ［藤澤　利治］秋学期授業/Fall 322
特殊講義【A5410】寄附講座・資本市場の役割と証券投資［鷲田　賢一郎］秋学期授業/Fall 323
特殊講義【A5411】物流産業論［安藤　康行］秋学期授業/Fall 324
特殊講義【A5412】上場会社におけるディスクロージャー制度［水沼　久雄］春学期授業/Spring 325

情報学入門Ⅰ/Ⅱ（2019年度以降入学者）・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ（2018年度以前入学者） 1年次／2単位 ［］

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近では、様々な場面でおいてコンピュータが利用され、必須のものとなっている。さらに、スマートフォン、携帯端末に代表されるように、コンピュータネットワークに接続し、コンピュータを用いて情報交換することができるよになって来た。我々の生活のあらゆる場面で広く活用され、道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになっている。

情報学に関する専門基礎科目の目標は、皆さんがPCや情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。

具体的には、第一に、コンピュータである情報通信機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシーを学ぶことであり、不自由なくPCや情報ネットワークを使いこなすことができるようにすることである。第二に、既存のソフトウェアを扱うことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決ができるようになることである。第三は、情報リテラシーを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。

皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に加えて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の６つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけましょう。

【到達目標】

情報学の基礎となる概念と技術を学び、技術を理解することを目標とする。評価に関わる目標は、各コース毎に異なる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

〔表計算コース〕
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトウェアを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。
〔データ演習コース〕
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的なVisual Basic for Applicationsを用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。
〔データベースコース〕
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。
〔空間情報処理コース〕
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。
〔メディア情報処理コース〕
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的的な方法を知る。DTPソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。
〔言語データ処理コース〕
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、文字ベースのデータおよび音声データの入手や分析に必要なITスキルの基本を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
各コース	各コースのページを参照。	各コースのページを参照。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各コースのページを参照。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各コースのページを参照。

【参考書】

各コースのページを参照。

【成績評価の方法と基準】

各コースのページを参照。

【学生の意見等からの気づき】

各コースのページを参照。

【学生が準備すべき機器他】

各コースのページを参照。

【その他の重要事項】

各コースのページを参照。

【関連科目】

各コースのページを参照。

【Outline and objectives】

The goal of these courses of informatics is to get the ability for you to become familiar with PCs and information networks and to use them effectively to solve problems in the information society.
Specifically, the first is to become familiar with information and communication equipment and to learn information literacy. Students will not only be able to work with existing software, but will be able to create your own programs and solve problems yourself.
The following six courses are set up in this practical subject so that students can learn the basics of informatics.

MAN100FA

組織論入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

小川　憲彦

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の企業経営は組織によって成り立っています。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を経営目標の達成に向けて上手く活用するためには組織の力が不可欠です。組織、ここでは特にヒトの労働力を統合し、方向づけ、活用する仕組みとその過程について、基本的な知識を学びます。

【到達目標】
大まかに言えば、組織論がどういった学問であるのかを学びます。そのためには経営学という学問体系の中で、それがどのような位置づけにあるのか知る必要があります。つまり他の専門領域との関係の中で組織論はどういう領域なのかを知ってほしいと思います。また、その歴史的な発展の流れについて学びながら、組織論の基本的な用語についても知ってほしいと思います。これらは経営学を学ぶ上でのイロハになりますので、半期を通じて慣れて行って下さい。
具体的には以下を目標とします。
①経営学の中で組織論がどのような位置づけにある領域か説明できること
②組織論の歴史的発展の流れが説明できること
③組織論における二つのアプローチについて説明できること
④組織論の基本的な言葉・概念を知っておりその意味が説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
WEB での大人数授業ですので、主に文書、課題、可能なら動画配信の形で実施します。まだ流動的ですので、随時、学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要や参加要件について
第 2 回	経営学と組織論	経営学はどんな学問か、その中の組織論はどんな領域か
第 3 回	組織とは何か	組織の定義について
第 4 回	組織構造	官僚制、有機的組織、マトリクス型組織など
第 5 回	組織と外部環境、戦略	オープンシステムとしての組織と環境との関係
第 6 回	組織のライフサイクル	組織の発展過程
第 7 回	組織過程（個人①）	モチベーションの内容理論
第 8 回	組織過程（個人②）	モチベーションの過程理論
第 9 回	組織過程（集団①）	リーダーシップの古典理論
第 10 回	組織過程（集団②）	近年のリーダーシップ論
第 11 回	組織文化①	企業文化論
第 12 回	組織文化②	組織文化と適合
第 13 回	意思決定論	合理的意思決定
第 14 回	近年の組織論	ポストモダン組織論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を課すことがありますが、入門科目ですから、あまり難しい事は求めません。アルバイトやニュースなどをきっかけにして、興味のある業界・会社について調べたりしながら参加すると理解が深まるでしょう。現実社会をよりよく知るための道具が理論です。現実の事例と学んだ内容がどう関連するのか、考えながら参加して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂下昭宣 (2014)『経営学への招待 新装版』白桃書房。（分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。）

【参考書】
金井壽宏 (1999)『経営組織―経営学入門シリーズ』日経文庫。（分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。）

【成績評価の方法と基準】
過年度においては、提出物やディスカッション、発言等を含む平常点 50%、期末試験 50%としていました。
ただし本年度については、期末試験の実施の可否などが不明ですので、こちらも流動的になります。現状では、各回のリアクションペーパーが評価の対象になると思います。それが 100 %になるか、平常点として 50 %になるかは、今後次第です。

【学生の意見等からの気づき】
可能な範囲で時々復習しながら進めたいと思います。

【その他の重要事項】
ノートを取る癖をつけて下さい。

【関連科目】
none

【Outline and objectives】
This class aims to provide students with basic knowledge and an overview of organization and administration theories. The students who complete the course will be expected to:① have an overview of major themes, core concepts, and discussions in organization theory; ② understand where the theory could be placed in the academic system of business administration; ③ understand two major approaches in organization theory.

MAN100FA

組織論入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

佐野　嘉秀

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織論の基礎を学習します。組織とは何か、どのように組織を作り、いかに組織に関わる人を動かし、一人では達成できない組織の目標を達成するか。組織論の基礎的な概念と理論について学び、企業をはじめとする組織のマネジメントについて考える基礎的な視点を身につけます。

【到達目標】
①組織論の扱う様々な論点を理解し、これから経営学を学んでいくうえでの関心を広げる。
②組織論の基礎的な概念と理論を理解し、それらを用いて具体的な経営現象について議論できるようになる。
③２年次以降に専門演習・専門科目として学習する組織分野の科目選択を自覚的に行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
パワーポイント・板書・配布資料を用いての講義形式です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	経営学の全体像と組織論の位置づけ	経営学とは何か、経営学と経済学、経営学の諸分野
2	組織の定義	組織とは何か、組織成立の条件、組織研究の体系
3	組織論と人間モデル①	人間像とマネジメント、経済人モデル、社会人モデル
4	組織論と人間モデル②	自己実現モデル、モデルの多様性と人間の複雑性
5	モチベーションの理論①	モチベーションとは何か、動機づけの理論、
6	モチベーションの理論②	欲求段階論、内発的動機づけ
7	モチベーションの理論③	期待理論、公平理論、目標設定理論、モチベーション理論のまとめ
8	リーダーシップの理論①	リーダーシップとは何か、リーダーとフォロワー、特性理論
9	リーダーシップの理論②	行動理論、コンティンジェンシー理論
10	リーダーシップの理論③	カリスマ、リーダーシップの代替物、リーダーシップ理論のまとめ
11	組織デザインの理論①	組織デザインとは何か、組織理論、組織構造
12	組織デザインの理論②	分業と効率、分業と調整、分業と権限、組織デザインの理論のまとめ
13	意思決定の理論	意思決定の理論、限定合理性と組織の役割
14	組織文化、組織論入門のまとめ	組織文化の理論、本授業で学習したことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から経営について関心を持ち、授業で学習した概念や理論を踏まえて新聞記事を読むなど、経営学の視点の応用に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
①上野恭裕・馬場大治（編著）『経営管理論』中央経済社（2016 年）、②田尾雅夫 (編著)『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房 (2010 年)、③坂下昭宣『経営学への招待（第３版）』白桃書房 (2007 年) など。詳しくは授業内で適宜説明します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 100 %
期末試験を行い成績評価とします。授業で学習した内容を理解しているかを問う内容の試験問題とします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、パワーポイントでの説明と板書を組み合わせ、具体的な例示も用いて、組織論の初学者であるみなさんが無理なく理解できるような講義を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布に法政大学授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
経営学部生としての専門科目の学習の基礎となる授業です。学習意欲をもって授業にのぞんでください。

【Outline and objectives】
Our objective is to understand basic theories of organization. We are going to study definitions of organization and basic organizational theories of main areas such as motivation, readership, organizational design, decision-making and organizational culture. Lecture is main style of this subject.

MAN100FA
組織論入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
組織論入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

橋本　諭

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織論入門は、3つの特徴があります。
1）経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
2）経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象 (たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
3）今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の３点です。
1）組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
2）経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
3）その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
＜新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う春学期の授業方法の変更 ＞
・授業開始日：　2020 年 4 月 27 日（月） 10:40 ～ 12:20
・全 12 回　zoom or Youtube 等を使ったライブ配信型オンライン授業で行う。
・初回授業の際に、接続テストなど受講環境のチェックを行います。
・詳細は、授業支援システムに記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第 2 回	経営学とは何か（1）	企業経営とは何か： 企業を取り巻くステークホルダー
第 3 回	経営学とは何か（2）	株式会社： 株式会社とは何か　株主、機関
第 4 回	組織マネジメント（1－1）	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第 5 回	組織マネジメント（1－2）	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第 6 回	組織マネジメント（2－1）	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第 7 回	組織マネジメント（2－2）	組織開発： 組織開発の光と闇
第 8 回	人材マネジメント（1－1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第 9 回	人材マネジメント（1－2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点は何か
第 10 回	人材マネジメント（2－1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第 11 回	人材マネジメント（2－2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第 12 回	ラップアップ	前期授業の振り返りと総括
第 13 回	なし	新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学事日程の変更により、春学期の授業回数は 12 回とする。
第 14 回	なし	新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学事日程の変更により、春学期の授業回数は 12 回とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加してください。また、授業後に該当分野に関連する実例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】
1）金井壽宏（1999）『経営組織』日本経済新聞出版社.
2）桑田耕太郎　田尾雅夫（2010）『組織論　補訂版』有斐閣.
3）稲葉祐之　井上達彦　鈴木竜太　山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣.
その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、以下の通りとします。
最終レポート： 50%　小レポート： 50 %
小レポートについては、授業項目を前提として、5 回出題します。

【学生の意見等からの気づき】
身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を進めていきます。
インターネットにつながる環境を用意してください。
カメラがついた PC が望ましいですが、最低限スマートフォンを WiFi に接続して参加してください。

【その他の重要事項】
特になし

【関連科目】
なし

【Outline and objectives】
This is an introductory course designed to help you develop an understanding and awareness of organizations. This course includes three topics;Basics of business management,organizational management,human resource management.It aims to become a course leading to future advanced learning.

MAN100FA
戦略論入門　　専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
戦略論入門　　専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

近能　善範

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのように行っていくのかという道筋を示す、基本的な構想や指針のこと」を意味しています。この授業では、こうした経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】
経営戦略論に関わる基礎的事項の習得が、この授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。
【2020 年 4 月 20 日追記】
春学期の少なくとも前半は、動画配信を中心としたオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は、4 月 27 日（月）とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
毎週、配信動画の URL や提出課題についてお知らせしますので、必ず学習支援システム内の「課題」の箇所を確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス、自己紹介、戦略に関するショートストーリー
第 2 回	経営戦略論とは何か、何を学ぶのか	経営学の中での経営戦略論の位置づけ、経営戦略の定義、戦略の三段階
第 3 回	経営戦略の基本的な考え方とその分析手法 (1)	PEST 分析および 3C 分析と、その考え方
第 4 回	経営戦略の基本的な考え方とその分析手法 (2)	SWOT 分析と、その考え方
第 5 回	競争戦略論 (1)	5 Forces 分析と、その考え方
第 6 回	競争戦略論 (2)	VRIO 分析と、その考え方
第 7 回	競争戦略論 (3)	三つの基本戦略と、その考え方
第 8 回	競争戦略論 (4)	事例による競争戦略の理解と確認
第 9 回	成長戦略	アンゾフの成長ベクトルと事例
第 10 回	全社戦略	PPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）分析と、その考え方
第 11 回	国際展開と戦略	グローバル戦略の二軸：グローバル統合とローカル適応
第 12 回	ICT と戦略	知識マネジメント、ビッグデータ、ビジネスモデルと ICT
第 13 回	スタートアップ企業と戦略	スタートアップ企業の戦略、リーン・スタートアップ、M&A と提携
第 14 回	まとめ	これまでの学習のまとめ、戦略論のフロンティア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に求めませんが、毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノート、テキストの該当箇所等を読み直し、復習を行うことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・沼上幹 (2008).『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』, 有斐閣。
・青島矢一・加藤俊彦 (2003).『競争戦略論』, 東洋経済新報社。

【成績評価の方法と基準】
(1) ビデオ感想（10 点満点）＋期末試験（90 点満点）の総合計に基づいて評価します。
(2) なお、期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの要望が強いので、企業の具体的な事例を、なるべく数多く盛り込む予定です。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
(1) 授業中の私語や携帯電話の使用、黒板等の写真撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2 回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。
(2) 授業中の迷惑行為が目に余る場合には、本授業の単位を付与しません。

【関連科目】
関連科目は、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営情報論Ⅰ/Ⅱなどです。

【Outline and objectives】
"Strategic Management" means basic schemes and guidelines indicating targets that a company aims at and a roadmap for the achievement thereof. In this class, basic knowledge on "Strategic Management" is explained as easily as possible with concrete examples from various industries.
The goal is to understand the basics on "Strategic Management" theory.

MAN100FA

戦略論入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

李　瑞雪

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核的科目の一つである経営戦略論の入門的講義です。2 年生以降の専門科目の勉強に備え、企業の経営戦略にかかわる基礎的な概念や理論を学ぶことが主たる目的です。

【到達目標】
企業の経営戦略を検討する際に必要不可欠な用語・概念の意味を把握し、戦略論の基盤たる理論やフレームワークに依拠して企業の戦略的意思決定と戦略的行動を理解する能力を持つことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
ある程度大人数となることがが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営戦略の概念と体系、構成要素など。
2	業界構造分析（Ⅰ）	業界構造分析（5 つの力）のうち、産業内の既存企業間での競合、新規参入の脅威，参入障壁について説明する。
3	業界構造分析（Ⅱ）	5 つの力のうち、代替品 売り手、買い手について説明した後、業界構造分析枠組みを用いてケース分析を行う。
4	ポジショニング論と資源ベース論	ポジショニング論、資源ベース論と VRIO フレームワークについて説明する。
5	事業戦略	コスト・リーダーシップ戦略、製品差別化戦略、垂直統合戦略について解釈する。
6	企業戦略（Ⅰ）	企業が多角化戦略を実行する動機、どの事業を選択し、集中するか、事業領域（ドメイン）をどこに決めるか、関連性のパターンをどうするかについて説明する。
7	企業戦略（Ⅱ）	戦略的提携、M&A について解釈する。
8	経営戦略と経営組織	「組織は組織に従う」の命題、機能別組織と事業別組織、マトリックス型組織について説明する。
9	マーケティング論	技術発想とマーケティング発想、マーケティング近視眼、マーケティング・ミックス（4 P）について説明する。
10	イノベーション（Ⅰ）	イノベーションとは何か，イノベーションはどのように進むのかについて説明する。
11	イノベーション（Ⅱ）	イノベーションを実現するために必要なものについて学ぶ。
12	国際化の戦略（Ⅰ）	企業の国際化とその動機、国際化の発展プロセス、および企業の国際化に伴うさまざまな経営上の問題について理解する。
13	国際化の戦略（Ⅱ）	企業の国際経営戦略の分類である、グローバル戦略、マルチドメスティック戦略、トランスナショナル戦略について説明する。
14	試験・まとめと解説	戦略論入門の試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
1）井上善海・佐久間信夫編著『よくわかる　経営戦略論』ミネルヴァ書房
2）青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
3）沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
4）M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
5）ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
6）G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参加（＋ α）、小レポートなど平常点（20%）、期末テスト（80%）、授業中の私語や携帯使用（－ α）。

【学生の意見等からの気づき】
初回開講の授業になるため、学生の意見はまだ受けていません。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【その他の重要事項】
毎回授業に先立ち、必ず授業支援システムにアクセスし、資料を印刷してください。

【関連科目】
経営戦略論、マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論、戦略意思決定論、グローバル経営戦略論、国際経営論、経営組織論、技術管理論、オペレーションズ・マネジメント論など

【Outline and objectives】
In this class, we will study introductory knowledge on strategics management, which is one of the core subjects in business administration. The main purpose is to learn basic concepts and theories related to corporate strategy and business strategy as preparation for studying after the second grade.

MAN100FA
マーケティング入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
マーケティング入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

竹内　淑恵

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済のサービス化、グローバル化、ICT の進展や消費者ニーズの多様化等、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。
本講義では、顧客創造に焦点を当て、企業の現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、皆さんもよくご存知の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】
・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を説明できるようになる。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品・新サービスの情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
以下の点を修正します。
・講義形式で授業を進めます。スライドは講義資料として配付します。
→ 録画配信オンデマンド型授業を行います。受講生は、金曜 1 限の授業時間に縛られず、自分の都合のよいときにあらかじめ収録したビデオを視聴して学習してください。4 月 24 日から 7 月 31 日までの期間に、4 回に分けて、テキスト第 1 章から第 15 章までを配信する予定です。配信スケジュールは学習支援システムで公開した「マーケティング入門ガイダンス」資料で確認してください。講義資料は学習支援システム「教材」に随時掲載します。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
→ この点については修正ありません。
・ゲストスピーカーによる講義 (テキストに掲載された事例の担当者を計画していますが、スケジュール等の詳細は未定です) の際には、リアクションペーパーを提出してもらうことを検討中です。
→ 教室で授業をできないため、ゲストスピーカーによる講義については中止する予定です。
オンデマンド授業の視聴方法は以下の通りです。
1. 法政ポータルサイト（Hoppii）ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス　（統合認証 ID とパスワードを入力）
URL ： https://hoppii.hosei.ac.jp/
または、https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/
2. クラス一覧から「マーケティング入門」を選びクリック、
教科一覧から「マーケティング入門」をクリック、
　章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴
3.「終了」ボタンを押して視聴終了

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、マーケティング発想法	授業のすすめ方・評価方法等を説明する。初回授業として、マーケティングの定義や目的、発想法を学ぶ。
2	マーケティング・ミックス	STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学ぶ。
3	製品戦略	新製品開発による顧客創造を学ぶ。
4	価格戦略	価格戦略による顧客創造を学ぶ。
5	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造を学ぶ。
6	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学ぶ。
7	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ (市場調査) を学ぶ。
8	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学ぶ。
9	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学ぶ。
10	ディマンド・チェーン	在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学ぶ。
11	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法を学ぶ。
12	営業活動	企業における営業戦略、営業活動の多様性を学ぶ。
13	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学ぶ。
14	社会共生	マーケティングと社会との関わりを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
私たち消費者は、日々の暮らしの中で企業が提供するさまざまな製品やサービスを使っています。これは使用者としての立場ですが、授業では提供者の側、すなわち、マーケターの視点を持ってください。マーケティングは身近な学問です。自分がいつも使っている製品やサービスのマーケティングを通じて、理解が進むと思います。

【テキスト（教科書）】
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎（2019）
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016)。
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007)。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度に開設された新規科目です。2019 年度は担当していないため、アンケートを実施していません。皆さんからの意見等を次年度に役立てたいと考えています。積極的な授業参加をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからダウンロードした配布資料を授業中に読めるよう、各自機器の準備をお願いします。

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部、広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの本質について解説します。

【関連科目】
・マーケティング・マネジメント論 I/II
・マーケティング・リサーチ論 I/II
・消費者行動論 I/II
・流通論 I/II
・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline and objectives】
Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objectives, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and solve them. In each lecture, we learn the basics of marketing through case studies.

MAN100FA
マーケティング入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
マーケティング入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

長谷川　翔平

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マーケティングを取り巻く環境は時代と共に変化してきている。近年では，インターネットやスマートフォン，人工知能の普及により，消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。インターネットやスマートフォンによって，消費者は製品・サービスの比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり，企業は SNS 等を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。消費者の行動データが大量に収集・利用できるようになったこともあり，人工知能のマーケティングへの応用も広がっている。一方で，環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。
本授業はマーケティングの初学者を対象として，STP マーケティングやマーケティング・ミックスなどのマーケティングの基礎概念を学ぶことを目的とし，学んだ知識を現実のマーケティングに応用できる能力を身につけることを目指す。

【到達目標】
・マーケティングの基礎概念を説明できる
・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期の授業計画や成績評価方法の変更については学習支援システムを参照してください。

[4 月 21 日追記]
(1) 学習支援システム掲載のお知らせを Google Classroom にも掲載しています。学習支援システムにアクセスできない学生は，Google Classroom でクラスコード「4lbt22z」を登録して，春学期の授業方法を確認してください。Google Classroom で授業登録を行うためには法政大学 Gmail にログインする必要があります。
(2) この授業は 2019 年度以降入学者対象の授業です。2018 年度以前入学者対象のマーケティング論およびその再履修授業ではありません。
（変更前の内容）
授業は PowerPoint のスライドを用いた講義形式で行う。スライドは講義資料として配付する。授業内で，現実の企業のマーケティング上の課題を提示し，その課題に対するマーケティング戦略の提案をリアクションペーパーとして提出してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	マーケティング発想法	マーケティングの定義や目的，発想法を学ぶ
2	マーケティング・ミックス	STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品，価格，チャネル，コミュニケーション）の基礎を学ぶ
3	製品戦略	新製品開発による顧客創造を学ぶ
4	価格戦略	価格戦略による顧客創造を学ぶ
5	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造を学ぶ
6	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学ぶ
7	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学ぶ
8	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学ぶ
9	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学ぶ
10	ディマンド・チェーン	在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学ぶ
11	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法を学ぶ
12	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学ぶ
13	社会共生	マーケティングと社会との関わりを学ぶ
14	授業のまとめ	本授業の復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段使っている製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているか，よく観察して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光『1 からのマーケティング 第 3 版』碩学舎（2009）
・久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング』有斐閣（2013）
・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
授業の進捗によってグループワークを取り入れる

【関連科目】
・マーケティング・マネジメント論 I/II
・マーケティング・リサーチ論 I/II
・消費者行動論 I/II
・流通論 I/II
・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline and objectives】
This is an introductory marketing course. Students will learn important marketing theories such as STP marketing and marketing mix (product, price, promotion, place). The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues.

ECN100FA
ファイナンス入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

ECN100FA
ファイナンス入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

山嵜　輝

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部の多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念、債券と株式の初歩的な分析手法について学びます。さらには、デリバティブ取引についても簡単に紹介します。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】
次の 5 つを到達目標に掲げます。
①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
⑤代表的なデリバティブ取引の仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本年度は動画配信によるオンデマンド授業を実施します。履修を希望する方は 4 月 20 日までに授業支援システムで仮登録をしてください。授業動画の視聴方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第 4 回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第 5 回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第 6 回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第 7 回	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語
第 8 回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第 9 回	債券分析の基礎（1）	金利の変動要因
第 10 回	債券分析の基礎（2）	債券投資の方法
第 11 回	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語
第 12 回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第 13 回	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターン
第 14 回	デリバティブの紹介	先物やオプションなどのデリバティブ取引の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う筆記試験（100 %）で評価します。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】
ファナンス特有の概念や理論の解説は特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。

【その他の重要事項】
教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】
投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】
This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. It has four objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. (4) To introduce financial derivative transactions including forwards, futures, and options.

ECN100FA

ファイナンス入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

岸本　直樹

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが，現代の社会人にとって，ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の知識は必須です。たとえば，経営学部の卒業生の多くが金融機関や企業の財務部門で活躍していますが，ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また，個人としても，債券，株式，投資信託等への投資のほか，年金運用のための投資にファイナンスの知識が欠かせません。本講義では，金融取引や証券市場の仕組み，将来価値と現在価値の概念と計算方法，債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに，デリバティブ取引についても簡単に紹介します。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス科目の基礎になります。

【到達目標】
次の 5 つを到達目標に掲げます。
①金融・証券の基礎知識に基づき，金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②利子率や将来価値，現在価値の概念を理解し，それらに関する基本的な計算ができる。
③債券の仕組みを理解し，利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
④株式の仕組みを理解し，配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
⑤代表的なデリバティブ取引の仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。黒板に板書することがあるので，必要に応じてノートをとってください。また，授業中に計算することがありますので，電卓（関数電卓，あるいは，スマートフォン，タブレット，ノート PC の表計算ソフト）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。
2	金融・証券市場の概観（1）	債券市場，株式市場，短期金融市場などを概説する。
3	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者のほか，政府，中央銀行の役割を概説する。
4	利子率，将来価値，現在価値（1）	将来価値，現在価値の計算ほか，複利と単利の違いを学習する。
5	利子率，将来価値，現在価値（2）	将来価値，現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
6	利子率，将来価値，現在価値（3）	様々な複利期間について将来価値および現在価値の計算を学習するほか，1 年当たりの利子率として表示されるものについて学習する。
7	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。
8	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスクを学習する。
9	債券分析の基礎（1）	金利の変動要因を学習する。
10	債券分析の基礎（2）	債券投資の方法を学習する。
11	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
12	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する。
13	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターンを学習する。
14	デリバティブの紹介	先物やオプションなどのデリバティブ取引を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019 年，有斐閣。

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
期末テストが 70%，授業で実施する小テストと授業態度が 30%。

【学生の意見等からの気づき】
本科目を担当するのは初めてなので，特にない。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓，あるいは，スマートフォン，タブレット，ノート PC の表計算ソフト）を持参してください。

【その他の重要事項】
教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】
投資入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ，Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ。

【Outline and objectives】
This course offers an introduction to finance. It has four objectives. (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts and the computation of the future value and the present value of cash flows. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. (4) To give an introduction to financial derivatives, including forwards, futures, and options. These topics will provide the foundation for the finance courses offered at the Faculty of Business Administration.

ECN100FA

経済学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

高橋　理香, 大木　良子

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一歩を踏み出すことができます。
14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。
理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】
市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。頻繁に連絡をしますので、学習支援システムへの仮登録をお願いします】この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（大木）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実証編：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で，時系列的・横断面的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観
第 2 回	戦後日本経済のあゆみ（1）	第二次世界大戦後の日本経済は，占領期の制度変化を経て，「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し，安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について，経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 3 回	戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生，それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷，さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について，様々な経済データを用いながら概観し，現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生
第 4 回	日本の労働	皆さんは数年後に社会に出ます。すると，皆さんは消費者であると同時に，社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し，近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率
第 5 回	日本の世界経済とのかかわり（1）	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて，多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて，日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 6 回	日本の世界経済とのかかわり（2）	モノやサービスの国際取引が行われると，その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて，為替の仕組みや制度を理解し，国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機，世界金融危機）による日本経済への影響
第 7 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年，他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また，実証編のまとめ，理論編とのつながり，2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA） ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ
第 8 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに，経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？という疑問について，一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 9 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について，グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方，需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方，供給曲線のシフト）
第 10 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において，売り手と買い手がどのように行動し，影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して，需要や供給はどのように変化するか？）

第 11 回　市場と需要・供給（3）	いくつかの例題を通して第 2，3 回で学んだ内容を組み合わせて，より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ，台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら，アイス市場の均衡はどう変わる？
第 12 回　市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え，どうしればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）
第 13 回　市場の失敗（1）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 14 回　市場の失敗（2）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また，理論編のまとめを行います。さらに，より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので，宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実証編では，テキストを指定しません。毎回，授業で使用するプリントを配布する予定です。
理論編では，以下のテキストを使用します。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社　2019 年

【参考書】
実証編では，適宜参考になる文献を授業で紹介します。
理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 3 版）』日本評論社　2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年

【成績評価の方法と基準】
【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】
期末テスト（60 %），授業中の小テストや課題，宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方にも高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインシステム（授業支援システム）を活用し，授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】
『マクロ経済学』（ILAC 科目），『ミクロ経済学入門』，『経営のための経済学』，『産業組織論』，『日本経済論』，『金融論』，『組織経済学』，『国際金融論』，『国際経済論』，『日本経営史』，『産業史』

【実務経験のある教員による授業】
該当なし

【Outline and objectives】
Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society.　By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically.　In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

ECN100FA

経済学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

大木　良子, 高橋　理香

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一歩を踏み出すことができます。
14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。
理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】
市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。頻繁に連絡をしますので、学習支援システムへの仮登録をお願いします。】
この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名（大木）と実証編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに，経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？という疑問について，一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 2 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について，グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方，需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方，供給曲線のシフト）
第 3 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において，売り手と買い手がどのように行動し，影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して，需要や供給はどのように変化するか？）
第 4 回	市場と需要・供給（3）	いくつかの例題を通して第 2，3 回で学んだ内容を組み合わせて，より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ，台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら，アイス市場の均衡はどう変わる？
第 5 回	市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え，どうしればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）
第 6 回	市場の失敗（1）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 7 回	市場の失敗（2）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また，理論編のまとめを行います。さらに，より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
第 8 回	実証編：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で，時系列的・横断面的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観
第 9 回	戦後日本経済のあゆみ（1）	第二次世界大戦後の日本経済は，占領期の制度変化を経て，「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し，安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について，経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 10 回	戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生，それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷，さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について，様々な経済データを用いながら概観し，現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生

第 11 回	日本の労働	皆さんは数年後に社会に出ます。すると，皆さんは消費者であると同時に，社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し，近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率
第 12 回	日本の世界経済とのかかわり（1）	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて，多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて，日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 13 回	日本の世界経済とのかかわり（2）	モノやサービスの国際取引が行われると，その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて，為替の仕組みや制度を理解し，国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機，世界金融危機）による日本経済への影響
第 14 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年，他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また，実証編のまとめ，理論編とのつながり，2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA） ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので，宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
理論編では，以下のテキストを使用します。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社　2019 年
実証編では，テキストを指定しません。毎回，授業で使用するプリントを配布する予定です。

【参考書】
理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 3 版）』日本評論社　2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年
実証編では，適宜参考になる文献を授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】
期末テスト（60 %），授業中の小テストや課題，宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインシステム（授業支援システム）を活用し，授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】
『マクロ経済学』（ILAC 科目），『ミクロ経済学入門』，『経営のための経済学』，『産業組織論』，『日本経済論』，『金融論』，『組織経済学』，『国際金融論』，『国際経済論』，『日本経営史』，『産業史』

【実務経験のある教員による授業】
該当なし

【Outline and objectives】
Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society.　By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically.　In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

ECN100FA

経済学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

宮澤　信二郎, 藤澤　利治

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一歩を踏み出すことができます。
14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。
理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】
市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）と実証編 7 回を担当する教員 1 名（藤澤）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに，経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？という疑問について，一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 2 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について，グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方，需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方，供給曲線のシフト）
第 3 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において，売り手と買い手がどのように行動し，影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して，需要や供給はどのように変化するか？）
第 4 回	市場と需要・供給（3）	いくつかの例題を通して第 2，3 回で学んだ内容を組み合わせて，より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ，台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら，アイス市場の均衡はどう変わる？
第 5 回	市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え，どうしればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）
第 6 回	市場の失敗（1）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 7 回	市場の失敗（2）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また，理論編のまとめを行います。さらに，より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
第 8 回	実証編：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で，時系列的・横断面的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観
第 9 回	戦後日本経済のあゆみ（1）	第二次世界大戦後の日本経済は，占領期の制度変化を経て，「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し，安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について，経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 10 回	戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生，それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷，さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について，様々な経済データを用いながら概観し，現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生
第 11 回	日本の労働	皆さんは数年後に社会に出ます。すると，皆さんは消費者であると同時に，社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し，近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率

第 12 回	日本の世界経済とのかかわり（1）	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて，多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて，日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 13 回	日本の世界経済とのかかわり（2）	モノやサービスの国際取引が行われると，その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて，為替の仕組みや制度を理解し，国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機，世界金融危機）による日本経済への影響
第 14 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年，他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また，実証編のまとめ，理論編とのつながり，2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA） ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので，宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
理論編では，以下のテキストを使用します。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社　2019 年
実証編では，テキストを指定しません。毎回，授業で使用するプリントを配布する予定です。

【参考書】
理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 3 版）』日本評論社　2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年
実証編では，適宜参考になる文献を授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（60 %），授業中の小テストや課題，宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方にも高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインシステム（授業支援システム）を活用し，授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】
『マクロ経済学』（ILAC 科目），『ミクロ経済学入門』，『経営のための経済学』，『産業組織論』，『日本経済論』，『金融論』，『組織経済学』，『国際金融論』，『国際経済論』，『日本経営史』，『産業史』

【実務経験のある教員による授業】
該当なし

【Outline and objectives】
Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

ECN100FA

経済学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

藤澤　利治, 宮澤　信二郎

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一歩を踏み出すことができます。
14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。
理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】
市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（藤澤）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実証編：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で，時系列的・横断面的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観
第 2 回	戦後日本経済のあゆみ（1）	第二次世界大戦後の日本経済は，占領期の制度変化を経て，「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し，安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について，経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 3 回	戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生，それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷，さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について，様々な経済データを用いながら概観し，現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生
第 4 回	日本の労働	皆さんは数年後に社会に出ます。すると，皆さんは消費者であると同時に，社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し，近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率
第 5 回	日本の世界経済とのかかわり（1）	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて，多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて，日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 6 回	日本の世界経済とのかかわり（2）	モノやサービスの国際取引が行われると，その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて，為替の仕組みや制度を理解し，国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機，世界金融危機）による日本経済への影響
第 7 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年，他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また，実証編のまとめ，理論編とのつながり，2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA） ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ
第 8 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに，経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？という疑問について，一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 9 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について，グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方，需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方，供給曲線のシフト）
第 10 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において，売り手と買い手がどのように行動し，影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して，需要や供給はどのように変化するか？）
第 11 回	市場と需要・供給（3）	いくつかの例題を通して第 2，3 回で学んだ内容を組み合わせて，より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ，台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら，アイス市場の均衡はどう変わる？

第 12 回　市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え，どうしればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）
第 13 回　市場の失敗（1）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 14 回　市場の失敗（2）	市場に任せておくと問題が生じる場合として，売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また，理論編のまとめを行います。さらに，より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので，宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実証編では，テキストを指定しません。毎回，授業で使用するプリントを配布する予定です。
理論編では，以下のテキストを使用します。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社　2019 年

【参考書】
実証編では，適宜参考になる文献を授業で紹介します。
理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 3 版）』日本評論社　2018 年
伊藤元重･下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（60 %），授業中の小テストや課題，宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方にも高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインシステム（授業支援システム）を活用し，授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】
『マクロ経済学』（ILAC 科目），『ミクロ経済学入門』，『経営のための経済学』，『産業組織論』，『日本経済論』，『金融論』，『組織経済学』，『国際金融論』，『国際経済論』，『日本経営史』，『産業史』

【実務経験のある教員による授業】
該当なし

【Outline and objectives】
Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society.　By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically.　In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

PRI100FA
統計学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
統計学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

猪狩　良介

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が着目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論とエクセルを用いたデータ分析について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・配布資料に沿って講義形式で進めます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
・授業後によく復習をする必要があります。
【4/20 追加】
・初回の授業ガイダンス (4/24 分) については講義支援システムの「教材」ページにある「統計学入門 01(0424).pdf」ファイルを熟読してください。
・春学期のオンライン授業の開始は 5/8(金) となります。
・シラバス内容に修正がある場合は、講義支援システムよりアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
2	データの記述 (1) 度数分布表とヒストグラム	データの特徴を浮き彫りにする方法を学びます。
3	データの記述 (2) 中心を表す指標	データの特徴 (中心) を見るための、平均値や中央値などについて学びます。
4	データの記述 (3) ばらつきを表す指標	データの散らばり具合を見積もる分散と標準偏差について学びます
5	データの記述 (4) 標準化と偏差値	標準化および偏差値について学びます。
6	相関 (1) 散布図／共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
7	相関 (2) 相関係数／相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関の注意点を学びます。
8	相関 (3) 相関と回帰	回帰分析について学びます。また、相関と回帰の違いについて学びます。
9	確率と確率分布 (1)	確率の基礎概念と、確率変数について学びます。
10	確率と確率分布 (2)	2 項分布や正規分布などの代表的な確率分布を学びます。
11	確率と確率分布 (3)	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
12	母数の推定 (1)	母集団と標本、また推定と推定量の概念を学びます。母割合や母平均の点推定およびその統計的性質を学びます。
13	母数の推定 (2)	母割合や母平均の区間推定を学びます。
14	まとめ	本授業で学習した内容を復習し、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・授業で紹介したエクセルによるデータ分析を実際に行います。
・テキストにある練習問題を宿題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・藪友良 (2012)『入門実践する統計学』東洋経済新報社.
・日花弘子 (2016)『できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門』SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】
・演習課題 (40%)
・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】
・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。
・演習課題を解くためのエクセルが必要になります。

【その他の重要事項】
・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
経営のための統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
Statistics has attracted attention from business as well as academia. Making good decisions in business, such as marketing and investment strategies, require objective evidence based on data, that is, Statistics. In this course, we learn basic theories of Statistics and data analysis using Excel.

PRI100FA
統計学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
統計学入門

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

高橋　慎

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
Zoom によるインタラクティブ授業を 5 月 8 日に開始します。
・Zoom のミーティング ID とパスワードは授業前日に通知します。
・Zoom によるインタラクティブ授業では質疑応答を主な内容としますので、事前に資料を読んで準備してください。
・資料は授業支援システム経由で配布します。
・質問はシステムの「授業内掲示板」でも受け付けます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
2	データの記述 1 ：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
3	データの記述 2 ：中心を表す標本特性値	データの中心を表す 3 つの特性値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
4	データの記述 3 ：ばらつきを表す標本特性値	データのばらつきをの程度を表す標本分散と標本標準偏差を学びます。
5	データの記述 4 ：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
6	相関 1 ：散布図/標本共分散	散布図を利用して 2 つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2 つの変数間の相関関係を表す標本共分散を学びます。
7	相関 2 ：標本相関係数/標本相関係数の注意点	2 つの変数間の相関関係を表す標本相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなど、標本相関係数の見方や解釈について注意すべき点を学びます。
8	確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
9	主要な確率分布 1 ：離散確率分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
10	主要な確率分布 2 ：連続確率分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。
11	母数の推定 1 ：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
12	母数の推定 2 ：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
13	母数の推定 3 ：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
14	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・テキストにある練習問題を宿題として解きます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藪友良 (2012)『入門　実践する統計学』 東洋経済新報社

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
練習問題、課題： 40 %
期末課題： 60%

【学生の意見等からの気づき】
より発展的トピックも紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で行う演習や練習問題を解くには、エクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）が必要です。

【その他の重要事項】
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
基礎統計学 I / II
経営のための統計学 I / II

【Outline and objectives】
Recently, Statistics has attracted attention from business as well as academia. Making good decisions in business, such as marketing and investment strategies, require objective evidence based on data, that is, Statistics. In this course, we learn basic theories of Statistics.

MAN100FA
簿記入門Ⅰ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
簿記入門Ⅱ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

大下　勇二

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ/Ⅱでは簿記の基礎と日商簿記 3 級程度の修得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。
春学期の授業に関しては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第 2 回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 5 回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第 7 回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第 9 回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、それの勘定口座への転記の作業を習得します。
第 10 回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 2 回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 3 回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第 4 回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 5 回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 6 回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 7 回	有形固定資産 (1)	有形固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 8 回	有形固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、有形固定資産の売却の処理について学習します。
第 9 回	貸倒損失と貸倒引当金、資本	貸倒れの処理と資本の処理を学習します。
第 10 回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第 11 回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第 12 回	税金、伝票	税金の処理と伝票を用いた記入方法を学習します。
第 13 回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第 14 回	財務諸表 (2)	決算整理から 8 桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3 級』(最新版) 中央経済社。
『検定 簿記ワークブック 3 級』(最新版) 中央経済社。

【参考書】
最初の授業で指示する予定です。

【成績評価の方法と基準】
春学期の成績評価に関しては、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの例題、練習問題および仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業経営論Ⅰ/Ⅱなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
　簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

【Outline and objectives】
The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

MAN100FA
簿記入門Ⅰ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
簿記入門Ⅱ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

川島　健司

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらい、日商簿記検定 3 級に合格することである。簿記の「なぜ？」に答えることを重視するため（なぜ日常の家計簿の延長では不十分・不合理なのか？、なぜ複式、なぜ借方・貸方なのか？、なぜ加法にこだわるのか？、なぜ決算整理が必要なのか？ 等々）、資格試験の授業計画とは異なるが、学習の範囲、扱う内容、演習問題の量は日商簿記検定 3 級の標準的授業と同じである。
この授業では 2，3 年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習する。それは社会人になった時にビジネスの常識として必要となる基本的事項でもある。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである。
・基本的な取引の内容を理解し、それを記帳・要約して財務諸表を作成する技術を習得する。
・作成した財務諸表から、企業の実態を推論する技術を習得する。
・財務諸表の作成と読解を通じて、会計上の諸論点の存在を理解し、それらを議論するために必要な概念を理解する。
・日商簿記検定 3 級に合格できる知識、および同 2 級の受験準備としての知識を習得する。
・簿記に関する一般教養的知識を身につける（文化・歴史・経済との関わり等）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルス感染症の影響にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日（水）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
本授業は原則的にオンデマンド形式で行う。年間 28 回の授業を以下の 4 つに分割して、それぞれテーマと問題意識を共有しながら授業を進める。
第 1 部 簿記の基礎概念を理解する（2-7 回）
第 2 部 記録と要約の方法を理解する（8-13 回）、以上「簿記入門Ⅰ」
第 3 部 簿記検定試験の対策（16-21 回）
第 4 部 簿記検定試験から会計学への発展（22-27 回）、以上「簿記入門Ⅱ」
なお、第 1 回・第 15 回はガイダンス、第 14 回・第 28 回は総合問題の解説にあてる（いずれも教室での授業を予定）。
本授業では単に簿記処理の技術を説明するだけでなく、簿記の歴史、文化的側面、経済発展への貢献などを解説することを通じて、簿記に関する教養的知識の習得を受講生に促す。
受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設ける。受講生は授業内容について理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1（教室）	イントロダクション	簿記の役割、簿記会計を学ぶ意義等について説明する
2（オンデマンド）	会社経営に関する概念	簿記の記録対象となる会社の取引とその実態や仕組みについて概観する。
3（オンデマンド）	財政状態に関する概念	経営に必要な資金の調達源泉とその運用形態に関する記録を学ぶ。
4（オンデマンド）	収支計算に関する概念	日常生活の記帳の延長として、一般に認められた方法により現金出納帳と収支計算書を作成する方法を解説する。
5（オンデマンド）	利益計算に関する概念	利益計算の方法と損益計算書等について学習する。収益・費用の概念を収入・支出と対比させて解説する。
6（オンデマンド）	簿記一巡の手続きに関する概念	取引を記録・要約して財務諸表が作成されるまでの一連の手続きについて概観する。
7（オンデマンド）	決算整理に関する概念	合理的な期間損益計算のために行われる決算時の修正手続きについて学ぶ。
8（オンデマンド）	資金調達と現金預金	資金調達と現金預金について解説する。
9（オンデマンド）	商品の仕入／買掛金／販売／売上債権	商品の仕入／買掛金／販売／売上債権の各取引について解説する。
10（オンデマンド）	固定資産の購入と売却／未払金と未収金／その他の債権・債務／税金／配当	固定資産の購入と売却／未払金と未収金／その他の債権・債務／税金／配当の各取引について解説する。
11（オンデマンド）	決算① 売上原価の算定／貸倒引当金	売上原価の算定／貸倒引当金について解説する。
12（オンデマンド）	決算② 減価償却	減価償却について解説する。
13（オンデマンド）	決算③ 経過勘定項目	経過勘定項目について解説する。
14（教室）	総合的演習問題	仕訳、総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成等について総合的に学習する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15（教室）	イントロダクション	秋学期全体の学習内容と論点について俯瞰する。
16（オンデマンド）	第 1 問対策　仕訳	日商簿記検定 3 級の第 1 問対策を行う。
17（オンデマンド）	第 2 問対策　勘定口座	日商簿記検定 3 級の第 2 問対策を行う。
18（オンデマンド）	第 3 問対策　試算表	日商簿記検定 3 級の第 3 問対策を行う。
19（オンデマンド）	第 4 門対策　伝票	日商簿記検定 3 級の第 4 問対策を行う。
20（オンデマンド）	第 5 問対策　精算表	日商簿記検定 3 級の第 5 問対策を行う。
21（オンデマンド）	過去問題と総合的対策	日商簿記検定 3 級の過去問題を総合的に対策する。
22（オンデマンド）	第 1 問の復習と「費用収益対応の原則」	第 1 問の復習と「費用収益対応の原則」について解説する。
23（オンデマンド）	第 2 問の復習と「発生主義会計」	第 2 問の復習と「発生主義会計」について解説する。
24（オンデマンド）	第 3 問の復習と「資産評価の考え方」	第 3 問の復習と「資産評価の考え方」について解説する。
25（オンデマンド）	第 4 門の復習と「簿記の歴史」	第 4 門の復習と「簿記の歴史」について学習する。
26（オンデマンド）	第 5 問の復習と「財務分析」	第 5 問の復習と「財務分析」について学習する。
27（オンデマンド）	総合問題の復習と「企業財務」	総合問題の復習と「企業財務」について解説する。
28（教室）	精算表と財務諸表に関する総合問題	精算表の問題を 2 問解いてもらい、解説する。仕訳・勘定記入、試算表の作成、精算表の作成などの問題を解いてもらい、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回講義で学習した例題の復習と関連する部分の演習問題を解いておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。

【参考書】
・黒澤清『新講 商業簿記』千倉書房, 1947 年.
・大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦『簿記講義ノート』白桃書房,1998 年.
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005 年.
・中村忠『簿記の考え方・学び方』六訂版, 税務経理協会, 2006 年.
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版, 白桃書房, 2014 年.

【成績評価の方法と基準】
（変更後）
　期末の筆記試験を実施できる見通しがたたないことから、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

（変更前）
　以下の 2 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を授業支援システムを通じて提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 %の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】
　復習のための課題をより多く課したい。またミニ試験の回数を増やし、受講者の理解度を段階的に確かめていきたい。

【その他の重要事項】
1. 本授業は大半の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。
2. 受講生の質疑内容に応じて、一部の授業回をオンデマンドから教室に変更する場合がある。この場合は授業支援システムを通じて告知する。
3. 本授業では、簿記処理の技術のみならず、簿記に関する一般教養的知識（文化・歴史・経済との関わり等）についても解説し、これらについても期末試験において多く出題する。本学の会計専門職講座をはじめ各種資格試験講座を受講している学生もぜひ受講してほしい。

【関連科目】
　この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is to get knowledge of fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate fince. This lecture includes technique, principle, history, and practice of bookkeeping and accounting.

MAN100FA
簿記入門Ⅰ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
簿記入門Ⅱ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

高橋　美穂子

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記は企業が行う日々の経済活動を記録するためのしくみです。簿記の主たる目的は，企業の経営成績および財政状態を明らかにすることによって，企業の利害関係者の意思決定に役立てることにあります。企業の経営成績を表示する計算書を損益計算書，財政状態を表示する計算書を貸借対照表といい，両者をあわせて財務諸表といいます。この講義では，企業が行う経済活動を記録，整理し，財務諸表を作成する一連の簿記の流れを学習します。

【到達目標】
・企業（商業）が行う主たる取引, 経済活動が理解できる
・日商簿記検定３級の出題範囲（簿記の基本原理・諸取引の処理・決算）が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインでの開講となります。それにともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。4 月 24 日までに具体的な授業の進め方などを学習支援システムで提示します。本講義の履修を計画している学生は学習支援システムで仮登録をしてください（4/16 変更）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方，簿記の意義
2	簿記の意義としくみ	簿記の意義，基礎，しくみ，貸借対照表と損益計算書，貸借対照表と損益計算書の関係
3	仕訳と転記（1）	勘定，取引の意義と種類，取引８要素と結合関係
4	仕訳と転記（2）	仕訳と転記
5	仕訳帳と元帳	帳簿の種類，仕訳帳から元帳への転記
6	決算（1）	決算の意義と手続，試算表の作成
7	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成，決算手続と精算表
8	現金と預金（1）	現金，現金過不足
9	現金と預金（2）	当座預金と当座借越，小口現金
10	繰越商品・仕入・売上（1）	3 分法，諸掛と返品，
11	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳，商品有高帳
12	売掛金と買掛金（1）	売掛金と買掛金，元帳，明細表
13	売掛金と買掛金（2）	クレジット売掛金，前払金，前受金
14	春学期の総括	春学期の総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	その他の債権債務	貸付金・借入金，未収入金・未払金，立替金・預り金，仮払金・仮受金，受取商品券，差入保証金
16	受取手形と支払手形（1）	手形の振出し・受入れ，手形代金の取立て・支払い
17	受取手形と支払手形（2）	手形記入帳，手形貸付金・手形借入金，電子記録債権・債務
18	有形固定資産（1）	固定資産の取得，売却，減価償却
19	有形固定資産（2）	固定資産台帳，年次決算と月次決算
20	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れと貸倒損失，貸倒の見積もりと貸倒引当金の設定
21	資本	株式会社の設立と株式の発行，繰越利益剰余金，配当
22	収益と費用（1）	収益と費用の種類，未収未払い
23	収益と費用（2）	前受け・前払い，消耗品費と貯蔵品の処理
24	税金	租税公課，法人税，住民税及び事業税，消費税
25	伝票	仕訳帳と伝票，３伝票制，帳簿への記入，集計
26	財務諸表（1）	決算手続，試算表の作成
27	財務諸表（2）	棚卸表の作成と決算整理事項，精算表の作成，財務諸表の作成
28	秋学期の総括	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容が理解できるよう，テキストの予習と練習問題の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
渡辺裕亘，片山覚，北村敬子編著『検定簿記講義３級』，中央経済社，最新版

【参考書】
渡辺裕亘，片山覚，北村敬子編著『検定簿記ワークブック３級』，中央経済社，最新版

【成績評価の方法と基準】
春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は学習支援システムで提示します（4/16 変更）。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解を促すため，問題演習を行います。また復習に役立てるため，復習問題のプリントを配布し，宿題とします。

【学生が準備すべき機器他】
講義中に問題演習を行いますので，授業には電卓を持参してください。

【その他の重要事項】
分かりにくい点があれば，遠慮なく質問してください。
講義環境の維持のため，私語には厳しい態度で対応します。

【関連科目】
会計学入門，財務会計論，経営分析論

【Outline and objectives】
Bookkeeping is the process of recording daily transactions in a company. The main purpose of bookkeeping is to help interesting parties making their decisions by reporting the financial position and business performance of a company. Income statement reports the financial performance of a company over a specific accounting period. Balance Sheet reports the financial position of a company at a specific accounting date. In this course students learn a sequence of accounting procedures during an accounting period that includes Journalization, Posting, Adjustments, Income Statement and Balance sheet preparation.

MAN100FA
簿記入門Ⅰ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
簿記入門Ⅱ

専門入門科目 100 番台　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

北田　皓嗣

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、簿記の基本的仕組を理解してもらうことを目的にしています。簿記入門Ⅰ・Ⅱを学習することによって、将来企業社会で必要とされる簿記会計の基本的事項を身につけることができます。

【到達目標】
日商簿記検定 3 級レベルの簿記会計の知識の習得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容と目的と説明，簿記の役割と簿記を学習する意義について解説します。
第 2 回	簿記の基礎 1	簿記の必要性・仕訳と勘定記入
第 3 回	簿記の基礎 2	残高試算表
第 4 回	簿記の基礎 3	貸借対照表・損益計算書の作成
第 5 回	商品売買 1	三分法による処理／掛けによる売買
第 6 回	商品売買 2	前払金・前受金・商品券
第 7 回	商品売買 3	仕入・売上・返品・発送費・立替金
第 8 回	商品売買 4	先入先出法
第 9 回	商品売買 5	移動平均法
第 10 回	現金・預金 1	現金・当座預金
第 11 回	現金・預金 2	当座借越・小口現金
第 12 回	クレジット取引・手形取引	クレジット売掛金・手形
第 13 回	様々な帳簿・電子取引債権・債務	補助簿・電子取引
第 14 回	利息の処理	支払利息・受取利息

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	その他の取引 1	有形固定資産の取得・購入・賃借
第 16 回	その他の取引 2	未収入金・未払金
第 17 回	その他の取引 3	仮払金・仮受金
第 18 回	その他の取引 4	給与・訂正仕訳
第 19 回	試算表 1	合計残高試算表
第 20 回	試算表 2	合計残高試算表と明細表
第 21 回	決算整理 1	決算整理（現金過不足）
第 22 回	決算整理 2	決算整理（租税公課・貯蔵品）
第 23 回	決算整理 3	決算整理（売上原価）
第 24 回	決算整理 4	決算整理（貸倒れ・期中取引）
第 25 回	決算整理 5	決算整理（貸倒れ・決算差額補充法）
第 26 回	決算整理 6	決算整理（減価償却）
第 27 回	決算整理 7	決算整理（経過勘定項目）
第 28 回	まとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミニテスト・総合問題演習に向けてこまめに復習してください。こまめに復習して知識を定着させることで，検定試験に合格でき，かつ実務でも使える簿記の力が身につきます。なお，本授業の復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・TAC 簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記 3 級 (よくわかる簿記シリーズ)ver11.0』（TAC 出版）　※最新版
・TAC 簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記 3 級 (よくわかる簿記シリーズ)』（TAC 出版）　※最新版

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
宿題（80 %），期末試験（20%)

【学生の意見等からの気づき】
学生が興味を持ちそうなトピックを随時取り上げ，講義内で簿記との関わりを説明するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
この講義は、２年次からの「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」、３年次からの会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳ルールを習得しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。日商簿記３級をマスターして同２級・１級、さらには公認会計士・税理士といった職業会計人の国家試験にチャレンジしよう。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
The objectives of this class is understanding basic systems about book keeping. You are going to get business skills about Book Keeping.

MAN100FA
経営学総論Ⅰ（2016～2018 年度入学者）

1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
経営学総論Ⅱ（2016～2018 年度入学者）

1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

木村　純子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTT ドコモ、ソフトバンク、セブン-イレブン、トヨタ自動車、任天堂といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中には大小さまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

【到達目標】
経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。
多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。
秋学期は人を動かす仕組みに焦点をあて、どのようにすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【授業開始日】4 月 22 日 (水)16 時 50 分 (ZOOM 授業)】
4 月 22 日 16 時 45 分から ZOOM ミーティングルームに入室していただけます。
授業形式その①　オンデマンド授業 (1 週間の間にいつでも受けられる)
授業形式その②　顔出し双方向型オンライン授業 (水曜日 5 限： 16 時 50 分～18 時 30 分)
この授業は、一部の授業回をオンデマンド形式 (配信期間中に自宅で受講) で行います。
コロナウイルス感染の状況によりオンライン授業が大学での教室授業に変更される場合があります。
顔出し双方向型 ZOOM 授業は、水曜日 5 限 (16 時 50 分～18 時 30 分) に ZOOM を用いて行います。
(1)ZOOM 受講条件
オンライン授業を履修するための条件は 6 つあります。
①自宅での受講が前提である。友人と画面の共有はできない。
②遅刻厳禁。毎週金曜日、メールアドレス宛に ZOOM ミーティングの ID とパスワードが送られてくるので 16 時 30 分までに入室し待機 (着席) する。16 時 40 分から 18 時 30 分まで受講する。
③ ZOOM を用いたリアルタイムのオンライン授業であり、受講生自身も画面に映る。お互いの氏名、顔、動作が見える。
④特定の人が指名され発言を促されたり質問に答えたりする。
⑤毎週レポート課題を 18 時 30 分までに添付ファイルで学習支援システムに提出する。締切後や後日の提出は不可
⑥著作権と肖像権の問題から講義資料やビデオ映像のあらゆる撮影と録音をしない。
(2) オンライン授業のセッティング
4 月 22 日の第 1 回授業に先立ち、受講するための環境を整えてください。
①学習支援システム (hoppii) のアドレスは大学のメールアドレスである。
②学習支援システム (hoppii) に自分の証明写真をプロフィール画像としてアップロードした。
③ ZOOM のアカウントを作った。ZOOM アカウント名に学生番号を付ける。(例えば「20F3333 松下幸之助」) 出席確認をするために学生番号を付けて下さい。
④オンライン授業を受講するためにパソコンあるいはスマートフォンのカメラと音声を使えるようにした。(友人と ZOOM のミーティングをテストして音声等設定できているか試してみた。)
⑤ Google Classroom を使えるように設定した。
⑥法政大学試験用紙のファイルを毎週自分でダウンロードしてパソコンに保存した。ファイル名は「学生番号氏名授業日」をつけた。(例えば 5 月 6 日のレポートのファイル名は「20F3333 松下幸之助 0506」)
オンデマンド授業の視聴方法
1. 法政ポータルサイト（Hoppii）ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス
（統合認証 ID とパスワードを入力）
URL ： https://hoppii.hosei.ac.jp/
または、https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/
2. クラス一覧から「経営学総論Ⅰ」を選びクリック、
教科一覧から「経営学総論Ⅰ」をクリック、
章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴
3.「終了」ボタンを押して視聴終了

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
4 月 22 日 ZOOM 授業⓪とオンデマンド①とオンデマンド②	ZOOM によるガイダンス オンデマンドによるオリエンテーション オンデマンドによる第 1 章	授業の進め方 受講生の活動など
5 月 6 日 ZOOM ①	第 1 章：企業経営の全体像	企業経営とは？ ： 企業、企業と各市場、情報的経営資源 ①
5 月 13 日オンデマンド③	第 2 章：経営学の全体像	事例：産地偽装
5 月 20 日 ZOOM ②	第 2 章：経営学の全体像	経営学とは？ ： 広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
5 月 27 日オンデマンド④	第 4 章：企業とインプット	事例：ブロードリーチヘルスケア
6 月 3 日 ZOOM ③オンデマンド③	第 4 章：企業とインプット	会社とは？ ： 株式会社の基本的な仕組み
6 月 10 日オンデマンド⑤	第 5 章：企業とアウトプット	事例：松下電器産業
6 月 17 日オンデマンド⑥	第 6 章：競争戦略のマネジメント (Part.1)	経営戦略とは？ ： 製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
6 月 24 日 ZOOM ④	第 6 章：競争戦略のマネジメント (Part.1)	市場セグメンテーション、価値の創出、競争相手、5 つの競争要因
第 10 回 ZOOM 授業⑤	第 6 章：競争戦略のマネジメント (Part.1) ：基本的な考え方	SWOT 分析、セグメンテーション
7 月 1 日オンデマンド⑦	第 7 章：競争戦略のマネジメント (Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
7 月 8 日 ZOOM ⑤	第 7 章：競争戦略のマネジメント (Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回オンデマンド①	オリエンテーション 第 8 章「多角化戦略のマネジメント」	多角化戦略、M&A と戦略的提携：理論枠組み
第 2 回教室①	第 8 章「多角化戦略のマネジメント」	多角化戦略、M&A と戦略的提携：事例
第 3 回オンデマンド②	第 9 章「国際化のマネジメント」	グローバリゼーション、企業が国境を超える理由、国際化：理論枠組み
第 4 回教室②	第 9 章「国際化のマネジメント」	グローバリゼーション、企業が国境を超える理由、国際化：事例
第 5 回オンデマンド③	第 10 章「マクロ組織のマネジメント」	組織構造のバリエーション、ユニークな組織：理論枠組み
第 6 回オンデマンド④	第 11 章「ミクロ組織のマネジメント」	インセンティブ・システムの設計、リーダーシップ：理論枠組み
第 7 回教室③	第 11 章「ミクロ組織のマネジメント」	インセンティブ・システムの設計、リーダーシップ：事例
第 8 回オンデマンド⑤	第 12 章「キャリアデザイン」	キャリアとキャリアデザイン、キャリアをデザインする、能力形成：理論枠組み
第 9 回教室④	第 12 章「キャリアデザイン」	キャリアとキャリアデザイン、キャリアをデザインする、能力形成：事例

第 10 回 オンデマンド⑥	第 13 章「経営学の広がり Part 1: ファミリービジネス」	ファミリービジネスの存在感、ファミリービジネスに関わる研究の面白さ：理論枠組み
第 11 回 教室⑤	第 13 章「経営学の広がり Part 1:ファミリービジネス」	ファミリービジネスの存在感、ファミリービジネスに関わる研究の面白さ：事例
第 12 回 オンデマンド⑦	第 14 章「経営学の広がり Part 2:病院組織のマネジメント」	病院とは、医療従事者の管理：動機づけ再考：理論枠組み
第 13 回 教室⑥	第 14 章「経営学の広がり Part 2:病院組織のマネジメント」	病院とは、医療従事者の管理：動機づけ再考：事例
第 14 回 教室⑦	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は復習に重点を置いて勉強することが薦められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
加護野忠男・吉村典久編著 (2012)『1 からの経営学（第 2 版）』中央経済社の一部。

【参考書】
適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】
オンデマンド授業のエクササイズ課題レポートと授業内レポート　100 %
オンデマンド授業で出題されるエクササイズ用紙は，そのオンデマンド授業回の次の教室授業開始時に提出してください。
授業欠席は 3 回まで。4 回の欠席で不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は一部の授業回をオンデマンド形式 (動画配信) で実施する新しいタイプの授業です。前年度の受講生のリクエストを反映させ、インタラクティヴな授業スタイルを取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド授業は以下にアクセス (統合認証 ID でログイン) し受講してください。
==========
PC　https://lms.hosei.ac.jp
スマートフォン/タブレット https://lms.hosei.ac.jp/rpv
==========
【注意!】
友人のパソコンやスマートフォンで一緒に視聴すると自分の閲覧履歴が残りません。自分のアカウントにログインして視聴してください。
動画コンテンツ視聴終了後はかならず「終了」ボタンを押してください。ブラウザの「×」で画面を閉じてしまうと、受講履歴が残らないため欠席扱いとなります。
【LMS(ラーニングマネジメントシステム) に関するお問い合わせ】
学務部教育支援課　ondemand@ml.hosei.ac.jp

【その他の重要事項】
本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。
詳細は、春学期は第 1 回授業の際に指示します。秋学期は、第 1 回授業がオンデマンド形式となりますので、事前に授業支援システムの指示を必ず確認の上、受講してください。
履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。
授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ (病院の診断書をご提出ください)、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合 (書類をご提出ください)
関連科目：経営学、社会学、心理学の科目
プロジェクタに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

【Outline and objectives】
社会科学は自然と対比される社会についての科学的な認識活動とその活動によって生み出された知識の体系です。社会は、家族、学校、企業といった小さな単位から国家や国際機関までたくさんの組織で構成されています。社会科学者としてみなさんはこの社会の姿をさまざまな角度から研究していきます。

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（表計算）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（表計算）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（表計算）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

根岸　良征

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学ぶ。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れる。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とする。より具体的には、表計算ソフト、日本語ワードプロセッサ、インターネット、プレゼンテーションソフトなどの情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
情報実習室のコンピュータを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行く。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養う。
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。

第 5 回	文書の入力	日本語ワードプロセッサ（Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する。
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に従い予習・復習を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示する。授業で使用する資料等を適宜配布する。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価する（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合がある）。

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等につて担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行う。

【学生が準備すべき機器他】

実習は情報実習室の PC を使用して行う。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（b コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（b コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（b コース）（2018 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者） 1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。
[補足]
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造ついて学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方 (文字列処理)（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方 (文字列処理)（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。
〔補足〕
オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】
Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（d コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（d コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（d コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（d コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

渡辺　英人

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。
4 月 17 日追記
自宅学習期間中は、みなさんのネットワーク環境にあわせて、PC でもスマートフォンでも参加できるように授業進行を変更いたします。授業初回 4 月 24 日に、自宅ネットワークや機器類について、質問調査に協力してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）	情報処理の基礎
2	キーボード入力練習	情報処理の基礎
3	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
4	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
5	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
6	ワープロ操作（Word による文章入力の練習）	情報処理の基礎。文書作成法。
7	ワープロ操作（Word による文章入力の練習）	プレゼンテーション用資料作成の方法。
8	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
9	Excel の操作法（基本操作）	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
10	Excel の操作法（計算機能と関数）	表計算ソフトの計算機能について解説。
11	Excel の操作法（表作成）	表計算ソフトの作表機能について解説。
12	Excel の操作法（グラフの作成）	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
13	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法（Excel データベース入門）	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
14	Excel とプレゼンテーション（データベースと資料作成）	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	インターネットと Excel を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel による資料作成。
16	PowerPoint による文章表現・プレゼンテーション	プレゼンテーション用ソフトウェア「PowerPoint」の基礎。
17	PowerPoint による文書表現・プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法。
18	インターネットと PowerPoint を使った課題作成	インターネットを使って情報検索、収集、および効率的なプレゼンテーション資料を作成する。
19	データベース入門Ⅰ（データベースの基本構造）	Excel を活用したデータベース構築の基礎Ⅰ。データベースとは何か？

20	データベース入門Ⅱ（データベース構築の準備）	Excel を活用したデータベース構築の基礎Ⅱ。日々の学習にデータベースを活用する方法について。
21	Excel を活用したデータベース資料の作成	Excel を活用したデータベース構築の基礎。情報発見・蓄積・効率的利用方法について解説、実践。
22	Access によるデータベース構築の基礎（リレーショナルデータベースの基礎知識）	Access を使って効率的な情報収集、蓄積、そして利用方法の基本を理解する。
23	Access によるデータベース構築の基礎（リレーショナルデータベースの設計と構築）	Access を使ってデータベースの構造や応用を理解する。
24	Access によるデータベース構築の基礎（リレーショナルデータベースを使った情報収集、効率的蓄積、利用方法）	Access を使って学習、研究におけるデータベースの設計と構築を実践する。
25	Access によるデータベース資料の作成	インターネット上のデータを使って、Access によるデータベース構築を行う。検索サイトの効率的利用につなげる。
26	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について考える（インターネットと非インターネット）	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。情報検索手法の再検討。
27	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について（利用者の視点から設計者、提供者の視点へ）	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。利用者から設計者、情報提供者の視点に立って考えてみる。
28	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について（総まとめ）	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。21 世紀のネット社会における「情報とは何か」を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期、秋学期に試験（課題作成： 50 %）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点： 50 %）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】
大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者）専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（d コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（d コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者）専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

木村　昌史

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel と Access を基礎としたデータ処理法とデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンライン授業 (Zoom) 開始日
４月２２日（水）４限
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データベースコース〕では標準的ソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力と練習とブラインドタッチについて学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本的な使い方、プレゼンテーションについて学ぶ。
第 5 回	G Suite の利用法	電子メールの書き方、クラウドサービスの活用について学ぶ。
第 6 回	Microsoft Excel の基本操作	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	Excel による基本集計	表計算による基本集計、関数の利用について学ぶ。
第 8 回	Excel によるデータ処理	表計算の応用として簡単なデータ処理について学ぶ。
第 9 回	Excel によるクロス集計	表計算の応用としてピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
第 10 回	Excel によるデータ分析 (1)	2 種類のデータについての分析方法について学ぶ。 また Excel マクロについて学ぶ。
第 11 回	Excel によるデータ分析 (2)	2 種類以上のデータについての分析方法について学ぶ。また Excel マクロの応用について学ぶ。
第 12 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	データベース関数の役割と利用法について学ぶ。
第 13 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	外部データとの交換を含む処理方法について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	データベースの基本	ネットワークにおいて重要なデータベースの考え方について学ぶ。
第 2 回	データの収集	ネットワーク上の公開データの活用法について学ぶ。
第 3 回	Excel と Access の関係	Office の中の Excel と Access の役割の違いについて学ぶ。
第 4 回	Excel データのエクスポート	Excel を中心としたデータ交換について学ぶ。
第 5 回	Access の基本 (1)	データベースの例として Access の基本操作について学ぶ。
第 6 回	Access の基本 (2)	Access による基本的検索方法について学ぶ。
第 7 回	クエリの利用 (1)	データベースにおけるクエリの役割について学ぶ。
第 8 回	クエリの利用 (2)	データベースにおけるクエリの種類と利用について学ぶ。
第 9 回	Excel のマクロの利用	処理の自動化のための Excel マクロの役割について学ぶ。
第 10 回	Access のマクロの利用	Access におけるマクロの役割について学ぶ。
第 11 回	Access フォームの作成	Access のユーザフォームの役割と使い方について学ぶ。
第 12 回	Web データとの関係 (1)	ネットワーク上のデータとの交換について学ぶ。
第 13 回	Web データとの関係 (2)	ネットワーク上のデータの処理方法について学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
タイトル： 30 時間アカデミック Office2019
タイトル： 30 時間でマスター Excel2019
著者：実教出版編集部
発行：実教出版株式会社

【成績評価の方法と基準】
春学期と秋学期に各 1 回ずつのテスト（または総合レポートの提出）40 %と各回授業の課題提出 60 %により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。
法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline and objectives】
As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of collecting informations using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database and other softwares, especially using Excel's operations. Due to this we can understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

小寺　浩二

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易ＧＩＳソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】
情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的なリテラシー活用法を身につけた上で、秋学期には、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なＧＩＳソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回（春期）	コンピュータの仕組み	ハードとソフト
第 2 回（春期）	キーボード入力練習	MYKATYPE を使った入力練習
第 3 回（春期）	機器の取り扱いと Windows の操作法	起動、終了操作など
第 4 回（春期）	ワープロ入門	Word による文章入力
第 5 回（春期）	ワープロ応用	Word による文書体裁など
第 6 回（春期）	通信入門	電子メールの送受信とブラウザ利用
第 7 回（春期）	通信応用	Web ブラウザとデータベースの活用
第 8 回（春期）	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
第 9 回（春期）	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
第 10 回（春期）	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
第 11 回（春期）	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
第 12 回（春期）	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
第 13 回（春期）	総合実習１	Excel での解析と Word でのレポート
第 14 回（春期）	総合実習２	PowerPoint を用いた実際の発表

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回（秋期）	地域環境情報とは？	地域科学・環境科学と様々な情報
第 2 回（秋期）	ＧＩＳとＳＩＳ	地理情報システムと空間情報システム
第 3 回（秋期）	様々な地域環境情報とその収集・管理・活用法	公的機関の HP など
第 4 回（秋期）	地図を作ろう	階級区分図
第 5 回（秋期）	コンビニエンスストアの分布図	具体的事例１
第 6 回（秋期）	東京都の地価分布図	具体的事例２
第 7 回（秋期）	八王子市の土地利用変化	具体的事例３
第 8 回（秋期）	水質調査マップ	具体的事例４
第 9 回（秋期）	ヒートアイランドと環境パラメータ評価	具体的事例５
第 10 回（秋期）	フリーソフトで作る空間情報社会	ＧＩＳの活用１
第 11 回（秋期）	測地系と座標変換	ＧＩＳの活用２
第 12 回（秋期）	統計ＧＩＳプラザ・国勢調査データ・白地図活用	具体的なデータの活用法

第 13 回　総合実習１　　ＧＩＳソフトによる分布図作成と解析
（秋期）
第 14 回　総合実習２　　総合的な時空間解析
（秋期）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期：できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。
秋学期：同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。
秋学期：後藤真太郎ほか（２０１３）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのＧＩＳ講座（第３版）』, 古今書院

【参考書】
・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』, 古今書院
・佐土原　聡ほか（2005）：『図解！ Arc ＧＩＳ 身近な事例で学ぼう』, 古今書院
・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 ＧＩＳ実戦に向けてのステップアップ』, 古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、課題（30 %）、試験（40 %）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】
学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のＰＣで実習を行う。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
SIS
GIS

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
１）水循環に伴う物質循環
２）人間活動に伴う水環境変化と保全
３）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

永保　敏伸

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜ f コース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では，様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方，それらを用いた分布図の作成法を習得する．
その際、簡易ＧＩＳソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】
情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する．

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く．応用部分において，身に着けた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【重要】2020.04.29 更新
初回講義は，2020 年 5 月 6 日（水）15:00～行います．
法政大学学習支援システム (hoppii）と法政大学 Web サーバの稼働が安定してきたので，最新情報は次のページから行います．
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~fb60065/2004j/index-1.html
＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋
講義は原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う．必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また，提供した情報を基に，各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う．

講義の進度は，当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコン（Windows）の仕組み	ハードウェアと、ソフトウェアの解説
第 2 回	ビジネスツールとしての電子メール	相手に意図を伝える為のマナーと作法
第 3 回	クラウドコンピューティング	Onedrive や GoogleDrive などを活用したデータの保管方法
第 4 回	ワープロ基礎（Word online）	基本操作の確認とクラウドサービスの活用を知る
第 5 回	ワープロ応用（Word）	テンプレートを活用した文章構成の練習
第 6 回	プレゼンテーション①（Impress, Powerpoint online）	講義やゼミで使うプレゼン資料を作成する環境を整える
第 7 回	プレゼンテーション②（Impress, Powerpoint）	基本操作の確認
第 8 回	プレゼンテーション③（Impress, Powerpoint）	表・図形・写真の投影方法
第 9 回	表計算ソフト①（Excel）	基本操作の確認 データに応じた図表の作成方法確認
第 10 回	表計算ソフト②（Excel）	オートフィルタを用いた数値の処理
第 11 回	表計算ソフト③（Excel）	関数を用いた基礎的な集計処理
第 12 回	表計算ソフト④（Excel）	条件式など複雑な関数を用いた処理
第 13 回	空間情報解析の導入（MANDARA）	GIS ソフトを用いた主題図作成
第 14 回	総合実習	春学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？ ＧＩＳとＳＩＳ	地域科学・環境科学と様々な情報、そして、地理情報システムと空間情報システムの概要
第 2 回	地域環境情報とその収集・管理・活用法	インターネット上に公開されている各種統計情報を扱う
第 3 回	地図（主題図）作成	MANDARA を用いた階級区分図の作成

第 4 回	地図情報の取得	国土地理院などが提供している各種地図データを扱う
第 5 回	測地系と座標変換	地図を作成する前提条件を確認する
第 6 回	ジオコーディング入門	住所や GPS を用いて位置情報を取得する
第 7 回	位置情報の活用	地図上に任意の地点（緯度経度）を描く
第 8 回	属性データの加工	１次データに追加作業を行い，必要なデータを整える
第 9 回	主題図作成実習	自由に階級区分図を描くための準備をする
第 10 回	データの種類と表現方法	階級区分を考える上で，重要な度数分布の検討を行う
第 11 回	主題図の重ね合わせ	作成した複数の主題図を重ねて１枚の図で表現する
第 12 回	Google Earth 活用	MANDARA で作成した主題図を Google Earth へ出力する
第 13 回	総合実習１	ＧＩＳソフトによる主題図作成と解析
第 14 回	総合実習２	秋学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：

本授業で学んだことを利用して，様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：

様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる．

本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】

春学期：

授業時に指示．「情報リテラシー」に関する教科書．

秋学期：

谷 謙二（２０１８）：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門: かんたん!オリジナル地図を作ろう』, 古今書院．

※ 教科書は，学期始めに改めて提示する（変更の可能性あり）

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017．『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』，技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005．『図解！ Arc ＧＩＳ 身近な事例で学ぼう』， 古今書院

・川崎昭如ほか 2008．『図解！ Arc GIS Part2 ＧＩＳ実戦に向けてのステップアップ』, 古今書院

その他，授業の進度に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

１．毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す．この作業結果をもって平常点（30 %）とする．

２．主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30 %）を課す

３．最後に，当該学期を総括する学期末試験（40 %）を行う

上記１．～３．をあわせて総合的に評価する．授業進度によっては，試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく，幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し，秋学期では，各専門分野の興味に従った応用に対応するようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のＰＣで実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

＊＊＊【厳守】＊＊＊＊

・初回講義時までに，大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は，抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

秋学期は，春学期に習得する技術を前提とした内容となっている．特に Excel に関して関数の使用方法に自信のある学生以外は，原則的に春学期，秋学期連続して受講すること．

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（メディア情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ （2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ （2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ （f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ （f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（メディア情報処理）（2019 年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

築城　厚三

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。はじめは、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れる。その後、画像編集ソフトから描画ソフト、DTP（DeskTop Publishing）ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】
大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【重要】2020.04.20 更新
初回講義は，2020 年 4 月 23 日（木）08:50～から初回授業（ガイダンス）を行います。
オンライン授業のアクセス先や受講方法といった資料は、学習支援システム（Hoppii）の教材にアップしました。確認してください。
※学習支援システム（Hoppii）が不安定なので、Google Classroom にも同じ資料をアップしました。招待状を受け取った学生はそちらからも確認できます。自身で参加する場合は次のクラスコードを入力してください。
クラスコード　g3fguh3

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop（画像編集ソフト）までを扱い、秋学期には Illustrator（描画ソフト）と InDesign（DTP ソフト）を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。また、実習授業なので、各自のやりたいことがあればそれに沿って柔軟に内容を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート。データの保存に関して。タイピング練習。
2	ワープロソフトの基本操作 1	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
3	ワープロソフトの基本操作 2	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
4	ワープロソフトの基本操作 3	レポート、論文の書き方について、課題提示。
5	表計算ソフトの基本操作 1	基本操作から簡単な関数。
6	表計算ソフトの基本操作 2	よく使う関数や実用的な関数の使用方法。
7	表計算ソフトの基本操作 3	データベース、グラフ機能、課題提示。
8	表計算ソフトの基本操作 4	実習、課題について回答例提示、解説。
9	プレゼンテーションソフトの基本操作 1	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。
10	プレゼンテーションソフトの基本操作 2	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。画像編集ソフトに触れてみる。
11	画像編集ソフトの基本操作 1	これから使うソフトでできること。
12	画像編集ソフトの基本操作 2	写真の加工、レイヤーについて。
13	画像編集ソフトの基本操作 3	色域選択、トーンカーブ等、使える技術。
14	画像編集ソフト実習	素材加工実習、課題提示。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	画像編集ソフトに軽く触れたのち、描画ソフトから DTP までの解説	実習、描画ソフトを触ってみる。
16	描画ソフトの操作方法 1	シェイプの作成、塗りと線、パスの描き方。
17	描画ソフトの操作方法 2	レイヤー、オブジェクトの結合、切り抜き等。
18	描画ソフトの操作方法 3	色について、パスの練習、さまざまな機能。
19	描画ソフトの操作方法 4	パスの練習、さまざまな機能。
20	描画ソフト実習 1	実習、ロゴ等の作成。
21	描画ソフト実習 2	実習、ロゴ等の作成。
22	DTP ソフトの操作方法 1	DTP ソフトで何ができるか概観。級、歯、フォント、縦組みと横組み。
23	DTP ソフトの操作方法 2	レイアウトグリッドとフレームグリッド。各部の名称とマスターページ、ドキュメントページ。
24	DTP ソフトの操作方法 3	テキストの流し込み、文字の編集。
25	DTP ソフトの操作方法 4	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集。
26	DTP ソフト実習 1	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
27	DTP ソフト実習 2	最終課題提示、実習、課題作成。
28	DTP ソフト実習 3	実習、課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ソフトの操作手順解説後に課題を与える。また、授業で使用した資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に授業支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】
築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ
築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ
『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン
瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ
筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】
出席時の取り組み状況（50 %）、課題提出の状況（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、出席調査票やメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室の PC を使用する。教材配布は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。
文学部科目「編集実務A」「編集実務 B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めする。

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

PRI100FA
情報学入門Ⅰ（言語データ処理）（2019 年度以降入学者）専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

PRI100FA
情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018 年度入学者）　1･2 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
情報学入門Ⅱ（言語データ処理）（2019 年度以降入学者）専門入門科目 100 番台　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

石川　潔

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
特に（外国語）教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身に着けます。

【到達目標】
パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、（外国語）教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
　少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化されなくても、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、現状では、オンライン化によってどれくらい変更されるかはまだわかりません（変更が生じたら、必要に応じて学習支援システムでお知らせします）。
　本授業の開始日は、（導入や環境整備も含めて）４月 24 日を予定しています。内容、そして学生や大学側の環境の整備に応じて、
･ pdf ファイルや動画などの教材の配布（＋課題）
･ 金曜４限の時間帯での Zoom でのリアルタイム遠隔授業
を適宜、選んでいく予定です。まずは pdf ファイルでの教材配布からスタートします。初回以降の見込みは、学習支援システム上でのアンケート結果や大学側の環境整備の情報に基づいて、改めて学習支援システムの「お知らせ」でアナウンスする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンって何？	大まかな仕組み
第 2 回	パソコンの基本操作	パソコンと Windows の基本操作の学習
第 3 回	文書作成の基本１	全角・半角の区別、英字・日本語の入力の練習
第 4 回	文書作成の基本２	テキスト・ファイル、文字サイズ、字体、フォント、など
第 5 回	文書作成の基本３	漢字コードの使い分け、IPA （発音）記号など
第 6 回	パソコン操作のテクニック	動かなくなった時、やり直しをしたい時などに、どうしたらいい？
第 7 回	パソコンでのメール	メールの読み書き環境、書き方、読み方
第 8 回	作文法	レポートや論文の書き方の基本
第 9 回	Word でのレポート作成術１	字数と語数、脚注、コメントなど
第 10 回	Word でのレポート作成術２	（例文）番号と相互参照
第 11 回	Word でのレポート作成術３	ファイルの埋め込み、など
第 12 回	Word でのレポート作成術４	（樹形）図の作成、など
第 13 回	Word での卒論作成術	セクション区切り、目次の自動作成、など
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	インターネットの基本	大まかな仕組み、検索法、など
第 16 回	プレゼン・ツールの基本	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作の学習
第 17 回	Excel ：最初の一歩	点数の合計や平均を計算してみる
第 18 回	Excel ：セル操作	セル結合、罫線、色分け、折り返し表示、などなど
第 19 回	Excel でのグラフ作成の初歩	様々な種類のグラフを作り、Word 文書にコピペ
第 20 回	Excel での成績計算１	点数操作 !!
第 21 回	Excel での成績計算２	条件分岐による letter grade への変換
第 22 回	Excel での成績計算３	変換表による letter grade への変換
第 23 回	Excel でのデータ分析１	朝食を食べると成績が良いって本当？
第 24 回	Excel でのデータ分析２	分析ツールの導入
第 25 回	Excel ：まとめ	操作方法の復習
第 26 回	コーパスって何？	英単語や日本語単語の頻度調査をやってみる！
第 27 回	音声の扱い１	パソコンでの音声データの記録方式
第 28 回	音声の扱い２	録音と編集

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
ある程度は最初から予想されたことではありますが、「内容が簡単すぎる」という声と「内容が難しすぎる」という声が混在していました。
両方の声に応えるのは原理的に無理な気もしますが、何か工夫をしてみたいと思います。
但し、Word の時より Excel の時の方が全体的に理解度が下がったという印象があるので、Excel の回はもっと整理整頓したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではないけど、自宅にもパソコンがあるのが望ましいです。

【その他の重要事項】
授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

【関連科目】
文学部英文学科等の言語系の諸科目

【実務経験のある教員による授業】
N/A.

【Outline and objectives】
Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

MAN200FA
会計学入門Ⅰ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
会計学入門Ⅱ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

筒井　知彦

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次以降、会計を中心に学ぶ学生にはもちろん、経営学部の他の分野を学ぶ学生にとっても会計の入門的な内容を把握することは必須です。本講義は初めて会計学を学ぶ学生を対象に、(1) 企業会計の基本となる考え方と、(2) それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とします。

【到達目標】
(1) 財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の基本的内容を理解することができる。
(2) 財務諸表のデータを利用して基本的な経営分析をすることができる。
(3) 企業会計の基本となる考え方を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期
財務諸表を利用する立場から、主要な財務諸表の読み方、財務データを利用した経営分析のやり方を学ぶ。任天堂やソニーなどの財務諸表を適宜利用する。基本的には講義形式を取るが、関連するテーマについてビデオを見たり、授業中、学生諸君に問題を解いてもらうことがある。
秋学期
会計学入門Ⅱでは、(1) 損益計算書に計上される収益や費用がどのような考え方に基づいて計算されているか、(2) 貸借対照表に計上される資産、負債、資本がどのような考え方にもとづいて評価されているかについて、基本的な考え方を学ぶ。
基本的には講義形式をとるが、適宜、学生諸君には授業中に計算問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計数値の意味
2	会計とは何だろうか？	貸借対照表、損益計算書のしくみ
3	会計の法規制	金融商品取引法、会社法、法人税法の意義と仕組み
4	貸借対照表の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には、両者の貸借対照表の３カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
5	損益計算書の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には両社の３カ年の数値の変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
6	キャッシュフロー計算書仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。両社の３カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
7	貸借対照表データを利用した経営分析 (1)	流動比率、固定比率
8	貸借対照表データを利用した経営分析 (2)	固定長期適合率、株主資本比率
9	貸借対照表データを利用した経営分析 (3)	任天堂とセガの事例をもとに、流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率を受講生が３カ年について時系列分析する。
10	損益計算書データを利用した経営分析 (1)	売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率
11	損益計算書データを利用した経営分析 (2)	任天堂とセガの事例をもとに、売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率を受講生が３カ年について時系列分析する。
12	ROE、ROA などの経営分析指標	株主資本利益率、総資本事業利益率
13	経営分析の実践	任天堂とセガについて、講義で行った両社の諸比率データをもとに分析する。
14	まとめ	春学期の講義について総復習と問題演習を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計理論を学習する意味
2	収益の会計 (1)	収益の認識について、３つの基準を理解し、原則となる実現基準の内容を把握する。
3	収益の会計 (2)	収益の認識について例外的な発生基準、現金基準の内容を把握する。
4	収益の会計 (3)	発生基準についてゼネコンの事例をもとに、会計処理方法の変更を分析し、工事完成基準と工事進行基準の問題練習を行う。
5	費用の会計 (1)	棚卸資産①：先入先出法、後入先出法、総平均法の３つの評価基準について学習し、受講生が計算問題を解く。
6	費用の会計 (2)	棚卸資産②：石油元売り企業の事例をもとに、会計方針の変更について学習する。
7	費用の会計 (3)	有形固定資産の減価償却について、意義や処理方法について学習する。
8	費用の会計 (4)	有形固定資産の減損について、費用配分と評価の違い、現在価値計算の方法、会計処理方法について学習する。
9	費用の会計 (5)	繰延資産について前払費用と繰延資産の違い、即時費用化と繰延の違い、繰延資産の５項目の内容について学ぶ。
10	負債の会計	引当金について、繰延資産と引当金の違い、引当処理の方法、ポイント引当金について学習する。
11	資本の会計	純資産の部の内容について学ぶ。
12	金融資産の会計 (1)	資金調達・運用の手段である株式、社債の内容と違いについて学ぶ。合わせて資金調達方法としての借入金について学習する。
13	金融資産の会計 (2)	有価証券の評価について、保有目的により評価基準が異なることから、売買目的有価証券と満期保有目的有価証券について学ぶ。
14	まとめ	秋学期の講義について総復習と問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前にテキストの該当する部分を予習するとともに、講義後には配布したプリントを読み直し復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布します。

【参考書】
桜井久勝「会計学入門（第 4 版）」日経文庫　2015 年
桜井久勝「財務会計講義 第 18 版」中央経済社 2017 年
定評のあるテキストである。
(注) ここに示したテキストはシラバス執筆時点での最新版ですが、開講時までに改訂版が出版されることがあります。その場合には最新版を使用します。参考書の詳細な説明は第 1 回の授業で説明しますので、それまでは購入を見合わせてください。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（80 %）と平常点（20 %）を総合して決定します。平常点には小レポートの評価を含みます。

【学生の意見等からの気づき】
①私語について厳しく対処します。
②リアクションペーパーにコメントや質問を記入してもらい、数回に一回の講義でコメントします。
③問題練習を適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を利用することがあります。その場合、事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】
会計学入門ⅠとⅡは通年で履修することを前提としているので、春学期・秋学期を続けて履修してください。

【関連科目】
1 年次の簿記入門を履修済みであればさらに理解は深まると思われる。未履修の場合、並行履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
It will provide an introduction to basic concepts in accounting and their application for decision making by a wide range of potential users. This unit should benefit students who wish to specialise in accounting, and will also be of value to students whose primary interest lies elsewhere in the field of business. On completion, students should have a clear understanding of the accounting process and the language of accounting to enable communication with an accounting professional, understand the relevance of accounting information for informed decision making by a wide range of potential users, and have the ability to analyse and interpret accounting information.

MAN200FA
会計学入門Ⅰ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／2 単位［春学期授業/Spring］

MAN200FA
会計学入門Ⅱ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／2 単位［秋学期授業/Fall］

山田　康裕

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近なテーマを題材として会計学（財務会計，管理会計，監査論，税務会計など）の基礎の基礎を学ぶ。

【到達目標】
まずは会計学のイメージをつかむことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 8 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要および留意点について学ぶ
2	なぜ，社長はベンツを売ると得なのか？ ベンツはどこへ	貸借対照表について学ぶ
3	さおだけ屋はなぜ潰れないのか？	利益の出し方について学ぶ
4	食い逃げされてもバイトは雇うな，「食い逃げされてもバイトは雇うな」なんて大間違い	会計的な視点と非会計的な視点を学ぶ
5	甲子園球場の土地は，時価 155 億円なのに，なぜ決算書には 800 万円でのっているのか？	資産の評価について学ぶ
6	大トロはなぜ儲からないのか？	キャッシュ・フロー計算書について学ぶ
7	監査法人①	会計士の仕事について学ぶ（決算発表の影響について）
8	監査法人②	会計士の仕事について学ぶ（企業の資金繰りについて）
9	スーパーの 1 万円の売上は 80 円の利益にしかならない	原価について学ぶ
10	タイトロープの女	税理士の仕事について学ぶ
11	餃子屋と高級フレンチでは，どちらが儲かるか？	損益分岐点について学ぶ
12	チェイス―国税査察官―	国税専門官の仕事について学ぶ
13	あの会社は大丈夫？	企業力指数につて学ぶ
14	まとめ	半期のまとめをおこなう

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 有価証券報告書の概要	有価証券報告書とはどのようなものかを学ぶ
2	分析の視点と方法	財務諸表を分析する際の留意点について学ぶ
3	収益性の分析①	ROA，ROE について学ぶ
4	収益性の分析②	ROA と ROE の関係，資本利益率の分解について学ぶ（売上高利益率）
5	収益性の分析③	資本利益率の分解について学ぶ（資本回転率）
6	生産性の分析①	付加価値について学ぶ
7	生産性の分析②	付加価値を計算してみる
8	生産性の分析③	労働生産性，労働分配率について学ぶ
9	安全性の分析①	伝統的な安全性の指標を学ぶ
10	安全性の分析②	損益分岐点について学ぶ
11	安全性の分析③	損益分岐点を計算してみる
12	成長性の分析①	株価の計算について学ぶ
13	成長性の分析②	利益の成長について学ぶ
14	まとめ	半期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ニュースや新聞等で，経済・経営・会計関連のものを聞いたり読んだりする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜，プリントを配布する。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
簿記会計の初学者でも難なく学べるように心掛けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
秋学期には電卓をもってきてください。

【その他の重要事項】
なし

【関連科目】
なし

【Outline and objectives】
The objective of this class is to study fundamentals of accounting: financial accounting, management accounting, auditing, tax accounting and so on, by topics at hand.

MAN200FA
会計学入門Ⅰ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
会計学入門Ⅱ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

川島　健司

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務諸表の「作り方」と「読み方」を体系的に講義する。財務諸表の作り方を学ぶには、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、読み方を学ぶには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用することが必要である。
本講義では、こうした財務諸表の理解に必要な諸要素である「簿記」「会計原理と会計原則」「財務諸表分析」「会計学に必要なファイナンス」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、会計学について総合的に理解することを目的とする。

【到達目標】
①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期は基本的にオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日（金）と
し、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
1 年間（春学期・秋学期）の全体を以下の 4 つのパートに分割する。
第 1 部「簿記」（春学期・第 1 回～第 7 回）
第 2 部「会計原理と会計原則」（春学期・第 8 回～第 14 回）
第 3 部「財務諸表分析」（秋学期・第 1 回～第 7 回）
第 4 部「会計学に必要なファイナンス」（秋学期・第 8 回～第 14 回）
春学期の第 1 部と第 2 部は財務諸表の作り方、秋学期の第 3 部と第 4 部は財務諸表の読み方に関する内容である。第 4 部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、春学期（財務諸表の作り方）と秋学期（財務諸表の読み方）はどちらの順番で履修しても差し支えない。
本講義では企業名を隠して、実際の公表財務諸表を分析する。受講生は、勘定科目の内容や財務構成を分析することを通じて、手にした財務諸表がどの業界のどの企業のものかを推論する。その目的は、イメージや先入観にとらわれずに企業実態の性質的特徴について理解することである。
本講義では、受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、春学期・秋学期で各 2 回ずつ、質疑応答の回を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と構成	会計学を学ぶ意義や目的を受講生全員で認識、共有する。
2	簿記と財務諸表	収支計算書、損益計算書、貸借対照表の 3 書類について、それぞれの目的と相互関係を解説する。
3	簿記一巡の手続き	複式簿記を前提に、簿記一巡の手続きを数値例を用いて解説する。
4	財務活動に関する処理	資金調達とその還元に関する取引の記帳方法について解説する。
5	営業活動に関する処理 (1)	材料を購入し、製造し、販売する一連の取引を学習する。
6	営業活動に関する処理 (2)	引当処理と代表的な経過勘定項目について解説する。
7	投資活動に関する処理	固定設備を購入し、使用し、処分するまでの流れを記録する方法を解説する。
8	簿記 1～簿記 6 の確認と議論	簿記 1～簿記 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。
9	会計の目的	会計の目的を理解し、その目的達成のためにどのような財務報告が求められるかを考察する。
10	利益計算の考え方：損益法と財産法	利益の計算方法には損益法と財産法という 2 つの異なる方法があることを理解する。
11	収益・費用の認識と測定：現金主義と発生主義	収益・費用の認識基準と測定方法について会計学の観点から検討する。
12	資産と負債の認識と測定：原価主義と時価主義	資産・負債の認識基準と測定方法について会計学の観点から検討する。
13	費用収益対応の原則	有形固定資産の会計処理を題材に、合理的な期間損益計算を達成するための対応原則について解説する。
14	会計基準を読む：『企業会計原則』と『国際財務報告基準』	会計処理の拠り所となる会計基準の必要性、その歴史と設定方法を解説する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	財務諸表の入手と概観	財務諸表分析にあたり、必要な情報の収集方法を解説。
2	損益計算書の読み方	損益計算書の様式、段階的に利益を計算・表示する意義、企業の収益性を評価する財務指標を解説。
3	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式、流動・固定の分類基準、企業の弁済能力の評価指標を解説。
4	利益調整の分析（Earnings Management）	代替的な会計処理の手続きの存在を確認し、その選択と利益計算との関係を理解し、財務諸表の作り手の意図（動機）を推察する。
5	資産評価方法の分析（Measurement Management）	資産の評価方法が利益計算とどのように関係するかを理解し、そこにどのような財務諸表の作り手の意図が存在しうるかを考察する。
6	表示方法の分析（Presentation Management）	財務数値の表示選択に関する分析手法を紹介する。とくに、財務数値のグラフ表現について解説。
7	財務諸表分析 1～財務諸表分析 6 の確認と議論	財務諸表分析 1～財務諸表分析 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。
8	会計情報と企業価値評価	ファイナンスの知見を導入すると企業実態の見え方がいかに変わるかを解説。
9	割引キャッシュ・フロー	割引キャッシュ・フローとその測定方法について解説する。
10	資本コスト	企業のリスク尺度としての資本コストについて解説する。
11	割引配当モデルから残余利益モデルへ	会計情報と企業価値が理論的にどのように関係するかについて考察する。
12	配当政策と資本構成	資金調達と配当に関する基礎的な理論（MM 理論や最適資本構成）を解説。
13	オプション評価モデル	基本的なオプション評価モデルを解説し、これに関する会計処理としてストック・オプション会計を解説。
14	ファイナンス 1～ファイナンス 6 の確認と議論	ファナンス 1～ファイナンス 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、企業のホームページからダウンロードして持参することとする。入手方法の詳細は講義内で説明する。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】
・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2018 年 4 月現在の最新版.
・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社, 2018 年 4 月現在の最新版.
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005 年.
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版, 白桃書房, 2014 年.
・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫, 2016 年.

【成績評価の方法と基準】
（変更後）

春学期は基本的にオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
（変更前）
以下の 2 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 %の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】
板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授業開始時に案内します。

【学生が準備すべき機器他】
講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】
本講義は、事前に「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に講義を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline and objectives】
This lecture provides a systematic knowledge "How to make" and "How to read" corporate financial statements. In order to learn how to prepare financial statements, it is necessary to learn the realities of transactions, learn techniques of bookkeeping, and learn basic principles and thought methods concerning accounting procedures. On the other hand, in order to learn how to read, it is necessary to learn the traditional method of financial statement analysis and further to acquire and apply basic knowledge of finance necessary for valuating corporate value.
In this lecture, students study the most fundamental elements for understanding such financial statements, "bookkeeping" "accounting principle and accounting principle" "financial statement analysis" and "corporate finance necessary for accounting practice". It explains mutual relations among those elements and aims to comprehensively understand modern accounting practices.

PRI200FA
基礎統計学Ⅰ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

PRI200FA
基礎統計学Ⅰ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

猪狩　良介

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が着目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。具体的には、データの記述および確率と確率変数、代表的な確率分布について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。
・エクセルを利用してデータ分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・資料に沿って講義形式で進めます。
・板書は補助的に使用しますので、適宜ノートを取ることも求められます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
【4/20 追加】
・初回の授業ガイダンス (4/21 分) については講義支援システムの「教材」ページにある「基礎統計学 01(0421).pdf」ファイルを熟読してください。
・オンライン授業の開始は 4/28(火) となります。
・シラバス内容に修正がある場合は、講義支援システムよりアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：統計学の概要	統計学とは 本授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。また、母集団と標本や、確率、仮説検定、回帰分析などの統計学の基本概念を学びます。
2	データの記述 (1) 図表の作成／ 中心を表す標本特性値	データの特徴を把握するための、度数分布表とヒストグラムを学びます。 また、データの特徴 (中心) を見るための、平均・中央値・最頻値を学びます。
3	データの記述 (2) ばらつきを表す標本特性値／標準化	データの特徴 (ばらつき) を見るための、分散と標準偏差を学びます。 また、標準化を学びます。
4	相関 (1) 散布図／共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
5	相関 (2) 相関係数／相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなどの注意点を学びます。
6	確率 (1) 確率の基礎概念／様々な確率	標本空間と確率の定義や、基本的な確率の計算方法を学びます。 また、先験的確率・経験的確率・主観的確率について学びます。
7	確率 (2) 和・積事象の確率／ベイズの定理	和事象および積事象の確率を学びます。また、ベイズの定理を学びます。
8	確率変数と確率分布 (1) 単一の確率変数	確率変数と確率分布の定義や、単一の確率変数についての期待値と分散を学びます。
9	確率変数と確率分布 (2) 複数の確率変数	複数の確率変数の期待値や分散について学びます。
10	主要な確率分布 (1) 離散確率分布	代表的な離散確率分布であるベルヌーイ分布と 2 項分布を学びます。
11	主要な確率分布 (2) 連続確率分布	代表的な連続確率分布である正規分布を学びます。
12	主要な確率分布 (3) 確率変数の和と平均の分布	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
13	まとめ (1)	春学期に学習した内容を復習し、まとめを行います。
14	まとめ (2)	発展トピックスについて紹介します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・テキストにある練習問題を宿題として解きます。
・授業で紹介したエクセルによるデータ分析を実際に行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・藪友良 (2012)『入門 実践する統計学』東洋経済新報社.

【参考書】
・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・宿題・小テスト等 (40%)
・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
・経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。
・宿題を解くためのエクセルが必要になります。

【その他の重要事項】
・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
統計学入門
基礎統計学Ⅱ
計量経営分析Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
Statistics has attracted attention not only in the academic field but also in the field of business. In the management field, to make decisions such as marketing strategy or investment behavior appropriately, it is necessary to objectively decide based on data. Statistics is used there. In this course, we will learn about the basic theory of statistics. Specifically, we will learn about the description and probability of data, random variables and major probability distributions.

PRI200FA
基礎統計学Ⅱ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI200FA
基礎統計学Ⅱ

専門入門科目 200 番台　　2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

高橋　慎

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉えることは、分野を問わず重要なスキルです。収集されたデータをまとめて、見やすく整理する方法は「記述統計」と呼ばれます。一方、データを生み出した背後の構造を推論することは「推測統計」あるいは「統計的推測」と呼ばれます。この授業では、「確率論」に基づく「推測統計」の基礎的事項を学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・資料に沿って講義形式で進めます。
・板書は補助的に使用しますので、適宜ノートを取ることも求められます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/統計学とは	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
2	母数の推定 1 ：基本概念/点推定	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定地などの基本概念を学びます。また、母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
3	母数の推定 2 ：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
4	仮説検定 1 ：母平均の仮説検定	母数についての仮説とデータが整合的かどうかを検証する方法（仮説検定）の手順と基本概念を学びます。
5	仮説検定 2 ：差の検定	2 つの母集団の間の「母数の差の有無」を検定する方法を学びます。
6	正規分布の派生分布 1 ：カイ 2 乗分布	カイ 2 乗分布の定義とそれを用いた母分散の区間推定を学びます。
7	正規分布の派生分布 2 ：t 分布	t 分布の定義とそれを用いた母平均の推定と検定（t 検定）を学びます。
8	回帰分析の基礎 1 ：基本概念/最小 2 乗法	変数間の関係を数量的に測る方法のひとつである回帰分析の基本概念を学びます。また、代表的な推定法である最小 2 乗法を学びます。
9	回帰分析の基礎 2 ：最小 2 乗推定量の導出/決定係数	最小 2 乗法による推定量の求め方を学びます。また、当てはまりの尺度である決定係数の定義と性質を学びます。
10	単回帰分析 1 ：確率的モデル/標準的仮定/最小 2 乗推定量の確率的性質	単回帰分析を通じて、最小 2 乗推定量の確率的性質を学びます。
11	単回帰分析 2 ：信頼区間と仮説検定/決定係数についての考察	母数に関する信頼区間の求め方や仮説検定の方法を学びます。また、決定係数を用いる際の注意点を学びます。
12	重回帰分析 1 ：自由度修正済み決定係数/多重共線性/ダミー変数	重回帰分析で決定係数を用いる際の注意点を学びます。また、重回帰分析に特有の問題を学びます。
13	重回帰分析 2 ：パネル分析/回帰分析で直面する問題	パネルデータを用いた分析手法を学びます。また、回帰分析で直面しがちな問題への対処法を学びます。
14	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・テキストにある練習問題を宿題として解きます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
薮友良 (2012)『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題： 40%
期末試験： 60%

【学生の意見等からの気づき】
経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で行う演習や練習問題を解くには、エクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）が必要です。

【その他の重要事項】
・基礎統計学 I の内容を前提とします。
・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
計量経営分析 I / II

【Outline and objectives】
Collecting/summarizing data and capturing the structure behind the data are important skills irrespective of fields. A collection of methods for summarizing the data so that we can see its features easily is called “descriptive statistics.” On the other hand, a collection of methods for inferring the data-generating structure is called “inferential statistics” or “statistical inference.” In this course, we learn basic elements of the “inferential statistics” based on “probability theory.”

ECN200FA
ミクロ経済学入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）
専門入門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FA
ミクロ経済学入門Ⅱ（2019 年度以降入学者）
専門入門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

宮澤　信二郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業ではスライドを投影し、対応した資料を配付します。また、オンライン教材を用い、毎週数問の簡単なクイズを宿題として出題します。復習を習慣づけることで、知識の定着を図ります。
Ⅰでは、需要、供給、価格、余剰などミクロ経済学で必要にる基本的なコンセプトを一通り紹介します。理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある独占市場について詳しく紹介しあ m す。
Ⅱでは、市場における企業間の競争について詳しく考えます。そしてその中間に位置づけられる寡占市場の考え方を解説します。なる基本的なコンセプトを一通り紹介します。市場における企業間の競争形態のうち、理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある独占市場について詳しく紹介します。
Ⅱでは、まず、完全競争と独占の中間に位置づけられる寡占市場の考え方を解説します。企業間のインタラクションを考える際に必要となるゲーム理論も紹介します。加えて、Ⅰで学んだ内容を発展させ、消費者、生産者の意思決定について詳しく学びます。
（4 月 14 日追記）春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業のテーマについて説明する。また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明する。
2	需要と供給／市場均衡	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！ 高く売りたい！ たばこの需要量を減らす方法とは？ アイスの供給量が増えるのはなぜ？ 需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところを探す。 猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなったら、アイスの値段はどうなる？
3	余剰と市場の効率性／政府の政策とその費用	今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足している？ 臓器を売買する市場は存在すべき？ 政府の出番はどこにある？ 消費税率アップは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか？
4	弾力性とその応用	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？ 麻薬の禁止は麻薬に関係する犯罪を減らすか、増やすか？
5	外部性と市場の失敗	他者のせいで迷惑を被っている影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？ なぜガソリンには重税が課せられるのか？
6	小括・確認テスト	5 回目までの授業内容を振り返った上で，その内容の確認テストを行います。終了後、解説を行います。
7	生産の費用（1）	費用とは何か？ 生産にかかる費用と様々な尺度
8	生産と費用（2）	短期と長期の費用との関係 規模に関する収穫とは？
9	競争市場における企業（1）	競争的な市場において、企業はどのような意思決定を行うのか？ 利潤の最大化をどのように分析するか？
10	競争市場における企業（2）	費用と供給曲線はどのように関係しているのか？ 短期と長期の市場供給はどのように異なるのか？
11	独占と市場の失敗（1）	独占企業と競争に晒される企業は何が違うだろうか？ 独占企業はどのように意思決定を行うのか？
12	独占と市場の失敗（2） 春学期のまとめ	独占に対してどのような政策を採るべきか？ 春学期の内容をまとめる。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の学習内容を確認し、秋学期の内容を概観する。
2	不完全競争市場とゲームの理論（1）	相手の行動を読みながら動く少数の売り手しかいない＝寡占市場における企業の意思決定を考える。マイクロソフトの戦略は違法？
3	不完全競争市場とゲームの理論 (2)	入門ゲーム理論：寡占企業はゲームをしている！？
4	不完全競争市場とゲームの理論 (3)	時間の経過を考慮に入れたより複雑なゲームについて学ぶ。
5	市場の失敗（1）	市場が失敗する様々なケースを紹介し、全体像を整理する。また市場の失敗に対する対応策を検討する。
6	市場の失敗（2）	市場の失敗と情報との関係。モラルハザードは倫理の欠如？
7	中間試験	15-20 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
8	消費者の理論 (1)	消費者は何を買うことができるか？ 消費者は何を望むのか？
9	消費者の理論 (2)	消費者はなにを選ぶのか？ 需要曲線の裏側にあった消費者の意思決定とは？
10	生産者の理論	生産に関係する費用についての復習。 利潤最大化を目指す企業の費用とは？
11	生産要素の市場	生産に投入する労働、土地、資本の市場の均衡を考える。
12	市場均衡と効率性（再考）	すべての市場の消費者とすべての市場の生産者の均衡とは？ 市場がもたらす資源配分は本当に消費者、生産者のニーズに合っているのか？
13	その他のトピックス	ここまでで学んだ内容に関連するミクロ経済学のトピックスについて紹介する。
14	全体のまとめ	この授業全体のまとめの行い，ミクロ経済学がどのように役立つのかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新しい内容を学ぶ際の予習を前提とはしません。代わりに毎回の授業の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが新しい内容への予習につながります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
（4 月 14 日追記）春学期の授業回数が 12 回になってしまったことにともない，予定していた学習内容の一部を，授業時間以外に，オンラインで学習してもらう必要があります。具体的には，授業開始日に学習支援システムで提示します。

【テキスト（教科書）】
宿題や復習にオンライン教材を使用します。そのために手続きが必要ですので、必ず第 1 回の授業を受講してください。
オンライン教材に対応している教科書は、マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社　2019 年です。

【参考書】
適宜以下の文献も活用します。参考にした際に改めて書名を紹介します。

伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 3 版）』日本評論社　2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社　2014 年
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社　2018 年

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）、宿題や授業中の課題など（50 %）で評価します。
また、授業中、演習の際に、こちらが指定したオンライン教材の「演習コース」の問題を 2/3 以上、提出していない限り、十分な回数受講していないと見なし、期末テストその他を受けていたり提出していても、採点をしません。
上記評価方法は、今後変更の可能性があります。変更ししだいすぐに学習支援システムや授業中にアナウンスしますので、しっかりチェックしていてください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から開講される科目です。学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料や宿題はオンラインで配布します。宿題の提出もオンラインでして頂きます。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【その他の重要事項】
宿題を提出するためには、オンライン教材の利用手続きが必要です。必ず第 1 回の授業を受講し、きちんと手続きをしてください。
ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【Outline and objectives】
Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way.

ECN200FA
ミクロ経済学入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）
専門入門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FA
ミクロ経済学入門Ⅱ（2019 年度以降入学者）
専門入門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

大木　良子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。】
毎回の授業ではスライドを投影し、対応した資料を配付します。また、オンライン教材を用い、毎週数問の簡単なクイズを宿題として出題します。復習を習慣づけることで、知識の定着を図ります。
Ⅰでは、需要、供給、価格、余剰などミクロ経済学で必要にる基本的なコンセプトを一通り紹介します。理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある独占市場について詳しく紹介しあ m す。
Ⅱでは、市場における企業間の競争について詳しく考えます。そしてその中間に位置づけられる寡占市場の考え方を解説します。なる基本的なコンセプトを一通り紹介します。市場における企業間の競争形態のうち、理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある独占市場について詳しく紹介します。
Ⅱでは、まず、完全競争と独占の中間に位置づけられる寡占市場の考え方を解説します。企業間のインタラクションを考える際に必要となるゲーム理論も紹介します。加えて、Ⅰで学んだ内容を発展させ、消費者、生産者の意思決定について詳しく学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ミクロ経済学とは	この授業のテーマについて説明します。 また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。
2	需要と供給	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！ 高く売りたい！ たばこの需要量を減らす方法とは？ アイスの供給量が増えるのはなぜ？
3	市場均衡（1）	需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところを探す。 猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなったら、アイスの値段はどうなる？
4	消費者・生産者・市場の効率性	今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足している？ 臓器を売買する市場は存在すべき？
5	政府の政策とその費用	政府の出番はどこにある？ 消費税率アップは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか？
6	弾力性とその応用	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？ 麻薬の禁止は麻薬に関係する犯罪を減らすか、増やすか？
7	中間試験	6 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
8	外部性	他者のせいで迷惑を被っている影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？ なぜガソリンには重税が課せられるのか？
9	生産の費用（1）	費用とは何か？ 生産にかかる費用と様々な尺度
10	生産と費用（2）	短期と長期の費用との関係 規模に関する収穫とは？
11	競争市場における企業（1）	競争的な市場において、企業はどのような意思決定を行うのか？ 利潤の最大化をどのように分析するか？
12	競争市場における企業（2）	費用と供給曲線はどのように関係しているのか？ 短期と長期の市場供給はどのように異なるのか？
13	独占（1）	独占企業と競争に晒される企業は何が違うだろうか？ 独占企業はどのように意思決定を行うのか？
14	独占（2） 春学期のまとめ	独占に対してどのような政策を採るべきか？ 春学期の内容をまとめる。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	春学期の学習内容を確認し、秋学期の内容を概観します。
16	寡占	相手の行動を読みながら動く少数の売り手しかいない＝寡占市場における企業の意思決定を考える。マイクロソフトの戦略は違法？
17	ゲーム理論 (1)	入門ゲーム理論：寡占企業はゲームをしている！？
18	ゲーム理論 (2)	時間の経過を考慮に入れたより複雑なゲームについて学ぶ。
19	市場の失敗（1）	市場が失敗する様々なケースを紹介し、全体像を整理する。また市場の失敗に対する対応策を検討する。
20	市場の失敗（2）	市場の失敗と情報との関係。モラルハザードは倫理の欠如？
21	中間試験	15-20 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
22	消費者の理論 (1)	消費者は何を買うことができるか？ 消費者は何を望むのか？
23	消費者の理論 (2)	消費者はなにを選ぶのか？ 需要曲線の裏側にあった消費者の意思決定とは？
24	生産者の理論 (1)	生産に関係する費用についての復習。 利潤最大化を目指す企業の費用とは？
25	生産者の理論 (2)	生産者要素市場（生産に投入する労働、土地、資本の市場）の均衡を考える。
26	市場均衡（2）	すべての市場の消費者とすべての市場の生産者の均衡とは？ 市場がもたらす資源配分は本当に消費者、生産者のニーズに合っているのか？
27	事例研究	これまで学んだツールを使って実際の事例を分析してみる。
28	総括	これまで学んだ道具立てを整理し、発展としてミクロ経済学の新しいトピックを紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新しい内容を学ぶ際の予習を前提とはしません。代わりに毎回の授業の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが新しい内容への予習につながります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宿題や復習にオンライン教材を使用します。そのために手続きが必要ですので、必ず第 1 回の授業に出席してください。
オンライン教材に対応している教科書は、マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社　2019 年です。

【参考書】
適宜以下の文献も活用します。参考にした際に改めて書名を紹介します。
伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 3 版）』日本評論社　2018 年
伊藤元重･下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社　2014 年
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社　2018 年

【成績評価の方法と基準】
【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】
期末テスト（60 %）、中間テスト（25 %）、宿題（15 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料や宿題はオンラインで配布します。宿題の提出もオンラインでして頂きます。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【その他の重要事項】
宿題を提出するためには、オンライン教材の利用手続きが必要です。必ず第 1 回の授業に出席し、きちんと手続きをしてください。
ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【Outline and objectives】
Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way.

情報学基礎（2019 年度以降入学者）　専門入門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
情報学基礎（2019 年度以降入学者）　専門入門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

児玉　靖司

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータの発達に伴い経営活動に関係ある情報学の基礎を学ぶ。前半では、コンピュータの仕組みから情報の表現、情報通信ネットワークについて学ぶ。後半では、オペレーティングシステム、プログラミング言語などの基本ソフトウェアと応用技術、その他、情報セキュリティ、アルゴリズム、人工知能などについて学ぶ。情報学の幅広い範囲を学ぶので、事前学習をすることが望ましい。

【到達目標】
情報学の基礎についてコンピュータ科学を中心とした知識を一通り理解することを目標とする。知識を学ぶと同時に、将来の社会について考察できることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕情報学として必要な様々な概念について学ぶ。
〔授業の方法〕授業は基本的に教科書（資料）に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト (確認テスト) を行い、理解度を調査しながら進める。
〔補足〕
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020 年 4 月 27 日（月）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報学全体の概要について学ぶ。
第 2 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの仕組みについて学ぶ。
第 3 回	情報の表現（1）	コンピュータ上で情報を表現する方法についての基礎を学ぶ。
第 4 回	情報の表現（2）	コンピュータ上で情報を表現する方法についての応用を学ぶ。
第 5 回	情報通信ネットワーク	最近のコンピュータに必須の情報通信ネットワークについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティングシステム	基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	プログラミング言語	ソフトウェアを記述するプログラミング言語について学ぶ。
第 8 回	アルゴリズムとデータ構造（1）	ソフトウェアの設計図にあたるアルゴリズムとデータ構造の基礎について学ぶ。
第 9 回	アルゴリズムとデータ構造（2）	アルゴリズムとデータ構造の応用について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティと暗号化	情報セキュリティと暗号化について学ぶ。
第 11 回	IoT	IoT(Internet of Things) と社会について学ぶ。
第 12 回	データ解析	コンピュータを使ったデータ解析について学ぶ。
第 13 回	人工知能	人工知能の概略について学ぶ。
第 14 回	まとめ	情報学全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講後、指定する。原則としてパワーポイント（PDF）による資料を Classroom より配布する。

【参考書】
講義開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席点（50 %) と定期試験（50%）で評価する。
〔補足〕
オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
開講初年度のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】
PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関連する科目

【Outline and objectives】
Learning the fundamentals of informatics related to business activities with the development of computers. In the first half, students learn about the expression of information and communication networks from the mechanism of computers. In the second half, you can learn basic software and applied technologies such as operating systems and programming languages, as well as information security, algorithms and artificial intelligence.

MAN200FA
マーケティング論Ⅰ

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
マーケティング論Ⅱ

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

竹内　淑恵

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）やマーケティングの４ P（製品、価格、プロモーション、流通）などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

この講義によって、今日のマーケティングの本質をとらえた顧客価値と顧客リレーションシップの革新的な枠組みを理解することができます。

【到達目標】
・マーケティングの理論と実務について理解する。
・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP-5」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業については、次のように修正します。
録画配信オンデマンド型で授業を進めます。テキストの第 1 章から第 7 章までビデオ収録した講義による視聴学習 (7 回分) と、それぞれの章から出題される小レポートの作成 (7 回分) で構成します。受講生は、水曜 2 限の授業時間に縛られず、自分の都合のよいときにあらかじめ収録したビデオを視聴して学習してください。4 月 22 日から 7 月 29 日までの期間に、3 回に分けて、第 1 章から第 7 章までを配信する予定です。配信スケジュールは学習支援システムで公開した「マーケティング・マネジメント論Ⅰガイダンス」資料で確認してください。講義資料は学習支援システム「教材」に、また、小レポートのテーマは「課題」に随時掲載します。
なお、ゲストスピーカーによる講義は、教室での授業ができないため、中止する予定です。
オンデマンド授業の視聴方法は、以下の通りです。
1. 法政ポータルサイト（Hoppii）ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス　（統合認証 ID とパスワードを入力）
URL ： https://hoppii.hosei.ac.jp/
または、https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/
2. クラス一覧から「マーケティング・マネジメント論Ⅰ」を選びクリック、教科一覧から「マーケティング・マネジメント論Ⅰ」をクリック、
　章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴
3.「終了」ボタンを押して視聴終了
以下は修正前の内容です。
春学期：マーケティングの定義や、送り手である企業レベル (マーケティング組織、競争戦略、STP など)、受け手である消費者レベル (消費者行動、カスタマー・インサイトなど) という観点からマーケティングを捉える。
秋学期：マーケティングの要といえる「マーケティングの 4P」(Product, Price, Promotion, Place) について学ぶとともに、ダイレクト・マーケティングやオンライン・マーケティングといったマーケティングの革新に対する理解を深める。
春学期・秋学期ともゲストスピーカーを招いて、実際の企業のマーケティング活動について講演をいただく予定です。詳細は決まり次第、授業内で伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について概説する。
第 2 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 1 章　マーケティングの本質	マーケティングの定義、マーケティングの 5 つのステップについて説明する。
第 3 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について説明する。
第 4 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について説明する。
第 5 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について説明する。
第 6 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について説明する。
第 7 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 4 章　マーケティングの基本枠組み	STP について説明する。
第 8 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出について説明する。
第 9 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング・リサーチについて説明する。
第 10 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性について説明する。
第 11 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動②	購買行動のタイプ、購買者の意思決定プロセスについて説明する。
第 12 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド①	製品、サービスについて説明する。
第 13 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて説明する。
第 14 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	ゲストの人選、テーマ設定、日程 (シラバスでは仮に 14 回に設定している) 等については、これから交渉するため、詳細は授業にて伝える。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセスと新製品のマネジメントについて説明する。
第 2 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクル、製品のグローバル展開について説明する。
第 3 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供①	マーケティング・チャネルの本質と重要性について説明する。
第 4 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・チャネルの管理について説明する。
第 5 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 10 章　価格設定①	価格設定の重要性、新製品の価格設定戦略について説明する。
第 6 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 10 章　価格設定②	価格調整と価格変更について説明する。

第 7 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得①	コミュニケーション・ミックス、統合型マーケティング・コミュニケーションについて説明する。
第 8 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算とコミュニケーション・ミックスについて説明する。
第 9 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ①	マーケティングにおける広告、広告戦略の展開、広告媒体の選定について説明する。
第 10 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ②	広告に対する評価と広告会社の利用、パブリック・リレーションズについて説明する。
第 11 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 13 章　人的販売と販売促進	セールス・フォースの管理、セールス・プロモーションについて説明する。
第 12 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングについて説明する。
第 13 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングについて説明する。
第 14 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	ゲストの人選、テーマ設定、日程 (シラバスでは仮に 14 回に設定している) 等については、これから交渉するため、詳細は授業にて伝える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著　『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦　『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】
・春学期、秋学期ともリアクションペーパー提出 30 点、定期試験 70 点 (計 100 点) とし、評価を決めます。
・リアクションペーパーを提出しないと単位を取ることは相当難しくなります。必ず提出してください。
・ペーパーを作成する際の剽窃行為、定期試験における不正行為は厳に慎んでください。
・定期試験において、学生証番号を誤ってマークした場合は、D(不合格) あるいは E(未受験) になることをここに明記しておきます。

【学生の意見等からの気づき】
・2020 年度から開講する新規科目のため、アンケートを実施していません。旧カリキュラムの専門基礎科目 B 群「マーケティング論」のアンケートでは、私語への注意喚起の要望が多く見受けられました。熱心に受講している人の迷惑にならないよう、私語への注意を徹底したいと思います。ご協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
資料は授業支援システムを用いてダウンロード形式 (pdf ファイル) で配布する予定です。スマートフォンでは画面が小さく見にくいと思われるので、タブレットやノート PC などペーパーレスで閲覧できる機器があるとよいでしょう。

【その他の重要事項】
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる重要な科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning) and marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

This class will help students to understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

MAN200FA
経営管理論Ⅰ（2019 年度以降入学者） 経営学科専門科目 200 番台 2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
経営管理論Ⅱ（2019 年度以降入学者） 経営学科専門科目 200 番台 2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FA
経営管理論Ⅰ（2019 年度以降入学者） 経営学科専門科目 200 番台 2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
経営管理論Ⅱ（2019 年度以降入学者） 経営学科専門科目 200 番台 2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FB
経営管理論Ⅱ（2018 年度以前入学者） 2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FB
経営管理論Ⅰ（2018 年度以前入学者） 2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FB
経営管理論Ⅱ（2018 年度以前入学者） 2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FB
経営管理論Ⅰ（2018 年度以前入学者） 2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

稲垣　保弘

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〔春学期〕
経営管理の主要な理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを検討します。
〔秋学期〕
経営管理論Ⅰの延長であり、経営管理についての主要な理論の中で応用的なものを理解し、パワー作用などハウツー的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討します。

【到達目標】
授業のテーマ(組織のマネジメントの理論と実践）について、受講者の知識と論理的思考力などの向上を図り、それにもとづいて組織の現実を理解し、適切に対応できるような能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です（質問の時間は授業の終わりにとります)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
2	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
3	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義によるマネジメントについての理解。
4	管理＝マネジメントの変容の方向性	前回の内容に基づいてマネジメントの変化の方向を検討する。
5	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
6	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
7	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
8	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。マネジメントの手法としてだけでなく、日本的経営の変容の中でその意味を理解する。
9	成果主義	日本企業における成果主義について。
10	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程論について。
11	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
12	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
13	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
14	まとめ	春学期の内容を総合的にまとめる。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期の内容について説明。
2	サイモンの意思決定理論	意思決定の概要について、サイモンの理論を中心に説明。
3	コンティンジェンシー理論	コンティンジェンシー理論の内容と意味。
4	ローレンス＝ローシュの研究	コンティンジェンシー理論の代表的な研究の説明。
5	組織要素の連結	組織の構成単位の連結の様相について。
6	コンフリクト	組織のコンフリクトの解消方法について。
7	組織選択のゴミ箱モデル	サイモンの意思決定理論で排除されていた部分を補う理論について。
8	組織の進化論的モデル	組織現象の流れをとらえようとする理論について。
9	組織の効率性と創造性	組織の効率性を高める方法と、創造性を高める方法。
10	組織の機能について	機能というコンセプトが組織活動とマネジメントでどのような意味を持つのかについて。
11	企業文化について	企業文化の役割とその形成、変革について。
12	リーダーシップの理論	リーダーシップの概念と主要な理論。
13	変革のリーダーシップ	リーダーシップが重要なのは、どのようなケースか。
14	組織のパワー作用	組織のパワー作用について、フランス現代思想、政治学、コンティンジェンシー理論などにもとづいて説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房（２００２年）を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】
稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房 (２０１３年)。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているので、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価は定期試験が中心ですが、平常点も加味する予定です。詳細については開講時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【その他の重要事項】
関連科目：経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
The course deals with basic management and organization theories.On the basis of understanding these theories, students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.Through these processes ,students will learn logical and creative way of thinking about management and organization.

SOC300FB
経営社会学Ⅰ
3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

SOC300FB
経営社会学Ⅱ
3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

佐野　哲

※　Ⅰ、Ⅱとも春学期に開講するので注意してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在進行形の「社会及び経済の時事問題」を、企業経営の視点を借りつつ、多角的・多元的に理解すること。これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、大学生が知っておくべき重要な頻出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。時事問題に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いにしっかり答えられません。

【到達目標】
経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には**「労働社会学」**などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。
経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは**「政治経済学」**などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。
本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
● 2020年度の当オンライン講義（資料配信型）は、履修登録期間終了後の**2020年5月16日（土）から**、資料PDFを配信するかたちでスタートさせます。詳しくは、学習支援システム「お知らせ」もしくはツイッター（「経営社会学2020【法政営営】で検索）を確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション	経営社会学とはいかなる学問か？
[2]	新卒労働市場の社会学①	学生の「就活」と企業の新規学卒一括採用、その構造変化
[3]	新卒労働市場の社会学②	新卒採用のIT化とアウトソーシング
[4]	新卒労働市場の社会学③	グループディスカッション
[5]	ビジネスキャリア開発の社会学①	大企業における大卒マネジャーの昇進構造
[6]	ビジネスキャリア開発の社会学②	転職や出向など「失業なき労働移動」の成功要因
[7]	ビジネスキャリア開発の社会学③	グループディスカッション
[8]	非正規労働化と貧困問題①	社会成層の中の「非正規化と貧困」
[9]	非正規労働化と貧困問題②	「派遣」から考える日本の労働政策
[10]	非正規労働化と貧困問題③	グループディスカッション
[11]	国際労働移動の社会学①	外国人労働者の諸類型
[12]	国際労働移動の社会学②	国際的な資本と労働の移動形態
[13]	国際労働移動の社会学③	グループディスカッション
[14]	ペーパーテストによる振り返り	授業内試験（論述形式）の実施

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
[1]	再導入グループワーク	「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）
[2]	政党政治と官僚支配の政策社会学①	政党政治の諸類型
[3]	政党政治と官僚支配の政策社会学②	政党政治プロセスの社会構造
[4]	政党政治と官僚支配の政策社会学③	グループディスカッション
[5]	赤字財政が変える日本の政策と生活①	日本の財政構造とプライマリーバランス
[6]	赤字財政が変える日本の政策と生活②	増大する医療・社会保障費と増税政策
[7]	赤字財政が変える日本の政策と生活③	グループディスカッション
[8]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学①	環境関連経済イベントの連鎖と混乱
[9]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学②	環境ポリティクスの多様化と多元化
[10]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学③	グループディスカッション
[11]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学①	メディア資本の拡張と「業界」構造
[12]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学②	メディア産業の全体像と構造変化
[13]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学③	グループディスカッション
[14]	ペーパーテストによる振り返り	授業内試験（論述形式）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
●学習支援システム「お知らせ」を確認願います。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】
各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】
この講義は、企業経営の人間的・政治的側面にフォーカスしながら、経営・労働主体のおかれる社会構造及び、その活動の「社会的合理性」と今後の変化を捉えようとするものです。講義で扱う「社会及び経済の時事問題」は、それを考える際の題材です。こうした学びは、状況判断力や環境変革力などの「就業力」を高める効果があります。もちろん、社会や経済の動きを把握し自ら判断していく力を養うわけですから、企業の人事部や広報部、さらには経営企画部で活躍するための必須の能力といえます。
なお、当授業に関連する経営学部の専門科目としては、経営社会学Ⅰでは「人的資源管理Ⅰ/Ⅱ」など、同Ⅱでは上記【授業計画】のテーマに関係する他学部（法、社会学部など）公開科目の履修を勧めます。

【Outline and objectives】
This course provides an applied sociological analysis of work and work experience in its social, organizational and political context in Japan. In this course, we examine the major trends shaping current and future work; work's organization into projects, firms, and government.
This course consists of two parts, 1)"Work, Organization and Society" and 2)"Work, Environment and Government". The first part, "Work, Organization and Society" presents a broad overview of central topics in Occupational system, the transformation of management, Job insecurity and ethnic diversity in Japan. The second part of the course covers topics in political and social change, the reform of the welfare state, risk and the environment and the global media and democracy.

MAN200FA
検定会計Ⅰ（2019 年度以降入学者）
経営学科専門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FB
検定会計Ⅱ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FB
検定会計Ⅰ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
検定会計Ⅱ（2019 年度以降入学者）
経営学科専門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

浅石　梨沙

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本商工会議所簿記検定２級商業簿記の範囲（連結会計を除く）の出題範囲を主たる対象に，株式会社の商業簿記を習得することが本授業の目的です。本授業の履修は，上記検定試験の受験準備に有用であるとともに，財務会計論の深い理解を得る上でも役立ちます。

【到達目標】
対象範囲で扱われる取引の概要を理解し，対応する簿記処理について，適した勘定科目の選定や金額計算ができる。
簿記一巡の手続を理解し，各手続において必要な処理を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は【５月７日（木）】とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび簿記 3 級範囲の復習	簿記 3 級範囲に関する会計処理の習得
第 2 回	現金預金と売掛金	現金預金と売掛金に関する会計処理の習得
第 3 回	手形：裏書・割引，更改，不渡	手形に関する会計処理の習得①
第 4 回	手形：営業外，電子記録債権・債務 有価証券：区分，売買目的有価証券	手形に関する会計処理の習得②
第 5 回	有価証券：満期保有目的有価証券，子会社株式および関連会社株式，その他有価証券	有価証券に関する会計処理の習得
第 6 回	その他の債権・債務 商品売買： 3 分法等	その他の債権に関する会計処理の習得
第 7 回	商品売買：払出単価の決定方法	商品売買に関する会計処理の習得①
第 8 回	商品売買：割引・割戻，棚卸減耗・商品評価損	商品売買に関する会計処理の習得②
第 9 回	固定資産：分類，取得，修繕・改良，減価償却	固定資産に関する会計処理の習得①
第 10 回	固定資産：売却等，無形固定資産，投資その他の資産	固定資産に関する会計処理の習得②
第 11 回	固定資産：圧縮記帳 引当金：貸倒，商品保証，賞与	固定資産に関する会計処理の習得③
第 12 回	引当金：退職給付，売上割戻，返品調整，修繕	引当金に関する会計処理の習得
第 13 回	収益と費用	収益と費用に関する会計処理の習得
第 14 回	試験・まとめと解説	春学期の総まとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	株式会社の純資産：意義，設立・開業等	株式会社の純資産に関する会計処理の習得①
第 2 回	株式会社の純資産：増資，剰余金の配当および処分	株式会社の純資産に関する会計処理の習得②
第 3 回	株式会社の純資産：合併，株主資本以外の純資産	株式会社の純資産に関する会計処理の習得③
第 4 回	税金	税金に関する会計処理の習得
第 5 回	リース会計	リース会計に関する会計処理の習得
第 6 回	外貨建取引：営業取引，決算および決済取引	外貨建取引に関する会計処理の習得①
第 7 回	外貨建取引：為替予約，金銭債権債務等の換算 税効果会計：意義	外貨建取引に関する会計処理の習得②
第 8 回	税効果会計：引当金，減価償却，その他有価証券評価差額金	税効果会計に関する会計処理の習得
第 9 回	決算：決算整理，帳簿決算手続	決算に関する会計処理の習得①
第 10 回	決算：製造業における決算	決算に関する会計処理の習得②
第 11 回	決算：財務諸表の作成，精算表	決算に関する会計処理の習得③
第 12 回	本支店会計：意義・目的，本支店間の取引	本支店会計に関する会計処理の習得①
第 13 回	本支店会計：本支店会計における決算手続	本支店会計に関する会計処理の習得②
第 14 回	試験・まとめと解説	秋学期の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に各回で取り扱う範囲についてテキストを通読します。授業後は，授業内で学習した内容をテキストにしたがって確認します。その際には必ず例題を再度解きなおします。授業内で扱った内容に関連する問題をテキストに連動した問題集で解き，次回授業で実施する復習テストに備えます。
本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト：渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義／ 2 級商業簿記＜ 2020 年度版＞』中央経済社。
問題集：渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック／ 2 級商業簿記』中央経済社。

【参考書】
指定しない

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
問題演習および前回講義内容の復習の時間を講義時間内でなるべく多くとり，解説された内容を頭で理解するだけではなく，実際に手を動かして身に着けられるようにする必要があると感じました。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【その他の重要事項】
「検定会計Ⅰ」と「検定会計Ⅱ」は連続したカリキュラムで進行しますので，可能な限り両科目を連続して履修してください。なお，日商簿記兼的試験は 2016 年度以降出題範囲が相当程度拡大していることから，所定の講義回数で全範囲を取り扱うことは極めて困難な状況にあります。そのため，連結会計は本授業の学習範囲から除外されています。

【関連科目】
連結会計

【Outline and objectives】
The objective of this class is understanding basic book keeping rules.

MAN300FB

組織行動論Ⅰ

経営学科専門科目 200 番台　3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

西川　真規子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織におけるひとに関わる課題・問題に対して、心理学や社会心理学、社会学などの学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論Ⅰでは、個人一般に焦点をあてます。社会環境と相互作用する際の個人の内面での働きや変化、さらには個人から社会環境への働きかけを中心に理解を深めます。

【到達目標】
①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②学んだ概念や理論を自らの集団活動上の経験に応用できるようになる。③集団でのひとに関わる課題や問題に対する改善策・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「社会学」、「心理学」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
①各回のテーマに関係する概念や理論の理解を講義形式で進めます。②各回のテーマに沿った自らの体験を振りかえる Exercise を実施します。③講義後に、当日学んだ概念、理論を実体験に応用するための Reflection を実施します。④各自で講義内容を踏まえ組織行動論の観点から Exercise、Reflection の内容を振り返り分析します。⑤振り返った内容を踏まえ、レポート課題に沿って各自でレポートを作成します。
この講義の開始日は 5 月 6 日（水）とします。当日学習支援システムを通じて、詳しい資料「履修について」と「授業内容について」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	組織行動論とは 組織行動論Ⅰの学習内容
2	個人・集団・組織	個人の態度と行動 環境との相互作用
3	学習 1	ヒトの学習 個人の学習
4	学習 2	集団・組織での学習
5	認知	認知プロセス 認知バイアス
6	帰属	内的・外的帰属 帰属バイアス
7	情動	身体と情動 情動と労働
8	モチベーション 1	モチベーションと自己
9	モチベーション 2	モチベーションと目標
10	モチベーション 3	モチベーションと期待
11	モチベーション 4	モチベーションと比較
12	意思決定 1	個人の意思決定
13	意思決定 2	集団の意思決定
14	まとめ	学習内容の振り返り

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で Exercise、Reflection を実施します。次回の講義までに各自で授業内容を振り返り完了させてください。講義後にレポート用の課題が出されます。各自でレポートを作成し提出に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。
毎回授業に使用する資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】
各回引用する文献が異なるため参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
レポート評価とします。レポートでは、講義で学んだ概念や理論の理解度と、その実体験への応用力について審査します。レポートは、受講登録時、授業前半、授業後半の 3 回にわたり提出します。全てのレポートを提出しない場合は単位習得ができません。成績評価方法の詳細は初回の授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
分析的視点・応用力が身につくという本授業のメリットを、Exercise や Reflection の実施を通じてさらに高めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料を学習支援システム上で公開します。授業に関するお知らせ等についても学習支援システムを通じて行っています。

【その他の重要事項】
組織行動論の理解を深めるため、組織行動論Ⅰ/Ⅱ両方の受講を勧めます。尚、組織行動論Ⅰは 2 年生から受講できますが、組織行動論Ⅱは 3 年生以降の受講となります。

【関連科目】
組織行動論Ⅱ
人的資源管理Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
Organizational behaviour seeks to understand human behaviour in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behaviour, mainly developed in the field of psychology, social psychology, and sociology. This course will focus on the attitudes and behaviour of people in general, such as individual perception, learning, motivation, and decision making.

MAN300FB

組織行動論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

西川　真規子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織におけるひとに関わる課題・問題に対して、心理学や社会心理学、社会学などの学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論Ⅱは、集団・組織の一員としての個人に焦点をあてます。集団内での人間関係を促進したり阻害したりする要因についての理解を深めていきます。

【到達目標】
①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②学んだ概念や理論を自らの集団活動上の経験に応用できるようになる。③集団でのひとに関わる課題や問題に対する改善策・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「社会学」、「心理学」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
各回において、①講義の前に自らの体験を振り返る Exercise を実施します。②その後、各回のテーマに沿った講義を行います。講義では、アルバイトやサークル、ゼミ活動等受講生の実体験にも十分活用できるレベルでの理論や概念の説明を行います。また授業中に Reflection を行い、各自の実体験を振り返り、概念・理論の応用をはかります。③最後に、講義内容を踏まえ組織行動論の視点から Exercise の内容を再度振り返ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	組織行動論とは 組織行動論Ⅱの学習内容
2	個人と集団	集団の影響 集団の発達
3	チームとパフォーマンス	チームの特質 チームと業績
4	コミュニケーション１	相互作用としてのコミュニケーション コミュニケーション上の障害
5	コミュニケーション２	効果的なコミュニケーション コミュニケーションスキル
6	コンフリクト	コンフリクトの捉え方 コンフリクトのマネジメント
7	ストレス	ストレス発生のプロセス ストレスとパフォーマンス
8	リーダーシップ１	リーダーシップとは何か リーダーシップ論の変遷
9	リーダーシップ２	コンティンジェンシー理論
10	リーダーシップ３	現代のリーダーシップ論
11	パワーと影響力	パワーと依存 パワーの行使
12	ジェンダーと組織行動	ジェンダーと労働 ワークライフバランス
13	事例研究	共通のケースについて皆でその捉え方を検討し、改善（解決）策を探ります
14	まとめ	組織行動論を実体験に生かすには

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で Exercise、Reflection を実施します。授業時間中にこの作業が完了しなかった場合は、次回の講義までに各自で授業内容を振り返り完了させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。
授業に使用する資料を事前に授業支援システムを通じて毎週配布します。この資料は、講義中にノートがとれるよう余白が設定されていますので、各自授業前に印刷し持参してください。尚、配布資料に記載されているのは要点のみなので、毎回授業中に講義ノートをできるだけ詳しく取ってください。

【参考書】
各回引用する文献が異なるため参考書は特に指定しません。
参考文献が知りたい場合は講義後教員に尋ねてください。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を実施します。試験では、講義で学んだ概念や理論の理解度と、その実体験への応用力について審査します。試験結果が100％成績に反映されます。講義では特定のテキストを使用しないため、試験の内容を理解するには出席が欠かせません。

【学生の意見等からの気づき】
応用力が身につくという本授業のメリットを、Exercise や Reflection の実施を通じてさらに高めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料を事前に授業支援システム上で公開しています。受講生はこの資料を授業前に印刷し授業に持参してください。授業に関するお知らせ等についても授業支援システムを通じて行っていますので、各自授業開始後速やかに授業支援システムで自己登録を行ってください。

【その他の重要事項】
授業中に支援システム上の資料をスマートフォンで確認する受講生を散見しますが、資料は必ず印刷して持参してください。
組織行動論の理解を深めるため、組織行動論Ⅰ/Ⅱの連続受講を勧めます。

【関連科目】
組織行動論Ⅰ
人的資源管理Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
Organizational behaviour seeks to understand human behaviour in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behaviour, mainly developed in the field of psychology, social psychology, and sociology. This course will examine the behaviour of people in groups and organizations, such as teamwork, communication, and leadership.

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅠ（2019 年度以降入学者）

経営学科専門科目 200 番台　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

小川　憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
キャリア論の基礎に関する講義、企業の採用活動の事例紹介などを行います。理論や事例を材料にディスカッション等を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 9 回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第 10 回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第 11 回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験（50 %）、平常点（50 %：小レポート等含む）
・出席は取りませんが、時々講義中に適宜課題を出します。
・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありえます。
・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

【学生の意見等からの気づき】
実際の採用過程に関する私の調査結果に基づいた話を取り入れます。

【その他の重要事項】
①各回の内容はあくまで予定です。内容の前後や変更がありえます。
②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
携帯電話の電源を切って鞄にしまう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。
関連科目は特にありません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic career theories including the basic mind for career development, process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environment surrounding companies and other organizations.

MAN300FB
経営組織論Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FB
経営組織論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

長岡　健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないでしょうか。
この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】
• 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における「組織」の諸側面について、多面的かつ批判的に考察できる。
• 経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。
• 組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

《新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う春学期の授業方法の変更》
• 授業開始日：　2020年4月21日（火）10:40 ～ 12:20
• 全12回をzoomを使ったライブ配信型オンライン授業で行う。
• 一方向的なビデオ配信ではなく、双方参加型の授業運営を行う。
• 詳細については別紙「受講の準備と注意点」を参照すること。

春学期の授業（経営組織論Ⅰ）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「個人の振る舞い」「キャリア開発」「集団の振る舞い」「組織と個人の関係」という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「組織構造」「組織文化」「多様性社会と組織」「組織学習」という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。春学期・秋学期ともテーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行いますが、受講者が主体的に考え、発言する機会をできる限り設けていく予定です。さらに、各モジュールの前後の授業では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い（1）	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い（2）	組織における「モチベーション（動機づけ）」に関する基礎概念
第4回	キャリア開発（1）	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第5回	キャリア開発（2）	「組織内専門人材」の意味／意義／位置づけ
第6回	事例研究（1-1）	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第7回	集団の振る舞い（1）	経営学における「集団（グループ）」の意味／意義／位置づけ
第8回	集団の振る舞い（2）	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第9回	事例研究（1-2）	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第10回	組織と個人の関係（1）	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第11回	組織と個人の関係（2）	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第12回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義
第13回	（なし）	新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学事日程の変更により、春学期の授業回数は12回とする。
第14回	（なし）	新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学事日程の変更により、春学期の授業回数は12回とする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	事例研究（2-1）	「組織構造」に関する事例の多面的・批判的考察
第3回	組織構造（1）	組織設計の視点と「ピラミッド型組織」の基本原理
第4回	組織構造（2）	企業の組織形態と「フラット化・ネットーワック化」の進展
第5回	事例研究（2-2）	「組織文化」に関する事例の多面的・批判的考察
第6回	組織文化（1）	「企業文化論」の特徴と「日本的経営」に対する評価の変遷
第7回	組織文化（2）	組織文化に対する「社会的制度」からの圧力とその影響
第8回	事例研究（2-3）	「多様性社会と組織」に関する事例の多面的・批判的考察
第9回	多様性社会と組織 (1)	「多様性（ダイバーシティ）のある社会」の進展とビジネスへの影響
第10回	多様性社会と組織 (2)	「ダイバーシティ・マネジメント」の可能性と課題
第11回	事例研究（2-4）	「組織学習」に関する事例の多面的・批判的考察
第12回	組織学習（1）	「組織劣化・機能不全」の要因と対応方法に関する基礎概念
第13回	組織学習（2）	「学習棄却（アンラーニング）」という概念の可能性と課題
第14回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経営学の基礎的科目を履修していない受講者は、各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、『経営組織』（下記、参考書）の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。シラバスで指定したテキスト・参考書以外にも、それぞれのテーマに関連する文献を授業中に適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
春学期については、各テーマ（モジュールごと）に振り返りレポートを作成します（4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。

【テキスト（教科書）】
春学期・秋学期ともに、各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップしますので、各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】
以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を授業中に紹介していきます。
• 金井壽宏『経営組織』(日経文庫) 日本経済新聞社
• ロビンス，S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
• グロービス経営大学院『グロービス　MBA　組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
春学期は①テーマ（モジュールごと）の振り返りレポート（4回）、②ゲスト講義へのコメント（2回）、③最終レポート（1回）により評価します。評価の割合は以下の通りとします。

[評価の内訳]
• 振り返りレポート（4回）：40％
• ゲスト講義へのコメント（2回）：20%
• 最終レポート（1回）：40%

秋学期は①授業時間内に作成する小レポート（8回）、②学期末の試験（1回）により評価します。評価の割合は以下の通りとします。

[評価の内訳]
- 小レポート（8 回）： 30 %
- 試験（1 回）： 70 %

【学生の意見等からの気づき】
今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
- zoom を使ったライブ配信型オンライン授業を受講するための機器と環境は各自で準備してください。（詳細については別紙「受講の準備と注意点」を参照してください。）
- 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、Twitter を活用する予定です。受講者は Twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】
- 授業開始日： 2020 年 4 月 21 日（火） 10:40 ～ 12:20
- オンライン受講の準備については別紙「受講の準備と注意点」を参照してください。
- 『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』を事前に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】
In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.
In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; 1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; 2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; 3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.
The objectives of this course are 1) to deepen our understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and 2) to sharpen our insights into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

MAN300FB
組織マネジメント論Ⅰ

3〜4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FB
組織マネジメント論Ⅱ

3〜4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

永山　晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では創造性について学習する。創造性はイノベーション創出の源泉であるため、組織の成長・生存にとって最も重要な要因の一つである。創造性が高いアウトプットとはどういうものなのか。創造性が高い人はどのような人か。どのように創造性を測定できるのか。創造性を左右する要因とは何なのか。このような疑問に対し、本授業は、創造性に関わる心理学、経済学、社会学の最新の学術的知見を提供する。授業では教員によるスライドを使った講義に加え、数人でのグループワーク、授業内実験も行う。

【到達目標】
（1）創造性に関わる基本的な理論、枠組みについて、「自分の言葉」で分かりやすく他人に説明できる。
（2）ウェブ記事などで目にする現象、自分の身近にある現象について、理論的観点から分析的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	創造性の基本	創造性とは何か？
2	創造性の基本	アイデアの組み合わせとは何か？ (1)
3	創造性の基本	アイデアの組み合わせとは何か？ (2)
4	創造性の基本	創造的な人とは何か？ 認知・性格・行動
5	創造性のインプット	限定合理性・サーチ・加齢
6	創造性のインプット	インセンティブと競争
7	創造性のインプット	チーム
8	創造性のインプット	ネットワーク
9	創造性のインプット	環境
10	創造性のプロセス	アイデアからイノベーションまでのプロセス
11	創造性のプロセス	発想法 (1) ブレインストーミング
12	創造性のプロセス	発想法 (2) バイアスブレイク
13	授業内実験	授業内で創造性に関わる実験を実施する
14	総括	秋学期授業内容の総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	創造性の基本	本授業の概要説明と前期のまとめ
2	創造性のプロセス	コミュニケーション・バーストネス
3	創造性のプロセス	互恵性と協調
4	創造性のプロセス	規範・フレーミング
5	創造性のプロセス	バイアス
6	創造性のプロセス	集合知
7	創造性のプロセス	リーダーシップ・フィードバック
8	創造性のプロセス	感情とフロー
9	創造性のアウトプット	評価、最適差異
10	創造性のアウトプット	成功
11	創造性のアウトプット	ウェルビーイング
12	創造性のアウトプット	機械的創造
13	授業内実験	授業内で創造性に関わる実験を実施する
14	総括	秋学期授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
• 該当箇所の事前配布資料が指定された場合、その資料を授業前に読み込んでおくこと。
• 普段目にするニュースや経済番組に対し、学習した概念を通じて批判的に考察すること。
• 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。オンラインでスライドを閲覧できるようにしておく。必要があれば各自印刷すること。昨年度のスライドは以下で閲覧できる。本ウェブサイトを本年度のものに随時更新していく。
https://sites.google.com/view/nagayaman/material

【参考書】
・カウフマン, スコット・バリー・グレゴワール, キャロリン（2019）『FUTURE INTELLIGENCE これからの時代に求められる「クリエイティブ思考」が身につく10の習慣』大和書房（野中香方子訳）.
・グラント, アダム（2016）『ORIGINALS 誰もが「人と違うこと」ができる時代』三笠書房（楠木健監訳）.
・バーカス, デビッド（2014）『どうしてあの人はクリエイティブなのか？』BNN新社（プレシ南日子・高崎拓哉訳）.
・ペントランド, アレックス（2015）『ソーシャル物理学:「良いアイデアはいかに広がるか」の新しい科学』草思社（小林啓倫訳）.

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も 変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に発言しにくいという意見があった。この意見を踏まえ、本年度より、クラス全体で同時編集できる google docs を使って、グループワークを行う。

【学生が準備すべき機器他】
ラップトップPC、タブレットなどの情報端末を必要とする場合がある。

【その他の重要事項】
・受講者の人数や関心によって学習トピックの内容や学習順序を一部変更する可能性がある。

【関連科目】
経営管理論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、組織行動論Ⅰ／Ⅱ、中小企業論Ⅰ／Ⅱ、製品開発論Ⅰ／Ⅱ、技術管理論Ⅰ／Ⅱなど

【Outline and objectives】
This course offers a topic of creativity. Creativity is the main source of generating innovations and is one of the most contributed factors in organizational growth and survival. We ask the following questions; How do we evaluate creativity? How can we characterize a creative person? What factors do influence creativity? To answer these questions, I offer state of the art knowledge regarding creativity. In my class, I teach topics using not only slides but also group exercises, and in-class experiments.

MAN300FB
経営情報論Ⅰ

3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FB
経営情報論Ⅱ

3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

岸　眞理子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営情報論は、経営の視点から、企業を中心に様々な組織の情報処理活動について、これまで培われてきた理論やモデルを学び、これを応用し発展させると同時に、実際の組織の情報処理活動から、実践的知見を得ることで、これを一般化しようとする学問領域です。
この授業では、ICT（情報技術）環境を前提とし、組織がどのようにして有効な情報処理を行うべきなのか、また実際に行っているのかについて理解することを目的としています。

【到達目標】
経営情報論は、理論と実践とを相互作用させ、その相乗効果によってレベルアップを図っていく独特の学問領域です。
この授業では、経営情報論の基礎となる理論や概念を学び、これらを実際の企業活動の様々な事例に応用することで、どのようにして企業組織が一つの有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて、理論から実践へと向かう領域について検討できるようなるとともに、実際の企業の優れた情報処理活動の事例を考察することによって、実践から得られた知見を理論にフィードバックし、これらを発展させていく領域にも目を向けるができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は4月28日とします。この日までに、具体的な授業の進め方と方法ならびに授業計画の変更を学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営情報論Ⅰのガイダンス 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
第2回	組織と情報処理	情報処理システムとしての組織
第3回	企業の情報処理の展開	事例研究（1）
第4回	組織と技術	プロセスとアクション
第5回	組織の意思決定	問題解決と意思決定プロセス
第6回	ケース・スタディ（1）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
第7回	企業戦略と情報活用	ポジショニング・ビューと資源ベースビュー ICTの役割
第8回	組織のオープン戦略とクローズド戦略	組織間関係の変化 SISからオープン化・モジュール化
第9回	経営戦略と経営情報システム	事例研究（2）
第10回	組織ケイパビリティ	組織ルーティン
第11回	組織と組織化	組織の意味形成 アクター・ネットワーク
第12回	エコシステム化	事例研究（3）
第13回	ケース・スタディ（2）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
第14回	総括	経営情報論Ⅰのまとめ 経営情報論Ⅰの展望

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営情報論Ⅱのガイダンス 経営情報論Ⅰの復習 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
第2回	組織のコミュニケーション	コミュニケーション・モデル ICTによるコミュニケーション
第3回	デジタル・メディアの活用	アナログ・メディア デジタル・メディア
第4回	メディア能力とその開発	メディア・リッチネス
第5回	コミュニケーションとメディア	事例研究（1）
第6回	メッセージ分析	ネットワーク分析
第7回	ケース・スタディ（1）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
第8回	ナレッジ・マネジメント	知識の創造と活用 場の創設
第9回	情報活用と組織知	組織的暗黙知 場の共有
第10回	場と組織知	事例研究（2）
第11回	コンテクストの転換	製品のサービス化
第12回	ケース・スタディ（2）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
第13回	ICTと社会、情報セキュリティ	事例研究（3）
第14回	総括	経営情報論Ⅱのまとめ 経営情報論Ⅱの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの関連箇所を何度も読むことで、学習効果をより高めることができます。また、各回で提示された参考資料を参照してみると、理解をより深めることもできます。

【テキスト（教科書）】
木嶋恭一・岸眞理子編著『経営情報学入門』NHK出版、2019年。

【参考書】
各回のテーマごとに別途、指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業方法の変更にともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
ゲスト・スピーカーによるスピーチは好評につき、教室での授業が可能になれば再検討します。

【関連科目】
経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、情報と倫理、情報と職業、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、情報技術論Ⅰ/Ⅱ、システム管理論Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】
Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.
The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

MAN300FB
人的資源管理Ⅰ

3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FB
人的資源管理Ⅱ

3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

佐野　嘉秀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】
1）人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2）人材確保に関わる人事管理の領域として、①採用、②人材育成、③配置転換、④昇進・昇格、⑤人事評価、⑥賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①と②、人的資源管理Ⅱでは③～⑥を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期（「人的資源管理Ⅰ」）はオンライン授業を行います。学習支援システム上に「教材」として掲載したパワーポイント資料（音声解説付き）をもとに各自学習してください。「教材」は、順次、掲載していきます。4月23日を授業開始日としますが、いずれの「教材」も春学期を通して掲載するので、各自のペースで学習を進めてください。学期中、学習支援システムを通じて「小テスト」も実施する予定です。秋学期（「人的資源管理Ⅱ」）は、オンライン授業を継続するか、教室授業（講義形式）に切り替えるか未定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：春学期の授業内容	人的資源管理（ＨＲＭ）の授業での学習範囲、ＨＲＭの基本的な目的や担い手について、等
2	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方①	職場の人事管理機能、本社人事部門の役割（人事部不要論の検討）、等
3	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方②	ＨＲＭが前提とする労働者像、伝統的な人事管理とＨＲＭのちがい、等
4	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方③	ＨＲＭの基本思想の循環、ＨＲＭの仮定（ベスト・プラクティスとベスト・フィット）、等
5	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方④	労働者意識の多様化と動機づけの理論、ＨＲＭの諸施策と動機づけとの関係、等
6	採用管理①	ＨＲＭにおける採用、採用計画の考え方（経営戦略、人員構成との関係）、等
7	採用管理②	多様な採用ルート（新卒採用の役割）、ＲＪＰ（リアリスティック・ジョブ・プレビュー）の考え方、等
8	採用管理③	ＲＪＰの限界、ＯＪＲ（オン・ザ・ジョブ・リクルーティング）の多様な展開、等
9	人材育成①	ＨＲＭにおける人材育成（ＨＲＤ）、教育訓練の機能（育成 make か採用 buy か）、等
10	人材育成②	労働者タイプの変化と教育訓練、分業と人材育成、等
11	人材育成③	幅広い仕事経験と教育訓練、ＯＪＴシステムの転換と教える側の変化、等
12	人材育成④	教育訓練の現状、ＯＪＴと off-ＪＴ、自己啓発支援、教育訓練施策の補完関係、等
13	人材育成⑤	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用（直接費用と機会費用）、等
14	人材育成⑥、春学期の学習のまとめ	人材育成とキャリア管理、春学期に学習した各分野についてのまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：春学期の復習と秋学期の授業内容	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方、人的資源管理Ⅱで扱う分野の概要、等
2	配置転換①	ＨＲＭにおける配置転換、配置転換の人材育成機能、初任配属先の選択、等
3	配置転換②	配置転換のコスト、ホワイトカラーの配置転換とその範囲、等
4	配置転換③	配置転換における組織と個人、企業主導型の配置転換の限界と「新しい」配置転換、等
5	昇進①	ＨＲＭにおける昇進、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、等
6	昇進②	昇進の実態とキャリア・ツリー、「トーナメント移動」と日本の昇進、日本の「ファスト・トラック」、等
7	社員格付け制度①	ＨＲＭにおける社員格付け制度、社員等級制度と昇格基準、「年功」制の合理性、等
8	社員格付け制度②	社員等級制度の変化、「能力主義」と職能資格制度、ジョブグレード、等
9	社員格付け制度③	日本の昇進・昇格管理と専門職制度、専門職制度の変化と課題、等
10	人事評価①	ＨＲＭにおける人事評価、評価の主観性と「公平」な評価、評価要素の選択、等
11	人事評価②	「成果主義」の人事評価、ＭＢＯの仕組みと課題、納得性向上のための工夫、等
12	賃金①	ＨＲＭにおける賃金管理、賃金と動機づけ、賃金の総額管理と個別賃金管理、等
13	賃金②	賃金制度の基礎、職務給と職能給、年齢・賃金プロファイル、賃金とＨＲＭシステム、等
14	福利厚生、秋学期の学習のまとめ	法定福利と法定外福利、福利厚生の機能、春学期に学習した各分野についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】
各自が自習するための参考書として、①佐野陽子『はじめての人的資源マネジメント』有斐閣、②佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第3版）』有斐閣アルマ、③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第2版）』日本経済新聞社をあげておきます。このうち①と②は、人的資源管理に関する基礎的な理解、③は発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：100％
春学期と秋学期ともに、成績評価は期末定期試験の結果をもとに行います。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【その他の重要事項】
春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講の人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline and objectives】
Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

MAN300FB
財務会計論Ⅰ

3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FB
財務会計論Ⅱ

3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

川島　健司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して会計実務を理解することを目指す。
財務諸表の作り方については、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する議論などが含まれる。
財務諸表の読み方については、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

【到達目標】
①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「法学」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期は基本的にオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日（金）と
し、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
【各回の授業構成】
各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計というと技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。
後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。
-本講義で学習する主な財務指標
売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率 (ROE)、1 株当たり当期純利益 (EPS)、時価簿価比率 (PBR)、経済的付加価値 (EVA)
【問題意識の共有と質疑応答】
受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する (後述の「成績評価の方法と基準」を参照)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の概観	講義全体の学習内容と講義計画を説明。
2	会計システム	会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
3	会計システムの目的と役割	財務会計の目的と役割を明確化。利害調整と情報提供という目的観を解説。
4	会計システムのインプット	会計システムのインプットたる「取引」について理解する。
5	会計システムのアウトプット	損益計算書と貸借対照表について解説。収支計算書との関係を理解する。
6	複式簿記	簿記一巡の手続きの説明・実践を行う。
7	会計基準と会計法規	財務会計に関わる会計基準と法規制について、その存在理由と期待される役割を解説。
8	日本の会計基準	日本の会計基準の歴史を概観し、『企業会計原則』と『企業会計基準』について解説。
9	世界の会計基準	米国会計基準、英国会計基準、および国際財務報告基準（IFRS）の歴史と「概念フレームワーク」を解説。
10	利益計算のアプローチ	損益法と財産法の特性を考察する。
11	発生主義会計	収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
12	費用収益対応の原則	費用収益対応の原則について、具体例を用いながら解説。
13	原価主義会計	代替的な資産評価基準を検討、取得原価の合理性について解説。
14	会計システムの評価：理論と実証	現行の会計システムの理論的根拠と実証研究の発見事項を解説。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	個別論点の概観	会計処理の個別論点を概観し、秋学期の学習内容の全体を見通す。
2	資金調達の会計	資金調達の主要な方法とその会計処理について解説。
3	金融商品会計	有価証券に関する会計処理の確認とその理論的裏付けについて解説。
4	棚卸資産会計	棚卸資産の評価方法について、単価と数量の決定方法を中心に解説・考察。
5	固定資産会計	有形固定資産の取得と減価償却について解説・考察する。
6	リース会計	リース会計について解説・考察する。
7	減損会計	減損会計について解説・考察する。減価償却と減損会計、および原価主義と減損会計との関係について明確化。
8	退職給付会計	負債の概念、負債の分類について解説する。引当金について解説。
9	資産除去債務会計	資産除去債務の会計について解説。同会計の適用事例を観察。
10	ストック・オプション会計	新株予約権、ストックオプションの会計会計処理について解説・考察。
11	企業結合会計	企業結合会計の手続き、のれんの償却の根拠と合理性について検討。
12	外貨建取引会計	外国通貨で表示された取引の換算処理方法を解説。
13	連結会計 1	連結会計報告の考え方と手法について解説。
14	連結会計 2	連結貸借対照表と連結損益計算書の作成について解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】
1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2018 年 4 月現在の最新版.
2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2018 年 4 月現在の最新版.
3 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993 年.
4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 9 版, 中央経済社, 2015 年. 同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第 9 版, 中央経済社, 2015 年.
5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版, 白桃書房, 2010 年.
6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社, 2008 年.
7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
（変更後）
春学期は基本的にオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
（変更前）

以下の 2 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 %の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】
板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授業開始時に案内します。

【学生が準備すべき機器他】
講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】
「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に講義を進める。

【Outline and objectives】
This lecture gives the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement creator and reader.
Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.
With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

MAN300FB
監査論Ⅰ

3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FB
監査論Ⅱ

3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

小澤　康裕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計監査の目的，意義，内容等についての基本的知識を修得し，監査が果たす役割の重要性について理解を深める。

【到達目標】
学生は、会計監査の目的や内容等について基本的知識を修得し、現代社会において監査が果たす役割の重要性について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」、「法律」、「数学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
会計監査（財務諸表監査）とは、企業が公表する財務諸表の適正性（正しいか否か）について、監査人が専門的見地から意見を表明する行為である。本講義では、この監査のプロセス全般を対象とする。また、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。
そのため、本講義では、監査のプロセスを説明することはもちろん、新聞や雑誌等の記事を補助資料として用いて、われわれの社会において生じている種々の問題に「監査」がどのように関わっているのかを説明し、監査が果たす役割の重要性について理解を促す。
授業はグループディスカッションや個々人の発言を求めるなど、インタラクティブに行われる。また、動画を視聴する等の予習が必要な場合がある。
上記はオンライン授業への移行に伴って、変更の可能性が高いです。
授業開始日は4月21日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・監査とは何か	講義全体の概要や受講のルールを説明し、「監査」についての初歩的な理解を促す。
第2回	会計監査と財務諸表の虚偽表示	会計監査と財務諸表の虚偽表示との関係ついて説明する。
第3回	監査のニーズ	監査には自発的なニーズが存在することを解説する。
第4回	監査人としての公認会計士・監査法人	公認会計士とは何か、また、監査法人とはどのようなものかを説明する。
第5回	監査人の責任	監査人に課されている責任とはどのようなものかを解説する。
第6回	監査の品質管理	監査の質を担保するためにどのような方法があり、実施されているのかを説明する。
第7回	監査基準	監査基準のうち、主に一般基準について解説する。
第8回	監査戦略	「戦略的に監査を実施する」とはどういうことかを説明する。
第9回	監査リスク・アプローチ	現在の監査方法の基本である「監査リスク・アプローチ」について解説する。
第10回	事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ	「事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ」とはどのようなものかについて説明する。
第11回	監査計画と監査上の重要性	「監査計画」と「重要性」について解説する。
第12回	サンプリングと監査手続	サンプリングとは何か、また、監査手続にはどのようなものが存在するかについて説明する。
第13回	分析的手続	分析的手続とは何か、また、その具体的な手法について演習問題を用いて解説する。
第14回	まとめと振り返り	春学期の授業全体のまとめと振り返りを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第15回	イントロダクション・監査意見とは	監査意見とは何か、その概略について説明する。
第16回	監査の実施に係る制約事項と監査意見	監査の実施に係る制約事項と監査意見の関係について解説する。
第17回	財務諸表中の不適正事項と監査意見	財務諸表中の不適正事項と監査意見の関係について解説する。
第18回	粉飾決算の方法と事例	粉飾決算の方法と事例について説明する。
第19回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法監査制度について解説する。
第20回	四半期財務諸表と四半期レビュー	四半期財務諸表と四半期レビュー制度について説明する。
第21回	会社法監査制度	会社法監査制度について解説する。
第22回	会社機構と監査制度・会計監査人	会社機構と監査制度ならびに会計監査人について説明する。
第23回	最新の監査実務動向	最新の監査実務動向について解説する。
第24回	不正と内部統制	様々な不正とそれに対応する内部統制について簡単に説明し、内部統制について理解を促す。
第25回	内部統制の基本的要素1	内部統制の基本的要素について解説する。
第26回	内部統制の基本的要素2・内部統制の限界	前回に続いて、内部統制の基本的要素について解説し、あわせて、内部統制の限界についても説明する。
第27回	内部統制の監査・監査の歴史	内部統制の監査について簡単に説明した後、監査の歴史を概観する。
第28回	まとめと振り返り	秋学期の授業全体のまとめと振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、動画の視聴を求める場合がある。
復習は必須である。
レポート（1回以上）の提出を求める。
また、各回の冒頭でハンドアウトを用いて前回の復習を行う。その際，受講者を指名して回答を求めるので，回答できるように前回の復習をしておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
山浦久司著『監査論テキスト』（中央経済社）、2019年

【成績評価の方法と基準】
レポート (Final Report)(60%)/Quiz(小テスト) およびアンケート等 (40%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
科目の性格上、「簿記入門」「会計学入門」を受講していることが望ましい。まったく簿記や会計の知識がない者が受講する場合、講義を理解するのは難しい。

【関連科目】
特になし

【Outline and objectives】
This course offers the fundamental knowledge about financial auditing, for example, the purpose, significance, and contents of auditing, and helps to deepen understanding of the importance of roles played by audits.

MAN300FB
税務会計論Ⅰ
3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FB
税務会計論Ⅱ
3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

大下　勇二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「税務会計論Ⅰ」
　わが国の税金全体の体系と所得税、消費税および法人税の基本的な仕組とその基礎
秋学期「税務会計論Ⅱ」
　わが国の法人税法の課税所得計算の基礎と財務会計との比較

【到達目標】
春学期
　経営学部の学生として必要と思われる税金の基礎的知識の涵養を目標とします。
秋学期
　会社の中心的な税金である法人税の基本的な計算プロセスとその基礎的考え方を理解することにより、会計分野の重要な領域としての税務会計の基礎を修得し、財務会計との相違を理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期
　わが国の所得税、法人税および消費税を中心として、税金全体の概要とその仕組みを理解することを目的としています。所得税と消費税については配布資料に基づき、法人税はテキストを用いて、重要な点をパワーポイントにより解説する形で授業を進めていきます。また、個別事例の紹介、実際の所得税の確定申告の練習等も取り入れる予定です。
秋学期
　わが国において、法律で規制された会計、いわゆる制度会計には金融商品取引法により規制された「金商法会計」(旧証取法会計)、商法・会社法により規制された「会社法会計」および法人税法により規制された「税務会計」が挙げられます。これら三つの制度会計の領域は、相互に密接に結びついてわが国の企業会計制度を形成しております。前二者の制度会計の領域は、主として「財務会計論」で学習します。本講義は三番目の税務会計を取り上げます。
　法人税法の取扱いは実務的で詳細にわたっていますが、授業は、基礎的な内容に限定し、可能な限り財務会計の考え方と法人税法特有の考え方とを対比させながら、税法固有の計算の考え方・見方の修得を目指します。
授業はテキストを事前に学習していることを前提に、企業の事例を紹介しながら重要な点をパワーポイントを用いて解説する形で授業を進めていきます。
　春学期の授業については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とします。なお、本授業はオンデマンド形式で実施するため、授業内容を一部変更しております。詳しい内容は学習支援システムの「教材」に提示しております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	わが国の税金の体系 (1)	わが国の租税体系を概説します。
第2回	わが国の税金の体系 (2)	租税構造および税負担に関する国際比較を行います。
第3回	所得税 (1)	所得税の概要、所得の種類と計算方法について学習します。
第4回	所得税 (2)	給与所得を中心にその計算の仕組みを学習します。
第5回	所得税 (3)	所得税の累進税率の意味と税額の計算方法について学習します。
第6回	所得税 (4)	所得税申告書の仕組みを概説し、所得税の計算練習を行います。
第7回	所得税 (5)	所得税課税の考え方を総括します。
第8回	消費税の仕組み (1)	消費税を中心にその特徴と計算方法を学習します。
第9回	消費税の仕組み (2)	逆進性や益税といった消費税の問題点を検討します。
第10回	法人税 (1)	わが国の法人税の概要、法人所得課税の考え方、株主集合体説などを中心に法人税の基礎を学習します。
第11回	法人税 (2)	わが国の法人税の対象法人を取り上げ、わが国法人の特徴を学習します。
第12回	法人税 (3)	法人税法の体系、帳簿組織、同族会社、事業年度と繰越欠損金の問題を学習します。
第13回	法人税 (4)	税所得計算の一般原則、益金の額、損金の額、現行法の所得概念、課税所得の計算構造、資本等取引の概念などの課税所得計算の基礎を学習します。
第14回	法人税 (5)	課実質課税原則、権利確定主義・債務確定主義、確定決算主義、税務調整などの課税所得計算の基礎を学習します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第1回	法人税の基礎	法人税の計算を概説します。
第2回	売買損益の計算	売買損益、請負損益、売上げ割戻しの取扱いを学習し、税法の考え方を学びます。
第3回	その他の益金の計算	受贈益、受取配当金、固定資産の譲渡益の取扱いを概説し、税法の考え方を学習します。また、在外子会社からの配当金の問題も取り上げます。
第4回	売上原価の計算と棚卸資産の期末評価	売上原価の計算の仕組み、棚卸資産の取得原価、期末棚卸資産の評価方法などを学習し、売上原価算定における税法の考え方を学びます。
第5回	有価証券の譲渡原価と期末評価	有価証券の譲渡原価の算定の仕組み、有価証券の取得原価、譲渡原価、期末評価、評価減について学習し、有価証券の譲渡原価の算定における税法の考え方を学びます。
第6回	固定資産の減価償却	減価償却費算定の仕組み、取得原価の算定、耐用年数、償却方法、残存価額、償却限度額の計算について学習し、減価償却計算における税法の考え方を学びます。
第7回	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税やパス・スルー課税(構成員課税)といった新しい事業体の課税問題を取り上げます。
第8回	企業の社会的責任と寄附金・交際費課税	交際費および寄付金について損金算入制限する理由と税法特有の考え方を学習します。
第9回	給与の支給形態の多様化と課税問題	役員の給与を中心に、損金算入制限することの理由と税法特有の考え方を学習します。また、業績連動報酬と課税の問題も取り上げます。
第10回	不良債権の償却の課税問題	不良債権の問題を中心に、貸倒損失および貸倒引当金の計算における税法の考え方を学習します。また、これに関連して、税効果会計も取り上げます。
第11回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併、分割、株式交換・株式移転といった企業組織再編に係る包括的税制を学習し、企業組織再編税制の考え方を学習します。
第12回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人単体課税制度および連結納税制度の仕組みと特徴を学習し、企業集団の課税制度における税法の考え方を学習します。
第13回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の問題と課税の原則を学習します。
第14回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	租税回避対策税制を学習し、米国有名企業などの租税回避行為の仕組みを取り上げます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　事前にテキスト、または講義スライド・配布資料を読んでおくことが求められます。また、レポートを複数回提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・所得税・消費税に関しては、講義スライドと配布資料
・法人税に関しては、大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育部(2019年)と講義スライド。
　講義スライドは授業支援システムに事前にアップロードします。

【参考書】
春学期
　開講時に指示します。
秋学期
　渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会
　成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】
今期は、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の最後に簡単な○ × 問題を解答してもらい、授業内容の理解をその都度深める取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントのスライドを中心に板書を交えて進めていきます。スライドは授業支援システムにアップロードしますので、各自、事前に用意して下さい。

【その他の重要事項】
本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。１年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、２年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱを履修し、会計学の基礎を理解しておくと、本講義の理解がより一層促進されます。所得税、消費税、法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline and objectives】
The objective of Tax Accounting is to understand the basic consepts and structures of income tax,value added tax and corporate income tax in Japan.

MAN300FB
管理会計論Ⅰ
3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FB
管理会計論Ⅱ
3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

北田　皓嗣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは，組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって，管理会計の学習にあたっては，単に計算テクニックを使えるというだけでなく，組織実践との関係で，経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では，具体的な意思決定の場面をイメージしながらすすめていきたいと考えています。

【到達目標】
経営管理の問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること，またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方について説明していきます。
第2回	財務情報分析	収益性分析，安全性分析
第3回	CVP分析1	ＣＶＰ分析の基礎
第4回	CVP分析2	安全余裕率，経営レバレッジ係数
第5回	CVP分析3	多品種企業のＣＶＰ分析
第6回	予算管理1	予算編成
第7回	予算管理2	予算統制
第8回	原価管理1	原価企画・原価維持・原価改善
第9回	原価管理2	ライフサイクルコスティング
第10回	ＡＢＣ1	ＡＢＣ／ＡＢＭ／ＡＢＢの基礎
第11回	ＡＢＣ2	価値連鎖，未利用キャパシティ
第12回	生産在庫管理会計	ＪＩＴ，ＴＯＣとスループット会計，ＳＣＭ
第13回	環境管理会計	ＭＦＣＡ
第14回	まとめ	今学期の振り返り

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第15回	品質管理会計	品質原価計算の基礎
第16回	業務的意思決定1	受注可否の意思決定
第17回	業務的意思決定2	自製か購入かの意思決定，追加加工の意思決定
第18回	業務的意思決定3	最適セールスミックスの決定
第19回	設備投資意思決定1	投資案の評価方法
第20回	設備投資意思決定2	法人税等の考慮
第21回	設備投資意思決定3	拡張投資と取替投資
第22回	分権組織と管理会計1	事業部業績の評価
第23回	分権組織と管理会計2	内部振替価格
第24回	分権組織と管理会計3	グループ経営と管理会計
第25回	分権組織と管理会計4	企業価値の評価
第26回	アメーバ経営	JALに導入されたアメーバ経営
第27回	BSC	経営戦略とＢＳＣ，経営管理と会計
第28回	まとめ	今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを利用した授業をしますが，基礎的な概念について下記の参考書を利用すると学習が進むことが期待されます。

【参考書】
近藤大輔 (2020)『ビギナー原価計算』中央経済社
岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子『管理会計 (第2版)』中央経済社
谷武幸 (2013)『エッセンシャル管理会計（第3版)』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（４０%），授業参加（６０%）

【学生の意見等からの気づき】
計算やケーススタディなど参加できる要素も取り入れようと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
電卓，授業支援システムで配布した資料

【その他の重要事項】
簿記入門や会計学入門など会計系の基礎科目を履修していることが望ましいです。また原価計算論Ⅰ/Ⅱや経営分析Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳと相互に関連しています。
ただし管理会計がManagement Accountingの訳語であることからも理解できるように，組織のマネジメントを会計情報システムの視点から理解する科目であるため、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ，経営組織論Ⅰ/Ⅱ，人的資源管理Ⅰ/Ⅱ，技術管理論Ⅰ/Ⅱなどのマネジメントに関連する科目の理解を深めるための科目にもなります。

【Outline and objectives】
Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300FB
原価計算論Ⅰ
3〜4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FB
原価計算論Ⅱ
3〜4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN300FB
原価計算論Ⅱ
3〜4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN300FB
原価計算論Ⅰ
3〜4年次／2単位[春学期授業/Spring]

福田　淳児

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算は、多様な目的に役立つ原価情報を提供するために、製品一単位当たりの製造原価を計算するための方法です。原価計算論Ⅰでは、原価計算論を学習する上で必要な基本的な用語や諸概念を理解するとともに、原価計算の一連の計算手続を理解することを目的とします。原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が企業経営の現場においてどのような目的に役立つのかを理解することを目的とします。

【到達目標】
原価計算論Ⅰでは、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に説明できること、さらに製品原価の計算のための一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解し、基本的な計算問題を解けるようにすることを目標とします。
原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを理解することを目標とします。具体的には、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算が提供する情報が企業経営にどのように役立つか、さらにActivity-Based Costingの基本的なメカニズムを説明できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期に行われる原価計算論Ⅰは少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画については学習支援システムなどを通じてその都度提示します。この授業はzoomを使用し，オンラインで行います。なお，本授業の開始は4月28日としこの日までに初回授業のアクセス方法などに関しては学習支援システムに登録されているアドレス宛に連絡します。
　毎回、テキストならびに学習支援システムを通じて事前に配布した資料を利用して、重要な概念および計算プロセスの説明および理論的な解説を行います。各回の講義で1回は例題を実際に自分の手で解いてもらいます。また、実際の企業の製造プロセスに関するビデオなども見てもらいます。原価計算論Ⅰでは、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算という原価計算の一連の計算手続きに沿ったかたちで学習を進めます。原価計算論Ⅱでは、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期的な利益管理目的に有用な直接原価計算ならびにCVP分析、さらにActivity-Based Costingと伝統的な製造間接費の配賦方法との比較について学習を行います。
原価計算論Ⅰ/Ⅱにおいて、工場での生産の様子を少しでもわかってもらえるようにいくつかのビデオを見てもらいます。また、授業内容の確認のための問題また発展問題を課題として数回出すので必ず解いて来て下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要説明	主に学習支援システムを通じて，本授業の目的，内容また授業の方法などの概要を説明する。
2	原価計算の目的と諸概念	原価計算の意義・目的および原価の一般概念や原価計算を学習する上で特に必要となる重要な原価分類のいくつかについて説明する。
3	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算プロセスについて説明する。例題演習も行なう。
4	労務費の計算	直接労務費および間接労務費の区別および直接労務費の計算方法を中心に説明する。
5	製造間接費の計算	製造間接費の意義およびその配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
6	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を行う意義を正確な製品原価の計算と原価管理の効果的な遂行という2つの観点から説明する。
7	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続きを説明す流。さらに，その具体的な計算プロセスを例題を交え説明する。
8	個別原価計算の特徴およびその計算プロセス	製品別原価計算の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続きについて例題を交え説明する。
9	総合原価計算の特徴	製品別原価計算のもう一つの方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との対比で説明する。
10	総合原価計算における仕掛品の評価方法	総合原価計算における仕掛品の評価方法（平均法と先入先出法）について，その計算方法と基本的な考え方を説明する。
11	工程別総合原価計算の意義と累加法及び非累加法	部門別原価計算と伴う総合原価計算である工程別総合原価計算の意義また累加法による計算手続を説明する。また、非累加法についても紹介する。
12	講義のまとめ	原価計算論Ⅰの内容のまとめと必要に応じて補足を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要を紹介する。
2	標準原価計算の意義と目的	標準原価計算の意義とその目的を原価管理を中心に説明する。また，近年の多様な原価管理手法についても紹介する。
3	標準原価計算における原価標準の設定方法	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法について説明する。
4	標準原価計算における原価差異分析（製造間接費の差異分析（四分法）を中心に）	製造直接費および製造間接費の差異分析の方法を説明する。特に、製造間接費の差異分析（四分法）について詳しく説明する。
5	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価計算による原価管理の有用性を、近年の郵送質問票調査の結果や多様な論者の見解を交えて紹介する。
6	C・V・P分析	C・V・P分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の概念を中心に説明する。
7	直接原価計算の意義とその目的	直接原価計算について，短期的な利益計画への情報の提供の観点から説明する。
8	直接原価計算による損益計算書の作成	直接原価計算による損益計算書の作成について、全部原価計算による損益計算書との対比で説明する。
9	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の差が生じる状況とその理由	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算において営業利益に差異が生じる状況とその原因およびそれが経営者の意思決定に及ぼす影響を中心に説明する。
10	直接原価計算の計算問題	直接原価計算に関わる計算問題を実際に解いてみることで理解を深める。
11	ABCの基礎的な概念	ABCの歴史および基本的な用語や概念について説明する。
12	ABCと伝統的な製造間接費の配賦との比較	ABCと伝統的な製造間接費の配賦方法との違いをその相違点に焦点を当てて説明する。また，ケースを利用してその内容を補足する。
13	ABM	ABCで得た情報を原価管理目的で利用する場合について考察する。
14	講義のまとめ	原価計算論Ⅱの学習内容について整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義を受ける前に、各回のテーマについてテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて配布する資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、講義の終了後に復習また講義では十分に扱うことのできなかった発展的学習のための課題を配布します。これについては，次の講義で説明をします。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2400 円税別）

【参考書】
参考文献や自主学習の際に役立つ図書については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期に行われる原価計算論Ⅰの少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い，成績評価の方法と基準も変更します。現時点では，授業後に数回実施する予定の学習支援システムを通じた小テストまた春学期末に行われる定期テスト（これが実施できない場合，レポートの提出などの代替的な方法を考えています）を加味して評価する予定です。
原価計算論Ⅱは，期末に行われる定期試験の結果に課題の提出状況を加味して評価を行います。成績評価の配分基準は定期試験の結果 80 %程度、課題の提出状況を 20 %程度とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容が、難しいとのコメントがある一方で，簡単であるとのコメントも同時にもらっています。講義ではできるだけ基礎的なところから説明を始め、発展問題については課題及びその解説の形で補足していこうと思います。また、講義が単調にならないように実際の企業の事例や計算問題などもできる限り取り上げたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は授業支援システムを通じて配布します。

【その他の重要事項】
関連科目とし管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
The purposes of this module are to develop students' understanding on what roles cost information provided through a cost accounting system play in implementing cost management and short-term profit planning in an organization.It also explain the way activity-based costing, proposed in 1980s based on the observation of practices in the U.S.A, allocated indirect cost to products and the effects of ABC information on management decision making with reference to traditional cost allocation mechanisms.
The learning objectives of this module are to let students understand the basic concepts and important terms and they can explain these by yourself. It also includes enhancement of your understandings on a series of procedures of cost accounting (cost-type accounting, cost center accounting, product cost accounting) and helps students to explain the basic calculation processes of cost accounting. In addition to this, it enhances the development of students' skill to solve basic numerical calculations.

MAN300FB
国際会計論Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FB
国際会計論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

筒井　知彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際会計論Ⅰでは、会計基準の国際的な多様化と調和化について講義します。企業が直面する環境は国によって異なり、それが各国の会計基準の相違を生み出す原因となっています。春学期は、このような会計基準の多様化について取り上げます。具体的には会計と環境（経済的・法的・社会的・文化的環境）、会計基準の国際的多様性（アメリカ、ヨーロッパ、発展途上国等）、多様化に伴う弊害について講義します。
国際会計論Ⅱでは、企業の事業活動の国際化、資本市場の国際化等が進むなかで、国際的に共通の物差しを作り、企業の収益や財政状態の国際的な比較を容易にするよう求める声が強まっていることから、会計基準の国際的調和化を取り上げます。具体的には、国際会計基準の設定の経緯、国際会計基準の基本的考え方、日本的経営と会計、日本基準と国際会計基準の相違、アメリカの会計・監査の変遷と会計不正について講義します。

【到達目標】
(1) 国際会計基準の基本的な考え方が理解できる。
(2) 日本的経営と会計の関係が理解できる。
(3) 日本が会計を巡って現在置かれている状況と対応が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期・秋学期
随時プリントを配布し、講義を中心に進める。具体的な事例も取り上げる。計算問題により理解度を確認する。秋学期にはビデオも視聴する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計および経営と環境の関係
2	環境変化が企業経営に及ぼす影響①	規制強化が企業経営に及ぼす影響：牛丼業界の事例
3	環境変化が企業経営に及ぼす影響②	規制緩和が企業経営に及ぼす影響：家電量販業界
4	会計と環境：経済的環境①	経済の発展レベル、政治および経済の安定性
5	会計と環境：経済的環境②	外国為替、円高と円安、外貨建て取引の会計、為替リスクへの対処、インフレーション
6	経営指標①	ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥとＲＯＡの比較
7	会計と環境：法的環境	成文法と慣習法
8	会計と環境：政治的環境	政治体制、共産主義、政府による資産の収用
9	会計と環境：資本市場	証券取引所、資本市場、負債市場
10	経営指標②	ＲＯＥの3分解、ドトールとスターバックスを事例とした計算問題
11	近年改訂された会計基準①	減損会計基準、減価償却と減損、費用配分と評価、公正価値
12	近年改訂された会計基準②	企業結合会計基準、パーチェス法、プーリング法、のれんの償却と減損
13	近年改訂された会計基準③	退職給付会計基準、棚卸資産会計基準
14	まとめ	春学期の講義の総復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、多様化、調和化、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント
2	会計ルールの変遷	会計ビッグバン前後の会計基準の変遷
3	会計ビッグバン①	会計ビッグバンまでの日本：日本的経営、株式の持ち合い、含み益、外国人投資家、資本効率
4	会計ビッグバン②	フリー、フェア、グローバル、会計ビッグバンに伴う会計基準の改訂、ビデオ①
5	国際会計基準の設定①	ＩＡＳＣの設立、4つの転換点、ＩＯＳＣＯ、コアスタンダード
6	国際会計基準の設定②	ＩＡＳＢ、ノーウオーク合意、東京合意
7	国際会計基準への対応	国際会計基準への我が国の対応
8	国際会計基準の基礎①	概念フレームワーク、資産負債アプローチと収益費用アプローチ
9	国際会計基準の基礎②	公正価値と取得原価、原則主義と細則主義、ビデオ②
10	国際会計基準の基礎③	ビデオ③、退職給付会計の計算問題
11	国際会計基準の基礎④	退職給付会計、確定給付型年金と確定拠出型年金
12	アメリカの会計制度の変遷	大恐慌以前、証券法、証券取引法、ＳＥＣ、ＦＡＳＢ
13	アメリカの監査制度の変遷	会計不正、規制強化
14	まとめ	秋学期の講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前にプリントを予習し、講義後にはプリントを読み直すこと。プリントにある計算問題について実際に解いてみること。講義やプリントで関心を持った部分について自ら調べてみるとよい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
定評のあるテキストとして、桜井久勝『テキスト国際会計基準第６版』白桃書房、秋葉賢一『エッセンシャルＩＦＲＳ第３版』中央経済社、広瀬義州『新版ＩＦＲＳ財務会計入門』中央経済社などがある。国際会計基準が網羅されている辞書的な文献として『国際財務報告基準 2014』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (80%)、平常点（小リポートなど 20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
①リアクションペーパーに質問やコメントを書いてもらい、それについて授業内でフィードバックします。
②私語について厳しく対処します（退出してもらうこともあります）。
③適宜、問題演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を利用することがあります。その場合、事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】
関連科目：会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修していることが望ましい。財務会計論Ⅰ/Ⅱを並行履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This unit provides an overview of the accounting issues uniquely confronted by companies involved in international business. This includes how accounting is practiced in countries around the world with comparison to the US. In addition, focus will also be on Global rules and regulations issued by international organizations such as IFRS-International Financial Reporting Standards and IASB – International Accounting Standards Board which are evolving due to international entities requiring global standardization.

MAN300FB

情報と倫理

3〜4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

寺本　卓史

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる情報化の進展にともない、「情報漏えい」や「知的財産権の侵害」から「炎上」「バカッター」などに至るまで、さまざまなトラブルが近年目につくようになっている。こうした問題は、個人であれ企業などの組織であれ、避けて通ることはできない状況にあり、それぞれの立場・場面で対応が求められている。
こうした状況の背景には、ネット空間を中心として、日進月歩で新たな技術やサービスによりメディアのあり方に変化が迫られ続ける環境があげられよう。例えば、LINE を用いたコミュニケーションは数年前までは存在しなかったものであり、こうした新しい環境における問題（たとえば「既読無視」）の解決には明快な答えが用意されていない。このようにメディアの形が変化し続ける中では、個人や組織は定められたルールを順守するだけでなく、基盤となる「原則」と「戦略」の確立が重要となる。個人や組織は問題に対して自ら考えて対処することが必要な状況におかれているのである。
このような「原則」と「戦略」を考える基礎となるのが、個人や組織、そして社会における「倫理」である。本授業では、こうした解のない問題に対する個人、そして組織における対処の仕方について、「倫理」を広義の「コミュニケーション能力」と措定し、コミュニケーションの本質について触れながら、ネット空間における主体の在り方について受講者とともに考察する。

【到達目標】
本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の３点の理解・構築を授業目標として設定する。
１．現状存在する情報技術・サービス自体を知り、情報・情報化の本質に関して理解すること。
２．情報化に対応する社会制度について理解すること。
３．情報・情報化に対する自分なりの「原則」「戦略」を構築すること。
そして、本授業においては、こうした「原則」「戦略」を倫理と定義する。
この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。そのための仕掛けとして、授業内においてグループワークやゲストスピーカーとのディスカッションなどを予定している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「社会情報学」と「DP5」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は６つのセクションに分けて行う。
・ガイダンス (1 回)
本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。
・情報化によって発生したトラブルの現状 (2 回)
情報化の現状を、発生しているトラブルから探ることによって、情報化時代における個人と社会、企業と社会の関係を考察する。
・情報の特性 (3 回)
情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。
・情報化の進展と社会制度 (4 回)
法律と情報セキュリティマネジメントという 2 つの制度から、情報・情報化に適合的な制度がどのように設定されているか、またそれらの制度の意義と限界について考察する。
・情報倫理の構築に向けて (3 回)
情報・情報化に適合的な制度の限界を超える「原則」と「戦略」を確立するために必要な事柄について考察する。
・まとめ (1 回)
これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。
単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と倫理」を受講するにあたって
2	情報化によって発生したトラブルの現状 (1)	ネットをめぐるトラブル―個人と社会の関係性
3	情報化によって発生したトラブルの現状 (2)	企業と情報戦略―企業と社会の関係性
4	情報の特性 (1)	情報の特性とその認識
5	情報の特性 (2)	情報化の進展
6	情報の特性 (3)	情報化の進展と経済のサービス化
7	情報化の進展と社会制度 (1)	技術的対策
8	情報化の進展と社会制度 (2)	法的制度―刑法・知財法における情報
9	情報化の進展と社会制度 (3)	対策としての社会的合意形成
10	情報化の進展と社会制度 (4)	企業組織における制度―情報セキュリティマネジメント
11	情報倫理の構築に向けて (1)	情報資産の保護と活用―情報保護と利用
12	情報倫理の構築に向けて (2)	情報資産の保護と活用―模倣と社会進化
13	情報倫理の構築に向けて (3)	情報倫理を作り出す能力
14	まとめ	重層的な情報倫理の構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す (選択回答式。全授業を通じて 3 回以上提出すること)。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない (参考書を参照)。

【参考書】
村田潔編『情報倫理 インターネット時代の人と組織』有斐閣選書 ISBN ： 4-641-28096-7
梅本吉彦編著『情報社会と情報倫理』丸善 ISBN ： 4-621-07017-7
斉藤了文『テクノリテラシーとは何か』講談社学術メチエ ISBN ： 4-062-58323-7
ローレンス・レッシグ『コモンズ』翔泳社 ISBN ： 4-798-10204-0
Tim O'Reilly "What is Web 2.0"
http://www.oreillynet.com/pub/a/oreilly/tim/news/2005/09/30/what-is-web-20.html
その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加状況 (平常点）(10%)、課題レポート (20%)、問題演習等における実習レポート提出 (20%)、期末試験 (50%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。また、課題レポートは当該授業参加者についてのみ受け付けることとする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを用いた課題レポート提出を授業期間中に定期的に課す。(授業期間内に選択して 3 問以上解答すること)

【その他の重要事項】
情報系に関する知識の少ない人にも分かりやすい内容とする。
受講者は受け身ではなく、考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。
関連科目：
情報と職業 (秋学期) と連続して履修が望ましい (順序は問わない)
経営組織論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい (順序は問わない)

【オンライン授業について】
現在、5 月 11 日（月）から毎週のオンラインミーティングを実施することで調整しています。
オンラインツールとしては、ZOOM の使用を想定しています。授業時間（月曜 1 限）の時間内に 30 分程度のやり取りと、Hoppii を使用しての資料配布、レポート提出などで構成する予定です。

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail(takuji.teramoto@gmail.com) で受け付ける。
メールの表題には授業名（情報と倫理）を冒頭に付けてください。

【Outline and objectives】
This lecture is aimed to think about the principles and strategies for media usage for organizations and individuals.
Nowadays many troubles are occurred on internet services. These are new phenomenon on quite new conditions which we had never confronted until a few years ago. Therefore, resolutions for such problems have not been set yet in many cases. Thus we, who are using ICT: Information Communication Technology have to decide by ourselves not to rely on any formula.
In this lecture, we presume "Information Ethics" as our abilities toward solving problems on ICT, and we can also call "communication abilities" in wider definition.
Taking it as "communication abilities", this is not a new problem at all, and human have confronted it every time when new media is evolved.
Thus, this lecture series start from looking about troubles on internet, then search into history when new media was born. Finally, we discuss about what conditions are required when we have to confront new media situations.

MAN300FB

情報と職業

3〜4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

寺本　卓史

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、非正規雇用者の割合が上昇するなど、正規雇用に辿り着けない若者の増加が社会問題化している。さらに、正規雇用の職を獲得しても、いわゆる「七五三問題」と呼ばれる新卒就業におけるミスマッチも問題として指摘されるようになっている。こうした雇用とその後のキャリアにおける問題について考察し、職業に関するキャリアに対する考え方を受講者とともに考察するのが本授業のテーマである。
上記のような職業に関する問題は一方で、情報通信技術 (ICT) の進化に起因する考え方もある。近年見られる情報化による産業構造の変化とは、単なる新技術の導入による既存プロセスの効率化にとどまらず、プロセス自体や組織構造の変革、新しい産業の隆盛や起業の活性化、求められる人材像の変化などまで、きわめて広範囲に及ぶものである。こうした変化が雇用形態の変化に及ぼす影響の大きさは、今日の雇用状況に関する指標などからも確認可能である。
その一方で留意しなければならないのは、情報化によってこれまでの労働及び労働観が完全に変化する訳ではないことである。情報化社会においても、成員同士のコミュニケーションが労働を含めた社会的活動の基本であり、これまでの労働や職業のあり方が根本から変化してしまうわけではない。
こうした雇用の変化と産業構造の変化がどのように関連しているかを明らかにし、またこうした状況が労働自体の何を変化させ、何が変化しないのかについての考察を試みる。

【到達目標】
本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の３点の理解・構築を授業目標として設定する。
１．雇用形態と産業構造の関連から成立する「働く形」の変化について知ること
２．「職業観」に関して、情報化による影響を受ける部分と受けない部分について理解すること
３．「情報」の本質に関しての考察を通して、「知識労働」について学ぶこと
これらの理解を通して、就職活動期を迎えつつある受講者各人が、情報化社会における「働く意味」を戦略的に確立してもらうことを到達目標とする。この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「社会情報学」と「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は 7 つのセクションに分けて行う。
・ガイダンス (1 回)
本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。
・現代における職業 (3 回)
雇用形態と産業構造の現状を、「非正規雇用」と「情報化」の二つをキーワードにその変化と現状を分析する。
・情報の特性 (2 回)
情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。
・職業観の歴史と変遷 (2 回)
職業観がどのように変遷を遂げたかを、主に西洋社会をテーマに取り上げ、古代、ローマ教会下、プロテスタンティズム、そして今日のリナックスイズムをそれぞれの代表的な論考を参考にしながら、辿って行く。
・情報化によるプロセスの変化 (2 回)
情報化によって、産業構造における労働プロセスにどのような変化が生じているのか、経営情報論を引用しながら明らかにする。
・求められる能力とリテラシー (3 回)
これまで取り上げてきた、情報の特性、職業観、産業構造のプロセス変化より、どのような能力及びリテラシーが今日の職業に求められているか分析する。
・まとめ (1 回)
これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。
単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と職業」を受講するにあたって
2	現代における職業 (1)	非正規雇用と情報化の関係
3	現代における職業 (2)	情報化と雇用・産業構造の現状
4	現代における職業 (3)	情報化の職業に与えたインパクトとは何か?
5	情報の特性 (1)	情報の意味とは何かー「基礎情報学」から考える
6	情報の特性 (2)	情報と知識の関係性―知識創造理論から考える
7	職業観の歴史と変遷 (1)	前近代・近代の職業観― M. ウェーバー、H. アレントから考える
8	職業観の歴史と変遷 (2)	現代の職業観―リーナス・トーバルズ、レイモンド・エリックから考える
9	情報化によるプロセスの変化 (1)	産業の情報化－効率化と戦略性
10	情報化によるプロセスの変化 (2)	情報の産業化－情報産業の出現
11	求められる能力とリテラシー (1)	情報化による職業における役割変化
12	求められる能力とリテラシー (2)	職業人のキャリア形成
13	求められる能力とリテラシー (3)	知識創造と職業
14	おわりに	戦略的な職業観の確立に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す (選択回答式。全授業を通じて 3 回以上提出すること)。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない (参考書を参照)。

【参考書】
近藤勲編著『情報と職業』丸善 ISBN ： 4-621-07091-6
山崎信雄『情報と職業 ― 情報産業で働くための必要知識 ― 』ISBN ： 4-944-02492-4
ハンナ・アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫 ISBN ： 4-480-08156-9
ペッカ・ヒマネン、リーナス・トーバルズ、マニュエル・カステル『リナックスの革命』ISBN ： 4-309-24245-3
レイモンド・エリック『伽藍とバザール』青空文庫
http://www.aozora.gr.jp/cards/000029/card227.html
城繁幸『若者はなぜ 3 年で辞めるのか？』光文社 ISBN ： 4-334-03370-9
その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加状況（平常点）(10%)、課題レポート (30%)、期末試験 (60%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。ただし、提出されたレポートを、これまで通りレジュメ上で紹介するか、他の方法を用いるかに関しては再検討する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを用いた課題レポート提出を課す。課題レポートは当該授業参加者についてのみ受け付けることとする。

【その他の重要事項】
受講者に考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。
関連科目：
情報と倫理 (春学期) と連続して履修が望ましい (順序は問わない)
経営情報論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい (順序は問わない)

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは初回授業、Web 掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】
This Lecture is for thinking about what the essence of career planning based upon ICT is. Rapid changes in working situation are mainly caused by ICT. Also, it is said that workers have to change and adapt with new situation such as development of AI. It seems our working condition is changing in deep level.
Of course, we cannot ignore the impact of ICT or AI on changing of business processes. We should know well about the characteristics of computer, that means advantages and disadvantages of it.
At the same time, our recognition on career has diversity and we don't have to abandon all of them. "Human Communication" is still the basic ability for business process and ICT does not completely change these ways.
Thus, this lecture series will try to make apparent that what will change and not change on working process to develop career planning on today's ICT condition.

ECN300FB

組織経済学Ⅰ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

奥西　好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・担当教員による講義が主だが、授業中に適宜アンケートや小課題、それらの解説や議論等を行う（授業中または自宅での予習・復習として、授業支援システムの利用を予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理（2）	・経済合理性
3.	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
4.	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
8.	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン（1）	・組織構造
10.	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題（1）	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題（2）	・人事制度への応用
14.	まとめ、復習	・講義全体の総括 ・講義の進捗や受講者数によっては授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義レジュメや資料を事前に学内授業支援システムにアップするので、授業前に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることもあるので誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭までに行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等を事前に学内授業支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期末に行う筆記試験（参照不可。マークシートと記述式を併用）の結果を80%、授業期間中の平常点（アンケートや小課題の回答状況）を20%のウェイトで足し合わせた総合点（100点が満点）の点数によって評価する。
・試験問題は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2015年度、2016年度の結果を総合すると（2017年度は休講）、内容の難易度は「適切」が過半だが、「やや難しい」もかなりある。内容の理解度は「およそ理解できた」が約半分で、残りは「どちらとも言えない」と「あまり理解できなかった」。自由記述のコメントを見ても、内容が興味深い、考える力がついたなどのコメントがある一方、内容が難しい、説明が分かりにくいといったコメントがあった。受講者の理解度を高めるために一層の工夫、努力が必要だと受け止めている。
・板書が読みにくいとのコメントも相変わらず散見されるが、是非、教員が黒板に書くことよりも、話すことをメモする訓練をしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業中に「授業支援システム」を利用する予定なので、スマホないしパソコンを用意してほしい。ただし、授業中に利用不可の場合は、授業外での利用もハンディとならないように配慮する。

【その他の重要事項】
・本科目はⅠ、Ⅱの通年開講授業だったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてⅠのみの開講となる。このためⅡの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用のHRM I/II（Ⅰは秋学期、Ⅱは春学期）でカバーする。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱ等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline and objectives】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

MAN200FA
経営戦略論Ⅰ（2019 年度以降入学者）
経営戦略学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
経営戦略論Ⅱ（2019 年度以降入学者）
経営戦略学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FB
経営戦略論Ⅱ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FB
経営戦略論Ⅰ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

孫　徳峰

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	第１講　イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明。
2	第２講　戦略と業界構造	SCP モデル（業界構造、企業行動、パフォーマンス）、業界構造分析（競争者、新規参入者、代替品、売り手、買い手）について説明する。
3	第３講　ポジショニング・アプローチ	ポジショニング論について解説し、業界構造分析枠組みを用いてケース分析を行う。
4	第４講　リソース・ベース・アプローチ	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO 分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位について説明する。
5	第５講　競争戦略（事業戦略）	ある特定の事業において競争優位を保持するためにどのように競争していくのかについて学習する。
6	第６講　企業戦略と多角化	企業が競争に勝ち抜き，成長を続けていくためにどのように自社の事業領域を特定するかについて学習する。
7	第７講　多角化と PPM	事業間の関連パターン、多角化と企業の成果との関係、選択と集中、PPM (Product Portfolio Management) について説明する。
8	第８講　国際化と企業戦略（Ⅰ）	国際経営とは何か、企業はなぜ海外進出するのか、企業はなぜ海外直接投資を行うのかについて説明する。
9	第９講　国際化と企業戦略（Ⅱ）	グローバル統合とローカル適応、多国籍企業の国際経営戦略の類型、親会社と海外子会社の関係などについて解釈する。
10	第１０講　国際化と企業戦略（Ⅲ）	海外子会社の設立、海外子会社の役割の類型、海外子会社の成長について説明する。
11	第１１講　戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスクについて解説する。
12	第１２講　吸収合併	M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、M&A 戦略と企業パフォーマンスとの関係について説明する。
13	第１３講　新興国市場戦略	新興国市場，とりわけ新興国の中位・下位市場にアクセスを試みるときに直面する参入障壁や経営課題、その克服方法について説明する。
14	第１４講　春学期の内容のまとめ	1 回目から 13 回目までの授業内容のまとめ・総括。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	第１講　イノベーションと競争優位（Ⅰ）	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係について説明する。
2	第２講　イノベーションと競争優位（Ⅱ）	イノベーションのジレンマ、持続的技術と破壊的技術について解説する。
3	第３講　イノベーションと競争優位（Ⅲ）	イノベーションと事業創造の関係、日本の事業創造の歴史について概観する。
4	第４講　製品開発モデルと顧客開発モデル	製品開発モデル、顧客開発モデル、顧客開発モデルの実行について説明する。
5	第５講　リーン・スタートアップ	仮説の構築 → 課題仮説を検証する → ソリューションを検証する → ビジネスモデルの確認とピボットかそのまま先へ進むかというサイクルを理解し、リーン・スタートアップという考え方について学ぶ。
6	第６講　ビジネスモデル	ビジネスモデルの定義、ビジネスモデルの構成要素、ビジネスモデル・キャンバスについて解説する。
7	第７講　プライシング	さまざまな形態での課金モデルの仕組みについて概観する。
8	第８講　アントレプレナーシップ	アントレプレナーは、リーダーとその特徴や役割においてどのように異なっているかについて検討したうえ、アントレプレナーシップの二つの特徴的なアプローチについて理解する。
9	第９講　ベンチャーキャピタルとベンチャー企業	ベンチャーキャピタルはどのように資金を調達し、どのように投資を行うのか、またどのように投資先企業を監視するのかについて説明する。
10	第１０講　事業創造と産業クラスター	単一の企業だけではなく、大学まで含む産業クラスターにおける事業創造の仕組みについて考える。
11	第１１講　オープン・イノベーション（Ⅰ）	オープン・イノベーションの定義、オープン・イノベーションのプロセスについて説明する。
12	第１２講　オープン・イノベーション（Ⅱ）	外の知識の探索、異なる知識とのすり合わせなどについて解説する。
13	第１３講　事業エコシステム	企業は単独でイノベーションに必要な活動をすべて行うのか、それとも外部の組織と分業するのか、外部の組織との分業が必要であれば、外部組織との分業システムをどのように築いていくかのなど、イノベーションと企業間システムとの関係について学ぶ。
14	第１４講　試験・まとめと解説	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を印刷して予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】
1）青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
2）沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社

3）M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
4）ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
5）G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline and objectives】
This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies.

MAN200FA
経営戦略論Ⅰ（2019 年度以降入学者）
経営戦略学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FB
経営戦略論Ⅰ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA
経営戦略論Ⅱ（2019 年度以降入学者）
経営戦略学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FB
経営戦略論Ⅱ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

葉山　彩蘭

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、経営戦略についての様々な概念を理論と事例を通して学習する。企業の経営活動の視点をベースにし、ケーススタディ等も加え多面的に学習し、実践的理解を深める。

【到達目標】
経営戦略論の基礎知識を身につけ、企業の経営戦略をめぐる様々なビジネス課題を理論や事例を通じて学習することによって、学生が様々な経営戦略の課題を論理的に分析し、解決方法を提案することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式。アクティブラーニングの取り組みとして、講義の中で、ワークシートを記入してもらい、履修生の授業参加を求める。また、受講生の意見を求めたり、グループ討議やグループ発表の時間を設けたり、双方向性の授業を目指す。また、ビデオ視聴やケース・スタディなどを通じて、経営戦略の現状と課題を分析し、学問と実務の一致性を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要と講義の進め方等の説明
2	経営戦略の概念（1）	経営戦略とは何か。経営戦略の意義と役割について学習する。
3	経営戦略の概念（2）	ケース（1）事例研究を通して、経営戦略の意義と役割について理解する。
4	経営戦略の概念（3）	経営戦略の成功と失敗にかかわる要素について考える。
5	経営戦略の策定プロセス（1）	企業全体の戦略である企業戦略の策定プロセスについて学習する。
6	経営戦略の策定プロセス（2）	ケース（2）事業戦略の策定プロセスについて学習する。
7	経営戦略と企業理念	企業戦略と事業戦略の土台である企業理念について学習する。
8	競争の戦略	競争の概念と目的について学習する。
9	地域企業の競争（1）	ドメインとしての地域社会との関係性から地域企業の競争戦略について学習する。
10	地域企業の競争（2）	（ケース３）地域企業の競争戦略について学習する。
11	グルーバル経営戦略（1）	国際的経営環境をベースにグローバル経営戦略について学習する。
12	グローバル経営戦略（2）	（ケース４）グローバル経営戦略について学習する。
13	経営戦略と社会	経営戦略の視点から社会を捉え、戦略の社会性について学習する。
14	まとめ	これまでの授業内容の総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要と講義の進め方等の説明
2	事業戦略（1）	（ケース　1）事業戦略の基本戦略について学習する。
3	事業戦略（2）	（ケース　2）差別化戦略について学習する。
4	事業戦略（3）	（ケース　3）ブルー・オーシャン戦略について学習する。
5	企業戦略（1）	（ケース　4）企業の多角化戦略について学習する。
6	企業戦略（2）	（ケース　5）企業のイノベーション戦略について学習する。
7	海外進出と企業戦略（1）	（ケース　6）国際経営戦略について学習する。
8	海外進出と企業戦略（2）	（ケース　7）グローバル経営戦略について学習する。
9	人材育成と経営戦略	（ケース　8）人的資源管理戦略について学習する。
10	グローバル人材と経営戦略	（ケース　9）グローバル経営と人的資源管理戦略について学習する。
11	ＣＳＲ経営戦略	戦略的視点から企業の社会的責任（ＣＳＲ）について学習する。
12	ＣＳＶ経営戦略	経営戦略と共通価値の創造（ＣＳＶ）について学習する。
13	ＳＤＧｓ経営戦略	経営戦略と持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）について学習する。
14	まとめ	これまでの授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本経済新聞や日経ビジネスなどを授業前に読み、最新の経営・経済動向を把握しておくことを勧めます。また、授業後、当日勉強した内容をノートにまとめ復習することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回授業用のプリント教材やワークシートを教室にて配布します。また、授業に関連する視聴教材を用いる予定です。

【参考書】
①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
④デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
⑤ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
⑦ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003 年
⑧沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008 年。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
①試験： 50%　②授業中の小テスト・ワークシート・課題・発表・受講姿勢 ： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
初年度の授業のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
受講講姿勢に関して、①私語や携帯電話の使用を禁じる。②遅刻しないこと。③予習、復習、積極的な授業への参加が求められる。
春学期（経営戦略論Ⅰ）と秋学期（経営戦略論Ⅱ）を続けて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn the basic concepts and theories of strategic management and their applications in business activities. Students who take this course will be able to gain insights about how companies and organizations develop and implement strategies.

MAN300FC
国際経営論Ⅰ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FC
国際経営論Ⅱ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

洞口　治夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。トヨタ、全日空（ＡＮＡ）、東京ディズニーランド、吉野家とマクドナルドなど、豊富な事例を学びながら、企業経営の課題を学びます。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】
この授業では国境を越えた経営の基礎を学び、学生諸君が、将来、国際的なビジネスパースンとして活躍するときに必要となる基礎知識を学習します。そのために、多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのかを知り、また、多国籍企業に関する理論を学習して、その動向への見通しを立てること、および、理論的な考え方の面白さを知ることを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
＜本授業の開始日時は 4 月 23 日木曜日午前 10 時 40 分です。遠隔会議システム Zoom の URL を午前 10 時 10 分頃に授業のお知らせに掲示します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるので、カメラとマイクのついたパソコンでつなげることが望ましいでしょう。携帯電話でも接続可能ですが、共有資料の閲覧がやりにくい、という問題があります。＞
授業では、くじ引きをしてグループを分け、教科書の音読を軸としたグループワークを行うので「心の準備」（教科書の予習）をして参加して下さい。ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスの世界では、営業先での会話や交渉のやりとり、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成などは、自らノートにとって整理する必要があります。英文資料を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論の概要説明	講義目的と概要、理論と実務との関連。教科書第１章。
第 2 回	多国籍企業と外国為替	主要な為替制度。固定相場、ペッグ、変動相場制。第 13 章。
第 3 回	為替レートの決定理論	購買力平価説、金利平価説、オーバーシューティング、ランダムウォーク、ニュースの役割。第 13 章。
第 4 回	購買力平価説の検討	ビッグマック指数の検討。
第 5 回	金利平価と新聞による為替解説記事	利子率の意味。数学的予備知識の復習、累乗と階乗。第 13 章。
第 6 回	ランダムウォークとオーバーシューティング	二項分布とランダムウォーク。ドリフトと分布の歪み。第 13 章。
第 7 回	多国籍企業とリスク	財務リスクと政治リスク。第４章。
第 8 回	経済発展と通貨危機	先物市場とニュースの役割。第 13 章。
第 9 回	キャッチアップ型工業化	アジア諸国の経済発展の特徴。第 11 章。
第 10 回	クリエイティブ・インダストリーの国際化	創造性のマネジメント。芸術と契約。コアとコピー。プロデューサーとディレクター。第 7 章。
第 11 回	国際技術移転と新興国企業	BRICs、東南アジアの経済と企業。第 10 章。
第 12 回	イノベーターのジレンマ	イノベーションと研究開発競争。第 11 章。
第 13 回	多国籍企業のコーポレート・ガバナンス	組織ルーティンの進化。職能別組織、事業部制組織、マトリックス組織。第 12 章。
第 14 回	企業倫理とＣＳＲ、授業内試験。	地域貢献と働き方。戦略的ＣＳＲ。授業内試験。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第Ⅰ部．グローバル戦略．Ｍ＆Ａとコーポレート・ガバナンス	株主と株主総会。取締役会と委員会。デュー・ディリジェンス。買収金額の評価。のれんと減損。第８章。
第 2 回	多国籍企業の参入形態	輸出・輸入、海外直接投資、ライセンシング。資産、負債、純資産。第２章。
第 3 回	資源創造の理論	暗黙知・形式知・集合知。経営進化理論の展開。製品開発論の基礎。第６章。
第 4 回	国際マーケティングと通貨	国際マーケテイングと外国為替レート。４Ｐ、ＳＴＰの復習。第９章。
第 5 回	人的資源管理	現地適応とグローバル統合。ＥＰＲＧ理論。ホフステッド。第５章。
第 6 回	国際人的資源管理	海外派遣の社内規定。海外赴任とモチベーション。採用、昇進、査定。
第 7 回	経済地理の重要性	クラスターの重要性。ポーターの学説。第７章。
第 8 回	ＯＭ入門	ＪＩＴ生産、小集団活動、ＴＯＣ理論。テイラー、フォード、トヨタ生産システム。第６章。
第 9 回	競争業者分析	技術移転と知識創造。第 6 章、第 15 章。
第 10 回	海外直接投資の理論.	経営資源、取引費用。コア技術とコピー技術。ペンローズとハイマー。第３章。
第 11 回	多国籍企業の組織文化	不確実性の回避、権力格差、個人主義と集団主義、男性性と女性性。リーダーシップと信頼。第５章。
第 12 回	人的資源管理とモチベーション	仕事選びの価値基準。採用時のグループワーク。第 14 章。
第 13 回	ダイバーシティ・マネジメント 情報システム、知識管理とＡＩ産業の創造性	LGBT，CSR，男女雇用機会均等法。第 15 章。
第 14 回	コンプライアンスの重要性、授業内試験。	企業倫理と SDGs。授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に参加する前にテキスト（教科書）の該当箇所を読み、わからない用語を調べる必要があります。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田順子・洞口治夫編著 (2019)『改定新版　国際経営』（放送大学教材）放送大学教育振興会。＜まったく同名の旧著、原田順子・洞口治夫編著 (2013)『新訂　国際経営』（放送大学教材）放送大学教育振興会が、まだ販売されていますので、間違えないようにして下さい。古い版とは内容が異なります。授業では、理解を確認するために授業内で音読をします。＞
(2) そのほかに適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】
(1) 洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門 経営学 (第 2 版)』同友館。
(2) 洞口治夫 (2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂。＜大学院進学してＭＢＡ取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。＞
(3)Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition). ＜海外留学を目指す大学生のための参考書です。本書は授業内容に関連しています。＞

【成績評価の方法と基準】
成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
(1) 授業参加（課題レポートないしは授業支援システム応答）（30 %）
(2) 期末試験 (授業内筆記試験)（70 %）
良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」といった感謝の言葉が並んでいます。「雑談が面白い」という意見も多く、「授業内容が就職活動に役立つ」ことは、この授業からの「気づき」といえます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書、グーグル検索のためのスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードできるパソコン。

【その他の重要事項】
毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始５分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。

【Outline and objectives】
Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disney Land (TDL), Yoshinoya, and McDonald's have something in common. What is it? Their best international business practices create excellent products and services. This course is designed to understand the basic ideas of international business. Focusing on the corporate strategy and the organizational capability of the firm, it aims to help students develop the skills required to join these types of companies. The core skills involve understanding internationalization strategies of multinational corporations and knowing how they enhance their competitiveness and performance in the global economy.

ECN300FC
国際経済論Ⅰ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

ECN300FC
国際経済論Ⅱ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

高橋　理香

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、国際取引の実態やルールのあり方が大きく変わろうとしています。ニュースを読んでも、例えば、米中の貿易紛争はどのような方向に進んでいるのか、世界や日本の取引のあり方がどう変わろうとしているのか、そもそも日本はこれまで他国とどのような国際的な取引を展開してきたのか、を正しく理解している人は少ないのではないでしょうか。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本や世界でどのような国際的な取引が行われ、そのような取引によって日本や世界の経済がどのように変化してきたのかを理解します。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際経済システムについて、理論的・歴史的な解説を行った上で、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、現実の国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、現代の複雑な国際経済のメカニズムを論理的に分析することで、日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察できることを目標とします。またこれらの考察によって、国際的な観点から現代社会について体系的に分析・理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
各回の講義ノートを予め配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開していきます。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。授業の冒頭では、各回のテーマに入る前に、国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、授業内演習や宿題の答え合わせなどを行うこともあります。この授業では、授業内のグループワークを行い、学生からの能動的な学習を重視しています。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、授業支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易と国際収支
2	貿易と市場 1	貿易市場のメカニズム（需要・供給分析）
3	貿易と市場 2	貿易市場の資源配分（余剰分析）
4	貿易と市場 3	貿易による利益と市場競争
5	日本の比較優位と貿易 1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
6	日本の比較優位と貿易 2	技術格差と貿易パターン
7	日本の比較優位と貿易 3	生産要素の賦存量と貿易パターン
8	新しい貿易理論と日本の貿易 1	伝統的貿易理論と新しい貿易理論の違い
9	新しい貿易理論と日本の貿易 2	製品差別化・規模の経済と日本の自動車の貿易
10	新しい貿易理論と日本の貿易 3	生産工程の細分化・規模の経済と機械製品の貿易
11	新しい貿易理論と日本の貿易 4	企業の生産性の違いと貿易
12	生産要素の国際間移動 1	海外直接投資と日本の経済
13	生産要素の国際間移動 2	外国人労働の受け入れと日本の経済
14	まとめ	春学期の内容のまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
2	日米貿易摩擦とさまざまな貿易政策	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
3	関税政策 1	関税政策の理論
4	関税政策 2	日本と外国の関税政策
5	非関税障壁 1	輸入数量制限と日本の農業
6	非関税障壁 2	輸出自主規制と日本の自動車産業
7	貿易政策と競争 1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
8	貿易政策と競争 2	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
9	貿易政策と競争 3	アンチダンピング政策とアメリカの鉄鋼市場
10	国際経済システム 1	国際経済システムの構造・ルールと日本経済
11	国際経済システム 2	多角的交渉（GATT-WTO）
12	国際経済システム 3	地域経済統合（RTA,TPP）
13	国際経済システム 4	貿易と環境問題
14	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、授業支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明します。

【参考書】
阿部顕三『貿易自由化の理念と現実』NTT 出版、2015 年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ　第 2 版』有斐閣、2013 年。
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016 年。
清田耕造・神事直人『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年。
小林友彦ほか『WTO・FTA 法入門- グローバル経済のルールを学ぶ』法律文化社、2016 年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と 21 世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015 年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」　第 4 版』創成社、2018 年。
友原章典『理論と実証から学ぶ　新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第 10 版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017 年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2014) *International Economics: Theory and Policy,* 10th edition, Pearson.

【成績評価の方法と基準】
宿題： 30 %
授業内演習およびグループディスカッション： 20 %
定期試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を授業内で行います。また、授業への積極的なかかわりを希望する学生が多いことから、グループディスカッションの機会を設けています。

【学生が準備すべき機器他】
授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は授業支援システムを使います。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない人は、本授業と同時並行で履修するか自習することを勧めます。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論・応用経済学と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus hows such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.

MAN300FC
戦略的意思決定論Ⅰ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FC
戦略的意思決定論Ⅱ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

福島　英史

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は，経営戦略の意思決定について考えるための概念，論理，視角を学習することにあります．経営現象は，組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます．この授業では，日々の業務に直接関わる業務的意思決定や，開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく，特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます． 現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます．

【到達目標】
経営事象を織りなす様々な戦略の意思決定とその合成過程について，論理的に理解し，説明できるようになることが到達目標です． 戦略の意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があるのか．また，自社のみならず，他社の意思決定を考えた場合に，結果としてどのような状況が産業に生じるのか．現実の会社がなぜ M&A 等で規模位を拡大しようとするのか．産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか．一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか．こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．本授業の開始日は 5 月 11 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法や授業計画の変更などについて，学習支援システムまたはそこで提示された講義資料でお知らせする（2020 年 4 月追記）．
事業モデルの選択と競争上の位置取り，環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます．ある産業，あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか，といった問題にアプローチします．講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズやミニ・ケースを解くなどの課題が課されます．その際，指名された履修者は，意見を求められます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	事業の組立と市場戦略 1	製品事業の基本的観点
3	事業の組立と市場戦略 2	市場戦略の枠組み
4	競争の構造と収益性 1	競争構造の基本的観点
5	競争の構造と収益性 2	プレーヤー間の代替関係
6	競争の構造と収益性 3	プレーヤー間の補完関係
7	産業のライフサイクルと費用構造 1	市場変動と費用構造
8	産業のライフサイクルと費用構造 2	キャパシティ
9	事業背景と参入・撤退の決定 1	参入企業の事業背景と競争
10	事業背景と参入・撤退の決定 2	事業投資の意思決定と収益性
11	事業システムの視点 1	事業システムの基本枠組み
12	事業システムの視点 2	システム内外の競争と協調
13	利益配分とパワー構造の変革 1	パワー分布と利益配分
14	利益配分とパワー構造の変革 2	構造の変革

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	企業の成果尺度	企業戦略の成果を見る基本指標
3	ゲーム理論的発想 1	基本枠組みの理解
4	ゲーム理論的発想 2	競争戦略の新たな視点
5	基本戦略と大規模化 1	規模を追う戦略の論理
6	基本戦略と大規模化 2	規模を追わない戦略の論理
7	技術革新と基本戦略 1	技術革新のライフサイクル
8	技術革新と基本戦略 2	複数戦略の同時追求とコモディティ化の論理
9	技術革新と基本戦略 3	技術・市場の発展と日米の戦略観
10	技術革新と市場地位	市場地位の交代が生じる論理
11	経営資源アプローチ 1	狭義のリソース・ベースド・ビュー
12	経営資源アプローチ 2	学習を重視する戦略観と日本企業の現状
13	全社的な意思決定 1	企業の垂直的範囲と合理化の意思決定
14	全社的な意思決定 2	事業の多様化と集約化の意思決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講義について復習するとともに，身近な事例についてその意味を考えてみる．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません．

【参考書】
講義中に適宜案内します．

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更になる可能性がある．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムまたはそこで提示された講義資料でお知らせする．
（以下は変更前）．I 春学期：定期試験（100 %）で評価します．II 秋学期：定期試験（100 %）で評価します．講義中に行われるエクササイズの点数は，「ボーナス」として上記に加算いたします．

【学生の意見等からの気づき】
過年度のフィードバックから話す速度を調整します．エクササイズに十分な時間をとります．

【その他の重要事項】
講義中の私語はご遠慮ください．関連科目は，経営戦略基礎，経営組織論，経営戦略論，マーケティング論，経営管理論，日本経営論，流通論，技術管理論，製品開発論，国際経営戦略論，中小企業論，組織経済学等です．戦略的意思決定論Ⅱ（秋学期）は理解の促進のため，Ⅰ（春学期）と併せて履修することが望ましいです．

【Outline and objectives】
The outline and objective of this class are as follows. We study concepts, logic, and views to understand strategic management and decision making of firms, their interaction, mechanism, and dynamism. We mainly focus on strategic decisions which construct business strategy, models, corporate growth, and sustainability, though organizations have daily based operational decisions and administrative decisions to conduct each functions like R&D, production, and marketing. We use business episodes and news of real life to illustrate those logic and concepts.

ECN300FC
日本経済論Ⅰ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FC
日本経済論Ⅱ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

平田　英明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。
また、海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。コロナウィルスの影響は？ トランプ政権下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。
皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。
この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】
究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。
ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て授業支援システムを使って発信します。
例年、政策当局の方と国会議員の方などに授業内で２回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、エコノミストなど）。皆さんの意見も踏まえ今年度も実務家の講演を織り込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか	授業計画の紹介と日本経済の基本的特徴の説明をします
2	日本経済を丸ごとつかむ 1	マクロ経済学的な視点から日本経済を歴史的に概観します
3	日本経済を丸ごとつかむ 2	マクロ経済学的な視点から日本経済の最近の状況を概観します
4	マーケットをつかむ	需要と供給の基本的な仕組み、マーケットの役割を学びます
5	わが国の企業活動をつかむ 1	働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解します
6	わが国の企業活動をつかむ 2	企業のグローバル化，IT 化と日本の企業システムの変化の動向を理解します
7	わが国の労働市場をつかむ 1	労働者として働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解し、労働市場の見方を学びます
8	わが国の労働市場をつかむ 2	日本の雇用システムの歴史的な変化について学びます
9	わが国の労働市場をつかむ 3	若年労働、女性労働、高齢者労働の特徴を理解します
10	政府の役割をつかむ 1	政府の日本経済の中での位置づけを理解し、予算の仕組みを理解します
11	政府の役割をつかむ 2	財政赤字問題について理解します
12	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ１	日本経済における金融の役割の基本を理解します
13	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ２	各経済主体の経済活動と金融の関係＋金融に関係する経済政策について理解します
14	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	日本経済のボトルネック１：デフレ問題 1	バブル経済とその後についての歴史を学びます
2	日本経済のボトルネック１：デフレ問題 2	９０年代の日本経済の抱えた問題を学びます
3	日本経済のボトルネック１：デフレ問題 3	デフレのコストについて学びます
4	日本経済のボトルネック２：社会保障問題１	社会保障制度の基本を学びます
5	日本経済のボトルネック２：社会保障問題２	社会保障制度の問題点や課題を理解します
6	日本経済のボトルネック番外編：因果関係とは何か	原因を理解せずに問題を解決することは出来ません。適切な因果関係の把握の仕方を理解します。
7	日本経済のボトルネック３：少子化問題１	少子化問題の現状と背景を理解します
8	日本経済のボトルネック３：少子化問題２	少子化問題の解決策を考えていきます
9	日本経済のボトルネック４：海外との経済関係１	貿易や投資を通じた海外とのつながりについて学びます
10	日本経済のボトルネック４：海外との経済関係２	近年の貿易戦争と貿易の自由化の関係を学びます
11	日本経済のボトルネック４：海外との経済関係３	日本の経済と海外の経済がどのように連動したり、逆連動するのかを学びます
12	ゲストスピーチ１	政策関係者またはビジネス関係の有識者による講演です。
13	ゲストスピーチ２	政策関係者またはビジネス関係の有識者による講演です。
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』(有斐閣、2020) を必ず購入してください。発売されたばかりの最新版を購入してください。

【参考書】
新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】
持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、＋ α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の１の通りです。
１．単位の評価は２つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。
【1】期末試験１００％＋Ｘ％（授業への参加（発言、質問等））の２要素で成績評価を行います。
【2】問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。
２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。
３．単位取得率は例年 95 ％程度（昨年度は 98 ％）であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【その他の重要事項】
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】
Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

ECN300FC
産業史Ⅰ
経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FC
産業史Ⅱ
経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FC
産業史Ⅰ
経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FC
産業史Ⅱ
経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

藤澤　利治

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資本主義世界における基軸産業の歴史的発展過程を学ぶ。
今日、我々はわずか数十年前に比べてさえも、非常に豊かかつ便利な社会で生活している。しかし、この物のあふれるほど豊かな社会は、突然そして自然発生的に我々の前に出現したわけではない。先人達が様々な困難に直面し、それらを新発見や発明の積み重ねによって克服しながら築き上げてきた。その延長線上に、我々の豊かな生活が実現できているが、しかし今日、地球環境問題等の大問題にも直面している。これらの点を講義形式で、歴史的に学んでいく。その際、経済の発展を各時代の中軸で支えてきた各産業の発達史を、資本主義経済の発展過程に沿ってたどる。そして、各時代の主要産業の特徴を、技術、企業組織、国際分業や貿易のパターン等に焦点をあててみていく。

【到達目標】
①資本主義経済の世界史的発展過程を理解できる。
②各時代の産業の発展過程、企業組織、国際分業や貿易の構造を理解できる。
③現代の産業が直面する地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 8 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
また、講義で配布するレジュメにもとづいて、基礎概念と歴史プロセスを学習してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ イントロダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	Ⅱ 資本主義の発展過程と基軸産業の展開 1 重商主義期－イギリス毛織物工業を中心に 1-1 新大陸貿易の発展	15 世紀末からの大航海時代以降、世界貿易が活発化し、大陸間で商業が発展していく過程を見る。
第 3 回	1-2 新大陸貿易と毛織物工業の発展	新大陸貿易において、西ヨーロッパからの輸出品の中心となった毛織物工業の発展が、それまでの封建社会を崩壊させて行く過程を見る。
第 4 回	1-3 資本の原始的蓄積過程の展開	毛織物工業の発展が、他国に先駆けてイギリスで資本主義の形成を推し進めたことを論じる。
第 5 回	2 自由主義期－イギリス綿織物工業を中心に 2-1 イギリスの産業革命	18 世紀半ば以降、イギリスで始まった産業革命、それとともに発展したイギリス綿織物工業の発展を見る。
第 6 回	2-2 イギリスにおける産業資本の発展と資本主義の確立	産業革命によって発展したイギリス綿織物工業が、イギリスに資本主義を確立させる過程を見る。
第 7 回	2-3 自由貿易と資本主義の拡大	イギリス資本主義の発展が周辺諸国にも波及し、世界的に資本主義が拡延していく過程を概観する。
第 8 回	3 帝国主義期－ドイツ鉄鋼業を中心に 3-1 後発国ドイツの経済的特徴	19 世紀末葉以降、イギリスに代わってドイツが鉄鋼業を中心に世界経済の発展をリードするようになるが、その過程を見る。
第 9 回	3-2 ドイツにおける鉄鋼業の発展と株式会社	英仏に遅れて資本主義化したドイツでは鉄鋼業が発展し、株式会社の導入や、銀行と企業との関係も特徴的であったことを見る。
第 10 回	3-3 保護貿易主義と帝国主義的対立	ドイツの対外経済政策は保護主義的で、イギリスの自由主義に対抗的であった。このような英独間の対抗関係が世界史に及ぼした影響を概観する。
第 11 回	Ⅲ 第 1 次世界大戦後の世界経済と新産業の展開 1 第 1 次大戦後の世界とアメリカの地位	第 1 次世界大戦後の世界経済におけるアメリカの台頭と西欧の弱体化を概観する。
第 12 回	2 相対的安定期と耐久消費財産業の芽生え	1920 年代のアメリカの耐久消費財産業、特に自動車産業と家電産業の発展を理解する。
第 13 回	3 世界恐慌の勃発	1920 年代末に相対的安定が崩壊し、世界大恐慌が勃発する過程を見る。
第 14 回	4 世界経済のブロック化・アウタルキー化 まとめ	世界恐慌下、主要国は大不況からの脱出を模索し、経済のブロック化・アウタルキー化に向かっていく過程を理解する。産業史Ⅰのまとめと、第 2 次世界大戦後を展望する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ イントロダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	Ⅱ 第 2 次大戦後の世界経済と重化学工業の発展 1-1 アメリカ産業の圧倒的地位	第 2 次世界大戦後の世界経済の再編は、圧倒的な経済力を誇ったアメリカ中心に行われたことを概観する。
第 3 回	1-2 アメリカ経済の強大化	アメリカ産業の世界市場における地位が強大であったことを、主要産業を取り上げて分析する。
第 4 回	1-3 アメリカ産業の盛衰	1950 年代半ば以降ヨーロッパと日本の経済再建・発展に伴い、アメリカ産業が弱体化していく過程を理解する。
第 5 回	2 欧州産業の失地回復の試み－経済統合への歩み 2-1 欧州の凋落	第 2 次大戦で弱体化した西欧諸国が、米ソ冷戦の狭間で政治的安定と経済復興を模索する過程を見る。
第 6 回	2-2 欧州経済統合の推進	欧州の経済的繁栄を求めて市場と経済の統合を進める過程を理解する。
第 7 回	2-3 EC/EU による経済統合	EC による統合が拡大・深化し、今日の EU に発展する過程を概観する。
第 8 回	3 日本産業の挑戦－重化学工業化・経済大国化 3-1 戦後の改革と復興	敗戦国日本は、戦後の荒廃から復興を果たすが、連合国軍の占領下で戦後改革も行われた。このプロセスを見る。
第 9 回	3-2 高度経済成長の内実	昭和 30 年代から高度経済成長を遂げ、日本経済が変貌を遂げる過程を見る。
第 10 回	3-3 産業の高度化と経済大国化	高度成長期には重化学工業化を実現し、経済大国と呼ばれるようになるが、この過程を理解する。
第 11 回	Ⅲ ハイテク産業をめぐる日米欧の角逐 1 アメリカ経済の相対的弱体化と欧日の躍進	1970 年代以降の世界経済は激動の時代を迎える。その主因となったアメリカ経済の不調・日欧の経済的躍進を概観する。
第 12 回	2 ニクソンショックと二度の石油危機	第 2 次大戦後の世界経済を支えてきた国際通貨制度の崩壊と、産業発展の基盤となってきた石油をめぐる危機の世界経済に及ぼした影響を見る。
第 13 回	3 日本産業の構造調整とバブル経済	主要国ではこれらのショックに対応するために産業の構造調整を迫られるが、日本のその内実を見る。
第 14 回	4 ハイテク産業の発展と日米欧の角逐－グローバル経済の進展と問題 講義のまとめ	石油危機後、主要国が競ってハイテクの産業化と産業のハイテク化を推進する過程を見る。 そして 1990 年代以降のグローバル経済下での産業の発展と、現在直面している環境問題や資源・エネルギー問題での制約を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期：産業史Ⅰ
第 1 回　産業発展の歴史を、下記の参考書を利用して概観しておくこと。
第 2～4 回　15 世紀以降の大航海時代の世界史を予習しておくこと。
第 5～7 回　イギリスにおける資本主義発達史を予習しておくこと。
第 8～10 回　19 世紀半ば以降のドイツ史を予習しておくこと。
第 11～12 回　第 1 次世界大戦後の世界経済について予習しておくこと。
第 13～14 回　1930 年代の世界史の展開を予習しておくこと。
秋学期:産業史Ⅱ
第 1 回　第 2 次世界大戦後の経済史を参考書を利用して概観しておくこと。

第 2～4 回　第 2 次世界大戦後のアメリカ経済史を概観しておくこと。
第 5～7 回　ヨーロッパ経済統合のプロセスを概観しておくこと。
第 8～10 回　日本経済の第 2 次世界大戦後の歩みを予習しておくこと。
第 11～14 回　ハイテク産業、特に IT 産業について予習し、グローバル経済における地球環境問題と資源・エネルギー問題について理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義レジュメと資料を授業時に配布する。

【参考書】
①宇野弘蔵『経済政策論（改訂版）』弘文堂、1971 年
②石見徹『世界経済史－覇権国と経済体制』東洋経済新報社、1999 年
③杉山伸也『グローバル経済史入門』岩波新書、2014 年
④ F. アマートリ/A. コリー『ビジネス・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2014 年
⑤金井・中西・福澤編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010 年
⑥ロンド・キャメロン/ラリー・ニール『概説世界経済史Ⅰ・Ⅱ』東洋経済新報社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
教室の後部で、私語がうるさいとの指摘があったため、対応策として教室後部の状況を注意して授業を進めるようにする。また、授業で扱うテーマについて関心を高めるために、資料や教材を回覧するようにする。

【その他の重要事項】
経済学入門を履修し、さらに日本経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを、並行してでも良いから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course is intended to introduce the field of industrial history to students. The students learn the history of some key industries in the world and Japan. By the end of this course students should be able to understand the development of the key industries in world history, and current problems in the industrial development.

MAN300FC

中小企業論Ⅰ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

稲垣　京輔

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、創業初期段階にある企業の事業創造プロセス、あるいは成熟化を乗り越えようとする企業のマネジメントと組織行動について学びます。経営組織論と戦略論を理論的なベースとしながら、変革の主体としての中小企業、あるいはベンチャー企業の活動を事例を通じて理解を深めます。

【到達目標】
中小企業論Ⅰでは、中小企業間の連携やネットワークといった企業間の関係のマネジメントを主にみていきます。グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応する過程で、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業にフォーカスします。中小企業の中で、そうした突出した能力を持つ企業がなぜ現れるのか、彼らのマネジメントスキルについて知ることが課題です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義は、パワーポイントの資料をもとに展開されます。各回の資料は、講義前日までにホームページ上にアップしますので、事前に各自でダウンロードした上で、印刷したものを持参するようにしてください。
３回に一度は、文献を読んで理解をしながら、そこから問題を提起し、皆さんの間で議論をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方 大企業と中小企業
第 2 回	ネットワークと組織	市場・組織・ネットワーク 企業間のネットワーク 企業内ネットワーク
第 3 回	ネットワークと組織	【文献を読む】
第 4 回	協力企業のイノベーション戦略	下請け型ネットワークからの脱却 グローバルニッチトップ企業の発展
第 5 回	ネットワーク型組織の組織開発	産学官連携 中小企業のハブ
第 6 回	オープン・イノベーション戦略	【文献を読む】
第 7 回	ネットワーク構築による事業再生	事業再生 新しい価値創造におけるネットワーク開発
第 8 回	戦略的ネットワークと相互行為のネットワーク	ネットワークの２面性について考える
第 9 回	多様性のマネジメント プラットフォームとしての協働組織 コーディネーション	【文献を読む】
第 10 回	創造的コラボレーション	協働における創造性 学習関係の構築
第 11 回	内部組織のネットワーク化	ティール組織
第 12 回	事業組織とチーム・ビルディング	【文献を読む】
第 13 回	社会的課題の解決とネットワーク	まちづくり 地域の問題の解決 中小企業の関わり
第 14 回	まとめ	中小企業とネットワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献購読の際、必要な文献を配るので、事前に目を通して、内容の理解をしておくこと。英語の場合は各自で訳出しておくこと。準備学習と復習にそれぞれ２時間の時間をかけてください。
その他、３回に一度、アナウンスする参考文献のうち、必ず１冊には目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
講義資料は毎回、各自でダウンロードして持参すること。

【参考書】
講義資料は、各自でダウンロードすること。
毎回の講義で用いた文献については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
１期末の定期試験： 100 点満点　 50 %（60 点未満は単位無効）
２文献購読/レポート： 50%
※各学期で欠席回数が 4 回以上にならないように注意してください。
※文献購読の課題は、与えられた文献を読み込んできて、節ごとの要約をしてもらったり、議論したりします。4 から 5 回を予定。前週に配られた文献（ほぼ日本語のもの）を読み、内容を把握した上で出席してください。授業では、レビューをおこない、ディスカッションをします。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験だけではなく、より平常点や課題への積極的な取り組みを反映した評価をおこなうようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
関連科目は、経営社会学Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱです。

【関連科目】
経営社会学Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

MAN300FC

中小企業論Ⅱ

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

稲垣　京輔

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、創業初期段階にある企業の事業創造プロセス、あるいは成熟化を乗り越えようとする企業のマネジメントと組織行動について学びます。経営組織論と戦略論を理論的なベースとしながら、変革の主体としての中小企業、あるいはベンチャー企業の活動を事例を通じて理解を深めます。

【到達目標】
中小企業論 II では、事業創造におけるマネジメントを主なテーマとします。グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応する過程で、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業が存在します。中小企業の中で、そうした突出した能力を持つ企業がなぜ現れるのか、彼らのマネジメントスキルについて知ることが課題です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義は、パワーポイントの資料をもとに展開されます。各回の資料は、講義前日までにホームページ上にアップしますので、事前に各自でダウンロードした上で、印刷したものを持参するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方 起業の担い手、起業家を育む環境について
第 2 回	日本の事業創造の担い手	事業機会型と非事業機会型組織の事業創造
第 3 回	日本の事業創造の担い手	【文献を読む】 ベンチャー企業とは何か
第 4 回	事業創造プロセス（起業）	事業アイデアの創出
第 5 回	事業創造プロセス（成長のマネジメント）	事業の成長と発展のプロセス
第 6 回	事業創造と経営戦略	戦略論としての事業創造、経営者の起業家としての行動【文献を読む】
第 7 回	事業創造の支援とインフラ整備	インキュベーション CVC プログラム
第 8 回	事業創造型企業の人材マネジメント	起業家を生み出す人材の育て方について
第 9 回	事業創造型企業のリーダーシップ	【文献を読む】
第 10 回	中小企業の変革 チェンジマネジメント	プロジェクトベースへの組織構造の転換
第 11 回	事業承継とイノベーション	老舗企業の事業創造戦略【文献を読む】
第 12 回	事業創造と地域活性化	地域活性化における起業家の役割
第 13 回	グローバル化における事業創造	イノベーションモデルの構築
第 14 回	まとめ	これまでの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献購読の際、必要な文献を配るので、事前に目を通して、内容の理解をしておくこと。英語の場合は各自で訳出しておくこと。事前準備と復習にはそれぞれおよそ2時間程度の時間をかけてください。
その他、3回に一度、アナウンスする参考文献のうち、必ず1冊には目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
講義資料は毎回、各自でダウンロードして持参すること。

【参考書】
講義資料は、各自でダウンロードすること。
毎回の講義で用いた文献については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
1 期末の定期試験： 100 点満点　 50 %（60 点未満は単位無効）
2 文献購読/レポート： 50%
※各学期で欠席回数が 4 回以上にならないように注意してください。
※文献購読の課題は、与えられた文献を読み込んできて、節ごとの要約をしてもらったり、議論したりします。4 から 5 回を予定。前週に配られた文献（ほぼ日本語のもの）を読み、内容を把握した上で出席してください。授業では、レビューをおこない、ディスカッションをします。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験だけではなく、より平常点や課題への積極的な取り組みを反映した評価をおこなうようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
関連科目は、経営社会学Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱです。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

オペレーションズ・マネジメント

経営戦略学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

立木　デニス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの学生はトヨタ生産システムに精通していますが、それがオペレーションズ・マネジメント（OM）の一部であることを認識している人はほとんどいません。 OM は、インプット（原材料、情報）を付加価値のあるアウトプット（商品とサービス）に変換するプロセスです。要するに、商品と商品開発、組み立て、流通です。
これに関連して、この OM コースの主な目的は、学生が OM の主題となる主要な概念と方法の機能的理解を深めることです。 さらに、日本のものづくりのアプローチを他の国と比較することに注意が払われます。

【到達目標】
コースの終わりまでに、学生は次のことができるようになります。
· OM の 3 つの幅広い分野を理解する：戦略、戦術、運用
· これら 3 つの領域それぞれの OM の概念、原則、方法を説明する
· OM の主要な問題を分析するための批判的思考スキルを習得する
これらのスキルの習得は、クラス/グループ作業への参加、課題、レポート/プレゼンテーションを通じて実証されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
アクティブラーニングは、このコースの主要な教育アプローチです。アクティブラーニングでは、講師がファシリテーターとして行動し、学生が学習プロセスを主導する必要があります。 これは特に学期の後半に当てはまります。 アクティブラーニングの例としては、ペアディスカッション、グループワーク、ケーススタディ、シミュレーション、プレゼンテーション、リアクションペーパー、体験学習などがあります。授業では英語の教材の講読やや英語による授業参加も大いに歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Course Introduction コース紹介	· Syllabus · What is OM? · Historical Development of OM
Week 2	Operations Strategy 運用戦略	· Aligning OM Strategies with Corporate Strategy · Measuring Operations Performance · OM Manufacturing and Service Profiles
Week 3	Product Design 製品デザイン	· Design of Goods and Services · Product Design Process · Reducing Product Development Lead Time · Handless Phone Case Study
Week 4	Demand Management 需要管理	· Handless Phone Case Study Presentation
Week 5	Capacity Management 容量管理	· Types of Processes · Process Flowcharting and Analysis · Capacity Management
Week 6	Inventory Management Services and Material Requirement Planning 在庫管理サービスと資材所要量計画	· Types of Inventories · Functions of Inventory · Inventory Costs, Risks and Value · MRP/MRPII · Peanut Factory Case Study
Week 7	Facility Layouts 施設のレイアウト	· Material Flow Mapping and Analysis · Theory of Constraints · Layout Design
Week 8	Midterm Examination 中間試験	MIdterm Exam
Week 9	Toyota Production System and Lean Systems トヨタ生産システムリーンシステム	· History of Lean Production · JIT/Kamban Delivery System · Jidoka · Heijunka, Kaizen, Standardization
Week 10	Total Quality Management 総合品質管理	· Translating the Voice of the Customer · House of Quality · PDCA Cycle · Statistical Quality Control and Statistical Process Control · Kaizen
Week 11	Customer and Work Flows 顧客とワークフロー	· External and Internal Customers Presentation
Week 12	Managing Information Flows 情報フローの管理	· Concept of Information Flows · Dependent Demand Inventory Management · Enterprise Resource Planning Systems · Automating Process Management
Week 13	Managing Projects 情報フローの管理	· Project Management Defined · Project Planning and the GANTT Chart · CPM and PERT Project Management Techniques
Week 14	期末テスト	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
· 準備学習：積極的な学習アプローチでは、学生はクラスの前にリーディングと課題を準備する必要があります。 少なくとも、生徒は課題を読む各週のキーワードと主な問題を理解する必要があります。
· グループワーク：学生は、クラスの外でチームメンバーと会って課題を話し合う/準備するための時間を割くことが期待されています。
このクラスの準備学習とレビュー時間はそれぞれ 2 時間です。

【テキスト（教科書）】
Joel D. Wisner. 2016 Operations Management: A Supply Chain Process Approach. Sage ISBN 9781483383064
· 教科書の購入は第 1 回目の授業の終了後。

【参考書】
1) 富野貴弘弘「生産管理の基本」日本実業出版社、2017
2) 成沢俊子等「英語で kaizen!トヨタ生産方式」第 2 版日刊工業新聞社、2019
· 随時、補足資料を使用します。配布資料は、配布資料として利用可能にするか、図書館で予約します。

【成績評価の方法と基準】
学生は次の基準に基づいて採点されます。

15 %クラス参加
30 %グループワーク/ケーススタディ/シミュレーション
5 %プレゼンテーション
25 %中間試験
25 %最終試験
課題の提出が遅れると、成績は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】
初めての科目なので、学生の様子を見ながら、授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、インターネットにアクセスするために、クラスにコンピューターやスマートフォンを持ち込むことが求められます。

【その他の重要事項】
学生（またはチーム）は、学期中に少なくとも 1 回は先生と会うようにしてください。 オフィスアワーは、最初のクラスで発表されます。効果的な授業運営のために、第 1 回目の授業に参加する学生の数が予想を大幅に超える場合、コースへの登録を許可される学生の数が制限される場合があります。

【Prerequisites】
一生懸命勉強したい！

【Outline and objectives】
By the end of the course the stuents should be able to:
· Understand the 3 broad areas of OM: strategic, tactical and operational
· Explain the OM concepts, principles and methods in each of these 3 areas
· Acquire critical thinking skills in analyzing the main issues in OM
The acquisition of these skills will be demonstrated through class/group work participation, assignments and reports/presentations.
· OM の 3 つの広い領域を理解する：戦略的、戦術的、運用
· これら 3 つの分野それぞれの OM の概念、原則、方法を説明する
· OM の主要な問題を分析する際の批判的思考力を身につける
これらのスキルの習得は、クラス/グループ作業への参加、課題、レポート/プレゼンテーションを通じて示されます。

ECN300FC
国際金融論Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN300FC
国際金融論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

横内　正雄

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論Ⅰは、外国為替や国際収支などの国際金融に関する基礎的な概念と理論を学ぶ。国際金融論Ⅱは、国際金融論Ⅰの理解を前提として国際金本位制に始まる国際金融の歴史と現状を学ぶ。

【到達目標】
国際金融論Ⅰは、現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を理解し、その意味を理解することを目標とする。国際金融論Ⅱは、国際金融の歴史と現状について学び、それを通じて現在進行している金融グローバル化現象の本質と意味を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
2020年度春学期の講義の進め方については学習支援システムを参照してください。授業の開始は4月21日です。ただし、オンデマンドでのビデオの視聴となりますので、受講はいつでも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際金融論の講義計画と学び方について説明する
第2回	国際収支	国際収支の概念・項目と国際収支表の作成原理について学ぶ
第3回	国際決済のメカニズムと外国為替	国際貿易取引と国際送金の流れと外国為替の本質について学ぶ
第4回	外国為替相場	外国為替相場の種類について学ぶ
第5回	外国為替市場	外国為替市場の構造と銀行による為替リスク管理について学ぶ
第6回	為替相場制度と為替介入	固定相場制および変動相場制のメカニズムと外国為替市場への介入について学ぶ
第7回	先物為替と金利平価	金利裁定取引とその結果成立する金利平価について学ぶ
第8回	外国為替相場の理論(1)	外国為替相場に関する国際収支説、為替心理説、購買力平価説を学ぶ
第9回	外国為替相場の理論(2)	アセットアプローチの考え方とそのモデルについて学ぶ
第10回	為替リスクの管理	為替リスクの種類とその管理手法としてのデリバティブについて学ぶ
第11回	国際通貨	国際通貨の生成と円の国際化について学ぶ
第12回	国際収支の理論(1)	弾力性アプローチの考え方を学ぶ
第13回	国際収支の理論(2)	貯蓄投資バランスアプローチの考え方を学ぶ
第14回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルとその政策的インプリケーションを学ぶ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第1回	第1次大戦前の国際金本位制	固定相場制度としての金本位制の仕組みについて学ぶ
第2回	両大戦間期の国際金本位制	再建金本位制の仕組みとそれが失敗に終わった要因について学ぶ
第3回	IMFの形成	1930年代の国際通貨上の教訓からIMFが成立したことを説明する
第4回	ブレトンウッズ体制(1)	固定相場制度としてのブレトンウッズ体制の基本的性格について学ぶ
第5回	ブレトンウッズ体制(2)	ブレトンウッズ体制が崩壊した要因について学ぶ
第6回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所・短所と様々な為替相場制度について説明する
第7回	石油危機と累積債務問題	オイルマネーの環流を中心に石油危機と累積債務問題の関連を学ぶ
第8回	1980年代以降の経常収支不均衡問題	レーガノミックスの結果生じたアメリカの「双子の赤字」について学ぶ
第9回	国際金融の政策協調	政策協調の理論とプラザ合意以降の政策協調の流れについて学ぶ
第10回	1990年代の円高問題	円高がもたらす産業空洞化の問題と内外価格差について学ぶ
第11回	EU通貨統合	最適通貨圏の理論とEUの通貨統合の歴史・現状について学ぶ
第12回	通貨危機	1990年代に発生した3つの通貨危機と通貨危機の理論について学ぶ
第13回	通貨危機から金融危機へ	東アジア通貨危機からリーマンショックまでの国際金融について学ぶ
第14回	ユーロ危機	ギリシャ危機が明らかにしたユーロ圏が抱える問題について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムには事前に講義の概要・資料・ノートがアップロードされるのでそれを読んで講義に臨んでほしい。また、各回に練習問題が設定されているのでそれを解いてみることは講義の復習となる。練習問題の解答は順次授業支援システムにアップロードされる。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】
横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部テキスト、2020年.

【参考書】
参考書の一覧は最初の講義で配布するが、毎回の講義でもその講義の参考になる著書を紹介する。以下は、手軽に購入可能でやさしい参考書として推薦できるものである。
秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ［第4版］』有斐閣、2012年
佐々木百合『国際金融論入門』新世社、2017年
上川孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論［第4版］』有斐閣、2012年
中條誠一『現代の国際金融を学ぶ［新版］』勁草書房、2016年
上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007年
神田眞人編『図説 国際金融 2015-2016年版』財経詳報社、2015年

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（70％）と課題の提出（30％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2017年度までの講義は90分講義であったため説明不足になった時があった。そのため講義内容が難しいという感想が寄せられているが、2018年度からは100分講義となり10分講義時間が伸びたので、昨年度までよりも丁寧に講義を進めることが出来ると考える。

【学生が準備すべき機器他】
特にない

【その他の重要事項】
国際金融論Ⅰと国際金融論Ⅱはセメスター科目として独立して履修可能であるが、国際金融論Ⅱは国際金融論Ⅰの知識を前提とする場合があるので通年で履修することが望ましい。
〔関連科目〕
国際経済論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経済論Ⅰ/Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目2群）

【関連科目】
国際経済論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経済論Ⅰ/Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目2群）

【Outline and objectives】
International Finance Ⅰ is a lecture on basic concepts and theories of international finance. International Finance II is a lecture on the history and current status of international finance. By taking this course, students will be able to understand the nature of the ongoing financial globalization.

MAN300FC
国際経営戦略論Ⅰ
3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FC
国際経営戦略論Ⅱ
3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

笠原　民子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済活動のグローバル化の進展している今日、企業にとって海外進出及び海外市場でのビジネス活動（国際経営）は必須となっています。異なる環境下において、どのように競争優位を構築するかは多国籍企業にとって重要な経営課題です。本講義では、なぜ企業は海外展開を図るのか、海外進出している多国籍企業と国内市場を対象とする企業のマネジメント（戦略、組織）はどのように異なるのか等について、企業活動の国際化・グローバル化という視点から、企業が直面している国際経営の理論及び現実について体系的に学ぶことを目指します。

【到達目標】
学生は、多国籍企業が直面するビジネス環境を理解します。海外市場への参入戦略、現地での経営戦略、国際人材戦略等国際経営戦略を公正する各要素を理解します。国際経営戦略を理解するために必要な経営学の理論を学びます。最終的に企業の国際経営戦略を分析できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
本講義は、4 月 24 日（金）16 ： 50 から開始します。遠隔会議システム ZOOM の URL,ID, パスワードを 16 ： 20 頃に、学習支援システムの国際経営戦略論Ⅰ授業内掲示板にて掲示します。講義開始時間までに、待機室に入室しておいてください（講義開始後は、入室を許可することが即時にできない可能性があります。）
オンラインによる講義となるので、カメラとマイクを装備した PC で受講することが望ましい。
講義はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。
講義内容はまず日本とは異なる海外のビジネス環境について講義します。その後、海外直接投資や多国籍企業に関する基本的な事項を講義します。さらに、エントリー戦略、国際経営戦略（戦略、生産、マーケティング、組織、研究開発、人的資源管理等）を講義していきます。講義の中では、多国籍企業にとって重要性が増している新興国市場に関する議論も取り入れます。理論に関する講義だけではなく、事例研究も行います。
インタラクティブな講義を目指しているので、講義中に受講生に意見を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義に関するオリエンテーション
2	国際経営とは何か	国際経営の目的、意義、対象
3	グローバライゼーションとは	グローバライゼーションの促進要因等
4	海外直接投資（FDI）	FDI の動機と類型
5	企業の国際化理論（1）	なぜ企業は海外に進出するのか
6	企業の国際化理論（2）	企業の国際化を説明する理論
7	企業の国際化理論（3）	企業の国際化の拡大を説明する理論
8	エントリー戦略（1）	エントリー・モードの類型
9	エントリー戦略（2）	どのように海外市場に参入するのか
10	国際経営戦略（1）	多国籍企業が直面する 2 つのプレッシャー
11	国際経営戦略（2）	グローバル競争と企業戦略、グローバル経営の持続的競争優位
12	国際経営戦略（3）	国際経営戦略の変容：新興国市場を踏まえたグローバルビジネス、伝統的な多国籍企業との違い
13	外部講師による講演	テーマは改めて通知します。
14	まとめ	春学期のまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	講義概要	これまでの講義の復習と今後の学習内容の概要
16	国際経営戦略（4）	多国籍企業の生産
17	国際経営戦略（5）	多国籍企業のマーケティング
18	国際経営戦略（6）	多国籍企業の組織と戦略
19	国際経営戦略（7）	多国籍企業の研究開発
20	海外子会社（1）	海外子会社のコントロール
21	海外子会社（2）	海外子会社の役割と類型
22	外部講師による講演	テーマは改めて通知します
23	国際人的資源管理（1）	海外派遣者のマネジメント
24	国際人的資源管理（2）	海外子会社の人事政策及び海外派遣者のマネジメント
25	国際人的資源管理（3）	ダイバーシティマネジメント
26	ケーススタディ（1）	アジア諸国における日本企業のビジネスの現状
27	ケーススタディ（2）	欧州諸国における日本企業のビジネスの現状
28	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期
1-3 回：グローバライゼーションが企業に与える影響を考える
4-7 回：企業国際化の論理について学ぶ
8-9 回：エントリー・モードに関する理論を学ぶ
10-13 回：国際経営の基本的な視点及び実践について学ぶ
14 回：まとめ
秋学期
1 回：春学期の講義内容の復習
2-5 回：国際経営の各機能について学ぶ
6-7 回：海外子会社の特徴について学ぶ
8 回：外部講師による講演を通じて多国籍企業のマネジメント（実践）について学ぶ
9-11 回：国際人的資源管理の基本的視座について学ぶ
12-13 回：アジア、欧州諸国における日本企業のビジネスの現状について学ぶ
14 回：まとめ
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席点 50 %、中間試験 20 %、定期試験 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
事例を通じて理論を学ぶ機会を増やしていきたい

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【関連科目】
特になし

【実務経験のある教員による授業】
特になし

【Outline and objectives】
With advanced in the globalization of the business activities, multinational corporations (MNCs) are required to learn and implement global management to
build competitive advantages in different host countries. This class aims to learn international business theory and reality that MNCs face. In particular, this class focuses on the topics that why companies expand their business into foreign countries, differences between domestic management (strategy and organization) for domestic companies and international and/or global management for MNCs .

MAN300FC
日本経営史Ⅰ
3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FC
日本経営史Ⅱ
3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN300FC
日本経営史Ⅰ
3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FC
日本経営史Ⅱ
3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

二階堂　行宣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】
・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講とします。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
・本授業の開始日は5月1日（金）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法や、教材などを、学習支援システム上で提示します。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
　①学習支援システムから教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
　②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（提出期限あり）を何度かこなす。
　③定期試験が実施できない場合には、学習支援システム上で期末課題を出題し、それに答える形で評価する。なお、期末課題は、試験日の代わりとして特定の日付を指定し、短時間のみ公開（6～8時間程度か）することを想定している。
・授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
（4月19日変更　二階堂行宣）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
3	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
4	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
5	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
6	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
7	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
8	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬宰平
9	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
10	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
11	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
12	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
13	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
14	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	復習：幕末～明治期における日本経営の概観
2	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
3	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
4	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
5	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：久原房之助と鮎川義介
6	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済①
7	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済②
8	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
9	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
10	戦後復興期～高度経済成長期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
11	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、その歴史的発展について学ぶ。
12	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、そこにおける代表的な企業の経営発展について学ぶ。
13	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、そこにおける代表的な企業の現況について、歴史的な経緯をふまえつつ学ぶ。
14	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004年）。
②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史［新版］』（有斐閣、2007年）。
③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧　補訂版』（東京大学出版会、2010年）。
④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011年）。
⑤三和良一『概説日本経済史　近現代（第3版）』（東京大学出版会、2012年）。
⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012年）。
⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013年）。
⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016年）。
⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】
・春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日（5月1日）までに学習支援システムで提示します。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、課題や試験はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。
（4月19日変更　二階堂行宣）

【学生の意見等からの気づき】
・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・「授業のポイントがつかみにくい」という声に対しては、授業中に復習の時間を設けたり、板書の機会を増やすことで対応します。

【学生が準備すべき機器他】
・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

【関連科目】
・産業史Ⅰ／Ⅱ
・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】
・Business History of Modern Japan.
・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

MAN300FC
経営分析Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FC
経営分析Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

高橋　美穂子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の主たる目的は，企業を分析，評価するための手法を学ぶことにあります。講義では，企業の公表する財務会計情報や定性情報を用いて，企業を分析，評価するためのフレームワークを解説します。

【到達目標】
本講義の到達目標は，受講生が企業を評価するために必要な知識とスキルを習得することにあります。
経営分析Ⅰ（春学期）の目標は，受講生が講義で学んだ分析手法を用いて，企業の「過去・現在」についてそれぞれの分析に基づいた見解に到達することです。
経営分析Ⅱ（秋学期）の目標は，受講生が企業の「過去・現在」（経営分析Ⅰ）の結果に基づいていかに「将来」を予測するのかを学び，予測値と企業価値の理論的な関係を理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインでの開講となります。それにともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。4月24日までに具体的な授業の進め方などを学習支援システムで提示します。本講義の履修を計画している学生は学習支援システムで仮登録をしてください（4/16変更）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方，経営分析，企業評価の意義
2	企業評価のフレームワーク	企業評価の全体像
3	情報収集	重要な情報とその入手方法
4	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
5	事業の理解（2）	企業戦略分析
6	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系
7	会計分析（2）	財務会計情報（システム）の限界
8	財務比率分析（1）	財務比率分析の視点
9	財務比率分析（2）	成長性の分析・収益性の分析
10	財務比率分析（3）	ベーシックROE分解
11	財務比率分析（4）	利益率の分析
12	財務比率分析（5）	企業戦略と利益率の関係
13	財務比率分析（6）	回転率の分析
14	まとめ	春学期の総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方，経営分析，企業評価の意義
2	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
3	春学期の復習（2）	ベーシックROE分解
4	収益性の分析（1）	アドバンストROE分解（1）
5	収益性の分析（2）	アドバンストROE分解（2）
6	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率
7	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係
8	貸借対照表項目の予測	過去の比率に基づいて貸借対照表項目を予測する
9	損益計算書項目の予測	過去の比率に基づいて損益計算書項目を予測する
10	貨幣の時間的価値と割引計算	貨幣の時間的価値，年金および年金型投資商品の現在価値
11	資本コスト	資本コストの推定方法
12	企業評価理論（1）	配当割引モデルと残余利益モデル
13	企業評価理論（2）	残余利益モデルの特徴
14	まとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容（特に講義中に行った練習問題や課題）が理解できるよう，復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
S.H. ペンマン著，荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』，有斐閣，2018年
ランドホルム他著，深井忠他訳『企業価値評価　eval による財務分析と評価』，マグロウヒル・エデュケーション，2015年
乙政正太著『財務諸表分析（第2版）』，同文舘出版，2015.
桜井久勝著『財務諸表分析』，中央経済社，最新版.

【成績評価の方法と基準】
春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は学習支援システムで提示します（4/16変更）。

【学生の意見等からの気づき】
公表されている財務諸表を用いて分析した点が面白かったとの意見がありましたので，引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
講義中に問題演習を行う場合がありますので，授業には電卓を持参してください。
また，企業の有価証券報告書をダウンロードし，財務比率の計算などを行う場合があります。携帯電話で確認するのが難しい場合はパソコンなどを持参してください。

【その他の重要事項】
簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ，会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが，受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば，遠慮なく質問してください。
講義環境の維持のため，私語には厳しい態度で対応します。

【関連科目】
財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
The primary objective of this course is to prepare students understand how to analyze and value business firms. Students learn an effective framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

MAN300FC
経営分析Ⅲ

3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FC
経営分析Ⅳ

3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

福多　裕志

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析Ⅲの Ⅲは授業の難易度を示すものではなく、同一名称の科目を異なる教員が担当するので便宜的に付加したものである。Ⅳについても Ⅲと同様、便宜上の付番である。
本科目のテーマは、いかなる組織にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際のデータを処理しながら着実に習得することである。

【到達目標】
本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅲでは、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。経営分析Ⅳでは、株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定プロセスを考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

[重要]
本授業の開始日は 4 月 27 日（月）とし、まず学習支援システムより第 1 回のスライドをダウンロードしてください。4 月 27 日（月）は ZOOM による授業を実施しません。5 月 4 日（月）は、当科目への参加予定者に、今後の ZOOM 授業への準備等をお願いすることとし、スライドを使用し、講義する実際の授業は行いません。5 月 11 日（月）の第 2 回目授業では、ZOOM による試験的授業を実施する予定です。詳細は、第 1 回授業のスライドに示されておりますので確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第 3 回	財務諸表の枠組み： BS と IS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第 4 回	財務諸表の枠組み： CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ ROS、ROE、ROA 等について説明
第 10 回	収益性：その 2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第 11 回	損益分岐点分析の基本	固変分解、最小二乗法
第 12 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用	損益分岐点比率、安全余裕率
第 13 回	成長性	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明
第 14 回	基本統計量のまとめ	エクセルを用いて各比率の基本統計量を算出し、財務諸表分析への応用を議論

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期講義内容の概略および株価関連指標：その 1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第 16 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明
第 17 回	外国企業（ヨーロッパ、アジア）の財務諸表分析	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第 18 回	外国企業（米国）の財務諸表分析	EDGAR より米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第 19 回	総合評価：その 1	学習した指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第 20 回	総合評価：その 2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第 21 回	経営分析の応用：その 1	財務諸表分析情報に基づき、確実性、リスク下における意思決定原理－期待値原理、期待値・変動係数原理等－の考察
第 22 回	経営分析の応用：その 2	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第 23 回	経営分析の応用：その 3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第 24 回	経営分析の応用：その 4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 25 回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第 26 回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第 27 回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第 28 回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男『要説　経営分析　五訂版』森山書店, 2016 年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999 年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002 年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994 年.
6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版 ,2012 年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996 年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第 2 版』東洋経済新報社, 2006 年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003 年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験 80%、発表 20%
受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

[重要]
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システム上で提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅲ' we focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis Ⅳ' decision-making process will be focused based on ratios discussed in the spring semester.

PRI300FC

計量経営分析Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

高橋　慎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計データ分析は、分野を問わず重要なスキルです。経済やファイナンスでは、GDP や株価のような数量を一定期間（例えば、1 日、1 月、四半期、1 年など）記録した「時系列データ」を主に扱います。本講義は、時系列データ分析の基本理論と実証手法を学びます。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】
・時系列データ分析の理論を習得する。
・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Zoom によるインタラクティブ授業を 5 月 8 日に開始します。
・Zoom のミーティング ID とパスワードは授業前日に通知します。
・Zoom によるインタラクティブ授業では質疑応答を主な内容としますので、事前に資料を読んで準備してください。
・資料は授業支援システム経由で配布します。
・質問はシステムの「授業内掲示板」でも受け付けます。
・統計ソフトを利用したデータ分析演習を主に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要について説明します。また、様々な分野におけるデータ分析の重要性について学びます。
2	R の基本操作	統計ソフト R のインストールと基本操作について学びます。
3	記述統計	度数分布とヒストグラム、平均値などの代表値、分散や標準偏差などのばらつきの指標について学びます。
4	2 つの変数間の関係	散布図と相関係数・共分散について学習します。また、2 つの質的変数間の関係についても学びます。
5	回帰分析	回帰分析の基礎的事項を学びます。
6	時系列分析の基礎 1	時系列分析の目的、時系列データの種類、基本統計量と時系列モデルを学びます。
7	時系列分析の基礎 2	定常性とホワイトノイズという時系列分析の基礎概念と、自己相関の検定を学びます。
8	ARMA 過程 1	時系列モデルの基礎である ARMA 過程の性質を学びます。
9	ARMA 過程 2	ARMA 過程の定常性と反転可能性を学びます。
10	ARMA 過程 3	ARMA モデルの推定法を学びます。
11	ARMA 過程 4	ARMA モデルを評価する方法を学びます。
12	予測 1	時系列分析における予測の基礎を学びます。
13	予測 2	ARMA 過程の予測を学びます。
14	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
沖本竜良 (2009)『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店

【参考書】
本橋永至 (2015)「R で学ぶ統計データ分析」オーム社

【成績評価の方法と基準】
・宿題および演習レポート： 50 %
・期末課題： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
フリーの統計ソフト R を利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
・基礎統計学 I/II の知識を前提とします。
・初回に事前知識を確認するために小テストを行います。
・受講人数が多い場合は、小テストの結果をもとに履修制限を行うことがあります。
・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
計量経営分析Ⅱ

【Outline and objectives】
Statistical data analysis is an important skill irrespective of fields. In economics and finance, we mainly use “time-series data" that records quantities such as GDP and stock prices over a period (e.g., a day, month, quarter, year, and so forth). In this class, we learn the basic theory and empirical methods of the time-series analysis. We also acquire practical skill by performing actual data analysis using free statistical software R.

PRI300FC

計量経営分析Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

猪狩　良介

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経営／ビジネスの現場でも統計学とデータ分析のニーズは非常に高まっています。また、経営／ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があり、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、様々な統計モデリング手法を学ぶとともに、それを経営分野のデータに応用することを目的としています。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】
・様々な統計モデルを習得し、他の人に説明できる。
・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／統計学の復習	講義概要について説明します。また、統計学の基礎的な内容 (記述統計や代表的な確率分布等) について復習します。
2	統計ソフト R の導入・復習	統計ソフト R のインストールおよび基本的な使い方を勉強・復習します。
3	回帰分析の応用 (1)	重回帰分析を学びます。また、係数の検定や変数選択について学びます。また、回帰分析を R で実行します。
4	回帰分析の応用 (2)	回帰分析の診断方法や多重共線性、変数選択について学びます。
5	2 値データの回帰分析 (1)	2 値データを目的変数としたロジットモデルとプロビットモデルについて学びます。
6	2 値データの回帰分析 (2)	最尤法とモデル選択、検定について学びます。
7	2 値データの回帰分析 (3)	ロジットモデルとプロビットモデルを R で実行します。
8	順序・名義データの回帰分析 (1)	順序データを目的変数とした回帰分析を学びます。また、R による演習を行います。
9	順序・名義データの回帰分析 (2)	名義データを目的変数としたロジットモデルを学びます。また、R による演習を行います。
10	計数データの回帰分析	件数や個数といった計数データを目的変数とした回帰分析を学びます。また、R による演習を行います。
11	パネルデータの解析 (1)	時系列データとクロスセクションデータを合わせたパネルデータの分析について学びます。
12	パネルデータの解析 (2)	固定効果モデルと変量効果モデルについて学びます。また、R による演習を行います。
13	まとめ (1)	本授業の復習とまとめを行います。
14	まとめ (2)	発展トピックスについて紹介します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・金明哲 (2017)『R によるデータサイエンス-データ解析の基礎から最新手法まで　第 2 版』森北出版.
・福地純一郎・伊藤有希 (2011)『R による計量経済分析』朝倉書店.
・藤井良宜 (2010)『カテゴリカルデータ解析 (R で学ぶデータサイエンス)』共立出版.

【成績評価の方法と基準】
・宿題および演習レポート（50 %）
・期末課題 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】
データを用いた演習に重点を置き、より実践的な内容を扱います。

【その他の重要事項】
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
統計学入門
基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
計量経営分析Ⅰ

【Outline and objectives】
In recent years, the skills of statistics and data analysis are required even in the management / business field. In addition, to properly make decisions in the management / business context, it is necessary to make objective judgments based on statistical theory and data, and that requires knowledge of statistics. In this course, we will learn various statistical modeling techniques and apply them to data in the management field. In addition, you can acquire practical skills by performing actual data analysis using free statistical software R.

INF300FC
システム管理論Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

INF300FC
システム管理論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

児玉　靖司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期（Ⅰ）は、ICT(情報通信技術) の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。
秋学期（Ⅱ）は、ICT に関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】
情報学の基礎として ICT(情報通信技術) の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
〔授業の方法〕授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト (確認テスト) を行い、理解度を調査しながら進める。
さらに、本年度は米国滞在２年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。
〔補足〕
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020 年 4 月 23 日（木）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第 2 回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第 3 回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第 4 回	要求分析（1）	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第 5 回	要求分析（2）	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第 6 回	外部設計（1）	システムへの入出力について主に 設計する外部設計について学ぶ。
第 7 回	外部設計（2）	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第 8 回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第 9 回	テスト手法について（1）	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第 10 回	テスト手法について（2）	システム開発におけるテスト手法の具体例について学ぶ。
第 11 回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、 オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第 12 回	2 進数について (1)	システム開発における基本的な知識として 2 進数について学ぶ。
第 13 回	2 進数について (2)	浮動小数点の 2 進数表現、補数の表現について学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の意義について学ぶ。
第 2 回	情報セキュリティ	コンピュータウィルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第 3 回	新聞売り子の問題（1）	新聞売り子の問題について学ぶ。
第 4 回	新聞売り子の問題（2）	新聞売り子の問題について応用事例について学ぶ。
第 5 回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第 6 回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例を学ぶ。
第 7 回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第 8 回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第 9 回	ゲーム理論（3）確率を用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第 10 回	ゲーム理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第 11 回	ゲーム理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第 12 回	線形計画法（1）	線形計画法について概略を学ぶ。
第 13 回	線形計画法（2）	線形計画法について応用を学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講後､指定する。原則としてパワーポイント（PDF）による資料を Classroom より配布する。

【参考書】
開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】
（課題）確認テストおよび取り組み姿勢 (14%)、定期試験 (86%) により評価する。
〔補足〕
オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫 (進度をやや遅く) する。

【学生が準備すべき機器他】
PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】
As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

MAN200FD
マーケティング・マネジメント論Ⅰ

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN200FD
マーケティング・マネジメント論Ⅱ

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

竹内　淑恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）やマーケティングの４ P（製品、価格、プロモーション、流通）などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

この講義によって、今日のマーケティングの本質をとらえた顧客価値と顧客リレーションシップの革新的な枠組みを理解することができます。

【到達目標】
・マーケティングの理論と実務について理解する。
・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の授業については、次のように修正します。
録画配信オンデマンド型で授業を進めます。テキストの第 1 章から第 7 章までビデオ収録した講義による視聴学習 (7 回分) と、それぞれの章から出題される小レポートの作成 (7 回分) で構成します。受講生は、水曜 2 限の授業時間に縛られず、自分の都合のよいときにあらかじめ収録したビデオを視聴して学習してください。4 月 22 日から 7 月 29 日までの期間に、3 回に分けて、第 1 章から第 7 章までを配信する予定です。配信スケジュールは学習支援システムで公開した「マーケティング・マネジメント論Ⅰガイダンス」資料で確認してください。講義資料は学習支援システム「教材」に、また、小レポートのテーマは「課題」に随時掲載します。
なお、ゲストスピーカーによる講義は、教室での授業ができないため、中止する予定です。
オンデマンド授業の視聴方法は、以下の通りです。
1. 法政ポータルサイト（Hoppii）ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス　（統合認証 ID とパスワードを入力）
URL ： https://hoppii.hosei.ac.jp/
または、https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/
2. クラス一覧から「マーケティング・マネジメント論Ⅰ」を選びクリック、教科一覧から「マーケティング・マネジメント論Ⅰ」をクリック、
　章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴
3.「終了」ボタンを押して視聴終了
以下は修正前の内容です。
春学期：マーケティングの定義や、送り手である企業レベル (マーケティング組織、競争戦略、STP など)、受け手である消費者レベル (消費者行動、カスタマー・インサイトなど) という観点からマーケティングを捉える。
秋学期：マーケティングの要といえる「マーケティングの 4P」(Product, Price, Promotion, Place) について学ぶとともに、ダイレクト・マーケティングやオンライン・マーケティングといったマーケティングの革新に対する理解を深める。
春学期・秋学期ともゲストスピーカーを招いて、実際の企業のマーケティング活動について講演をいただく予定です。詳細は決まり次第、授業内で伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について概説する。
第 2 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 1 章　マーケティングの本質	マーケティングの定義、マーケティングの 5 つのステップについて説明する。
第 3 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について説明する。
第 4 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について説明する。
第 5 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について説明する。
第 6 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について説明する。
第 7 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 4 章　マーケティングの基本枠組み	STP について説明する。
第 8 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出について説明する。
第 9 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング・リサーチについて説明する。
第 10 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性について説明する。
第 11 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動②	購買行動のタイプ、購買者の意思決定プロセスについて説明する。
第 12 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド①	製品、サービスについて説明する。
第 13 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて説明する。
第 14 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	ゲストの人選、テーマ設定、日程 (シラバスでは仮に 14 回に設定している) 等については、これから交渉するため、詳細は授業にて伝える。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセスと新製品のマネジメントについて説明する。
第 2 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクル、製品のグローバル展開について説明する。
第 3 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供①	マーケティング・チャネルの本質と重要性について説明する。
第 4 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・チャネルの管理について説明する。
第 5 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 10 章　価格設定①	価格設定の重要性、新製品の価格設定戦略について説明する。
第 6 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 10 章　価格設定②	価格調整と価格変更について説明する。
第 7 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得①	コミュニケーション・ミックス、統合型マーケティング・コミュニケーションについて説明する。

第 8 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算とコミュニケーション・ミックスについて説明する。
第 9 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ①	マーケティングにおける広告、広告戦略の展開、広告媒体の選定について説明する。
第 10 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ②	広告に対する評価と広告会社の利用、パブリック・リレーションズについて説明する。
第 11 回	テーマ 4 ：顧客価値の伝達と説得 第 13 章　人的販売と販売促進	セールス・フォースの管理、セールス・プロモーションについて説明する。
第 12 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングについて説明する。
第 13 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングについて説明する。
第 14 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	ゲストの人選、テーマ設定、日程 (シラバスでは仮に 14 回に設定している) 等については、これから交渉するため、詳細は授業にて伝える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著　『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦　『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】
・春学期、秋学期ともリアクションペーパー提出 30 点、定期試験 70 点 (計 100 点) とし、評価を決めます。
・リアクションペーパーを提出しないと単位を取ることは相当難しくなります。必ず提出してください。
・ペーパーを作成する際の剽窃行為、定期試験における不正行為は厳に慎んでください。
・定期試験において、学生証番号を誤ってマークした場合は、D(不合格) あるいは E(未受験) になることをここに明記しておきます。

【学生の意見等からの気づき】
・2020 年度から開講する新規科目のため、アンケートを実施していません。旧カリキュラムの専門基礎科目 B 群「マーケティング論」のアンケートでは、私語への注意喚起の要望が多く見受けられました。熱心に受講している人の迷惑にならないよう、私語への注意を徹底したいと思います。ご協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
資料は授業支援システムを用いてダウンロード形式 (pdf ファイル) で配布する予定です。スマートフォンでは画面が小さく見にくいと思われるので、タブレットやノート PC などペーパーレスで閲覧できる機器があるとよいでしょう。

【その他の重要事項】
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる重要な科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning) and marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

This class will help students to understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

ECN200FA
金融論Ⅰ（2019 年度以降入学者）
市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FA
金融論Ⅱ（2019 年度以降入学者）
市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FA
金融論Ⅱ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FA
金融論Ⅰ（2018 年度以前入学者）
2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

稲葉　圭一郎

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜授業の概要＞
経済社会を生きていく私たちは、様々な立場で、金融に関わっていきます。そうした立場は、私的な生活者としてのものを含み、さらに仕事の面では、職種や職責に応じて多岐にわたるものとなります。また、グローバリゼーションが進展するもとで、私たちは、私生活・仕事の両面で、国際的な視点を持つことも求められています。これらを踏まえて、本授業は、多様かつ実践的な視座から、金融の意義や機能を解説します。
＜授業の目的＞
履修生は、今後、国際化が進む経済社会において、①家計の運営、②企業財務の管理、③事業会社や金融機関の経営、④金融資産への投資、さらには⑤公共政策の立案といった役割のいずれをも果たし得ます。このように多面的な人生を有意義に過ごすためには、様々な金融問題を主体的に考えた上で、適切な対応策を講じていくことがとても重要になります。そのような対応力の基盤を作ること、これが本授業の目的です。この目的を達成するため、本授業では、履修生に基本的な用語、概念、そして考え方をしっかり理解してもらいます。

【到達目標】
私生活と仕事の両面において、金融に関する様々な問題を主体的に考え、適切に対応できる大人になること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
スライドと板書によって進めます。スライドについて、重要度に応じて、履修生に配布することもあります（配布しないものもあります）。毎回、授業の冒頭に、前回授業に関する「質問タイム」を設けます。さらに、不定期に、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	貨幣について①	貨幣の機能、根拠、および小史
2	貨幣について②	決済の仕組み、新しい決済手段、およびビジネス展開
3	企業経営①	財務諸表（バランスシート等）の基本な構成要素とその経済的な意味
4	企業経営②	資金調達の方法（社債、株式、ローン、内部留保）、「資本コスト」の重要性
5	企業経営③	経営状況の分析（様々な財務指標の算出方法やその見方）、倒産可能性、「MM理論」、企業による現金保有
6	企業経営④	企業統治：「情報の非対称性」、資金調達方法とステークホルダー（利害関係者）、「ペッキング・オーダー仮説」、制度的な手当て
7	株式投資①	株式の基本事項（配当や議決権）、「配当割引モデル」、株価評価に用いる代表的な指標
8	株式投資②	「期待効用理論」、「マルチ・ファクター・モデル」、「効率的市場仮説」
9	株式投資③	事業投資や M&A
10	債券投資①	債券の基本事項（期間の長短、割引債と利付債、固定利付債と変動利付債、国債と社債、担保の有無、資産担保証券）
11	債券投資②	様々な「利回り」指標、イールド・カーブ、フォワード・レート
12	外国為替	外国為替レートの意味と決定理論、各国の外国為替相場制度、「国際金融のトリレンマ」
13	デリバティブス	基本的な機能や長所、種類、価格決定のしくみ
14	ポートフォリオ・セレクション	投資の効率性、分散投資の意義

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	日本の金融史①	戦前：富国強兵、殖産興業、太平洋戦争
16	日本の金融史②	戦後 20 世紀：混乱、高度成長、バブル生成・崩壊、「メインバンク制度」、金融ビッグバン
17	日本の金融史③	戦後 21 世紀：低成長、高齢化社会、国内における資金循環の実相、「貯蓄から資産形成へ」、IS バランス、国際収支
18	家計の運営①	ライフ・イベント（老後を含む）、世帯主の財務諸表（バランスシート等）、住宅ローンや消費者ローン、複利計算の重要性
19	家計の運営②	資産形成の重要性：様々な投資商品、優遇税制、年金、保険
20	中央銀行（日本銀行）の仕事①	三大機能：銀行の銀行、政府の銀行、発券銀行
21	中央銀行（日本銀行）の仕事②	過去における伝統的な金融政策の展開：預金準備制度、窓口規制、公開市場操作、短期金利の誘導、インフレ・ターゲット等
22	中央銀行（日本銀行）の仕事③	最近における非伝統的な金融政策の展開：ゼロ金利政策、量的緩和政策等
23	金融の発展と経済の成長	金融システムの類型化（銀行型・市場型）、内生的成長論、新しい課題（金融包摂やグリーンファイナンス）
24	金融行政（金融庁）の仕事①	金融機関（銀行、保険会社、証券会社）の監督、業態別の規制のあり方

25	金融行政（金融庁）の仕事②	市場インフラの整備（各種金融市場、取引所、情報開示、適合性原則）や金融の新しい担い手の育成（ベンチャー・キャピタル、フィンテック企業）
26	政府系金融機関の意義	「市場の失敗」への対応、肥大化による民業圧迫、中小企業金融を巡る論点
27	金融グローバリゼーション	国際通貨制度の発展、「国際金融のディレンマ」、自由化の進展、リーマン危機、ドルの基軸性、G20 プロセス
28	金融の将来	個人としての金融サービスの使い方、ビジネスとしての金融サービスのあり方や収益性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要です。復習はとても重要です。目安としては予習 0 時間、復習 4 時間。
復習では、授業で学んだ用語、概念、および考え方をしっかり確認しましょう。その際、適宜、参考書（後述）や用語辞典を参照してください。あやふやな点や疑問点は、翌回の授業における「質問タイム」を活用して、その都度、解消するように心掛けてください。なお、用語辞典については、市販の書籍に加えて、各種業界団体や大手金融機関のホームページにて無料で閲覧できる各種用語集も便利です。
そうした復習（確認作業）を支援する目的で、不定期に宿題を出します。宿題を行うことは当然のこととします。このため、評価の対象としないほか、提出も求めません。翌回の授業において、複数の履修生から口頭にて回答を集め、教室内にてそれらを吟味することがあります（アクティブラーニング）。これを実施する場合は、事前に予告します。
また、各回の授業において、理解の深化に役立つ書籍を紹介することもあります。履修生は、自分自身の興味や意欲に従って、適宜、閲読しましょう。
授業中における動画撮影は禁止します。録音したい履修生は、事前に、講師に対してその旨を諮って下さい。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
植田和男「[図解] 大学 4 年間の金融学が 10 時間でざっと学べる」（KADOKAWA）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。
期末試験はマークシート形式であり、①文章中の空欄に入るべき用語や数字の選択や、②用語の正しい意味の選択が求められます。
100 点満点中、60 点以上が合格となります。成績は法政大学の成績評価基準にそって付与します。
受講と復習を適切に続けた場合において問題なく単位が取得できるような難易度の試験問題を課します。

【学生の意見等からの気づき】
前述のとおり、不定期に、リアクションペーパーの提出を求めます。有益な提言は積極的に採用します。

【学生が準備すべき機器他】
講師による口頭での説明、板書、スライドを自分なりにうまく整理しながら、書き写して下さい。このために、ノート、タブレット、およびラップトップ PC 等を持参して下さい。ノートテイキングは、いまなお重要な社会人スキルです（良い練習の場だと思って下さい）。

【その他の重要事項】
本授業は、「実務経験のある教員による授業」です。
講師は、日本銀行に勤務する現役のサラリーマンです。過去 20 年余り、同行にて、金融市場、金融システム、および景気動向の分析、G20 などの国際関係業務、さらには学術的なファイナンス研究に従事してきたほか、わが国の金融庁やパリにある国際機関（OECD）に出向する機会にも恵まれ、いずれの先でも重要な審議会の事務局において企画・分析の役割を担いました。また、英国の大学（SOAS University of London）に留学する機会を得、PhD を取得しました。実務・学術・政策の 3 面をカバーしながら、また自身の国際経験を踏まえながら、本授業を展開するもとで、金融に関する知的好奇心や学習意欲が、履修生の間で高まっていくことを願っています。

【関連科目】
特に無し。

【Outline and objectives】
[Outline] In the modern economic society, it is inevitable for us to be involved with various financial affairs. These affairs generate in our personal and professional lives, in the latter of which, particularly, they differ substantially by type and responsibility of jobs. The progress of globalisation, meanwhile, requires us to have an international perspective in our personal and professional lives. In response to these circumstances, this course will illustrate the meaning and function of money, banking, and finance from diverse and practical standpoints.
[Objectives] In the future economic society amid of the globalization, students joining this course will play all or some of roles, including (i) handling their family finances, (ii) managing corporate finance, (iii) running business companies and financial institutions, (iv) investing in financial products, and (iv) designing public policies, whole life long. To spend such manifold lives meaningfully, it will be vital for the students to actively deal with their own specific financial issues facing them and to take appropriate countermeasures against the issues. The objective of this course is to help its audience students establish a solid foundation of doing so in the future. To achieve this objective, the course will function as a good place where the students can understand basic and necessary words/terms, concepts, and ways of thinking.

MAN200FD
マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019 年度以降入学者）
市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD
マーケティング・リサーチⅠ（2018 年度以前入学者）
3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

西川　英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。
なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の 2 点である。
①ケースをもとに、インタビューや観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【加筆】
初回授業は、4 月 28 日から実施します。なお、この授業は少なくとも前半は ZOOM を使用し、オンラインで実施します。
履修を希望される方は、4 月 24 日 AM10 時までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。4 月 24 日中に、電子教科書と紐つけます。仮登録は、それ以降でも可能ですが、電子教科書との紐つけが遅れることをご了解ください。
事前課題のための電子教科書の購入方法（5/10 までは無料利用可能）や、授業の参加方法は、学習支援システムの授業情報表示で、ご確認ください。
————-
一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。
電子教科書での講義
そのため、大学生協の電子教科書（アプリの利用）を用いて、生協より同書へのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうけることで、双方向の講義を実施する。
コミュニケーションシートでのフィードバック
授業終了後に提出のコミュニケーションシートにより疑問点やコメントをアップし、次週の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	**ライオン** ・電子教科書を使った講義の進め方、テキスト第 1 章
第 2 回	インタビュー法	**資生堂** ・テキスト第 2 章
第 3 回	観察法（消費者の行動観察）	**デザイン企業 IDEO** ・デザイン、テキスト第 3 章
第 4 回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	**日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 深澤勝義さん講演**
第 5 回	リード・ユーザー法（先端的ユーザーの活用）	**3M、無印良品** ・テキスト第 4 章
第 6 回	アイデア発想	**TOTO** ・たまごっち、テキスト第 5 章、最終レポートの説明
第 7 回	コンセプト開発	**エースコック** ・ユニチャーム、テキスト第 6 章
第 8 回	プロトタイピング（試作品）、コンテスト・テスト（定量調査）	**IDEO、ハウス** ・テキスト第 7 章、第 10 章
第 9 回	企画書作成、プレゼンテーション	**フジッコ、スティーブ・ジョブスなど** ・テキスト第 14 章、第 15 章
第 10 回	早期優秀レポートの報告	**レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有
第 11 回	優秀レポートの報告	**レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有
第 12 回	中止	中止
第 13 回	中止	中止
第 14 回	中止	中止

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、双方向の講義のため、電子教科書の各章で、当該章で最も重要だと思うキーワード 1 つを選択し、その理由とそれに関連した事例を「コメントをつける」（共有する）でアップすること。詳しくは、授業支援システムの「コメント方法.pdf」を確認のこと。なお、当日若干名に発言を求め、発言された場合のみ加点あり。
本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大学生協の電子教科書（西川英彦・廣田章光『1 からの商品企画』碩学舎、2012 年）。
購入方法は、授業支援システムの授業情報表示を確認のこと。講義や事前課題の評価は電子版をもとに進めるので注意すること。

【参考書】
ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年

【成績評価の方法と基準】
・レポート（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）50 点
・事前学習（電子教科書の重要なキーワードへのコメント）25 点
・平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）25 点
・早期レポートの提出・報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
・なお、授業内での発言・報告には加点あり。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、2 点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
電子書籍を利用するため、スマホ、あるいはタブレット、パソコンをご持参ください。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline and objectives】
Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives lectures based on actual corporate cases with the theme of "product planning" where research is often used, and concrete examples of research .In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

MAN200FD
マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019 年度以降入学者）市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN300FD
マーケティング・リサーチⅡ（2018 年度以前入学者）3～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

本條　晴一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方向の講義と簡単な演習を行う。
なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の 2 点である。
①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。各授業で、コミュニケーションシートにより疑問点やコメントをアップし、次週の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。
演習は、無料統計ソフト R を用いて、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。難しい数式は、使いませんので安心ください。アシスタントによる支援もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	定量調査の楽しさ	**定量調査の概要** ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由
第 2 回	リサーチデザイン	**リサーチプロセスを知ろう！** ・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、R の使い方
第 3 回	データの特徴	**店舗の売上の特徴を知ろう！** ・「平均」 ・「標準偏差」
第 4 回	データの関係①	**顧客の購入金額と来店頻度の関係みよう！** ・相関分析 ・無相関検定
第 5 回	データの関係②	**デザインリニューアルの男女別選好の関係を調べよう！** ・独立性の検定 ・適合度の検定
第 6 回	データの差	**POP 効果を分析しよう！** ・*t* 検定
第 7 回	因果関係	**ざるそばの売上を予測しよう！** ・回帰分析
第 8 回	データの集約	**歯磨き粉の利用要因を集約化しよう！** ・因子分析
第 9 回	報告書	**SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書** ・レポートの説明
第 10 回	アンケート	**アンケートのつくり方** ・尺度、グーグルアンケート
第 11 回	サンプリング	**大学生対象時のサンプルの選び方** ・サンプリング
第 12 回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	**クロレッツなどを展開するモンデリーズ・ジャパンマネージャー東浦和宏さん（元ユニリーバ、P&G 等）講演** ・講演と質疑
第 13 回	早期優秀レポートの報告	**早期レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有
第 14 回	優秀レポートの報告	**優秀レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

【参考書】
恩藏直人・冨田健司『１からのマーケティング分析』碩学舎、2011 年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年

【成績評価の方法と基準】
・レポート（いずれかの定量調査と分析結果）70 点満点
・平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）30 点満点
・早期レポートの提出・報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
・なお、授業内での発言・報告には加点あり。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。
③基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメの確認のため、スマホ、あるいはタブレット、パソコンをご持参ください。また、第 2 回以降は、統計ソフト R を利用するため、パソコンを持参あるいはレンタルでご用意ください。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline and objectives】
Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning.To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives the interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research.In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester,they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis.By learning both, a synergistic effect can be expected.

MAN300FD
消費者行動論Ⅰ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FD
消費者行動論Ⅱ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

新倉　貴士

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】
当科目の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、2019 年までに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようになることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という３つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
春学期の少なくとも前半は、ネット配信による資料配信型とオンデマンド（動画配信）型での開講とする予定です。
それにともなう各回の授業計画の変更については、シラバスと学習支援システムに提示します。
本授業の開始日は、「2020 年 4 月 23 日」とします。
この日までに具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
「消費者行動論Ⅰ」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。
「消費者行動論Ⅱ」では、マーケターと消費者との橋渡し役をするブランドに着目して、両者のコミュニケーションのあり方を様々な角度から理解していきます。
【授業の方法】
主に講義形式により授業を進めます。
毎回、配布資料を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とは何か、市場の把握と消費者理解、マーケティングの 今日的課題と消費者行動分析について講義します。
第 2 回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルについて講義します。
第 3 回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流と系譜、モ チベーション・リサーチの系譜、 ブランド選択モデルの系譜、消費者情報処理研究の系譜、近年の展 開について講義します。
第 4 回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費行動分析の３つのアプローチ、消費 様式の選択メカニズムについて講義します。
第 5 回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化をどう捉えるか、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について講義します。
第 6 回	情報処理のメカニズム	情報処理システムとしての消費者、処理能力と処理資源の限界とその克服、消費者情報処理モデル、消費者情報処理とマーケティ ング対応について講義します。
第 7 回	情報処理の動機づけ	動機としての問題認識、動機づけとしての目標と目標階層、動機づけられるメカニズム、動機づけられた状態としての関与について講義します。
第 8 回	情報処理の能力	情報処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について講義します。
第 9 回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセス、伝統的な意思決定理論、情報過負荷の影響、情報処理の多様性について講 義します。
第 10 回	購買前の情報処理	情報の内部探索、情報の外部探索、情報の解釈メカニズム、解釈の多様性について講義します。
第 11 回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について講義します。
第 12 回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について講義します。
第 13 回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスを捉える視点、情報処理プロセスとマーケティン グ・マネジメント、購買意思決定とマーケティングとの関わりにつ いて講義します。
第 14 回	購買意思決定の特性とマーケティング & ブランド構築と統合型 マーケティングコミュ ニケーション	購買意思決定と提案価値のデザイン、購買意思決定と価値伝達のデ ザイン、購買意思決定とインターネットについて講義します。さらに、コモディティ化からの脱却とブランド構築、ブランド構築のための視点、CBBE から見たマーケティング・マネジメントについて講義します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	当科目についての概要を説明します。
第 2 回	消費者行動とブランドマーケティング	ブランドをベースにした消費者行動とマーケティングとの関係を説明します。
第 3 回	ブランドのアイデンティティとイメージ	マーケターの理想的なブランドアイデンティティが、消費者のブランドイメージにどのように変換されるかを説明します。
第 4 回	消費者志向のブランド理念①	消費者を中心とするブランドマーケティングのあり方を考察します。
第 5 回	消費者志向のブランド理念②	消費者を中心とするブランドマーケティングのあり方と信頼の重要性を考察します。
第 6 回	ブランド認知	ブランド認知について、その分類や役割を説明します。
第 7 回	ブランド連想	知識構造をベースにした連想のあり方を説明します。
第 8 回	ブランド態度①	ブランド態度の機能や構造について説明します。
第 9 回	ブランド態度②	ブランド態度の変容プロセスについて説明します。
第 10 回	消費者とブランドの信頼①	ブランドへの信頼とは何かを構造的な側面から説明します。
第 11 回	消費者とブランドの信頼②	ブランドへの信頼とはどのようにあるべきかを説明します。
第 12 回	ブランドロイヤルティ	ブランドロイヤルティ概念について、様々な角度から説明します。
第 13 回	ブランドスウィッチング	バラエティシーキングなどにみられる消費者の多様性行動を説明します。
第 14 回	授業のまとめ	これまでの授業内容の総括を行い、体系的な知識の確認をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々な理論やモデルを適用して、その様子を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考案してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年。
上記のテキストの要約を印刷物として授業支援システムで配信します。

【参考書】
青木幸弘『消費者行動の知識』、日経文庫、2010 年
田中洋・清水聰、『消費者・コミュニケーション戦略』、有斐閣アルマ、2006 年
新倉貴士、『消費者の認知世界』、千倉書房、2005 年

【成績評価の方法と基準】
例年、「消費者行動論Ⅰ」と「消費者行動論Ⅱ」共に、最終試験（100 %）としていましたが、今年度の春学期は試験期間に通常の教室試験が行えない可能性があります。
したがいまして、ネット配信型の授業への授業方法変更に伴い、成績評価の方法と基準を変更する可能性があります。
詳細は、学習支援システムで通知する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
授業の速度に気をつけながら進める予定です。
板書方法を工夫して進める予定です。
教室の施設を考慮して、マイク音量と照明の程度に配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットを利用できる機器を準備してください。
配布資料を用意する予定です。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ
〔受講上の注意〕
　マーケティング論Ⅰ/Ⅱを履修した上で受講することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.
To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing.
-To understand brand marketing strategy.
-To get creative skills of marketing plans.

MAN300FD
流通論Ⅰ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FD
流通論Ⅱ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

横山　斉理

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ？」「お店？」「トラックでの配送？」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】
到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実に起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更いついては、授業支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
具体的な内容ですが、春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解ために、われわれ消費者にもっとも身近な流通ビジネスである小売業に焦点を当て、そのビジネスの特徴を現実のケースを通じて多面的に学んでいきます。秋学期の小売ビジネスのケースを通じた学習により、抽象的になりがちな内容の理解が容易になるものと思います。
春学期・秋学期を通じて、双方向的な授業を目指します。教員がレクチャーを続けるだけではありません。受講生に発言を求めることもあります。（それほど難しいことを質問したり課したりはしませんのでご心配なく。）
なお、秋学期の内容を深く理解するためには、春学期の内容を押さえておくほうがよいため、通年での履修をお勧めします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	商学の学び方	商学の学び方、授業の進め方について解説する
2	商学の対象	流通とは何か、その全体像を学ぶ
3	流通とマーケティング	流通とマーケティングの関係を学ぶ
4	流通の機能と機関	流通の機能とは何かを解説し、それらを担当する機関を学ぶ
5	流通・商業の生成と発展	流通・商業の生成と発展を歴史をふり返りながら学ぶ
6	経済の成長と流通・商業	経済の成長が流通・商業とどのように関わるのかを学ぶ
7	生産の高度化と流通	生産の高度化が流通にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ
8	商業と小売業	商業と小売業の関係を学ぶ
9	小売機構と小売業	小売機構がどのような構造になっており、どのように変動してきたのかを学ぶ
10	小売市場と競争構造	小売業における競争の特徴について学ぶ
11	買物行動と営業形態	小売業の営業形態と買物行動の関係について学ぶ
12	小売業態	さまざまな小売業態のビジネスの特徴を学ぶ
13	小売業態論	小売業態の動態を理解するための枠組みを学ぶ
14	卸売機構と卸売業	卸売構造の全体像と動態、卸売業の存立根拠について学ぶ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	流通論：オーバービュー	学ぶ内容の全体像を概観する
16	日本型流通	日本型流通の特質について学ぶ
17	小売業態論の展開	小売業態とその発展を理解する理論や枠組みをあらためて理解する
18	小売業態：百貨店	百貨店業態のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
19	小売業態：コンビニ	コンビニエンスストア業態のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
20	小売業態： SPA	SPA 業態のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
21	商業集積	商業集積（商店街やショッピングセンター）のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
22	小売国際化	小売業の国際化を理解し、その現代的課題を考える
23	小売構造のダイナミクス	小売市場の多様性を小売競争から考える
24	事例紹介：アマゾン	アマゾンの事例を通じてインターネット小売業の特徴を学ぶ
25	事例紹介：メルカリ	メルカリの事例を通じて小売業と似て非なるプラットフォームビジネスとは何かを学ぶ
26	事例紹介：ユニクロ	ユニクロの事例を通じてデジタル時代の流通の基本を学ぶ
27	事例紹介：ウーバー	ウーバーの事例に基づいてデジタル時代の流通の拡張を考える
28	全体総括	流通論で学んだ内容の全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、予習より復習が重要です。復習として、授業計画の「内容」に示されたテキストや参考書の該当章を読み直すことが求められます。加えて、日々の生活において、流通に関する現象を意識して観察しておくと、授業の理解がよりスムースになると思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（春学期：全体）久保村隆祐ほか編著（2016）『商学通論〔9 訂版〕』同文舘
（秋学期：前半）石原武政・竹村正明・細井謙一編著（2018）『1 からの流通論〔第 2 版〕』碩学舎
（秋学期：後半）西川英彦・澁谷覚編著（2019）『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎

【参考書】
高嶋克義（2012）『現代商業学〔新版〕』有斐閣アルマ
横山斉理（2019）『小売構造ダイナミクス』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとのない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
静穏な授業環境を実現するために状況をみながら様々な対応をとります。

【その他の重要事項】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。学びに相乗効果が見込めます。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to explore the world of marketing and distribution. Lecture and discussion is conducted for this aim.

MAN300FD
サービス・マネジメント論Ⅰ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FD
サービス・マネジメント論Ⅱ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

木村　純子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期のキャッチコピー「顔出し ZOOM で当てられる授業」
秋学期のキャッチコピー「出席しているだけでは受からない授業」
本講義はサービス・マネジメント論を机上の空論にするのではなく、各受講生がサービス・イノベーションにかかわるリサーチ・クエスチョンを設定し、理論枠組みを説明し、仮説を導出し、データを集め、仮説を検証します。複数のアクティビティを通じて受講生は現実と理論を架橋する力を身につけます。スポーツに例えるならルールを知り技術を上げることになります。サービス・マネジメントの理論を用いて、研究とは何か (［ルール］) を理解し、授業内課題に複数回取り組むことで練習を重ね自身の研究の［技術］を高めます。

【到達目標】
サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。
各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。
　活動を通じて、4 つの力を習得することを本講義の達成目標とします。
1)　自分で問題意識 (リサーチ・クエスチョン) を設定する力
2)　具体的な事例からデータを収集する力
3)　データを用いて自身の仮説を検証する力
4)　自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP5」に関連が特に強く、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【授業開始日： 2020 年 4 月 23 日 (金)12 時 30 分から ZOOM ミーティングルームに入室】
授業は毎週金曜日 13 時 00 分～14 時 40 分まで ZOOM にて顔出し双方向型オンライン授業を実施します。
コロナウイルスの影響で春学期はオンラインによる授業を行います。学生の皆さんにはご不便をおかけいたします。ことさら就職活動を行う 4 年生は将来について大きな不安を抱え落ち着かない気持ちでしょうが、平常心を保ち授業に取組んでいってください。
このプリントを印刷して学期末まで保管してください。
【1】受講条件
本講義を履修するための条件は 6 つあります。
1) 自宅での受講が前提である。友人と画面の共有はできない。
2) 遅刻厳禁。毎週金曜日、メールアドレス宛に ZOOM ミーティングの ID とパスワードが送られてくるので 12 時 50 分までに入室し待機 (着席) する。13 時 00 分から 14 時 40 分まで受講する。
3)ZOOM を用いたリアルタイムのオンライン授業であり、受講生自身も画面に映る。お互いの氏名、顔、動作が見える。
4) 特定の人が指名され発言を促されたり質問に答えたりする。
5) 毎週レポート課題を 14 時 30 分までに添付ファイルで学習支援システムに提出する。
6) 著作権と肖像権の問題から講義資料やビデオ映像のあらゆる撮影と録音をしない。
【2】セッティング
4 月 24 日の第 1 回授業に先立ち、受講するための環境を整えてください。
1) 学習支援システム (hoppii) のアドレスは大学のメールアドレスである。
2) 学習支援システム (hoppii) に自分の証明写真をプロフィール画像としてアップロードした。
3)ZOOM のアカウントを作った。ZOOM アカウント名に学生番号を付ける。(例えば「20F3333 松下幸之助」) 出席確認をするために学生番号を付けて下さい。
4) オンライン授業を受講するためにパソコンあるいはスマートフォンのカメラと音声を使えるようにした。(友人と ZOOM のミーティングをテストして音声等設定できているか試してみた。)
5)Google Classroom を使えるように設定した。
6) 法政大学試験用紙のファイルを毎週自分でダウンロードしてパソコンに保存した。ファイル名は「学生番号氏名授業日」をつけた。(例えば 5 月 6 日のレポートのファイル名は「20F3333 松下幸之助 0506」)
【3】授業の進め方と方法
本講義は ZOOM を用いた講義形式で、教員のレクチャーによってサービス・マネジメントの理論を理解します。各受講生が理解したかどうかは毎回の授業内レポート課題によって確認します。レポートは学習支援システムを通じて 14 時 30 分までに提出します。(当日の授業の 14 時 30 分までに提出されたレポートのみ受け付けます。) 授業後や後日の提出は不可です。
【4】成績評価の方法と基準
授業内レポート　100%
回数に関する事前予告なし。
【5】成績のつけ方
毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 本講義の特徴	1)【就活中でも休めない授業】がキャッチコピーの本講義の説明をします。 2) マーケティングの基本的概念
第 2 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論枠組みの説明
第 3 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論を用いた事例研究
第 4 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論枠組みの説明
第 5 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論を用いた事例研究
第 6 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論枠組みの説明
第 7 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論を用いた事例研究
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論枠組みの説明
第 10 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論を用いた事例研究
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論枠組みの説明
第 13 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論を用いた事例研究
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 本講義の特徴	1)「出席しているだけでは受からない授業」がキャッチコピーの本講義の説明をします。 2) マーケティングの基本的概念
第 2 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論枠組みの説明
第 3 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論を用いた事例研究
第 4 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論枠組みの説明
第 5 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論を用いた事例研究
第 6 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論枠組みの説明
第 7 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論を用いた事例研究
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論枠組みの説明
第 10 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論を用いた事例研究
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論枠組みの説明
第 13 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論を用いた事例研究
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行う場合があります。
　本授業の準備学習と復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　授業支援システムを通じて適宜配布します。

【参考書】
適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート　100%
回数に関する事前予告なし。
【欠席の扱い】
欠席 4 回以上で不合格 (成績は D)。
第 1 回授業 (4 月 24 日) を除く 11 回中 3 回以下 (出席率 64%以上) まで可能とします。欠席が 4 回以上 (欠席率 36%) は D 評価となり不合格です。欠席回数が増えると平均点が.0.7 未満となる可能性があるのでご注意ください。就職活動は欠席の理由になりません。欠席に対して別の課題をお出しすることはありません。コロナウイルスをはじめ体調にはくれぐれもご留意され授業に取組んでください。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ではなく学生同士のインタラクションを望む声がありましたので、講義形式のみならず教員と学生、学生同士のインタラクティヴな演習形式も適宜取り入れることを試みます。

【その他の重要事項】
履修すべき関連科目「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ」「消費者行動論」「製品開発論」「流通論」「国際マーケティング論」
著作権と肖像権の問題から講義資料のスマートフォン等を用いたあらゆる撮影と録音を禁止させていただきます。
授業内レポートに取組む日の就職活動による「サービス・マネジメント論Ⅰ」「サービス・マネジメント論Ⅱ」の欠席は欠席扱いといたします。理由は以下の通りです。
(1)4 年生春学期は就職活動で忙しくなる
4 年生の春学期は就職活動で授業を欠席する日が多くなるということは、1 年生、2 年生、3 年生のころから先輩を見て知っていたはずです。当該学期は単位が取りにくくなることは織り込み済みだったわけですからどのように対処すべきかも考えておくべきです。
(2) 本シラバスに記載されている
本講義の成績評価は授業内レポートに取組むことが明記されています。
(3) 欠席理由の確認が取れない
本当に就職活動で欠席したのかどうかを確認する手立てを講師は持っていません。欠席者の中には企業からのメールを提出できるかもしれませんが、メールがあることが実際に面接に行ったことの証拠にはなりません。場合によってはメールではなく電話で企業から連絡が来る場合もあり、その学生との公平性を欠くことになります。
(4) 公平性
就活生を特別扱いするということは、毎週真面目に授業に出席し課題に取り組んでいる学生に対する逆差別となります。

【Outline and objectives】
In this lecture, each student learns to, instead of making service management theory mere a theory on the desk, 1)set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills. Using the theory of service management, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

MAN300FD
日本経営論Ⅰ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FD
日本経営論Ⅱ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

金　容度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
今年度春学期の日本経営論Ⅰはオンデマンド形式の映像講義を配信する (全 12 講)。第 1 講の配信開始日は 4 月 22 日である。配信日程，アクセスの URL などについては，学習支援システムの「お知らせ」と「教材」で案内する。
評価のために，①毎講レポート (10 回) と，②期末レポートの課題・設問は『学習支援システム』の「レポート」に設定する。
①の毎週レポートは，第 2 講～第 11 講のメディア講義の各講配信期間中に出される設問を指定された締切内に『学習支援システム』の「レポート」を提出すること。各レポートの締切のスケジュールは，メディア配信スケジュールと一緒に『学習支援システム』の「お知らせ」で案内する。
②の期末レポートも，5 月中に『学習支援システム』の「レポート」で課題を提示する。7 月 17 月が締切である。
秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のものの取引 (鉄鋼、自動車部品、半導体) が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツ、韓国である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
3	企業システムの日米比較 1(労使関係)	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係の共通点を検討する。
4	企業システムの日米比較 2(労使関係②)	日米の共通点に注目して、アメリカにおける労使関係の展開過程を検討する。
5	企業システムの日米比較 3(米企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
6	企業システムの日米比較 4(1980 年代以降の米企業システム①)	1980 年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
7	企業システムの日米比較 5(1980 年代以降の米企業システム②)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
8	企業システムの日米比較 6(1980 年代以降の米企業システム③)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
9	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを概観する。
10	日本の企業経営、企業家についての海外での議論の概観	日本の企業経営、企業家についての海外研究者の研究の流れを概観する。
11	日本の企業経営についての海外での議論 1(特殊論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
12	日本の経営についての海外での議論 2(普遍論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
13	日本の経営についての海外での議論 3(普遍論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
14	日本の経営についての国内議論	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	鉄鋼の企業間関係	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
8	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
9	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
10	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
11	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
12	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
13	自動車部品の企業間取引 5(日韓比較)	韓国と日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
14	半導体の企業間関係	半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献は、適宜、「授業支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。参考文献は、毎回の動画講義資料中で提示し、その一部は授業支援システムにも掲載する。

【参考書】
＜日本経営論Ⅰの参考文献＞
①ジェイムス・アベグレン『日本の経営』日本経済新聞社、2004 年
②小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991 年 (第 1 版) 及び、2005 年 (第 3 版)
③ウィリアム・オオウチ『セオリー Z』CBS ソニー出版、1981 年
④ William Lazonick, Sustainable Prosperity in the New Economy,Upjohn Institute、2009
⑤鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年
⑥橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済第 4 版』有斐閣、2018 年
＜日本経営論Ⅱの参考文献＞
① Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.,2015
②金容度『日本ＩＣ産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006 年
③浅沼萬里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年

【成績評価の方法と基準】
春学期の日本経営論Ⅰの成績評価基準は毎週レポート課題 50%(10 回 ×5% = 50%)，期末レポート 50%である。
日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験（70 %）、授業内小試験（30 %）である。授業内小試験は学期ごとに 3 回行われる (1 回 10 %)。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文（学期に 1 回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】
リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語は絶対禁ずる。
日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
The objective of this course is to understand more deeply business management, business strategy and organizational structure in Japan on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures and discussions.

MAN300FD
製品開発論Ⅰ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN300FD
製品開発論Ⅱ

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

田路　則子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。
顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】
以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。
ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
ハイテク製品の構造
・統合される多様な技術知識
・コスト構造
製品開発のプロセス
・研究、開発、製造、販売までのプロセス
・コンセプト・デザインの重要性
・マニュファクチャリング（製造）
イノベーション
・市場と技術の関係
・イノベーションの定義
・ドミナント・デザインの決定
製品開発戦略
・競争戦略論と資源蓄積論
・ライセンシング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
製品開発組織
・研究所と事業部
・プロジェクト・マネージャーの仕事
・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 24 日です。
学習支援システムに受講を登録して、講義資料と映像を取得してください。映像ファイルは短いものはシステム上に、長いものは YouTube の限定 URL に置きます。映像ファイルは原則 2 週間しか、公開しません。課題は、提出期限までに回答してください。
URL ： https://hoppii.hosei.ac.jp/
製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。
・ビジネスケース
・ビデオ教材の利用
半分の事例はケース記述があるので、指示に従って、事前または事前に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。VTR 視聴と事前解説の後で、各自が設問に対する考察を考えるようになっている。
春学期は日本の大企業とスタートアップ (ベンチャー）を、秋学期は米国企業及び日本企業のグローバル化の事例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハイテク製品がもたらす便益
	時計 1 (セイコー)	ラディカル・イノベーションとインクリメンタル・イノベーション
2	時計 2　(セイコー）	コモディティ化
3	時計 3 (カシオ)	製品開発とグローバルブランドの構築
4	液晶テレビ (シャープ)	電子半導体産業におけるコモディティ化
5	医療機器 1　(テルモ)	技術蓄積
6	医療機器 2　(テルモ)	事業ドメインの構築
7	炭素繊維 1 (東レ)	素材の製品開発
8	炭素繊維 2 (東レ)	川上から川下に広がる事業ドメイン
9	半導体露光機 (ニコンとASML)	内部調達と外部調達
10	アライアンスとオープンイノベーション	グローバル化する外部連携
11	日本の起業環境とスタートアップ	資金調達、起業家のキャリア
12	バイオテクノロジー 1（アンジェス MG)	サイエンス型産業への期待と起業
13	バイオテクノロジー 2（アンジェス MG)	サイエンス型産業における事業継続
14	IoT (グラモ)	起業機会認識と市場創造

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション＆コダックと富士フィルム (カメラ)	ラディカル・イノベーションと破壊的イノベーション
16	PC1 (Apple)	コンピュータ産業におけるイノベーション
17	PC2 (Apple)	ドミナント・デザインの決定
18	iOS (Apple)	ビジネス・プラットフォームの構築
19	空調機 1(ダイキン工業）	欧州市場における製品サービス
20	空調機 2(ダイキン工業）	グローバル&ローカル
21	化学素材 1 (積水化学工業)	事業創造
22	化学素材 1 (積水化学工業)	グローバル＆ローカル
23	自動車 (トヨタ）	アジアにおけるローカリゼーション
24	オープンイノベーション（米国とスウェーデン）	外部連携によるイノベーション
25	シリコンバレーの起業環境	イノベーションと起業の聖地を支えるエコシステム
26	IT(BitzerMobile)	移民のシリアル・アントレプレナー
27	半導体 IC(Techwell)	移民が担うハイテク・スタートアップ
28	バイオテクノロジー (Tercica,Tacere)	サイエンス型産業を支えるエコシステム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にケースを読んでおくことを前提する。授業支援システムからダウンロードできる。事前にケースを読むために、2 時間程度の予習が必要となり、受講後の復習に 2 時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
①「イノベーション・マネジメント」近能善範・高井文子　新世社　2010 年
②『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子　東洋経済新報社　2010 年
③『MOT“技術経営” 入門』延岡健太郎 日経新聞社 2006 年

【成績評価の方法と基準】
全部で 4 回程度の課題の提出によって、評価する。なお、ビデオや講義資料全体を理解しないと、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】
なじみのない製品を扱う回もあるが、VTR や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】
リーディング用のケースや講義資料関係は、すべて、学習支援システムからダウンロードできる。PC がなければ、かなり厳しい。３年生なので、PC 利用を期待する。

【その他の重要事項】
関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

【教員の研究テーマ】
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「グローバル戦略」
「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号,pp172-184,2017 年.
③「IT ビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30 巻,pp.312-325,2016 年

④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014
⑤『ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著　白桃書房,pp.133 ～ 159,2013 年.
⑥「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774.2011 年
⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年
⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009 年
⑨『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005 年

【Outline and objectives】
Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

ECN200FD
コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019 年度以降入学者） 市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD
企業財務論Ⅱ （2018 年度以前入学者） 3～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FD
企業財務論Ⅰ （2018 年度以前入学者） 3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FD
コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019 年度以降入学者） 市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

金　瑢晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理など等があり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要な事柄であります。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考えます。

【到達目標】
・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになるます。
・投資案・金融資産・企業の価値が計算出来るようになります。
・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
・資金調達手段の選択について理解が深まります。
・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
2	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
3	キャッシュフローの時間価値 1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
4	キャッシュフローの時間価値 2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
5	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
6	投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
7	投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
8	証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
9	証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
10	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
11	資本構成理論 1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
12	資本構成理論 2	節税効果、修正 MM の命題ⅠとⅡ 倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシ費用、トレードオフ理論、ペッキングオーダー理論、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
13	資本構成理論 3	倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシ費用、トレードオフ理論、ペッキングオーダー理論
14	総括	補足と纏め

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	ペイアウト政策	ペイアウト政策の手段、 配当政策に関する MM 理論、自社株買いと企業価値の関係
16	企業価値の評価 1	フリーキャッシュフローの推計、加重資本コストの推計、継続価値、割引キャッシュフロー法による企業評価
17	企業価値の評価 2	節税効果の確認、修正現在価値法による評価、割引キャッシュフロー法との比較
18	企業価値の評価 3	経済的利益による企業評価、経済的利益と残余利益
19	合併・買収	M&A の経済的メリット、買収案件の評価、敵対的買収と買収防衛策、組織再編、LBO・MBO
20	コーポレート・ガバナンス	エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス、株主対理解関係者、ガバナンス改善のための諸施策、国際比較
21	財務リスク管理 1	リスク・マネジメントと企業価値、リスク・マネジメントの手法、VaR
22	財務リスク管理 2	デリバティブを用いたリスクのヘッジ、フォワード型のヘッジ、オプション型のヘッジ
23	エクイティ・ファイナンス 1	スタートアップの資金調達、ベンチャーキャピタルの役割、新規株式公開の際のパズル
24	エクイティ・ファイナンス 2	新規株式公開のコスト、増資のコスト、増資の種類
25	デット・ファイナンス	ハイブリッド証券、転換社債、ワラント債の仕組みと評価
26	国際財務管理 1	為替リスクのヘッジ、国際金融市場からの資金調達
27	国際財務管理 2	海外投資プロジェクトの評価
28	総括	補足及び纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当授業の理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫著『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

【参考書】
コーポレート・ファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、クイズ及び授業参加度 30 %

【学生の意見等からの気づき】
更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】
授業では、初歩的な計算を行いますが、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】
This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

ECN200FD
デリバティブ入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD
ファイナンス論Ⅱ（2018 年度以前入学者）

3～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FD
ファイナンス論Ⅰ（2018 年度以前入学者）

3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FD
デリバティブ入門Ⅱ（2019 年度以降入学者）

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

山嵜　輝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」、「中央銀行の金融政策を占うには？」、「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを扱う予定です。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員（一種）」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②主要なデリバティブ取引のしくみや活用方法を説明できる。
③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業はネット会議アプリ Zoom を使用し、オンラインで実施します。初回授業は 4 月 22 日（水）午前 10 時 40 分からになります。履修を希望される方は 4 月 20 日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第 4 回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第 5 回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第 6 回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第 7 回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第 8 回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第 9 回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第 10 回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第 11 回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第 12 回	債券と金利の関係（2）	スポットレート、パーレート、LIBOR
第 13 回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第 14 回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 16 回	春学期の復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 17 回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、IRS とその活用方法
第 18 回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第 19 回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第 20 回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、コールとプット、プット・コール・パリティ
第 21 回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第 22 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 23 回	オプション価格理論（1）	１期間２項モデルによるオプション価格の算出
第 24 回	オプション価格理論（2）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 25 回	オプション価格理論（3）	２期間２項モデルによるオプション価格の算出
第 26 回	オプション価格理論（4）	ブラック・ショールズ理論の概説
第 27 回	クレジット・デリバティブ取引（1）	クレジット・デリバティブの概要、CDS とその活用方法
第 28 回	クレジット・デリバティブ取引（2）	リーマン・ショックでは何が起きていたのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を各自でダウンロードして持参してください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。ノート PC やタブレット端末を持ち込んで講義資料を参照しても構いません。

【参考書】
①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
②フィナンシャル・バンク・インスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019 年、日本経済新聞出版社
③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
春学期末・秋学期末に行う筆記試験の結果（100 %）で評価します。デリバティブの知識や理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定です。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。

【その他の重要事項】
教室内での私語は厳禁です。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】
This course provides students with an introduction to derivatives. It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards, futures, swaps, and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle and takeover bid (TOB).

ECN200FD
投資入門（2019 年度以降入学者）

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD
証券経済論Ⅰ（2018 年度以前入学者）

3～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

岸本　直樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では，債券および株式について，「ファイナンス入門」で学んだ内容を確実なものとし、さらに発展した内容を学習します。たとえば，債券については，仮に利子率がほんの少し変化したとき，分析対象の債券の価格がどの程度変化するのかを表す指標（デュレーションと呼ばれます）を学習します。また，株式については，実務家に多用される様々な指標を，実際に存在する企業を例にとって学びます。さらに，海外の債券市場や株式市場についても言及します。
　ちなみに，債券や株式の価格は，それらを発行する企業あるいは組織に関するニュースのほか，経済・社会全般に関するニュースによって大きく動きます。したがって，ファイナンスでは，それらの情報と価格との関係に強い関心を持っています。たとえば，効率的市場仮説と呼ばれる仮説は，それらの情報は債券あるいは株式の価格に瞬時にかつ正確に織り込まれると主張します。この科目では，効率的市場仮説を介して情報が証券価格に及ぼす影響を検討します。

【到達目標】
次の 5 つを到達目標に掲げます。
①「ファイナンス入門」で学んだ債券に関する基礎的知識の定着を確実なものとし，それを的確に適用することができる。
②デュレーション，イールドカーブについて基礎的な知識を習得する。
③「ファイナンス入門」で学んだ株式評価の手法の定着を確実なものとし，それを複雑な問題に対して適用することができる。
④株式に対する主な投資方法について基礎的な知識を習得する。
⑤効率的市場仮説について基礎的な理解を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は 4 月 27 日に実施します。4 月 27 日までに PowerPoint で作成した文書の pdf ファイルを学習支援システムにアップロードします。この科目の履修者は、この pdf ファイルの指定した部分と、教科書の指定した部分を第 2 回の授業までに読んでおいてください。第 2 回の授業で簡単なクイズを実施しますので。また、指定部分について質問等があれば、第 2 回の授業までに質問を学習支援システムを通じて私に送ってください。第 2 回以降の授業も、基本的に、第 1 回及び第 2 回の授業と同様の形式で行う予定です。すなわち、各回の授業で、PowerPoint で作成した文書の pdf ファイルと教科書の両方について事前に読む箇所を指定します。ですので、履修者はそれらの箇所尾を読み、次の授業でクイズを受けて貰います。また、第 2 回と同様、各回までに受けた質問の回答も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	将来価値と現在価値	将来価値と現在価値の復習
2	様々な複利期間に関する金利計算	様々な複利期間に関して将来価値と現在価値を解説する。
3	債券の基礎知識（1）	債券に関する基本用語，債券の種類，債券市場の概説
4	債券の基礎知識（2）	債券の利回り計算，利回りと債券価格の関係
5	債券の基礎知識（3）	債券投資のリスクと債券属性
6	債券の基礎知識（4）	債券投資のリスクと債券属性との関連を概説する。
7	利子率に対する債券価格の感応度	デュレーションの導出，計算方法，性質
8	金利の期間構造と債券評価	イールドカーブの概説，イールドカーブに基づいた債券の理論価格の計算
9	株式と株式市場	株式と株式市場の概説
10	株式評価	配当割引モデルの計算，性質，拡張
11	株式評価と株式投資	マルチプル・メソッドの概説とその適用のほか、投資家に多用される株式投資の方法，株式投資のリスクとリターンについて解説する。
12	効率的市場仮説	効率的市場仮説を介した情報と証券価格の検討
13	休講	2020 年度春学期の特殊事情により 13 回目の授業は開かない。
14	休講	2020 年度春学期の特殊事情により 14 回目の授業は開かない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019 年，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
期末テストが実施できる場合は、期末テストが 70%，授業で実施する小テストと授業参加が 30%のウィエトを占める。他方、期末テストが実施できない場合は、期末テストに代わるものが 50%、授業で実施する小テストと授業参加が 50%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
本科目を担当するのは初めてなので，特にない。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン，タブレット，ノート PC（表計算ソフトの付いたもの）を用意してください。

【その他の重要事項】
授業中の私語は厳禁です。

【関連科目】
ファイナンス入門（必須），ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ，Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
In this course, students review the materials taught in Introduction to Finance and learn more advanced topics about bonds and stocks than taught in Introduction to Finance. For example, students study how a bond price changes relative to a small change in market interest rates, which is measured by what is called duration. Or students study financial ratios used by many practitioners as applied to companies whose stocks are traded on exchanges. Furthermore, students study bond and stock markets in foreign countries.
In general, prices of bonds and stocks change widely as new information about the companies or institutions that have issued those bonds and stocks enters into the market. A hypothesis called efficient market hypothesis claims that information will be incorporated into the prices of bonds and stocks immediately and correctly. The efficient market hypothesis is the last topic covered in this course.

ECN200FD
ポートフォリオ理論入門（2019 年度以降入学者）

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

ECN300FD
証券経済論Ⅱ（2018 年度以前入学者）

3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

岸本　直樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等を通じて投資しなければならない状況に直面するでしょう。「ポートフォリオ理論入門」では，まず，資産に投資するに当たって，資産のどの点に注目し，どのように意思決定すればよいのかについて助けとなるアプローチを学習します。次に，CAPM と呼ばれるモデルを使って，種々の資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンの関係を検討します。

【到達目標】
「ポートフォリオ理論入門」では資産の管理手法と、資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。
①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を理解し簡単な計算ができる。
②ポートフォリオ理論の概要を理解し，第三者に説明できる。
③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、必要に応じて授業内小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	収益率の期待値	収益率の定義、確率変数、期待値の説明を行います。
2	収益率の分散と標準偏差	分散、標準偏差の説明を行います。
3	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観します。
4	共分散と相関係数	共分散のほか、相関係数について説明します。
5	ポートフォリオ理論	投資家が投資資金を各資産にどう投資するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法 (ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を説明します。
6	ポートフォリオ理論	ポートフォリオの収益率の期待値と標準偏差を説明します。
7	ポートフォリオ理論	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を説明します。
8	ポートフォリオ理論	安全資産が存在する場合について投資機会集合を説明します。
9	ポートフォリオ理論	ポートフォリオの最適化について概観します。
10	ポートフォリオ理論	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
11	資本資産評価モデル	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も説明します。
12	資本資産評価モデル	市場ポートフォリオとベータについて説明します。
13	資本資産評価モデル	資本資産評価モデルの導出について説明します。
14	資本資産評価モデル	モデルの実務的な応用について概観します。また全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業ごとに 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の度合いおよび授業内小テストに 30%、定期試験に 70%。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
〔予備知識〕
授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。
〔注意事項〕
「投資入門」は本科目「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、本科目の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお，本科目は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、本科目の履修者には授業に毎回出席することを強く求めます。
なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
Students are not familiar with financial assets, yet will face situations where students have to make decisions regarding investments through defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what to look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets through what is called the CAPM.

ECN300FD
産業組織論Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD
産業組織論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

大木　良子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【2020年4月14日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。頻繁に連絡をしますので、学習支援システムへの仮登録をお願いします。】
経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかする力をつけることを目指す。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックを理論的に学び、それに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点について考察する。
Ⅰでは、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや合併など、寡占市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。
Ⅱでは、製品差別化や価格差別など現実的によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方・ものの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説する。必要に応じて、ワークシートを用いて参加者に自主的に考察する時間を設ける。
学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか
2	市場と競争	企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
3	完全競争市場	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？
4	独占 1	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
5	独占 2	独占企業の意思決定、価格、数量の決まり方と経済厚生
6	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
7	寡占 1	数量を決定して競争する場合（クールノー競争） 企業の数が変化していくと競争はどのように変わっていくか？
8	寡占 2	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
9	ゲーム理論 1	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
10	ゲーム理論 2	いろいろなゲームの均衡を求める
11	ゲーム理論 3	ゲーム理論を用いて数量競争・価格競争を再考しよう
12	垂直的取引制限 1	垂直的取引制限とは？ 企業のどのような行為は競争を阻害するのか？
13	垂直的取引制限 2	垂直的取引制限に関する具体事例の紹介
14	参入阻止	参入阻止と市場競争

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	事例紹介	近年競争政策上問題となった事例の紹介
16	企業行動と法制度	法律や制度がどのように経済主体の意思決定に影響を与えるのか（法と経済学）
17	競争政策	競争政策と産業組織論の関係
18	製品差別化と競争 1	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
19	製品差別化と競争 2	主要な製品差別化の経済モデルの紹介
20	価格差別 1	価格差別の定義と経済モデル
21	価格差別 2	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
22	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
23	合併	合併の経済モデル、合併が市場競争に与える影響
24	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
25	ネットワーク外部性 1	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる市場の事例
26	ネットワーク外部性 2	情報化社会とプラットフォーム間競争
27	ネットワーク外部性 3	多面的市場の定義とそれが見られる市場の事例
28	事例研究によるまとめ	これまで学んだ分析ツールを応用した実際の独占禁止法違反事例を分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018年
『入門　ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年
『プラクティカル　産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年
『産業組織の経済学　第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016年
『競争政策論　第2版』小田切宏之著、日本評論社、2017年
『経営の経済学　第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】
【2020年4月14日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】
宿題 15 %
中間試験 25 %
期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。
授業中に投影するスライドの重要な点を空欄にしている資料を毎回配布します。出席して説明を聞きながら資料の穴埋めをすることに加え、余白にメモを取ることによりご自身で復習しやすいノートを作っていってください。やむを得ない理由で欠席された場合は、翌週以降教員に直接質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、連続した履修を強く薦めます。（Ⅰの内容を前提としてⅡが進められます）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【実務経験のある教員による授業】
経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

COT300FD
情報技術論Ⅰ
3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT300FD
情報技術論Ⅱ
3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

入戸野　健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解する。

【到達目標】
情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説する。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行く。
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日は5月6日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
2	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
3	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
4	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
5	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
6	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
7	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
8	基数の変換	数の表現方法として10進数・2進数などの性質や変換の方法について解説する。
9	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
10	コンピュータの構成装置(1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
11	コンピュータの構成装置(2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
12	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器をPCへ接続するためのインターフェースについて説明する。
13	ICとデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路(IC)の基礎について解説する。
14	デジタル機器とデジタル家電	PCやスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
2	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
3	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
4	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷につい概観する。
5	LANとOA	LANや小規模なネットワークとそのOAへの展開について解説する。
6	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
7	Web技術とeコマース	Webによるサービスの展開方法を解説しeコマースの事例を考察する。
8	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
9	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
10	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
11	情報とセキュリティー	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティーについて考察する。
12	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
13	経営組織と情報化	経営組織・活動の情報化について概観する。
14	応用と展望	IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておく。講義後は各自ノートを見直して要点を整理する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（15％）　：授業には毎回積極的に参加、きちんとノートをとりながら知識を蓄積することが大切である。
課題レポート（15％）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で2回程度出題する。
定期試験（70％）　：期末には定期試験を実施する。
オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの視認性や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で授業支援システムを利用して簡単なアンケートや課題を出題するので、最低限Webへアクセス可能な端末(スマートフォンでも良い)を持参することが望ましい。

【関連科目】
情報学基礎Ⅰ/Ⅱ
プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ
ネットワーク論Ⅰ/Ⅱ
情報学発展Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computer.

MAN300FD
技術管理論Ⅰ

3〜4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FD
技術管理論Ⅱ

3〜4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

近能　善範

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
技術管理論とは、ごく簡単に言えば、「技術を中核に据えた経営戦略論」、あるいは「技術をてこにした経営戦略論」とでも言うべきものです。「技術経営論」や「イノベーション・マネジメント」と呼ばれることもあります。
一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためには、戦略的なマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、研究・技術開発や生産のマネジメントはもちろん、いかにして技術力を新たな顧客価値に結びつけ、ビジネスとして成立・成長させていくのか、といった点がより重要となります。
この授業では、こうした技術管理論に関わる基礎的な内容を、さまざまな業界の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】
この授業では、技術管理論に関わる基本的な考え方や概念などを身につけてもらうことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。
【2020年4月20日追記】
春学期の少なくとも前半は、動画配信を中心としたオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でその都度提示します。
本授業の開始日は、4月21日（火）とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
毎週、配信動画のURLや提出課題についてお知らせしますので、必ず学習支援システム内の「課題」の箇所を確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (1)	技術管理論とはどのような学問か
第2回	イントロダクション (2)	イノベーションとは何か、どうして重要なのか
第3回	イノベーション・プロセス	イノベーション・プロセスのモデルと三つの関門
第4回	イノベーションのパターン (1)	「製品ライフサイクル」
第5回	イノベーションのパターン (2)	「普及曲線」
第6回	イノベーションのパターン (3)	「技術進歩のS字曲線」
第7回	イノベーションのパターン (4)	「A-Uモデル」の説明
第8回	イノベーションのパターン (5)	「A-Uモデル」の応用：「機会の窓」と「シェイクアウト」
第9回	イノベーションのパターン (6)	「ラディカル・イノベーション」と「インクリメンタル・イノベーション」
第10回	イノベーションと企業の競争力 (1)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (1):「大企業病」
第11回	イノベーションと企業の競争力 (2)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (2):「過去の資産の負債化」
第12回	イノベーションと企業の競争力 (3)	「能力増強型イノベーション」／「能力破壊型イノベーション」と企業の競争力
第13回	イノベーションと企業の競争力 (4)	「持続的イノベーション」／「分断的イノベーション」と企業の競争力
第14回	学習成果の確認	まとめと復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第1回	業界標準のマネジメント (1)	「業界標準」とは何か、なぜ重要か、三つの「業界標準」
第2回	業界標準のマネジメント (2)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (1):「ネットワーク外部性」
第3回	業界標準のマネジメント (3)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (2):「クローズド・ポリシー」と「オープン・ポリシー」
第4回	業界標準のマネジメント (4)	「デファクト・スタンダード」の世代交代に伴う戦略
第5回	新製品開発のマネジメント (1)	新製品開発のプロセス
第6回	新製品開発のマネジメント (2)	「製品コンセプト」の開発
第7回	新製品開発のマネジメント (3)	「プロジェクト・スクリーニング」
第8回	新製品開発のマネジメント (4)	「機能設計」
第9回	企業間関係のマネジメント (1)	分業構造のマネジメント
第10回	企業間関係のマネジメント (2)	アウトソーシングのマネジメント：「make or buy decision」
第11回	企業間関係のマネジメント (3)	アライアンスのマネジメント:「距離を保った関係」と「協調的な関係」
第12回	ビジネスシステムのマネジメント (1)	「ビジネスシステム」のマネジメント
第13回	ビジネスシステムのマネジメント (2)	「収益モデル」のマネジメント
第14回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に求めませんが、毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノート、テキストの該当箇所等を読み直し、復習を行うことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010年。
その他に、必要な場合には適宜プリントを配布します。

【参考書】
参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】
Ⅰ・Ⅱとも、「期中のレポート（25点満点）＋平常点 and ビデオ感想（10点満点）＋期末試験（65点満点）レポート」の総合計に基づいて評価します。なお、期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの要望が強いので、企業の具体的な事例を、なるべく数多く盛り込む予定です。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
(1) 技術管理論のⅠとⅡは、できるだけ併せて履修することが望ましい。
(2) なお、授業中の私語や携帯電話の使用、黒板等の写真撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。また、授業中の迷惑行為が目に余る場合には、本授業の単位を付与しません。以上を予めご承知の上で履修して下さい。

【関連科目】
関連科目は、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営情報論Ⅰ/Ⅱなどです。

【Outline and objectives】
"Technology management" means a strategic management leveraged by technology. The goal of this class is to understand basic knowledge and ideas concerning "Technology management" with concrete examples from various industries.

ECN300FD
応用経済学Ⅰ

3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

ECN300FD
応用経済学Ⅱ

3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

宮澤　信二郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営者あるいは部門の責任者は，どのようなことに注意して，どのように行動したら良いのでしょうか。自社の製品をどのぐらい，どのように生産したら良いでしょうか。そのとき製品の価格はどうなるのでしょうか。どのような人を雇って，どのように処遇したら良いでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いでしょうか。この授業では，ミクロ経済学の考え方を企業の生産・販売，人事・組織，財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する），いわゆる，「企業の経済学」，「経営の経済学」について，その初歩を学びます。
Ⅰの授業では，生産技術と企業の費用構造の決定，消費者の意思決定と需要の決定について確認したうえで，企業の生産・販売に関する意思決定とその相互作用について学びます。その際，完全競争の場合，独占の場合，及び寡占の場合の結果をそれぞれ検討します。
Ⅱの授業では，まず，労働市場の働きについて確認したうえで，能力や努力に関する情報の非対称性が採用や働き方へ及ぼす影響とその緩和策について学びます。さらに，労働者の能力開発に関する問題とその緩和策，企業の多角化や取引先との関係のあり方，個人の意思決定と組織のあり方について学びます。続いて，企業が活動するうえで必要となる資金に関して，市場の働き，調達方法の種類などについて確認したうえで，情報の問題がどのような影響を及ぼすのかについて学びます。

【到達目標】
以下の3点をこの授業の到達目標とします。
1）企業の生産・販売，人事・組織，財務に関して，どのようなことに注意して，どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
2）関連する経済学の考え方，つまり，最適化，ゲーム，契約の理論に関して，その基本を押さえ，具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
3）複雑な状況の本質を押さえて，より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
この授業では，各テーマについて，具体的な状況の例を挙げながら，基本的な考え方を説明します。説明にあたっては，概念図や簡単なグラフなどを用い，なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り，必要に応じて，簡単な例題を出題するなどして，受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は，毎回，授業内容の復習をすることが求められます。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション／経済と企業活動	講義の目的・内容・進め方などについて説明する。続いて，経済と企業活動の概要について解説する。
2	経済学の方法論基礎	経済学（特にミクロ経済学）の基本的な考え方について解説する。
3	生産技術と生産関数	投入物から生産物を生み出す技術とそれを表す関数について解説する。
4	生産の費用	生産物を生み出す際に発生する費用の測り方について解説する。
5	費用最小化	複数の投入物を用いて生産する場合における費用の決まり方について解説する。
6	消費者行動と需要	企業が生産物を販売する際に直面することになる消費者の意思決定と需要に関して解説する。
7	完全競争市場における企業行動（1）：生産・販売	完全競争市場にいる企業の生産・販売に関する意思決定について解説する。
8	完全競争市場における企業行動（2）：参入と退出	企業の参入・退出に関する意思決定とその結果として実現する長期均衡に関して解説する。
9	独占市場における企業行動	ライバルが全くいない場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて解説する。
10	ゲーム理論入門	戦略的な相互作用がある場合の意思決定に関する基本的な考え方について解説する。
11	寡占市場における企業行動	ごく少数のライバルがいる場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて解説する。
12	その他のトピックス／まとめ	取引における交渉の理論や，企業行動に関する最近のトピックスについて紹介する。最後に，全体のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	人事・組織と財務に関する企業行動について経済学の観点から概観する。
2	企業活動と雇用	労働の需要・供給と労働市場について解説する。
3	採用の経済学（1）	隠された情報の問題とシグナリング理論について解説する。
4	採用の経済学（2）	スクリーニングの理論について解説する。
5	働き方の経済学（1）	隠された行動の問題とインセンティブ契約について解説する。
6	働き方の経済学（2）	人的資本投資と雇用関係に関する理論について解説する。
7	企業組織の経済学	企業の境界の決定や組織行動に関して解説する。
8	企業活動と金融	資金の需要・供給と金融市場に関して解説する。
9	企業財務の基礎（1）	資金調達の種類と企業価値について解説する。
10	企業財務の基礎（2）	資本構成・配当政策とモジリアーニ＝ミラーの定理について解説する。
11	資金調達の経済学（1）	資金調達の際の隠された情報の問題とその結果生じる調達コストについて解説する。
12	資金調達の経済学（2）	資金調達の際の隠された行動の問題とその結果生じる調達コストについて解説する。
13	財務危機の経済学	財務危機の発生と倒産に関して解説する。
14	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業内容の復習をしてください。それ以外では，他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で，この授業で扱っている内容と関連がある話を探し，当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
春学期
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第4版）』東洋経済新報社（2019年）
ヴァリアン（佐藤隆三監訳）『入門ミクロ経済学（原著9版）』勁草書房（2015年）
秋学期
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）

【成績評価の方法と基準】
各学期とも，レポート（各2回，100％）で評価します。ただし，以下に注意してください。
・出席を前提として授業を進めます。
・欠席した場合は，学習支援システムを利用して授業内容を自習した上で，代替レポートを提出してください。
・出席あるいは代替レポートの提出がないことが4回以上あった場合，レポートを提出しても評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業中に回収したリアクションペーパーの記載内容を踏まえ，学生が興味を持つような内容を，より丁寧に説明しようと思います。また，試験の解答内容から，学生が十分に理解しきれていないことを把握していますので，自ら考える時間をより多くとりたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業であるため，PCあるいはスマートフォン・タブレット等が必要となります。また，資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
１）科目名に「応用」がついていますが，ミクロ経済学の基本的な考え方を企業経営のさまざまな問題に当てはめる（応用する）と何がわかるのかについて扱うだけであり，他の科目と比べて難易度が高いということはないと思います。
２）専門基礎科目Ａ群の『ミクロ経済学入門』を履修していることが望ましいですが，履修していなくても理解できるように配慮します。この授業のⅠの内容は『ミクロ経済学入門』の復習と位置付けることもできます。『ミクロ経済学入門』の内容がいまいち理解できなかったというような方も，是非履修してみてください。他の専門基礎科目の内容も参考になると思います。
３）関連する専門科目として，『産業組織論』，『組織経済学』，『企業財務論』，『日本経済論』，『国際経済論』などがあります。
４）担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して，企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline and objectives】
In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) production and sales, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.
In Part I of this class, you will confirm the basic idea of microeconomics and then learn the topic (i). You will learn firms' production and sales decisions and those interactions in cases of perfect competition, monopoly, and oligopoly. In this part of this class, you will also learn the basics of optimazation theory and game theory.
In Part II, you will learn the topics (ii) and (iii). First, regarding the topic (ii), you will learn the mechanism of labor market, and microeconomics theory on recruitment, labor relationship, and corporate organization. Next, regarding the topic (iii), you will learn the mechanism of capital market, the basics of corporate finance, and microeconomics theory on corporate finance. In this part of this class, you will also learn the basics of informational economics and contracting theory.

MAN300FD
非営利組織経営論Ⅰ

3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

MAN300FD
非営利組織経営論Ⅱ

3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

湧口　清隆

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【非営利組織経営論Ⅰ】
公共財・公共サービスは、理論上、「市場の失敗」の産物と位置づけられ、長らく政府によって供給されるものと考えられてきた。しかし、1980年代から本格化した規制緩和の結果、排除性のある準公共財や価値財を中心に民間によって供給される事例が増えている。その中には営利を目的とする私企業のみならず、非営利・共同セクターに属する団体（NPO、NGO、協同組合など）によって供給される準公共財や公共財も含まれている。なぜ近年、政府や私企業に代わって非営利・共同セクターの重要性が増しているのか、このような供給形態にはどのような特徴や課題があるのかを、経済学や非営利組織研究の観点から理解する。
【非営利組織経営論Ⅱ】
非営利組織は非営利である点で営利企業とは異なり、組織である点で個人のボランティアとは異なる。どのように資金を調達し、どのような目的、どのような組織体制の下で活動しているのか、また、制度的にどのように位置づけられているのかをマネジメントの観点からNPOを中心とする非営利組織を理解する。
【授業の目的】
学生が、非営利組織の社会・経済上の位置づけとマネジメントの範囲・方法を理解することにより、どのような事業を非営利組織がどのように担うべきかを具体的に論じられるようになることを目的とする。

【到達目標】
学生が、非営利組織が現代社会で果たす役割の大きさを理解する一方で、営利企業や行政と比較しながら非営利組織の特徴を把握し、非営利組織は個別事業の担い手としては代替的な組織形態の一つに過ぎないことを認識する。そのうえで、学生が、非営利組織がどのような事業を担い、どのように運営していくべきなのかを考え、しくみづくりができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「DP2-2」と「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【コロナウィルス感染拡大に伴う春学期授業（I）の追記】
授業は4月27日1限から開始しますが、当初3回はオンデマンド教材を使用します。音声付きパワーポイント資料を使い、前半用を見て、自分自身で調べたり、考えたりしてください。その後、後半用を見ると、前半用に挙げた課題の解答と解説が見つかります。次回に向けた予習、復習内容も書いてあります。対面式授業ができない場合には、4回目以降は後半用部分をZoom等リアルタイム型双方向授業（30～40分）で行いたいと思います。詳細は第3回の教材を確認してください。3回目までは自分に都合の良い時間に勉強してください。教材はHoppii上で配付します。また、同じ資料のpdf版も配付します。音声付きパワーポイント資料が使えない人はpdf版を利用してください。自己紹介部分を除き、音声は補助的なものです。
【もともとの説明】
図表・写真などの資料、テキストなどをもとに講義する。大人数の講義ではあるが、自ら考える力を養うために、学生に挙手回答を求めたり、学生を指名して質疑応答しながら授業を進めていく。また、3回に1回程度は出席カードを使って学生の質問や要望を聞き、授業に反映させるようにしているので、授業内で疑問に感じたことは積極的に質問するようにして欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション－NPOの神話－	非営利組織とは何かを喚起する。
2	NPOの鳥瞰図	制度上、非営利組織に位置づけられる組織を知る。
3	NPO改革の方向	近年進められる公益法人改革、NPO改革の動向を紹介する。
4	収入源から見た日本のNPO	非営利組織の収入の大きさや構成を知る。
5	NPOの占める位置	経済の中で非営利組織の占めるウェイトを知る。
6	NPOの国際比較	非営利組織の経済に占める状況を国際比較する。ディスカッションを行う。
7	非営利革命の背景	非営利組織が登場し、発展した要因を考える。
8	さまざまなNPO（教育・文化分野）	教育・文化分野で活動する非営利組織の実態を知る。
9	さまざまなNPO（法政大学）	定義上「NPO」と位置づけられる法政大学を分析する。ディスカッションを行う。
10	さまざまなNPO（医療・福祉分野）	医療・福祉分野で活動する非営利組織の実態を知る。
11	さまざまなNPO（国際分野、その他）	国際的に活動する非営利組織（NGO）などの実態を知る。
12	フィランソロピー	個人や企業がなぜ寄付やボランティア活動をするのかを知る。
13	NPOをめぐる制度設計	NPOにかかわる制度を紹介、検討する。
14	授業のまとめ	春学期の授業を総括する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期試験の正解確認と秋学期授業の概要紹介を行う
2	NPOのマネジメントの必要性と特徴	自発的に活動する組織になぜマネジメントが必要かを考える
3	ボランティア・マネジメント	ボランティアを採用し、活用する術を学ぶ
4	理事会のマネジメント	理事会にもマネジメントが必要な理由と内容を学ぶ
5	ファンド・レイジング	寄附や補助金・助成金を必要とする理由を知り、獲得のための方法を学ぶ
6	NPOの予算	非営利組織の予算の立て方を学ぶ
7	プログラム・プランニング	非営利組織における事業計画の意味を理解する
8	プログラム・プランニングの具体的手法	非営利組織における事業計画の立て方を学ぶ
9	戦略計画	戦略計画の意味や策定方法を知る
10	リスク・マネジメント	リスク管理のあり方や方法を学ぶ
11	NPOの制度と政策	非営利組織の運営や税に関する制度を学ぶ
12	事例研究（広義の非営利組織）	いくつかの非営利組織(広義)の活動内容や組織を紹介する
13	事例研究（狭義の非営利組織）	いくつかの非営利組織（狭義）の活動内容や組織を紹介する
14	授業のまとめ	秋学期の授業を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
非営利組織や行政のウェブ・サイトを適宜紹介するので、学生が各自で閲覧してその組織の活動を調べたり、資料をダウンロードし分析することを求める。春学期、秋学期ともに、広義の非営利組織に含まれる（学校法人）法政大学をしばしば例として挙げるので、学生が大学のサイト上にある建学の精神、沿革、事業計画書、事業報告書などの情報をはじめ、学内にあるパネル、学報なども確認してもらいたい。これらの予習、復習に毎回平均４時間程度充てることを前提とする。

【テキスト（教科書）】
【非営利組織経営論Ⅰ】授業の都度、図表などを中心に資料を配布する。
【非営利組織経営論Ⅱ】参考書に挙げる柏木宏著『NPO マネジメントハンドブック―組織と事業の戦略的発想と手法』（明石書店、2004 年。ISBN ： 978-4750319513）に沿って授業を進めるが、図表や具体的事例を追加した資料とレジュメを配布する。

【参考書】
柏木宏、『NPO マネジメントハンドブック―組織と事業の戦略的発想と手法』、明石書店、2004 年。
山内直人、『NPO 入門』第 2 版、日経文庫、日本経済新聞社、2004 年。
山内直人、『ノンプロフィットエコノミー― NPO とフィランソロピーの経済学』、日本評論社、1997 年。
内閣府 NPO ホームページ： https://www.npo-homepage.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
【コロナウィルス感染拡大に伴う春学期授業（I）の追記】
教室での期末試験ができない場合には、オンデマンド教材に挙げた課題のうち何問かを指定してレポートの形で提出してもらい評価します。また、Zoom 等でリアルタイム型授業開始後は授業内での発言などをオマケとして加算する予定です。詳細は法政大学で春学期授業の最終的な方針が決まった後（おそらく 5 月中？）にアナウンスしたいと思います。
【もともとの説明】
【非営利組織経営論Ⅰ】期末試験の成績による（100%）。事前にテーマを定めて行うディスカッション時の発言については期末試験の成績の枠外でオマケとして加算する。
【非営利組織経営論Ⅱ】期末試験の成績による（100%）。授業内に集める任意提出（希望者のみ提出）のレポートを課す場合がある。このレポートの成績は期末試験の成績の枠外でオマケとして加算する。春学期・秋学期双方で学生の考える力を問うために資料分析やケース・スタディを出題する。

【学生の意見等からの気づき】
賛否両論あるが、双方向授業を心がけている。受講生全体に対し挙手回答や学生を指名して発言を求めることも多い。授業の理解を深める意味でも、当たっても構わない方はぜひ前方に座ってもらいたい。

学生から板書や配布物をウェブ上にアップして欲しいという要望も強いが、アップしない。この授業は暗記を目的とするのではなく、考えることをテーマとしている。一度も授業に参加せず、ウェブ上の情報のみを鵜呑みにして試験を受ける学生には受講して欲しくない。したがって、期末試験も暗記だけで解ける問題は 50%以下に抑え、応用力を問う論述式問題（ケース・スタディや資料分析など）を多く（50%以上）採用している。

【学生が準備すべき機器他】
何回かの講義で、パソコン現示による図表・写真の投影や DVD などを利用する予定である。

【その他の重要事項】
制度上、法政大学も非営利組織に分類される。学生にとって最も身近な法政大学についても十分に理解されたい（例えば建学の精神の意味）。

本科目は、「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」、「マーケティング論Ⅰ／Ⅱ」、「経営学総論Ⅰ／Ⅱ」などで学習したことの応用（理論に対して実務的な部分）であり、行政が提供すべき財・サービスを代替的に供給する主体の一つが非営利組織であることを考慮すると、「財政論Ⅰ／Ⅱ」、「交通経済論Ⅰ／Ⅱ」との関連も深い。また、サービスの供給という点に着目すると、「サービス・マネジメント論Ⅰ／Ⅱ」との関連もあろう。

【オフィス・アワー】
授業前後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
Why does the non-profit and cooperative sector become providers of quasi-public goods and/or merit goods as alternatives to public sector and private firms? What are the characteristics and problems of this sector from the economic and managerial viewpoints? This lecture makes clear these questions. In the spring session, the lecturer shows the role and socio-economic impacts of the non-profit organizations based on many statistical data. In the autumn session, the specific characteristics of the non-profit organizations will be explained from the human resource management and financial viewpoints.

ECN300FD
財政論Ⅰ
3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

ECN300FD
財政論Ⅱ
3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

徐　一睿

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政とは、国や地方自治体などの政府が租税や公債によって財源を調達し、それを用いて国民や住民にサービスを提供する活動のことである。財政は、私たちの生活と密接に結びついている。テレビを付けると、新聞を開いて読むと、財政に関するニュースに接しない日はないと言えよう。税制改革や予算編成、国債発行など、なんか難しくて分からないと言う人もいるでしょう。しかし、普段の我々の生活を見渡せば、道路や水道といった日々の生活に欠かせないものの多くは財政を通じて提供されている。
財政学は、政府による歳出や歳入の管理（財政活動）が我々の経済生活にどのような影響を及ぼすのかを考える学問である。すなわち、政府による社会保障や公共投資といった歳出活動は人々の生活の改善にどのようにつながるのか、課税や公債の発行等による政府の資金調達活動は民間の経済活動にどのような影響を及ぼすのか、国と地方の財政はお互いにどのように影響しあうのかといった問題を究明する学問である。
本講義では、財政のメカニズムを理解するために必要な財政学の基礎知識について解説する。租税制度、公共支出、政府間財政関係を学ぶことを通じて、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考えてもらう。こうした日本の財政の諸課題を学習することは、先進諸国のみならず現在目覚ましい勢いで経済成長を遂げつつあるアジア諸国の財政などを考えるうえでも多くのヒントが得られることができる。

【到達目標】
財政理論の基本を学び、日本を中心に、世界各国の財政に関する諸問題を理解・考察することを目標とする。特に、各国の経済の発展において公共支出，租税制度，政府間財政関係などが果たしてきた役割に関する専門知識を得るとともに、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考える能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義方式、授業開始日（5 月 8 日）詳細は学習支援システムに知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
(1)	講義・履修ガイダンス	履修に関するガイダンスを行う。
(2)	財政とは何か？ 財政学とは何か？	財政とは何か、財政学とは何かについて、学ぶ。
(3)	予算（1）予算とは何か？	予算とは何かについて学ぶ。
(4)	予算（2）予算原則	予算原則について学ぶ。
(5)	予算（3）予算の内容	予算の内容について学ぶ。
(6)	予算の編成と決算	予算の編成と決算について学ぶ。
(7)	租税原則と租税理論	租税原則と租税の基礎理論について学ぶ。
(8)	所得税 I	所得税の歴史と現状について学ぶ。
(9)	所得税 II	所得税の理論について学ぶ。
(10)	法人税	法人税について学ぶ。
(11)	消費税 I	消費税の歴史と現状について学ぶ。
(12)	消費税 II	消費税の理論について学ぶ。
(13)	資産課税	資産課税の現状について学ぶ。
(14)	授業内テスト 、まとめ	全体のまとめ及び授業内テスト

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
(1)	講義・履修ガイダンス	講義・履修ガイダンス
(2)	財政支出の理論	財政支出の理論
(3)	財政支出の構造	財政支出の構造を日本を中心に学ぶ。
(4)	社会保障１：社会保障の原理と日本の社会保障	社会保障の原理と日本の社会保障について学ぶ。
(5)	社会保障２：公的年金と医療保険	公的年金と医療保険の財政支出の構造について学ぶ。
(6)	公共事業	公共事業の歴史と現状について学ぶ。
(7)	公共事業と民営化	現在に進む公共事業の民営化問題について学ぶ。
(8)	公債とは何か？	公債とは何かについて学ぶ。
(9)	公債の負担と経済効果	公債の負担と経済効果について学ぶ。
(10)	公債と財政再建の国際比較	公債と財政再建の問題を考え、国際比較を行う。
(11)	財政投融資計画	財政投融資計画について学ぶ。
(12)	財政投融資改革	財政投融資の改革と現状について確認する。
(13)	「現代財政」の３機能	「現代財政」の３機能について考える。
(14)	授業内テスト、まとめ	授業内テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習と復習をしっかり行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
片桐正俊編著『財政学―転換期の日本財政 第 3 版』東洋経済新報社 (2014 年)
池上岳彦編　『現代財政を学ぶ』　有斐閣ブックス（2015 年）
神野直彦著『財政学 改訂版』有斐閣 (2007 年)
神野直彦著『財政のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書（2007 年）

【成績評価の方法と基準】
試験は、財政学に関連する知識・理解・思考を図る問題を出題します。試験に関する詳細は初回のガイダンス時に詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を尊重し、できる限りの改善を試みたい。

【関連科目】
マクロ経済学

【オフィスアワー】
授業内

【Outline and objectives】
Finance is an activity in which governments such as national and local governments procure financial resources through taxes and public bonds and provide services to citizens and residents using it. Finance is closely tied to our lives. If you put on a TV, you can say that there is no day when you read the newspaper and read it, it will not touch news on fiscal finance. Some people say that it is somewhat difficult to understand, such as tax reform, budget formulation, issue of government bonds, etc. However, if you look at usual lives of the usual, many things indispensable for daily life such as roads and water supply are provided through fiscal policy.In this lecture, we will explain the fundamental knowledge of fiscal science necessary to understand financial mechanism. Through learning the tax system, public expenditure, intergovernmental fiscal relationship, we clarify the problems left in the financial management of today in Japan and ask them to think about the way of finance in the future. Learning these Japanese financial problems can provide a lot of hints not only for the industrialized countries but also for thinking about the finances etc. of Asian countries that are currently achieving economic growth with impressive momentum.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

永山　晋

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語動画教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけリーダーシップ、モチベーション、スキルについて学ぶ。毎回の授業では、動画を視聴しながら、トピックの全体の概要と、トピックを構成するサブトピックの内容をつかんでいき、学習トピックについて「結局こういうこと」と説明できることを目指す。この方法を通じて、経営学の内容だけでなく、英語を聞きながら論点を構造化する方法を学ぶとともに、経営学の専門用語も学んでいく。

【到達目標】
(1) 論点を構造化することができる。
(2) 学習した内容を「自分の言葉」で分かりやすく他人に説明できる
(3) 経営学における重要概念の英単語を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日と し、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
2	Leadership (1)	Nature vs nurture
3	Leadership (2)	Mindset and growth
4	Leadership (3)	Leadership style
5	Quiz (1)	これまでの 3 回分の内容から出題する小テスト
6	Motivation (1)	Intrinsic and extrinsic motivation
7	Motivation (2)	Happiness
8	Motivation (3)	Decision making
9	Quiz (2)	これまでの 3 回分の内容から出題する小テスト
10	Skill (1)	Emotional intelligence
11	Skill (2)	Cultural intelligence
12	Skill (3)	Organizational intelligence
13	Quiz (3)	これまでの 3 回分の内容から出題する小テスト
14	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・小テストに向けて学習した内容を復習しておく。
・発表、最終レポートを作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・Daft, R., Murphy, J., & Willmott, H. (2014). Organization Theory and Design: An International Perspective (2th ed.), Cengage Learning
・Hitt, M. A., Black, J. S., & Porter, L. W. (2012). Management (3rd ed.), Prentice Hall.
・Thompson, L. (2014). Making the Team, Global Edition, Pearson Education.
・Thompson, L. Organizational Leadership Specialization in Coursera (https://www.coursera.org/specializations/organizational-leadership)

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も 変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ひとつひとつのトピックをより深く学ぶため、1 回の授業で 2 つの動画を扱う形態から、1 つの動画を扱う形態に変える。これに伴い、学習の進捗を評価する小テストを 2 回から 3 回に増やす。

【学生が準備すべき機器他】
英単語を即座に調べられるデバイス（スマホ、ノート PC、タブレットなど）。

【その他の重要事項】
エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【関連科目】
組織論入門、戦略論入門

【Outline and objectives】
This course offers management theories regarding leadership, motivation, and skills. Students will learn each topic mainly via watching videos and reading texts. In each class, students are required to explain the content of the topic in your own words. During class, students will learn not only the content of each topic but also how to grasp the structure of the topic.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

福多　裕志

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[Challenges of Global Enterprises]
当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できうる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

【到達目標】
現在、どのような領域（職場、職種、地域等）で活躍するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと (英検準 1 級程度）を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This class aims to lead to a long-term and short-term study abroad and the success of various examinations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の 1 章分をおよそ 3 回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

[重要]
本授業の開始日は、時間割にしたがい 4 月 27 日（月）第 3 時限とし、ZOOM による試験的授業を開始する予定です。ZOOM 授業に必要な情報を学習支援システムに掲示しますので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う (日・英両言語)。
2	Adidas in Germany(1)	Adidas - Business vocabulary and reading
3	Adidas in Germany(2)	Adidas - Reading comprehension
4	Adidas in Germany(3)	Adidas - Discussion
5	Presentation on Job Trends in the world(1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
6	Toyota in Japan(1)	Toyota - Business vocabulary and reading
7	Toyota in Japan(2)	Toyota - Reading comprehension
8	Toyota in Japan(3)	Toyota - Discussion
9	Presentation on Job Trends in the world(2)	Participants are expected to make an effective presentation.
10	Starbucks in the USA(1)	Starbucks - Business vocabulary and reading
11	Starbucks in the USA(2)	Starbucks - Reading comprehension
12	Starbucks in the USA(3)	Starbucks - Discussion
13	Presentation on Job Trends in the world(3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
14	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各英文記事の日本語訳出、グループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor(2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ￥2,100+tax

【参考書】
ビジネスおよび経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System(LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、学期末筆記試験 70 % (原則的に最終授業）をもって評価する。Contributions to class activities(30%), in-class exam(70%)

[重要]
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に ZOOM 授業内および学習支援システム上で提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
The instructor encourages participants to express themselves clearly.

【学生が準備すべき機器他】
Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】
授業支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.
受講者多数の場合は、初回の授業において「何らかの試験」あるいは「抽選」を行う。

【関連科目】
経営学総論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.
In this day and age having an adequate command of English would be essential for anyone. The goal of the course is to develop students' abilities to interact more successfully in daily business scenes and pass various qualification exams.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

檜野　智子

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使用しミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】
・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・教科書の担当箇所についてパワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。
・プレゼンテーションの内容についてディスカッションを行います。
（以下追加事項）
＜春学期について＞
・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムの「お知らせ」を使用し、その都度提示します。
・授業開始日： 4 月 21 日
・この授業は受講者選別があります。学習支援システムに仮登録し受講者選別について確認してください。
＜秋学期について＞
・新型コロナウイルス感染症の影響で授業計画が変わる可能性があります。変更については学習支援システムの「お知らせ」を使用し、その都度提示します。
・この授業は受講者選別があります。学習支援システムに仮登録し受講者選別について確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	個人の最適化戦略	ディシジョンツリー
2	個人の最適化戦略	現在価値
3	個人の最適化戦略	リスク
4	個人の最適化戦略	交換の利益
5	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
6	相互関係における最適化戦略	パレート効率性
7	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
8	相互関係における最適化戦略	オークション
9	相互関係における最適化戦略	競争市場
10	市場における最適化戦略	需要と供給
11	市場における最適化戦略	税金
12	市場における最適化戦略	限界効用
13	市場における最適化戦略	弾力性
14	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をする。本授業の準備学習時間は、４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill & Wang Pub 出版年:2010
＊電子書籍版有 (Amazon.com 参照)

【参考書】
『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ヨラム・バウマン, グレディ・クライン, ダイヤモンド社, 2011 年
『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 [第３版]』N・グレゴリー・マンキュー, 東洋経済新報社, 2013 年

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション及び自発的な発言　100 %
（以下追加事項）
＜春学期について＞
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
＜秋学期について＞
・新型コロナウイルス感染症の影響で、成績評価の方法と基準が変わる可能性があります。変更については学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が多い場合でも複数回プレゼンテーションを行えるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
・この授業では、パワーポイントを使用します。講義開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
・この授業では「授業支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録及びメールアドレスの登録を済ませておいてください。

【その他の重要事項】
・「授業支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】
経済学入門

【Outline and objectives】
This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

高橋　理香

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディングやリスニングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経済学・経営学の概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】
英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきっかけをつかむことを到達目標とします。この授業では、英語で読む・聞くことを中心に学びます。読むことについては、時事的なトピックを辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめることを目標とします。聞くことについては、英語に慣れて聞き取りのポイントをつかめるようになることを目標とします。また、英語のスキルだけでなく、現実の経済・経営に対する理解と関心を深めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・リーディング：隔週で英字新聞のレポートを発表してもらいます。これは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、記事に関連する内容の調査と分析を行うものです。授業時には、ランダムであてて提出されたレポートの内容を発表してもらいます。レポートは日本語または英語で作成してください。また、隔週で教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解し、履修者全員で記事に関するディスカッションを行います。
・リスニング：隔週で、リスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。場合によっては、トピックに関する議論を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
2	Listening and Speed Reading 1	リスニング：スピードを落としてニュースの聞き取りを行います。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。長い記事を短い時間で読む方法について議論します。
3	Careful Reading and Presentation 1	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。記事の選び方について議論します。
4	Listening and Speed Reading 2	リスニング：キーワードの聞き取りを訓練します。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。辞書無しで読んで大意をつかむ方法を学びます。
5	Careful Reading and Presentation 2	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。レポートの書き方について学びます。
6	Listening and Speed Reading 3	リスニング：聞き取りにくい音を見つけ、音読して確認します。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。文章の全体的な構成について学びます。
7	Careful Reading and Presentation 3	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。発表の仕方について学びます。
8	Listening and Speed Reading 4	リスニング：少しだけスピードアップしてニュースの聞き取り訓練を行います。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。パラグラフの構成について学びます。
9	Careful Reading and Presentation 4	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。前回の授業で学んだ文章構成やパラグラフの構成について、自分で選んだ記事において確認します。
10	Listening and Speed Reading 5	リスニング：ニュースの聞き取りをした後に仲間と何を理解したか確認します。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。キーワードの見つけ方を学びます。
11	Careful Reading and Presentaiton 5	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行います。
12	Listening and Speed Reading 6	リスニング：ニュースの聞き取りをした後に内容に関するディスカッションを履修者全員で行います。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。これまで学んだスキルを使って読むだけでなく、内容に関する議論を行います。
13	Careful Reading and Presentation 6	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行い、ディスカッショントピックの設定について学びます。
14	Conclusion	授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は英字新聞のレポート作成です。復習はリスニングや教員の用意したリーディング教材に注力してください。　本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
参考文献については、初回の授業時に説明をします。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。また、毎回、辞書を持参してください（電子辞書可。英英辞典や類義語辞典がある方が望ましい）。

【成績評価の方法と基準】
英字新聞のレポートと発表： 40 %
授業への積極的な参加： 30 %
授業時のグループワーク： 30 %
授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。
欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見等からの気づき】
履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。少人数クラスの利点を活かし、クラスでのグループディスカッションの機会をなるべく多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業時に持参する必要は必ずしもありませんが、履修者はできるだけ自分のパソコンを用意してください。本授業では、授業支援システムを使います。また、ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。これらの使い方は授業で説明します。

【その他の重要事項】
初回の授業時に、授業の概要や 2 回目以降のスケジュールと課題についてお話しますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。

また、受講者多数の場合は、初回授業で選考を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
This class aims to brush up reading and listening skills in English and understand the concepts, knowledge and thinking of economics and business administration, focusing on world news related to economics and business.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

平田　英明

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、経営/経済の英語読解力や英語での表現力を養いたい皆さん、留学に参加したいと考えている皆さん、英語圏への留学などに興味のある皆さん、を念頭におき、TOEIC 等の問題などを活用して授業を進めたいと思います。

英語そのものを学ぶことよりも、英語による経営学/経済学に関して慣れて基礎理解していくことを第一の目的とします。

第二の目的は、難しい言い回しなどをせずに、シンプルにいいたいことを伝える能力を向上させることです。そのために、ビジネス・ライティングの基礎とビジネスに関連する用語について、毎週、学んでいきます。

第三の目的は、耳を英語に慣らすことです。中身も面白いリスニング教材を使って学びます。

【到達目標】

一コマの授業でやれることには限界はありますが、読む、書く、聞くの３つをバランスよく学ぶことが目標です。

より具体的にいえば、読むという点については、逐語訳の世界から離れ、英語を英語として理解していけるようになること、ビジネス関係の英語に慣れるということが目標です。

書くという点については、プレインに文章を書けるようにすることが目標です。特に、経営学部生の関心の高いビジネス・ライティングについて時間を取ります。

聞くという点については、慣れるのみだと思いますので、聞く癖を付けて、ポイントを聞き逃さない耳を作るための導入を行うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業は原則として日本語で行います。
・授業の告知や資料配付は、全て授業支援システムを使って行います。
・内容の詳細は履修者数と履修者の意向を踏まえて柔軟に対応したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	概要説明 授業サンプル紹介	授業の進め方について説明するとともに、実例を使って、どんな内容かを紹介します
2	ビジネス単語１ リーディング１	前半３０分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
3	リスニング１ リーディング２	前半３０分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
4	ビジネス単語２ リーディング３	前半３０分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
5	リスニング２ リーディング４	前半３０分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
6	ビジネス単語３ リーディング５	前半３０分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
7	リスニング３ リーディング６	前半３０分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
8	ビジネス単語４ リーディング７	前半３０分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
9	リスニング４ リーディング８	前半３０分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
10	ビジネス単語５ リーディング９	前半３０分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
11	リスニング５ リーディング１０	前半３０分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
12	ビジネス単語６ リーディング１１	前半３０分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
13	リスニング６ リーディング１２	前半３０分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います 後半６０分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います
14	期末試験	授業内で期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は授業前に解いてくることが前提です（オンラインで掲載します）。

ライティング、ビジネス単語、リスニングは予習は不要です（が復習は必須です）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材は PDF 形式で授業支援システムに掲載するか、印刷したものを授業内で配布します。なくさないように、きちんとファイリングして下さい。

【参考書】

参考書というわけではありませんが、英英辞典は必ず準備してください。たとえば、今から揃えるならば、Oxford Advanced Learner's Dictionary がよいでしょう。また、基本的な文法（大学受験レベル）は備わっていることを前提として授業を行います。

【成績評価の方法と基準】

１．試験は辞書（電子辞書は不可）のみ持ち込み可とします。昨年度のＤ評価の学生は０％でした。
２．出席は取りません。
３．私語と睡眠学習は減点対象とし、場合によっては授業への参加をご辞退いただく可能性があります。
４．初回の授業で履修者選考を行う場合、選考されていないにも関わらず履修登録をしても、成績は付きません（後述参照）。

【学生の意見等からの気づき】

１限の開講が不評でしたので、３限の開講にしました。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、４月に Web 抽選を行います。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーしてください。

関連する科目としては、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、語学（英語）のクラスが挙げられますが、特に意識する必要はありません。

このクラスは１年生向けを想定していますが、２年生以上の履修も歓迎します。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】
This class is designed for the 1st year students, but 2nd and higher year students are also welcome.
By using TOEIC and the equivalent materials, we will learn business/economics keywords, listening to business/economics topics, and reading articles on business/economics.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

パワー　トーマス　G

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to provide students with opportunities to improve their English skills, think critically, and express their ideas and opinions while studying fundamental principles and practices in business administration.

【到達目標】
The goal of the course is to help students communicate about business topics and gain confidence when speaking in English. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid students in their preparation for presentations on the topics covered. Students will listen to lectures, read articles, write reports, participate in discussions, and give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
Active participation is essential. Class activities include lectures, discussions, presentations, written reports and group research projects. Students work in pairs and in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course outline; Explanation of content and expectations
Week 2	Communication Skills	Meeting people; starting conversations; expressing opinions; discussing issues.
Week 3	Leadership Styles	What are the qualities of an effective leader? What is the difference between a leader and a manager?
Week 4	Leadership Styles	How can you grow as a leader? What are your strengths as a leader?
Week 5	Cultural Awareness	Personal identity and the effect of culture on interpersonal and business interactions.
Week 6	Career Management	Job hunting, interviews, email messages, career choices, planning.
Week 7	Conflict and Negotiating	Understand how and why conflict happens and learn ways to avoid it. Problem solving.
Week 8	Mid-term Presentations	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics so far studied.
Week 9	Company Profiles	Business activities of different organizations; brand management.
Week 10	Entrepreneurs / E-business	Thinkers out of the box; Products and services; Case studies
Week 11	Business and the Environment	Can business be green? Group presentations.
Week 12	Business Travel and Socializing	Arrangements for foreign travel; entertainment expenses; travel inquiries
Week 13	Business Ethics	Case studies; Discussion.
Week 14	Final presentations and remarks	All students will give a presentation on one of the topics studied.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be given to help students prepare for the following lesson. Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class. If you are absent, it is your responsibility to submit work and find out what you need to do for the following lesson. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No textbook is assigned for this course.
Handouts and reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
Final evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 20%
Homework and written assignments 40%
Mid-term presentations 20%
Final presentation 20%
More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【関連科目】
not applicable

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide students with opportunities to improve their English skills, think critically, and express their ideas and opinions while studying fundamental principles and practices in business administration.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

檜野　智子

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使用しミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】
・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・教科書の担当箇所についてパワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。
・プレゼンテーションの内容についてディスカッションを行います。
（以下追加事項）
＜春学期について＞
・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムの「お知らせ」を使用し、その都度提示します。
・授業開始日： 4 月 21 日
・この授業は受講者選別があります。学習支援システムに仮登録し受講者選別について確認してください。
＜秋学期について＞
・新型コロナウイルス感染症の影響で授業計画が変わる可能性があります。変更については学習支援システムの「お知らせ」を使用し、その都度提示します。
・この授業は受講者選別があります。学習支援システムに仮登録し受講者選別について確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	個人の最適化戦略	ディシジョンツリー
2	個人の最適化戦略	現在価値
3	個人の最適化戦略	リスク
4	個人の最適化戦略	交換の利益
5	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
6	相互関係における最適化戦略	パレート効率性
7	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
8	相互関係における最適化戦略	オークション
9	相互関係における最適化戦略	競争市場
10	市場における最適化戦略	需要と供給
11	市場における最適化戦略	税金
12	市場における最適化戦略	限界効用
13	市場における最適化戦略	弾力性
14	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をする。本授業の準備学習時間は、４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill & Wang Pub 出版年:2010
＊電子書籍版有 (Amazon.com 参照)

【参考書】
『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ヨラム・バウマン, グレディ・クライン, ダイヤモンド社, 2011 年
『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 [第３版]』N・グレゴリー・マンキュー, 東洋経済新報社, 2013 年

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション及び自発的な発言　100 %
（以下追加事項）
＜春学期について＞
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
＜秋学期について＞
・新型コロナウイルス感染症の影響で、成績評価の方法と基準が変わる可能性があります。変更については学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が多い場合でも複数回プレゼンテーションを行えるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
・この授業では、パワーポイントを使用します。講義開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
・この授業では「授業支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録及びメールアドレスの登録を済ませておいてください。

【その他の重要事項】
・「授業支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】
経済学入門

【Outline and objectives】
This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

岡本　慶子

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
予備情報をどのくらい持っているかによって、英語の理解度が変わってきます。日本語で予備知識を集めた後、英語で課題文を読み学びます。授業で扱う題材はアメリカの学生が使っている Marketing や Strategic Management の教科書からコラム、ケーススタディを取り上げます。さらに関連情報を英語で集めます。そこからさらに授業ではその情報を使って理論的に自分の考えをまとめる方法を学びます。

【到達目標】
日本語と同じように英語でも情報を集めることができれば、集められる情報は倍以上になります。この授業では、「教科書だから読む」「課題だから書く」のではなく、「自分に必要かどうか確認するために」、「必要であれば利用するために」英語で情報を収集し、そしてその情報を、理論的に活用できるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
課題文と宿題を事前に授業支援システムで配布するので、予習して授業に臨む。
授業：リーディング、リスニング、ライティング：個人ワーク、グループワーク、および教員によるフィードバックまたはサポート

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction Video Watching 1	Course overview Video Watching I
2	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers.	“Vineyard Vines Markets the Good Life”
3	Solving an Ethical Controversy	Banning Sugary Drinks Quiz
4	Career Readiness Video Watching 2	“Tips for Applying for Jobs Online” Group work
5	Market Segmentation, Targeting, and Positioning	PepsiCo Brands Target Different Market Quiz
6	Market Segmentation, Targeting, and Positioning	PepsiCo vs Coca Cola
7	Walmart	Walmart Extends Its Global Reach
8	Global Marketing 1 Video Watching 3	Walmart today Review of Video Watching Quiz
9	Global Marketing 2	Group work about Walmart
10	Strategic Focus	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail or Is it the Reverse? Quiz
11	Strategic Focus 2 Video Watching 4	Kellogg’s business overview.
12	Strategic Focus 3	Kellogg’s business overview. Quiz
13	Strategic Planning 1	Strategic Planning for Kellogg Presentation Kit Making Presentation
14	Strategic Planning 2 Video Watching 3	Presentation Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の予習：課題文の読解、単語帳の作成、宿題
宿題－授業前日の 23:55 までに授業支援システムで提出
宿題１．単語帳と提出課題、質問
宿題２．グループワーク、個人ワーク等の下調べ
復習：小テストに向けて復習
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。毎回課題文献、宿題等は授業支援システムで配布します。参照ウェブサイトも事前にお知らせします。

【参考書】
Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.
2 冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（小テスト含む）、単語帳、宿題の提出　55 %
グループワークと個人ワーク（プレゼン、提出物、他）　45 %
評価については初回授業で詳細に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度から必須科目になったことにより、積極的に授業に参加せず、あとから英文の訳を覚えようとする人が発生しました。実用的でないので、授業方法と評価方法を変更しました。

【学生が準備すべき機器他】
課題、宿題、資料配布等は授業支援システムを利用します。
二回目までにメールアドレスを登録してください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。
宿題、課題文他、授業支援システムで配布したものはプリントして持参してください。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席してください。
授業の内容は受講人数によって変更になる場合があります。

【関連科目】
なし

【実務経験のある教員による授業】
アメリカ留学中にボランティアや NPO での活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。理論的思考力と交渉力、それと伝える力があれば、仕事はできます。それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline and objectives】
This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics. Students will also learn logical thinking for English writing.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

稲垣　京輔

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、経営学や企業経営に関する英語の文献、雑誌記事を読み、読解力を養うと同時に、テーマに沿って討論するノウハウや関心を高めていくことが課題です。

【到達目標】
基本的に，毎回の講義において英訳の宿題が与えられます。持ち回りの輪読ですが、かなりの頻度で回ってきます。
14 回の授業を通じて，英文に慣れて、解釈できるようになること、そして文化や経済事情に関する素養を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳していきます。この講義では、完璧な訳出を求めるわけではありません。むしろ、センテンス毎に内容を把握し、文章を理解するスピードを上げていくことを目的とします。したがって、頭から訳出していくことを心がけ、文章の構造を理解するように努めてください。全ての訳出が終わり、内容を理解したら、テーマに即して 2 つのグループに分かれて、討論をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方
第 2 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第 3 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第 4 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第 5 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第 6 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 7 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 8 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 9 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 10 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 11 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 12 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 13 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第 14 回	まとめ	これまでの英文記事の読み込みを復習し、簡単なテストをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳出を事前にしてきてください。その他に本授業の準備学習と復習には、それぞれ 2 時間程度をかけてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。受講者のレベルに合わせて、企業経営に関する文献を読んでいきたいと思います。

【参考書】
とくになし。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義での発表による評価（50 %）
期末試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
久々の担当なので、学生からの積極的なフィードバックを期待します。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
必ず英和辞書（電子辞書でもよい）を持参してください。
[関連科目]
経営学総論

【Outline and objectives】
In this lecture we will try to read and discuss some business articles in English.The aim is to develop know-how and interest in discussions on each theme while developing reading comprehension skills

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

西川　真規子

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済・経営環境のグローバル化が進む中、働く上で必要な情報をやり取りし、人的ネットワークを拡げていくためのツールとしての英語の重要性が増してきています。この授業では、英語の文献・資料を用いて、ひとの態度・行動に関する理解を深めつつ、グローバル社会で他者と協業する上で役立つスキルを身につけていきます。

【到達目標】
この授業では、ひとの態度・行動に関する①英語の文献・資料を読んだり聴いたりして、その概要を素早く理解すること、②文献・資料の内容を踏まえ、自らの意見を表明すること、③文献や他者との議論を踏まえ自らの考えを柔軟に修正していくこと、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
各回テーマを定め、そのテーマに関連する自らの体験を振り返ります。その後、テーマに沿った英語文献・資料の読み取りや英語の時事ニュース（NHK, BBC 等）の聴きとりを実施します。次に文献・資料の内容、聴きとった情報を踏まえグループで議論を行います。議論は最初は日本語で、慣れてきたら英語で行うことも予定しています。これらの作業を踏まえ、最後に自分の考えをレポートにまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容 授業の進め方
2	人の態度と行動	実体験の振返り 関連文献・資料を理解する グループディスカッション
3	ひとを理解する 1	ヒアリングとリスニング 英語で聴く 1
4	ひとを理解する 2	ひとの印象について 英語で聴く 2
5	ひとを理解する 3	ひとの行為について 英語で聴く 3
6	仕事を理解する 1	良い仕事とは？ 英語で聴く 4
7	仕事を理解する 2	仕事を理解する 英語で聴く 5
8	仕事を理解する 3	仕事と私 英語で伝える 1
9	働くことを理解する 1	働くことと欲求 英語で伝える 2
10	働くことを理解する 2	働くことと目標 英語で伝える 3
11	働くことを理解する 3	働くことと期待 英語で伝える 4
12	働くことを理解する 4	働くことと比較 英語で伝える 5
13	レポートのまとめ方	最終レポート作成に向けての準備
14	まとめ	学習内容のまとめ レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は各自で各回の授業内容を復習し、自分の考えをまとめ、最終レポートの準備を進めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。適宜必要な資料を講師が準備します。

【参考書】
指定参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（発言・議論等授業への積極的参加）50 %、最終レポートの内容 50 %（最終レポートに日英どちらの言語を用いるかについては授業の進行状況をみて判断します。）

【学生の意見等からの気づき】
初年度授業のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】
授業に関するお知らせ等は授業支援システムを通じて行います。授業開始後、各自で速やかに自己登録を済ませてください。

【その他の重要事項】
授業初回に英語資格試験のスコアを確認します（英語スコアの下限は設けませんが、英語で学ぶ意欲のある学生を対象とします）。

【関連科目】
特になし

【Outline and objectives】
It has become increasingly important to use English as a common tool to communicate and collaborate with others in the globalizing world. In this course, students will not only study the basic attitudes and behaviour of people in organization by using English materials, but also be encouraged to express their opinions individually and collectively based on the materials.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

荻原　啓佑

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、原価計算に関する基礎的な知識を身につけることです。製造業のビジネスを理解する上で原価計算に関する知識は、必要不可欠なものとなっています。この授業では、英語で書かれた入門書を読むことで、原価計算とはどのようなものかを理解してもらいます。会計を習ったことのない学生も歓迎します。

【到達目標】
⑴原価計算の役割を説明できること。
⑵代表的な原価計算手法を理解すること。
⑶自分で単語や熟語を調べ、専門的な内容を含む英文を日本語訳できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となります。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システム等でその都度指示します。
・本授業の開始日は 5 月 8 日とします。
・授業では、英語のテキストを用いて、鍵となる用語や計算手法について講師が解説します。
・2 回目以降、指定された箇所の英文の音読や日本語訳の発表などを学生に行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の概要と進め方を説明します。
2	A Very Brief Review of Accounting Basics	Accounting に関する基礎的な用語について学習します。
3	What is Cost Accounting?	Cost Accounting の目的について学習します。
4	The Flow of Costs in a Manufacturing Environment	製造業における inventory のフローについて学習します。
5	Classifying Costs: Fixed vs. Variable	Fixed cost、Variable cost について学習します。
6	Cost-Volume-Profit Analysis	Contribution Margin, Breakeven Analysis、Reaching a Target Operating Income について学習します。
7	中間テスト	第 2 回から第 6 回までの学習内容から出題します。
8	A Hierarchy of Costs: Product and Period Costs ⑴	Direct and Indirect Manufacturing Costs について学習します。
9	A Hierarchy of Costs: Product and Period Costs ⑵	Direct Materials and Direct Labor、Indirect Manufacturing Costs、Conversion Costs について学習します。
10	Job Order Costing ⑴	Job Order Costing の概要について学習します。
11	Job Order Costing ⑵	Job Order Costing の Journal Entries について学習します。
12	Process Costing ⑴	Process Costing の概要について学習します。
13	Process Costing ⑵	Process Costing の Journal Entries について学習します。
14	期末テスト	第 8 回から第 13 回までの学習内容から出題します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の準備学習として、辞書等を用いながら指定された箇所の日本語訳およびそれ以外の箇所の通読をする必要があります。また授業後には、学習した内容を定着させるために復習を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Piper, M. (2017). Cost Accounting Made Simple: Cost Accounting Explained in 100 Pages or Less (English Edition).
＊ペーパーブック、kindle（電子書籍）どちらでも可。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。
・具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
・PC、タブレット、スマートフォン等、オンライン授業を受けることができる機器を用意してください。
・マイクつきイヤホン、あるいはヘッドセットなどがあると、より受講しやすいかと思われます。

【その他の重要事項】
担当講師は非常勤のため、質問等は授業の前後の時間またはメールを利用してください。

【関連科目】
特になし

【Outline and objectives】
The aim of this class is to acquire basic knowledge of cost accounting area - the one which matters for the understanding about manufacturing business-. Hence, this class helps students understand what cost accounting is like by reading an introductory textbook written in English. The students who have ever unlearned accounting will be also welcome.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学 I （2018 年度以前入学者）

1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

立木　デニス

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オンライン概要
このオンラインコースは、「アクティブラーニング」アプローチに基づいて構成されています。 アクティブラーニングでは、生徒は個人的（たとえば、自習）そして集合的に（たとえば、グループ作業）に、自分自身で主題の主要な学習ポイントを探索し、発見するように奨励されます。 この観点から、本オンラインコースの内容は、対面式の授業と変わりはありません。 ただし、今学期は先生からの指導は、(1) クラス HOPPII の Web ページの割り当てボックス（毎週）、(2) 補足のズームセッション（3 ～ 5 セッション）、および (3) E メール通信を通じて受けます。 オンラインコースでは、時間管理と計画を適切に実施する必要があることを忘れないでください。
入門外国語経営学のこのコースは、日常の国際的なビジネス活動に必要な学生の 4 つの基本的な言語スキルであるリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの強化に焦点を当てています。スキルごとに、学生は教科書と外部の読み物（新聞、雑誌、研究報告書/書籍、インターネットなど）を通じてグローバルなビジネス慣行を学習します。 学生は、ペア学習、グループワーク、ディスカッション、インタラクティブな講義、ケーススタディ、ロールプレイ、問い合わせ学習などのアクティブラーニングアプローチを通じてこれらの技能を習得します。特に、このクラスは、学生をさまざまな状況やコミュニケーション形態に慣れるよう指導します。 （毎日の会話、ディスカッション交換、簡単なスピーチ、簡単なプレゼンテーション、短いレポート）。

【到達目標】
各スキルの主な目標は次のとおりです。
読解力：学生は、現在のビジネストピックについて英語で書かれた主要なビジネスソース（新聞、雑誌、レポート、ビジネスデータなど）を読み、理解することができます。
書く力：学生は、稟議書（メモ）から短いレポート/提案書まで、簡潔なビジネスレポートを作成できます。
リスニング：学生は口頭でのコミュニケーションの要点（25-60 %）を得て、質問をしたりコメントしたりするために積極的なリスナーになることができます。
スピーキング：学生は、理解、分析、評価、比較などの批判的思考スキルを使用して、国際的なビジネス環境で機能的にコミュニケーションできます。
真面目な学生は、CEFR（Common English Framework Reference）のスケールでレベル B2 ～ C1 を目指して努力する必要があります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
理想的な教室には 4 つの壁はありません。つまり、学習意欲があればいつでもどこでも学習することができます。 あなたが学習している教室では、私はあなたに 3 つの活動を行うことを期待します。 まず、コース HOPPII の Web ページにログインして、必要な読み物を見つけてください（週に 1 ～ 3 回）。 2 つ目は、コース HOPPII ウェブページでも、セッションの学習ポイントを理解していることを示す一連の演習/課題になります。 そして 3 番目に、3 つの短いレポートを作成します。 記載された期限を守ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to Course Listening (1)	· Syllabus Strategy Case Study: Acer Inc · Intonation and pace · Getting the "gist" · Becoming an active listener (handout)
Week 2	Listening (2)	Acer Case Study (continued) · Case Study Method · What is "scanning"?
Week 3	Reading (1)	Groupwork: Acer Case Study (continued) · "Deep reading" methods · Analyzing "exhibits" -> primary and secondary data
Week 4	Reading/Writing (2)	What should Acer do? · What is a paragraph -> one idea, one paragraph · Writing s "summary paragraph (ringi-sho and memorandum)"
Week 5	Reading (3)	Operations Case Study: Peanut Factory or JICA Project · Demonstrating case study reading skills · Groupwork: drafting a "flow chart"
Week 6	Writing (1)	Operations Case Study (continued) · Groupwork: prioritizing -> vital few, trivial many · Writing a "short report" (kaizen suggestion) -> How to "format" an English report · Using word processing software
Week 7	Writing (2)	Operations Case Study (continued) · Groupwork: Revise and submit draft kaizen report
Week 8	Writing (3)	· Formatting and editing a report · Groupwork: Revise and submit draft kaizen report
Week 9	Speaking/Reading (1)	Innovation Case Study: 7-Eleven Japan · What is "intrinsic technology"? · Demonstrating case study reading skills
Week 10	Speaking (2)	7-Eleven Japan Case Study (continued) · What is the "voice of the customer" -> QCD+S Function · Groupwork: achieving "strategic fit"

Week 11	Speaking (3)	・Art and science of Powerpoint slide design ・Presentation skills
Week 12	Speaking/Listening (3)	Group presentations ・"Active listening" and "debate" (discussion) ・Presentation skills evaluation
Week 13		FOR THE CANCELLED SESSIONS FROM THE FIRST 2 WEEKS, I WILL ASSIGN ADDITIONAL READINGS TO COMPLEMENT THE CASE STUDIES.
Week 14		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習：積極的な学習アプローチでは、学生はクラスの前にリーディングと課題を準備する必要があります。 少なくとも、生徒は課題を読む各週のキーワードと主な問題を理解する必要があります。
・時間管理
このクラスの準備調査と復習の時間は、各セッションで 3 ～ 5 時間です。 オンライン授業を準備するには、毎週３～５時間を割り当てる必要があります。
・締め切り
すべての締め切りを守ってください！

【テキスト（教科書）】
学生はコースパックを受け取ります。これはオンラインでも利用できます。

【参考書】
1) Christopher A. Bartlett et al. 2013 "Acer, Inc: Taiwan's Rampaging Dragon," in Transnational Management. McGraw-Hill Higher Education ISBN-13: 978-1259010590
2) Dennis Tachiki. 2020 Peanut Factory Case Study or JICA Case Study 2017 Quality Service Delivery in the Public Sector. Hand-outs
3) Akira Ishikawa et al. 1998 The Success of 7-Eleven Japan. World Scientific. ISBN 981 238 030 2

【成績評価の方法と基準】
学生は次の基準に基づいて採点されます。
10 ％クラス参加とディスカッション
60 ％ライティング (課題レポート) およびスピーキング（課題プレゼンテーション）
課題の提出が遅れると、成績は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】
このコースは、留学、海外の大学院への進学、または国際機関での勤務を計画している学生に役立ちます。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、コンピューターやスマートフォンへのインターネットアクセス（Wi-Fi、ケーブル、など）を持っている必要があります。 そうでない場合は、電子メールメッセージを送信して教授に通知してください。 また、ズームセッション中に問題が発生した場合は、教授にお知らせください。

【その他の重要事項】
学生（またはチーム）は、学期中に少なくとも 1 回はオンラインで先生と会うようにしてください。
効果的な授業運営のために、第１回目の授業に参加する学生の数が予想を大幅に超える場合、コースへの登録を許可される学生の数が制限される場合があります。

【Prerequisite】
・TOEIC スコアが 420 以上の学生または同等の学生（例：英検、TOEFL、IELTS など）
・一生懸命勉強したい！ と思うようなモーチベーションの高い学生。

【Outline and objectives】
The main goals for each skill are as follows:
READING: Student can read and understand primary business sources (e.g, newspapers, magazine, reports, business data, etc) written in English on current business topics.
WRITING: Students can write concise business reports from ringi-sho (memorandum) to short reports/proposals.
LISTENING: Students can become active listeners to get the gist of oral communication (25 - 60%) and ask questions and make comments.
SPEAKING: Student can communicate functionally in an international business environment using critical thinking skills such as understanding, analyzing, evaluating and comparing.
Serious students should strive for Level B2 ～ C on the CEFR (Common English Framework Reference) scale.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

戎谷　梓

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、英語の文献や資料を参照しながら、チーム・プロジェクトを通して経営の基礎を学びます。チーム毎にオリジナルのテーマを設定し、情報収集を行い、簡易的なデータ分析をしながらプロジェクトを進めます。本授業を通して受講者は、社会人に必要なビジネス英語を学ぶと同時に事業経営や組織経営の基礎を模擬体験を通じて学ぶことができます。

【到達目標】
本授業を受講することにより、受講者は英語での読み書きやプレゼンテーションを実践することができます。また、プロジェクトを通して独創的な思考の養い方やチームワークの精神を学ぶことができます。さらには、会社などで一般的に行うであろうマーケティングや製品企画などを模擬的かつ能動的に体験することにより、社会人としての物事の見方を養うことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は、セメスターの全期間を通してチームプロジェクトの完結を目指します。そのため受講者には、チームの一員としての責任を果たしながら全期間にわたって能動的に参加することが求められます。授業中、補助的に日本語も使用しますが、提出物の作成やプレゼンテーション、レポート執筆などはすべて英語で行います。
新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対応として、本授業は、学期全体を通してオンラインでのみ開講します。これにより生じる各回の授業計画の変更については、学習支援システムで随時お知らせします。また、本授業の第 1 回目は、5 月 6 日（水）とし、この日までに具体的な授業の方法などを学習支援システムでお知らせしますので、システムを適宜確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course	· Course overview · What is team project? · What is the role of good team-member?
Week 2	Team making and building-up	· Meet your team members · Activities for building up your team · Getting to know well your team members
Week 3	Conceptualization: Launch your project of new application	· Team discussion · Application of your team · Short presentation
Week 4	Marketing research (1)	· Questionnaire preparation · What do you want to know? · How can you draw information from the informants
Week 5	Marketing research (2)	· Data collection · How can you find suitable informants? · How can you approach your informants appropriately?
Week 6	Marketing research (3)	· Segmentation · Perspectives of data analysis · Which segment(s) do you approach?
Week 7	Mid-course presentation and review	· Team presentations · Summary so far
Week 8	Application design (1)	· Planning the contents of your application · What is new in your plan? · How will your application attract your target segment(s)?
Week 9	Application design (2)	· Application feasibility · What are the strong or weak points of your application?
Week 10	Application design (3)	· Improving the contents of your application · How can you overcome the weak points?
Week 11	Application design (4)	· Application description · How can you describe your application in order to attract the target segment(s)?
Week 12	Presentation preparation	· Team discussion · What is good presentation? · How can you prepare your presentation?
Week 13	Team presentations and review (1)	· Team presentations · Summary and discussion
Week 14	Team presentations and review (2)	· Team presentations · Summary and discussion · Course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
チームの作業スピードによっては、データ収集の準備や実施、データ分析などを授業時間外に持ち越して行わなければならない場合があります。また、チームプレゼンテーションの準備も、授業時間外に行う必要があります。授業期間の全体を通して、58 時間以上の授業時間外学習が求められると予想されます。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
その都度ウェブ上で、または授業時間中にお知らせ・共有します。

【成績評価の方法と基準】
Marketing research への貢献: 30%
Application design への貢献: 30%
Mid-presentation への貢献: 20%
Final presentation への貢献: 20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【関連科目】
特になし。

【Outline and objectives】
This course will provide the students the opportunity to learn basic management concepts through team-project activity. Each team will choose its own theme, launch their project, conduct surveys, and analyze the collected data throughout the project. The students will be able to learn how to manage a business and team members through hands-on training.

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）
1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）
グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

李　瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、英文教科書とビジネス誌、経済紙の記事をピックアップして、経営学の基礎知識を学び、企業の経営活動や経済動向を理解します。英語を学ぶのではなく、英語で専門分野の知識を学びます。

【到達目標】
リーディング、リスニング、ライティングの 3 つをバランスよく学ぶことが目標です。リーディングに関しては、教科書と記事の内容を誤解せずに把握し、ポイントとロジックを掴むスキルを高めます。リスニングに関しては、英語に慣れ、自然に耳に入ってくることを狙います。ライティングについては、読んだ内容や聞いた内容に対して、自分の言葉で要約と私見をシンプルにまとめる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・授業は原則として日本語で行います。
・リーディング：毎回、教員の提示した教材を授業時に読み、和訳を通して理解する。教員は適宜、関連概念や背景を解説する。
・リスニングとライティング：教員の用意するニュースを授業時に 2 回ほど聞き、記事の概要と重要なポイントを英語で自分なりにまとめる。また、質問に答える形で自分の意見を英語で書くこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概要説明	授業の概要を説明し、全体のスケジュールを決めます。履修者数と履修者の意向を踏まえて、教材の調整を行います。
2	リーディング（1） リスニングとライティング（1）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
3	リーディング（2） リスニングとライティング（2）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
4	リーディング（3） リスニングとライティング（3）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
5	リーディング（4） リスニングとライティング（4）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
6	リーディング（5） リスニングとライティング（5）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
7	リーディング（6） リスニングとライティング（6）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
8	リーディング（7） リスニングとライティング（7）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
9	リーディング（8） リスニングとライティング（8）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
10	リーディング（9） リスニングとライティング（9）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
11	リーディング（10） リスニングとライティング（10）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
12	リーディング（11） リスニングとライティング（11）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
13	リーディング（12） リスニングとライティング（12）	前半の 50 分：英文教材を精読・和訳し、経営学の知識を理解します。 後半の 50 分：英語ニュースを聞き、サマリーと自分のオピニオンを書きます。
14	授業のまとめと期末試験	授業のまとめを行い、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで教材を配布した場合は、必ず事前に読みましょう。授業後の復習を必ずやりましょう。課題の提出を求めることがあります。

【テキスト（教科書）】
教材は PDF 形式で授業支援システムにアップロードします。印刷して授業に持参してください。なくさないように、きちんとファイリングして下さい。

【参考書】
1 回目の授業時に参考書について説明します。英英辞書（電子辞書可）は毎回、持参してください。

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 40 %
出席と授業参加： 30 %
レポートと発表： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
履修者の希望をなるべく反映して授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
英英辞書（電子辞書可）

【その他の重要事項】
授業支援システムを利用しますので履修者は必ず登録してください。

【関連科目】
この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。

【Outline and objectives】
This class aims to brush up reading and listening skills in English and understand the concepts, knowledge and thinking of economics and business administration, focusing on world news related to economics and business.This class is designed for the 1st year students, but 2nd and higher year students are also welcome.

国際コミュニケーション論Ⅰ（2019年度以降入学者） グローバル・ビジネス/GBP科目2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
国際コミュニケーション論Ⅱ（2018年度以前入学者） 2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]
国際コミュニケーション論Ⅰ（2018年度以前入学者） 2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
国際コミュニケーション論Ⅱ（2019年度以降入学者） グローバル・ビジネス/GBP科目2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

パワー　トーマス　G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication and Japanese culture.

【到達目標】
In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Active participation is essential. Students will read, discuss, and write about a variety of topics and work in pairs and in small groups. Homework will be given to help students prepare for the following class. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to International Communication I	Information about syllabus
Week 2	What is communication?	Communication styles
Week 3	What is culture?	Culture iceberg Perspectives of culture & invisible aspects.
Week 4	Japanese culture & identity	Characteristics of culture; Identity and groups we belong to.
Week 5	Nonverbal communication	Paralanguage, body communication
Week 6	Communicating clearly I	Communication styles: Effect of Aimai and Amae on international communication.
Week 7	Communicating clearly II	Communication styles: Effect of Honne to Tatemae on international communication.
Week 8	Mid-term presentations	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics so far studied.
Week 9	Culture and values I	Values of Japanese and Americans; Foreigners in Japan.
Week 10	Culture and values II	Traveling abroad; American and British cultures
Week 11	Culture and perception I	Different way of seeing things; Different interpretations
Week 12	Stereotypes and Generalizations I	Definitions and examples; Japanese stereotypes and national stereotypes
Week 13	Stereotypes and Generalizations II	Subcultures and prejudice; Immigration policies
Week 14	Final papers and remarks	All students will give a short presentation about their final paper.
Week 15	Introduction to International Communication II	Introduction of Hofstede's Cultural Dimensions; Business considerations
Week 16	Diversity I	Diversity and subcultures; Analysis of cultural orientations (#1-3) Hofstede
Week 17	Diversity II	Diversity and prejudice; Analysis of cultural orientations (#4-6); Lifestyle Issues / Hofstede
Week 18	Traveling abroad I	Stages of culture shock; Adjusting to culture shock; Reverse culture shock.
Week 19	Traveling abroad I	Building connections, problem solving
Week 20	Culture and Change I	Impact of globalization and changes in Japanese culture.
Week 21	Culture and Change II	The good and bad of globalization. Which parts of Japanese culture change fast?
Week 22	Mid-term presentations	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics so far studied.
week 23	Talking about Japan I	What does it mean to be Japanese?
Week 24	Talking about Japan II	Development model of intercultural sensitivity: experience of difference.
Week 25	Becoming a Global Person I	Good and bad of globalization
Week 26	Becoming a Global Person II	Japan and globalization Identity, subcultures, and change
Week 27	Review academic skills	Prepare final report; Reading, writing, and presentation skills; Citing sources with APA.
week 28	Submission of final paper and remarks	All students will give a short presentation about their final paper.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is important that you are well prepared for each class and come on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. More than three unexcused absences will seriously impact your final grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900
The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
You will be graded on:
20% Active participation in English
40% Weekly homework & assignments
20% Presentations
20% Final Paper
More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【関連科目】
not applicable

【Outline and objectives】
To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication and Japanese culture.

LANe200FA
ビジネス英語Ⅰ（初級）

グローバル・ビジネス/GBP 科目2～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

LANe200FA
ビジネス英語Ⅱ（初級）

グローバル・ビジネス/GBP 科目2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

ジョナサン・エーブル

※　初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネス英語（初級）
This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

【到達目標】
The purpose of this class is to give students confidence through practise.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
With the text book as a model we will progress through the essentials of business communication building confidence through constant use of spoken English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class selecion
2	Meeting People	Introductions at work and elsewhere.
3	Your Company	What is a company? Companies in Japan and around the world.
4	Your Company 2	Company histories and how they operate.
5	Routines	Planning your days. What do you do and when?
6	Business in Progress	The workplace; the office, shopfloor and saleroom.
7	Business in Progress 2	The workplace; describing a working environment.
8	Presentation Preparation	Presentations on business themes. Ttopics, plans and tips on practical presentations
9	Presentations	Practical presenting in small groups to the rest of the class.
10	Businesses.	How different types of business operate in Japan.
11	Businesses 2.	international Business. How is it different and how much the same?
12	On the Telephone	Practical class on using the telephone in English. Manners and language.
13	On the Telephone 2	Situations and practice for speaking in international situations.
14	Interviews	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	Intro/Review	Looking at the ground that we have covered and what we aim to do next.
2	Location	The best places for business geographically and demographically.
3	Transport	How we get around by land air and even sea.
4	Travel	The reasons, destinations and practicalities of International travel.
5	Working Overseas.	A look at the different environments and customs we encounter working overseas.
6	Your Culture.	Talking about Japanese life and culture. Explaining Japan to visitors and colleagues.
7	Socializing	How to make visitors to Japan welcome and comfortable.
8	Socializing 2	How to cope with social situations abroad.
9	Meetings	Agenda, Minutes, Structure. How to prepare for meetings in English.
10	Meetings 2	Practical demonstrations and situations of meetings in the classroom.
11	Business Plans	The future of a company on paper. Taking a current model and planning the future.
12	Products	Product description. How to put a product in front of the consumer.
13	Advertising	How to make people want the product we are selling.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Occasional preparation for presentations. No fixed homework schedule.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Text book to be announced.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Assessment is continuous.Attendance is mandatory.Testing by interview.
Classwork 40%
Presentation and Written Work 40%
Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】
まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（中級）
英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】
This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

LANe200FA
ビジネス英語Ⅰ（中級）

グローバル・ビジネス/GBP 科目2～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

LANe200FA
ビジネス英語Ⅱ（中級）

グローバル・ビジネス/GBP 科目2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

ジョナサン・エーブル

※　初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネス英語（中級）
This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

【到達目標】
Confident communication

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Class selection and an introduction to the course.
2	Work.	Describing what you do now and what you may do in the future.
3	Leisure.	How we spend free time together and alone.
4	Problems.	Explaining what has gone wrong in the workplace.
5	Problems 2.	Finding solutions and assisting others.
6	Travel 1.	Getting away, getting back. Transport practicalities.
7	Travel 2.	What we need to know about foreign travel and how to make the most of the experience.
8	Presentation Preparation.	Planning a small group presentation for the classroom.
9	Presentations.	Giving presentations to your peers in the classroom.
10	Food and Entertaining.	What to eat and how from the point of view of the visitor to Japan and the Japanese traveler abroad.
11	Sales 1.	Products. How we decide on a product and describe it.
12	Sales 2.	Strategies for marketing the products we have identified.
13	Sales 3.	Advertising and Sales plans for the products we have identified.
14	Interviews	Grading process. Self-assessment and small group interviews.

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	Review/Introduction.	Looking back at last semester and forward to the new ideas ahead.
2	Jobs	What we do now and how we do it. The practicalities of work.
3	People 1.	Customers. How to deal with the public in a working environment.
4	People 2.	Staff. How to talk to your colleagues both Junior and Senior.
5	Advertising.	Images and slogans. The most communicative ideas.
6	Advertising 2.	Campaigns. How to persuade others with effective English.
7	Markets.	Who buys what from whom and why?
8	Presentations preparation	Preparing for presentations. Choosing topics and making detailed plans
9	Presentations.	Group presentations to class. Practical persuasive English.
10	Companies 1.	Describing companies and explaining their structure and history.
11	Conpanies 2.	What company would you start? A group exercise in imaginative English.
12	The Web.	Business on the net. The beauties and dangers of online commercial activity.
13	Cultural Difference.	Diversity is good. Why we should not be afraid of different business cultures.
14	Review and test.	Self=assessment and interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Some preparation, no schedule of homework.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Text book to be announced

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.
Classwork 40%
Presentation and Written Work 40%
Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】
まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（初級）
英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】
This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

MAN200FA
インターンシップⅠ

連環科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FA
インターンシップⅠ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

小林　健一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「企業活動と仕事の実際を学ぶ」

■企業の経営やマーケティングを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動に触れる事により実践的に理解します。
　➡「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習
■仕事とは何か、また仕事の楽しさとは何かを、魅力ある職業人の方々の生の声を通して理解します。
　➡「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習

【到達目標】
①実際の企業の企業活動/マーケティング活動のケースや社会で活躍している職業人の仕事、人生について聞きながら、そのポイントを理解できる。
②また、そこから、自分の人生や将来の働き方についてのヒントを得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
●ゲストをお招きする授業の性格上、受講学生数を最大 80 名に絞ることにより、集中して授業に取り組める環境を重視しています。
●毎回企業からゲスト・スピーカーを招き、約 80 分間のスピーチの後、質疑応答の時間を設けます。
●第 1 回目の授業で、各企業のプレゼンテーションを聞くための視点、及び事例として学ぶ各企業を紹介、その後各回授業で、実際に 12 社の企業事例を聞く事により、理解を深めます。
●以下の授業計画は 2019 年度の実績に基づくものです。2020 年度のゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 インターンシップⅠ の受講の仕方について ゲスト企業の紹介
第 2 回	これまでの広告会社 これからの広告会社	ゲスト・スピーカー： 株式会社 電通 執行役員　松尾 秀実 氏
第 3 回	小売業界の課題とドラッグストアの役割	ゲスト・スピーカー： ウエルシア薬局 （株） 総合職採用部 採用マネジャー 宮崎 拓也 氏
第 4 回	食のあるべき姿を追求する	ゲスト・スピーカー： （株）エー・ピーカンパニー 魚事業部本部長 兼 ブランド開発室室長　横澤 将司 氏
第 5 回	まずは挑戦、何でも自分でやってみること	ゲスト・スピーカー： 古河電池（株） 産業機器事業本部 佐藤 晴香 氏
第 6 回	一番身近な社会人の話	ゲスト・スピーカー： 法政大学 大学院事務部 大学院課　堀込 康介 氏
第 7 回	コピーライター/CM プランナーの仕事	ゲスト・スピーカー： （株）電通 コピーライター/CM プランナー 勝浦 雅彦 氏
第 8 回	プラットフォームサービスについて	ゲスト・スピーカー： プラットフォームサービス（株） 取締役会長 田辺 恵一郎 氏
第 9 回	様々な業界を支援するマーケティングリサーチ	ゲスト・スピーカー： （株）インテージ 経営推進本部　人事部　鈴木 有通子 氏
第 10 回	介護事業における人材採用の需給バランス及びその環境下での獲得戦略について	ゲスト・スピーカー： （株） らいふ 施設事業部　人事課　主任 板井 明子 氏
第 11 回	弥生と今とこれから	ゲスト・スピーカー： 弥生（株） 代表取締役社長 岡本 浩一郎　氏
第 12 回	とあるロスジェネ世代のワークライフバランスの一例	ゲスト・スピーカー： 日本パーカライジング（株） 働きかた改革員会　事務局 内田 康夫 氏
第 13 回	起業家という職業	ゲスト・スピーカー： （株）イオレ 代表取締役社長 小川 誠 氏
第 14 回	総括	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
80 分のレクチャーで、その企業の経営/マーケティングを理解する事は容易ではありません。事前にネット等でその企業についての情報を収集する事により、あらかじめ十分な予備知識をもって授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】
特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】
出席はとりません。
授業翌週に提出するレポート 8 回以上を必須として、
8 回を超えるレポート提出回数 24 %、レポート評価 76 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
各業界の現状もさることながら、ゲストご本人のこれまでのキャリアや仕事についての考え方を聞きたいという学生の声があるため、今年度はできる限りゲストの方ご自身のことについてお話いただくようにお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
ゲスト企業の諒解が得られた場合は、授業で使用したスライドを授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】
●この授業は、受講生を 80 名に絞ります。
受講を希望する学生は、学習支援システム、もしくは経営学部 Web 掲示板で、選抜のためのレポート課題を確認して、4 月 23 日 (木) 正午まで゛に、学習支援システムを通じてレポートを提出してください。選抜結果は、4 月 27 日 (月) 正午に学習支援システム、および経営学部 Web 掲示板で発表します。
●教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。
●企業活動やマーケティング活動は常にさまざまな選択肢からの意思決定の連続です。この授業を通じて養っていただきたいのは、さまざまな仕事に対する想像力や洞察力です。常に「自分なら」という視点から、実際の経営や仕事を想像、洞察する習慣を身につける努力をしてください。

【関連科目】
なし

【Outline and objectives】
Learn about corporate activities and actual work in business
● We will understand practical management and marketing of companies by touching corporate activities and marketing activities of various companies.
● We will understand what something is done at work and what sort of fun of work is through the real voices and experiences of fascinating professionals.

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅠ（2018 年度以前入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

小川　憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えを持ったうえで参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
キャリア論の基礎に関する講義、企業の採用活動の事例紹介などを行います。理論や事例を材料にディスカッション等を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 9 回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第 10 回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第 11 回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験（50 %）、平常点（50 %：小レポート等含む）
・出席は取りませんが、時々講義中に適宜課題を出します。
・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありえます。
・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

【学生の意見等からの気づき】
実際の採用過程に関する私の調査結果に基づいた話を取り入れます。

【その他の重要事項】
①各回の内容はあくまで予定です。内容の前後や変更がありえます。
②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
携帯電話の電源を切って鞄にしまう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。
関連科目は特にありません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic career theories including the basic mind for career development, process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environment surrounding companies　and other organizations.

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2018 年度以前入学者）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

小川　憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアマネジメント論Ⅰの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。
また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

【到達目標】
①キャリア形成に関する知見を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第 2 回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第 3 回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第 4 回	採用活動の事例	具体的な企業の採用活動事例を紹介します。
第 5 回	ゲスト（大手メーカー新人）	新卒 1 年目で働く男性社員をゲストに呼び、学生生活、就職活動、1 年目の仕事の様子について紹介してもらいます
第 6 回	ゲスト（専門職の若手女性）	資格職の仕事やキャリアについて、あるいは女性の働き方について紹介してもらいます
第 7 回	ゲスト（転職の多いベテラン男性）	5 回ほど転職経験のある中年男性に様々な業界や転職について話を伺います
第 8 回	ゲスト（大手金融機関）	金融機関にも様々な職種がありますが、不動産関係を扱う管理職に話を伺います
第 9 回	ゲスト（保険業界と公共機関）	新卒時に大手生命保険会社に入社し、その後公務員の仕事に就いた 30 歳くらいの男性から話を伺います
第 10 回	ゲスト（大手化学メーカー）	現場の営業の仕事と本社のスタッフでの仕事について話を伺います。
第 11 回	ゲスト（旅行業界と人材紹介業界）	大手旅行代理店での仕事と、その後転職された人材紹介業界についてお話してもらいます
第 12 回	ゲスト（フリーランス）	組織に雇われて仕事をするのではなく、フリーランスで仕事を続ける 50 代の男性に話を伺います
第 13 回	ゲスト（商社）	商社の仕事、とりわけ海外での仕事について話を伺います
第 14 回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験（50 %）、平常点（50 %：小レポート等含む）
・出席は取りませんが、時々講義中に適宜課題を出します。
・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありえます。
・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は男性ゲストが多かったので、出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】
①各回の内容は前年度のものです。ゲストは毎年変更しています。
②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
携帯電話の電源を切って鞄にしまう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。
関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn a little advanced career theories and to think about your career development through the interactions with many guest-speakers who have diverse backgrounds;age, gender, position, occupation, and industry.

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）　演習　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者）　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者）　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）　演習　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

檜野　智子

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】
・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・教科書の担当箇所についてパワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。
・プレゼンテーションの内容についてディスカッションを行います。
（以下追加事項）
＜春学期について＞
・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムの「お知らせ」を使用し、その都度提示します。授業開始日： 4 月 21 日
・この授業は受講者選別があります。学習支援システムに仮登録し受講者選別について確認してください。
＜秋学期について＞
・新型コロナウイルス感染症の影響で授業計画が変わる可能性があります。変更については学習支援システムの「お知らせ」を使用し、その都度提示します。
・この授業は受講者選別があります。学習支援システムに仮登録し受講者選別について確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	経済学の十大原理	経済学の中心となる考え方
2	相互依存と交易の利益	絶対優位、比較優位
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線、市場均衡
4	弾力性	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性
5	政府の政策	価格規制、課税の効果
6	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰
7	課税の費用	課税の死荷重、死荷重と税収
8	国際貿易	貿易の決定要因、貿易の利益と損失
9	外部性	外部性と市場の非効率性
10	さまざまな種類の財	公共財、共有資源
11	生産の費用	費用の尺度、短期と長期の費用
12	競争市場	競争企業の利潤最大化、操業停止の決定、埋没費用、市場への退出・参入
13	独占	独占企業の生産および価格の決定、独占企業の利潤最大化
14	独占的競争	短期・長期における独占的競争企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をする。本授業の準備学習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マンキュー経済学 Ⅰ ミクロ編 第 4 版」N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社、2019 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション及び自発的な発言　100 %

（以下追加事項）
＜春学期について＞
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
＜秋学期について＞
・新型コロナウイルス感染症の影響で、成績評価の方法と基準が変わる可能性があります。変更については学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が多い場合でも複数回プレゼンテーションを行えるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
・この授業ではパワーポイントを使用します。講義開始までに、パワーポイントを使用できる環境を整え使えるようにしておいてください。
・この授業では「授業支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録及びメールアドレスの登録を済ませておいてください。

【その他の重要事項】
・「授業支援システム」で連絡した内容は全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】
経済学入門

【Outline and objectives】
This lecture deals with the basics of microeconomics. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者） 演習 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者） 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者） 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者） 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者） 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者） 演習 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者） 演習 1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者） 演習 1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

小林　一夫

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の社会的責任〔CSR〕に基軸をおいた健全なビジョンに基づく事業活動をおこなうことが、今日の企業の経営には必須です。本入門演習では、学生の皆さん大部分は実社会での実業経験がないことを踏まえて、まず「企業とは何か」を学習します。次に、地球環境とグローバル社会をとらえた企業経営のあり方を、総合商社における具体的事例等より、基本的見方とあるべき問題意識をもてるように学習します。自ら調べ、自身の考えを自分の言葉で説得力持って伝えることが出来るように学びます。

【到達目標】
- 企業とはなにかにつき基本的な知識を得、理解につとめます。
- 企業としての立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、幅広く学習します。
- 企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」について、グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び、基本的な理解に努めます。

自ら調べ、論理的に考えてレポートにまとめ、自身の考えを自分の言葉で筋道を立て、伝えることができるように学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
緊急事態宣言が出された異常事態です。初回と第 2 回目はﾃｷｽﾄ「第二版 商社活動と企業の社会的責任」の内容を問題意識を持って読み込むこと、合わせ授業支援システムの活用で授業を進めます。第 3 回〔5 月 13 日予定〕以降は、学部方針決定を待ち講義と演習（ディスカッションと発表の機会）を組み合わせて進めます。第 8 回目は、三井物産サステナビリティ・レポート等を参照することで進めます。
双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、授業の内容について感想や積極的な質問の提出をもとめることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任」(CSR)、イントロダクション	「第二版　商社活動と企業の社会的責任」まえがき、序章、第 1-2 章、あとがき
第 2 回	「企業」とは何か　その①	企業とは、また会社とは何かにつき、学習します。「第二版　商社活動と企業の社会的責任」第 1-2 章
第 3 回	「企業」とは何か　その②	総合商社の事業活動を題材として、企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。
第 4 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任」「企業」をどうとらえるか　演習	本邦産業界は CSR をどのように捉えているかにつき基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりから CSR をとらえます。CSR、CSV、SDGs、ESG、サステナビリティ、トリプルボトムライン、等について理解に努めます。ステークホルダーとは何か理解に努めます。
第 5 回	企業経営入門	企業経営の基軸であり且つ CSR 経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制についての概念の基本を理解します。企業経営の枠組みについて基本的知識を得ます。「第二版　商社活動と企業の社会的責任」第 4 章
第 6 回	地球環境問題　演習	「環境とは」及び「リスクとは」何か。公害問題を含めた環境問題の歴史から環境リスクをレビューし、環境・CSR リスクについて基本的理解に努めます。「第二版　商社活動と企業の社会的責任」第 3 章
第 7 回	事業リスクとリスク・マネジメント	環境・CSR リスク、事業リスク等総合商社の現場におけるリスク管理の考え方と、対応について、又、「リスクとは何か」の基本的知識を得ます。「第二版　商社活動と企業の社会的責任」第 6 章
第 8 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR)　その①　演習	事例研究　三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。
第 9 回	企業をめぐる不正・不祥事について	コンプライアンスとはなにか、総合商社の現場における対応について基本的知識を得ます。。「第二版　商社活動と企業の社会的責任」第 5 章
第 10 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題へのあるべき対応と考え方について	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題への認識とあるべき対応について基本的な知識を得られるようにします。。。「第二版　商社活動と企業の社会的責任」第 10 章
第 11 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」［まとめ］	グローバル活動を前提にした事業運営と企業経営について概括し、「企業の社会的責任 (CSR)」についての理解を深められるようにします。
第 12 回	N	N
第 13 回	N	N
第 14 回	N	N

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業テーマについて、あらかじめテキストを読み疑問点などを整理しておくようにして下さい。また、日経新聞等をグローバル経済把握のため、読むようにして下さい。その日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。
本授業外の準備・復習時間は、少なくとも 4 時間/週とるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
指定教科書「第二版商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破滅につながる)（図書文化社刊、2019 年 4 月付 第 2 版、小林一夫著、1,600 円+税）

【参考書】
必要に応じて、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 50%
平常点： 50%
ディスカッションへの参加状況と報告内容を重視します。
その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気付きにつながるものは、加点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
テキスト (教科書）を使います。
「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じスクリーン・DVD を使い講義を進めます。

【その他の重要事項】
受講者は日経新聞等を読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。

【Outline and objectives】
Introduction to Activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), and CSR（Corporate Social Responsibility）
Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. So far, most students have no job experience, in the real world. Thus, students will, at first, learn what a corporation is, and will learn how to view corporate social responsibility, not only from an individual point of view, but from the view point of a corporation. Students will also learn basic concepts of SDGs, Sustainable Development, ESG, and so forth.
In addition, students will learn typical business activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), their management, and the basic idea of risk avoidance.
Students will strive to study by themselves, think logically, compose reports, and learn through discussions how to communicate their ideas in their own words, with confidence.

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）

演習　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習 I （2016～2018 年度入学者）

1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

宮澤　信二郎

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生として，経営学部生として，どのような姿勢で，何を学べばよいのでしょうか。この授業では，悔いのない大学生活を送れるようにするために，この問題について一緒に考えます。また，新聞記事の内容やほかの授業で習ったことなど，身近なトピックスについて，内容を紹介し，自分の考えを発表したり，他人の考えに対して質問・コメントしたりする方法について，実践的に学びます。

【到達目標】
この授業の目標は以下のような点です。
1）大学生としてどのような姿勢で何を学ぶべきかを自覚し，実践する。
2）関心があるテーマについて，どのような議論があるか整理した上で，自分なりの意見を持ち，それを発表できる。
3）他人の発表に対して，適切な質問をしたり，建設的な意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
いくつかのテーマについて，議論をしてグループ内の意見をまとめる，グループによる発表を行ったうえで全体で議論するという流れで進めていきます。一部のテーマについて担当教員が講義をすることもありますが，その際にも，積極的な発言が求められます。
また，身近なトピックスについて，参加者が単独で発表し，参加者全員で質疑応答・ディスカッションをします。発表にあたっては，スライドを作成することが求められます。発表の時間・回数は参加者数に依存しますが，1 回の発表時間は 15 分から 20 分程度で，全員が 1 回以上担当することが想定されています。
＊前年度は春学期月曜 3 時限目に開講し，参加者数が 16 名でした。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「大学生」を始めるために	授業の内容，全体の流れについて説明します。
第 2 回	大学生とは？（グループディスカッション）	グループに分かれて，「大学生とは高校生・社会人と比べてどのような点で違うのか」，「大学生活はどのような心構えで過ごさなくてはいけないのか」，「大学では何をどのように学ぶべきなのか」などについて議論します。
第 3 回	大学生とは？（発表・検討）	前回の議論の成果を，グループごとにまとめて，発表します。また，他のグループの発表に対して質問します。最後にクラス全体の考えをまとめます。
第 4 回	新聞を読もう！（グループディスカッション）	グループごとに分かれて，「新聞はどのような構成になっているのか」，「経営学部生として新聞をどのように活用していけばよいのか」などについて議論します。
第 5 回	新聞を読もう！（発表・検討）	グループごとに分かれ前回の議論の成果を発表した後，全員で議論します。
第 6 回	良いレポートとは何か？	参加者のレポートを素材として，良いレポートの書き方について検討します。
第 7 回	時事問題について考えよう！（1）	どのような時事問題があるのかについて，グループごとで話し合い，発表してもらいます。
第 8 回	時事問題について考えよう！（2）	テーマごとのグループに分かれて，情報収集・議論を行います。
第 9 回	時事問題について考えよう！（3）	担当する時事問題に関する調査状況について報告し，議論をします。
第 10 回	時事問題について考えよう！（4）	担当する時事問題に関して報告し，議論します。
第 11 回	学修プランを作成しよう！（グループディスカッション）	グループごとに分かれて，学修プラン（宮澤案）を参考に，自分たちの学修プランについて議論します。
第 12 回	学修プランを立てよう！（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後，全員で議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）グループディスカッションのテーマについては，事前に，自ら考えたり調べたりして，論点をピックアップしておきます。
2）個人あるいはグループによる発表の前には発表の準備（レジュメ・スライドの作成など）をします。
3）春学期中に，グループで議論した内容に関して，個人でレポートを作成し，提出します（詳しくは開講後に説明します。）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター『法政大学学習支援ハンドブック 2020』，法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター（2020 年），大学から配布予定

【参考書】
佐藤編著『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門（第 2 版）』慶応義塾大学出版会（2012 年）
日経 HR 編集部（編著）『日経キーワード 2020-2021』日経 HR（2019 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）とレポート（3 回，各 20 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間には消極的になってしまうという意見がありましたので，グループ・ディスカッションの機会を増やすとともに，それ以外の時間でも，双方向型の授業を行います。
また，遅刻者などに対する対応が甘いという意見がありましたので，授業の進行を妨げない範囲で，厳しく対応するようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン，タブレット，ノートＰＣなどの情報機器を何か用意してください。

【その他の重要事項】
1）毎回出席することを前提として進めます。やむを得ない事情で欠席する場合には，必ず事前に連絡するようにしてください。無断の場合は 2 回以上，事情がある場合でも 3 回以上欠席した場合には単位を出しませんので十分に注意してください。
いくつかのグループに分かれて活動をすることを予定していますが，参加者の人数によっては，変更する場合があります。
2）議論を深めるため，専門入門科目 100 番台の各科目などを同時に履修することをお勧めします。
3）日本経済新聞の朝刊を利用する回があります。当日は各自で新聞を用意してください。また，それ以外の日も新聞を読むようにしてください。

【関連科目】
全ての科目に関連する入門科目です。

【Outline and objectives】
What kind of contents and with what kind of attitude should you learn in the school of business administration, Hosei University. In this class, you will think about these issues with the all participants in order to live a fruitful university life. You will practically learn about how to introduce the contents, to present own ideas, and to question/comment on others' thoughts, concerning some familiar topics such as your university life, subject of study, and current affairs.

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）

演習　　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門演習 I （2016～2018 年度入学者）

1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

小林　健一

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「課題解決力を身につける」

●高校と違って、大学での学び方は多様です。ただ教室に座って講義を聞くだけではなく、自ら調べ、考え、それを筋道立てて人に伝える努力と技術（＝**「考える力　スタディスキル」＋「伝える力　ソーシャルスキル」**）が求められます。そして、それはそのまま、皆さんが将来社会に出て**「生きる力」**にもつながります。
●大学生活も、また大学卒業後の人生も、問題意識を持ってある課題に立ち向かい、その課題を解決することの連続です。この授業では、**「課題に気づく力」「課題を解決する力」「解決策を説明する力」**を養うことを目的とします。
●講師は実務家出身ですので、将来研究者を志す学生の皆さんよりは、実業を目指す学生の皆さんを対象として、課題解決の技術を身につけていただきたいと思います。

【到達目標】
●課題について個人で考え、情報を集め、その結果と自分の考えをレポートにまとめることができる。
●課題をグループで解決し、解決策を他の人に説得力をもって伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
●身近なテーマ（例えば「○○という商品の売上を上げる」「○○という街のプレゼンスをあげる」等）をひとつ設定し、その課題について調べ、考え、筋道立ててまとめ、人に伝える事を、「講義」「個人演習」「グループ演習」を組み合わせながら進めます。
●昨年度は、個人では「超高齢社会におけるビジネスチャンス」について考え、各自レポートを完成させました。グループでは、「法政大学の課題を解決する」ことに挑戦し、最後に大学職員の方々にプレゼンテーションしました。
●課題を解決することは楽しい！ ということを体感してもらえるような授業にしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教員自己紹介 授業の進め方、授業スケジュールの説明 学生自己紹介
第 2 回	グループ分け	グループ分けを行ってグループに名前をつける グループメンバーがお互いを知る 個人レポート課題提示
第 3 回	グループディスカッションの練習	グループ分けを行ってグループに グループで特定のテーマについてディスカッションを行い、グループ毎に発表する
第 4 回	グループの課題を考える	グループで 1 年間考える課題について討議する
第 5 回	情報入手の仕方を学ぶ	図書館の利用方法を学ぶ 図書館を使ってみる
第 6 回	課題の確認	各グループの課題の確認 課題解決のための作業リストを作り、資料を集める
第 7 回	先輩と語る	社会に出た OBOG の話を聞く
第 8 回	課題解決のための作業	集めた資料を分析する 課題解決のための仮説を作る
第 9 回	第 1 回プレゼンテーションの準備をする	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第 10 回	第 1 回プレゼンテーション	各グループからのプレゼンテーションと講評
第 11 回	最終プレゼンテーションの準備をする①	グループで発表のための資料を作る
第 12 回	最終プレゼンテーションの準備をする②	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第 13 回	最終プレゼンテーション	各グループからのプレゼンテーションと講評
第 14 回	授業の振り返り	授業の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、グループワークや個人の発表に対しての質疑を中心に全員参加で行う。したがって、学生は、各自次の授業までに、グループワークで使う資料・データ収集や個人発表のための準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】
「論点思考」内田和成、東洋経済新報社、2011。
「大学生のためのデザイニング・キャリア」渡辺三枝子/五十嵐浩也/田中勝男/高野澤勝美、2011。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、個人レポートの評価 40 %、
グループの成果 20 %、グループワークへの積極的参加態度 20 %、
の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度、学内教員、職員の方へのプレゼンテーションや若手社会人とのディスカッションがいい経験になったという声があるため、できるだけ外部の方々にも参加してもらえる開かれた授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
個人レポートの提出は授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
●この授業は、演習形式の授業であるため、応募者多数の場合は、抽選、もしくはレポートによって受講者数を絞ります。
●講師は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】
レポートの書き方、プレゼンテーションのやり方等基本的なスタディスキルを学ぶ授業であるため、すべての科目の基礎になる科目です。

【Outline and objectives】
Acquire problem solving skills
Both college life and life after college graduation are a continuation of confrontingchallenges with problem consciousness and then solving the problem.
In this lesson, weaim to cultivate "ability to notice task" "ability to solve problem" "power to explain solution" .

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）　演習　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者）　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN100FA
入門演習Ⅰ（2016～2018 年度入学者）　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）　演習　1 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

稲垣　保弘

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　会社、組織、マネジメント、戦略といった経営学の中心的なテーマについて基本的な考え方や知識に慣れてもらいます。そのプロセスを通じて、経営学に関する文献の読み方、理解の仕方、そして論理的な文章の書き方といった経営学部の学生に求められるスキルも身につけます。
　1 年生の科目なので、使用する論文などはそれほど高度な専門知識を必要としないものになります。

【到達目標】
経営学（特に会社制度、戦略、事業、組織、マネジメントといった領域）の基本的な知識と考え方を身につけて、2 年生からの専門科目の学習に活かせるようになること。また、経営関係の文献の読み方、内容を要約してレジュメにまとめるノウハウ、発表の仕方などを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者数にもよりますが、最初の数回は講義形式で、まず理解してほしいこと（経営学の基本的な知識、経営学の基本的な専門書や論文の読み方、理解の仕方、レジュメの書き方など）について説明します。
　そのあと、履修者にテキストの章、論文などについてレジュメを作成し、内容を発表してもらうという形式を予定しています。
　詳細な内容や分担は履修者が確定してから決めることになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、春（あるいは秋）学期全体の授業の流れなどについて説明します。
第 2 回	テキストについて	授業で使用するテキスト、論文、英文記事などの概要説明。
第 3 回	リポート、レジュメなどの作成について	レジュメ、リポートの作成についての基本的な知識、方法などを説明します。
第 4 回	経営学とはどういうものかⅠ	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第 5 回	経営学とはどういうものかⅡ	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第 6 回	テキストの輪読Ⅰ	テキストを一章ずつ分担して、レジュメの作成、発表をしてもらいます。そのあと、補足的な説明を行ったり、ディスカッションに適するテーマがあった場合には、全体ないしグループでのディスカッションも行います。
第 7 回	テキストの輪読Ⅱ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 8 回	テキストの輪読Ⅲ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 9 回	テキストの輪読Ⅳ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 10 回	比較的やさしい論文の検討Ⅰ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。特に論文の読み方、理解の仕方、背景にある理論の説明など。論文のテーマによってはディスカッションも。
第 11 回	比較的やさしい論文の検討Ⅱ	レジュメの作成と発表。補足的説明。場合によってはディスカッションも。
第 12 回	英語文献の検討Ⅰ	経営学関係の英文を読んで、基本的な専門用語（英語）をマスターしてもらいます。こちらからの解説が中心です。
第 13 回	英語文献の検討Ⅱ	履修者の英語力によっては、内容を説明してもらうことも。
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、論文、英語文献の予習、復習。詳細は授業で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
経営学の基本的な本。有名な論文。アメリカやイギリスの雑誌、新聞記事など。詳細はオリエンテーションのときに。なるべくコピーを配布する予定です。

【参考書】
『組織の解釈学』白桃書房、２００２.
『経営の解釈学』白桃書房、２０１３.
この科目に限らず、担当教員の著書を図書館でざっと目次だけでも見ておくのはいいことです。
　その他、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験はやらずに、平常点で評価する予定ですが、受講者数によって変更になるかもしれません。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は受講者数が多く、学生の希望にできるだけ沿って授業を進める形を取りました。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
履修する意思が少しでもあるのでしたら、初回の授業には出てください。

【関連科目】
おそらく経営学部のほとんどの科目の基礎になると思います。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to business administration. The key concepts of the course include Company,Organization,and Management.Students will learn the basis of these areas through reading books and articles which describe basic theories and actual company cases.Through this process,
students will also learn logical and creative way of thinking.

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）

演習　　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習 I （2016〜2018 年度入学者）

1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

猪狩　良介

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、大学での学習に必要な基本スキルおよびゼミナールに必要なスキルを学習します。大学では、自分でテーマを設定し、レポートにまとめたり、プレゼンテーション (発表) したりする必要があります。そのためには、仮説の設定、関連する文献や資料の検索、データによる実証、ワードやパワーポイントによる資料作成などのスキルが必要になります。これらの能力は、大学だけではなく、社会に出てからも必要となるスキルです。本演習を通して、これらのスキルを習得することを目的としています。

【到達目標】
・大学での勉強の方法を習得する。
・自ら課題を設定し、文献を調べ、考える態度を身につける。
・レポートを作成する力を身につける。
・自らの考えを発表し、他の人に説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・大学での勉強の仕方について学びます。また、ワードやパワーポイントなどの基本的なパソコンスキルを身につけます。
・グループでテーマを設定し、文献を調べ、結果のプレゼンテーションを行います。
・エクセルを利用したデータ処理を学びます。また、グループワークに関するデータを実際に取得・分析します。
・成果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。
・受講希望者は 4/24(金) 中に、「入門演習 2020 年春学期申し込み・選抜アンケート」に記入してください。詳細は、学習支援システム上の「入門演習」→「教材」ページにある「入門演習 01.pdf」ファイルを参照ください。
・希望者が多い場合はアンケート内容をもとに選抜を行い、4/30 までにメールまたは学習支援システムにより発表します。
・授業はオンライン会議システムを用いて行います。最初のオンライン授業は 5/8(金) となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (1)	授業概要について説明します。特に、大学での学びについて説明します。履修者が多い場合は、選抜を行います。
2	オリエンテーション (2)	学生同士で自己紹介をします。また、グループ決めを行います。
3	テキストの読み方	学術的な文章の読み方について学習します。また、実際に文章を読み、要点をまとめます。
4	レポートの書き方	レポート作成のスキルについて学びます。また、ワードの使い方について学び、実際にレポートを作成します。
5	資料の探し方	文献検索の方法について学びます。また、図書館の利用方法などについても学びます。
6	プレゼンテーションの方法 (1)	プレゼンテーションスキルおよび発表資料の作成について学びます。特に、パワーポイントの使い方について学びます。
7	プレゼンテーションの方法 (2)	各自で実際にプレゼンテーションを行います。
8	データ分析／エクセル技法 (1)	アンケート調査とデータ分析の基礎について学習します。
9	データ分析／エクセル技法 (2)	データ分析について学習します。また、エクセルの利用方法について学びます。
10	グループワーク (1)	グループワークについて学びます。また、グループワークで行う研究テーマを決めます。
11	グループワーク (2)	グループで研究テーマに取り組みます。
12	グループワーク (3)	グループワークの中間発表会を行います。
13	グループワーク (4)	グループワークの中間発表会を行います。
14	報告会	グループワークの最終発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・プレゼンテーションやグループ報告では報告担当者が発表します (資料作成等の準備が必要となります)。
・グループで設定したテーマについて取り組みます。
・授業内容の宿題に取り組みます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・世界思想社編集部 (2015)『大学生学びのハンドブック 3 訂版』世界思想社.

【参考書】
・早坂清志, きたみあきこ (2015)『EXCEL グラフ作成データを可視化するノウハウ』翔泳社.
その他については、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 (30%)
・発表やプレゼンテーション (40%)
・宿題 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
学生同士のディスカッションの場を多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料作成やプレゼンテーション用の PC が必要となります。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合には初回授業で選抜を行います。初回授業には必ず出席してください。
グループワークを行いますので、授業への欠席等は他のメンバーに迷惑が掛かります。責任をもって履修してください。
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
マーケティング入門
戦略論入門
統計学入門

【Outline and objectives】
In this course, we will learn the basic skills required for studying at university and for seminars. At the university, students need to set your own theme, put it together in a report, or give a presentation. For doing them, skills such as setting hypotheses, searching for related documents and materials, confirmation with data, and creating materials using words and PowerPoint are required. In addition, these skills are required not only at universities but also business after graduation. The purpose of this course is to acquire these skills.

MAN100FA
入門演習（2019 年度以降入学者）

演習　1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN100FA
入門演習 I （2016～2018 年度入学者）

1 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

筒井　知彦

本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
入門演習は大学生活のスタートアップのための科目です。大学で必要なスキル、たとえば、テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方、批判的思考、ディスカッション、プレゼンテーションなどの基本について学びます。そのうえで、ディスカッションやプレゼンテーションについてグループワークを通じて実践します。

【到達目標】
①大学で必要なスキルの基本を把握する。
②特定のテーマについて、情報を集め、読み、考えてレポートを作成する。
③グループディスカッションに参加して意見をまとめる。
④プレゼンテーションにより他者に意見を伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
個人の作業やグループワーク、授業内での発表を中心に進めます。教員は適宜アドバイスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目的、授業の進め方、履修の方法と計画
2	自己理解と目標の確認	自分の強みと弱みを分析、大学生活における目標の設定
3	コミュニケーション	グループを作り、グループ内で自己紹介
4	情報の収集	図書館の利用方法、図書館ツアー
5	ノートの取り方、レポートの書き方	講義ノートの作成ポイント、リポート作成の要点
6	大意の理解と要約①	新聞記事を読んで要約
7	大意の理解と要約②	ビデオを視聴して要約
8	プレゼンテーションの準備①	グループワーク：テーマの設定と資料の収集
9	プレゼンテーションの準備②	グループワーク：資料の作成
10	プレゼンテーションの準備③	グループワーク：資料の作成と発表の練習
11	プレゼンテーションの準備④	グループワーク：資料の作成と発表の練習
12	プレゼンテーション①	各グループごとにプレゼンテーション
13	プレゼンテーション②	各グループごとにプレゼンテーション
14	プレゼンテーション③	各グループごとにプレゼンテーション、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークをもとにプレゼンテーションを行います。その準備として、資料の収集、分析、グループディスカッション、レポート作成など、講義外でのワークが必須となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表 30 %、レポート 50 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの作業時間を十分に確保するよう努めます。また、参加者の人数によって、内容を調整します。

【学生が準備すべき機器他】
グループに 1 台タブレットまたはパソコンがあると便利です。

【その他の重要事項】
他に履修しておくべき関連科目はありません。
Web 抽選（エントリー期間： 4/4～4/6 15:00）を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【関連科目】
None.

【実務経験のある教員による授業】
None.

【Outline and objectives】
The course aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with class members and your supervisor.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

安藤　直紀　（代講：笠原　民子）

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は国際経営をテーマとします。特に新興国市場を対象とし、そこでの戦略やマネジメントが中心的なテーマとなります。学生は企業がどのように外国市場に参入し、他国の多国籍企業及び現地のライバル企業と競争し、競争優位を構築するのか、について海外調査や議論等を通じて学びます。

【到達目標】
学生は、国際経営に関する理論を習得します。海外で企業が採る戦略、ビジネス環境、特に新興国市場に関する理解を深めます。併せて社会科学の調査方法を習得するとともに、理論に基づいてディスカッションを行う能力、調査を行う能力、調査結果を踏まえた上で論理的に考察する能力、プレゼンテーションを行う能力を身に着けます。演習を通じて、自ら問題を発見し、設定し、調査、分析を行うことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
4 月 24 日（金）13 ： 00 から本講義はスタートします。
ただし、事前に伝えたように、17 日（金）13 ： 00 に ZOOM を利用してオンラインゼミを 1 時間程度実施する予定です。事前に、PC 等に ZOOM アプリをダウンロードしておいてください。毎回の ZOOM を利用するゼミの ID、パスワードは、Hoppii（学習支援システム）の演習 1、授業内掲示板の箇所に 12 ： 30 には配布するようにします。
グループによる海外調査とディスカッションを中心に演習を進めます。国際経営に関するテーマの下で、各グループが具体的なテーマを設定します。それについて理論的、実践的に考察し、議論し、その成果報告を行います。グループによる研究のほか、4 年生は個人研究も行います。個人研究については、中間発表及び最終発表を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義概要に関するオリエンテーション
2	グループ研究①（1）	グループ研究のテーマ設定
3	方法論①	社会科学の研究方法
4	方法論②	社会科学の研究方法
5	方法論③	社会科学の研究方法
6	グループ研究①（2）	研究テーマに関する文献調査
7	グループ研究①（3）	研究テーマに関する文献調査
8	グループ研究①（4）	研究テーマに関する文献調査
9	グループ研究①（5）	研究テーマに関する文献調査
10	グループ研究①（6）	文献調査をふまえた考察
11	グループ研究①（7）	文献調査をふまえた考察
12	グループ研究①（8）	文献調査をふまえた考察
13	グループ研究①（9）	研究発表（中間報告） ※海外調査に向けた報告
14	個人研究	研究発表（中間報告）

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	グループ研究②（1）	海外調査のまとめ
16	グループ研究②（2）	海外調査のまとめ
17	グループ研究②（3）	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
18	グループ研究②（4）	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
19	グループ研究②（5）	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
20	グループ研究②（6）	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
21	グループ研究②（7）	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
22	グループ研究②（8）	海外調査、文献調査をふまえた考察
23	グループ研究②（9）	外調査、文献調査をふまえた考察
24	グループ研究②（10）	外調査、文献調査をふまえた考察
25	グループ研究②（11）	研究発表
26	グループ研究②（12） 研究発表（個人）	研究発表・個人研究の最終発表
27	研究発表（個人）	個人研究の最終発表
28	総括	これまでの学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期
1-2 回：グループの研究テーマを考える
3-5 回：方法論に関する書籍の輪読
6-9 回：研究テーマに関する文献を調べ、輪読する
10-12 回：文献調査の結果をまとめる
13 回：海外調査に向けたグループ研究のテーマ、課題等の中間報告
14 回：次年度に取り組む個人研究のテーマの報告本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献を 70 %、グループまたは個人によるレポートを 30 %として評価する。ゼミへの貢献とは、ゼミでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションへの積極的な関わりを指す。出席しているだけでは、ゼミへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているか、すなわち自らの考えを持っているのかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】
PC 等

【その他の重要事項】
特になし

【関連科目】
国際経営戦略論Ⅰ／Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
特になし

【Outline and objectives】
This seminar focuses on international business research. In particular, the seminar focuses on MNC's strategy and management in the emerging countries. Students can learn how MNCs enter into foreign countries, how they manage their resources in the local markets, and how MNCs build their competitive advantages in host countries and/or global markets through discussion and overseas research

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

猪狩　良介

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング／ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。
この授業では、実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけることを目標としています。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】
・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・前期は、マーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。また、グループで研究に取り組みます。
・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。
・授業はオンライン会議システムを用いて行います。初回は 4/23(木) となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要および進め方について説明します。 また、テキスト 1 章について学びます。
2	オリエンテーション	グループ決め及び担当分けを行います。また、グループワークを行います。
3	2 章：データの取得と整理 3 章：サンプリング	文献を輪読してディスカッションを行います。
4	4 章：質問紙の作成と測定尺度 5 章：市場反応分析	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
5	6 章：市場の発見と知覚マップ	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
6	グループワーク (1)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。
7	7 章：市場セグメンテーション	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
8	8 章：製品開発	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
9	9 章：新製品の普及	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
10	グループワーク (2)	グループワークを実施します。また、進捗を報告します。
11	10 章：顧客の管理	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
12	11 章：市場反応分析	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
13	グループワーク (3)	グループワークを実施します。また、進捗を報告します。
14	まとめ	春学期のまとめを行います。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の進め方について説明します。
16	グループワーク：テーマ報告 (1)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
17	グループワーク：テーマ報告 (2)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
18	グループワーク：文献・事例研究 (1)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
19	グループワーク：文献・事例研究 (2)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
20	グループワーク：文献・事例研究 (3)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
21	グループワーク：最終報告会 (1)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
22	グループワーク：最終報告会 (2)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
23	個人研究：中間報告 (1)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
24	個人研究：中間報告 (2)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。

25	個人研究：文献・事例研究 (1)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
26	個人研究：文献・事例研究 (2)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
27	個人研究：最終報告会 (1)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。
28	個人研究：最終報告会 (2)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
[春学期]
・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します (資料作成等の準備が必要となります)。
・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します (資料作成等の準備が必要となります)。
・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。
[秋学期]
・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。
・個人／グループで論文を執筆します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・照井伸彦, 佐藤忠彦 (2013)「現代マーケティング・リサーチ」 有斐閣.

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 (30%)
・グループワークおよび個人での報告・最終報告 (40%)
・論文 (30%)
※ 3 年生は進級論文が、4 年生は卒業論文がそれぞれ必須になります。

【学生の意見等からの気づき】
・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
・基礎統計学Ⅰ/Ⅱの内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
・基本的なパソコンスキル（ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等）を前提とします。
・統計学のスキルが必要なため、計量経営分析Ⅰ/Ⅱと合わせて履修することを推奨します。
・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
計量経営分析Ⅰ/Ⅱ
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ
マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ

【Outline and objectives】
In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing data analysis are required even at the business. The purchase history at the stores of the consumer is accumulated as POS or ID-POS data, and the internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Then, each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc.
In this course, we will learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and deal with themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

池田　宏一郎

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一般に〈数学〉を身につけるためには，下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く，多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは，まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい，そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し，最後に個々に自分のテーマを理解する，という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも，その分野を深く掘り下げたという体験は，みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】
〈数学〉は，自然現象のみならず，様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは，みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
個人あるいはグループで選んだテキストを使って，誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして，全員で考えたり話し合う時間を作ります。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２１日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して，その具体的目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して，その具体的目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して，その具体的目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い，共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い，共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い，共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し，お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し，お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し，お互いに検討③
第 13 回	中間発表①	各自，得られた結果を発表し，最初に設定した目標と比較①
第 14 回	中間発表②	各自，得られた結果を発表し，最初に設定した目標と比較②

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	中間発表③	各自，得られた結果を発表し，最初に設定した目標と比較③
第 16 回	春学期の復習①	春学期に得られた結果をお互いに検討①
第 17 回	春学期の復習②	春学期に得られた結果をお互いに検討②
第 18 回	春学期の復習③	春学期に得られた結果をお互いに検討③
第 19 回	最終達成目標の設定①	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し，そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討①
第 20 回	最終達成目標の設定②	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し，そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討②
第 21 回	最終達成目標の設定③	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し，そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討③
第 22 回	レポート作成の経過発表①	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ，問題点などを確認①
第 23 回	レポート作成の経過発表②	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ，問題点などを確認②
第 24 回	レポート作成の経過発表③	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ，問題点などを確認③
第 25 回	最終目標の達成①	最終目標に達成するために，必要ならばグループを作り，お互いに問題点などを検討①
第 26 回	最終目標の達成②	最終目標に達成するために，必要ならばグループを作り，お互いに問題点などを検討②
第 27 回	最終目標の達成③	最終目標に達成するために，必要ならばグループを作り，お互いに問題点などを検討③
第 28 回	最終発表	最後に得られた結果を発表し，進級および卒業論文としてまとめる．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め，自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありません．毎回，プリントを配布するなどして授業を進めていきます．最初の授業で１年間で学びたいテーマをいくつか選んで，各テーマに応じてテキストを選びます．

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】
関連科目：「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」,「教養数学 A/B」,「確率の世界 A/B」,「発展数学 LI/LII」

【Outline and objectives】
This course deals with basic concepts and methods in mathematics.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

稲垣　京輔

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】
本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループ研究等）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。
秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・３年生の各グループへの参加
2 回	文献購読（経営戦略） 問題意識とは何か	・ポジショニング ・経営資源 ・見えざる資産
3 回	文献購読（競争戦略） 問題意識の持ち方	・差別化 ・集中化 ・コストリーダーシップ ・バリューチェーン
4 回	文献購読（競争優位） 先行研究からの知見	・事業ドメイン ・事業システム
5 回	文献購読（成長戦略） 先行研究からの知見	・多角化 ・事業ポートフォリオ ・国際化
6 回	文献購読（全社戦略） 先行研究から見えてくる新たな課題	・企業の境界線 ・M&A ・事業合理性と組織合理性
7 回	研究中間報告【第一回目】	各グループにおける問題意識と先行研究
8 回	文献購読（国際化戦略） 見過ごされてきた課題	・経営と国境 ・経営資源の移転 ・国のポートフォリオ ・研究方法（文献調査）
9 回	文献購読（資本市場と経営戦略） 研究課題の意味	・資本市場と企業 ・資本調達のマネジメント ・株主構成 ・研究方法（フィールド調査企業の発掘）
10 回	文献購読（労働市場と経営戦略） 研究課題と問題意識	・企業と労働市場との関係 ・日本企業の雇用構造の特性 ・研究方法（フィールド調査企業への依頼）
11 回	文献購読（組織マネジメント） 先行研究レビューと研究課題	・組織と個人 ・個人の自律性 ・組織の慣性 ・研究方法（フィールド調査の計画）
12 回	文献購読（組織構造） 研究課題と研究対象	・分業化 ・階層化 ・責任と権限 ・コミュニケーション ・研究方法（フィールド調査の実施）
13 回	文献購読（仕事意欲） 研究課題と研究方法	・欲求段階説 ・動機付け ・職務特性 ・研究方法（フィールド調査の結果と分析）
14 回	研究中間報告【第二回目】	各グループにおける研究課題設定と研究計画

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1 回	研究中間報告【第三回目】	フィールド調査の結果報告
2 回	文献購読（計画とコントロール） 実証研究の方法	・計画システムの設計 ・コントロールシステムの設計
3 回	文献購読（経営理念と組織文化） 実証研究の方法	・経営理念 ・組織文化
4 回	文献購読（リーダーシップ） 実証研究の方法	・リーダーシップの源泉 ・リーダーシップの条件
5 回	文献購読（配置、育成、選抜） 実証研究の方法	・人材の配置の意味 ・人材の選抜と育成
6 回	文献購読（ファミリー企業の特徴） 実証研究の方法	・スリー・サークル・モデル ・同族、資本、経営のマネジメント
7 回	研究中間報告【第四回】	フィールド調査の結果報告

8 回	文献購読（事業承継） 研究の仕上げ作業	・経営と資産の承継 ・社内の事業承継 ・社外の事業承継
9 回	文献購読（後継経営者の育成） 研究の仕上げ作業	・生得的地位 ・獲得的地位 ・後継者の制約と自律のジレンマ
10 回	文献購読（先代世代経営者の役割） 研究の仕上げ作業	・エディフィスコンプレックス ・先代経営者の引退
11 回	文献購読（後継者による企業変革） 研究の仕上げ作業	・先代世代への経営資源の依存 ・後継者独自の経営資源の獲得
12 回	文献購読（後継者へのガバナンス） 研究の仕上げ作業	・経営者への牽制と規律づけ ・ファミリー企業におけるガバナンス
13 回	他大学ゼミとの交流	・セミ報告の対抗戦
14 回	研究最終報告	・研究の振り返り ・卒業研究に向けた取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
落合康裕（2016）『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』白桃書房.3,456 円（税込み）

【参考書】
基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）３０％
・課題レポート（前期・後期）４０％
・ゼミへのコミットメント３０％
（留意事項）３回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
・テキスト（教科書）
・ノート
＊上記の他、適宜指定する。

【その他の重要事項】
・春学期・秋学期合わせての履修の推奨

【関連科目】
特になし

【Outline and objectives】
Our seminer will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in thew field of strategies organization, corporate governance and entrepreneurship.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

稲垣　保弘

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。
この過程で, 専門的な文献の読み方、理解の仕方、内容のまとめ方を身につけ、論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。
経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に関係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）

【到達目標】
概要と目的で示した内容について、できるだけ能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。
夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。
英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
2	経営学についての重要な文献の検討１	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
3	経営学についての重要な文献の検討２	経営学の知識と思考方法を身につける。
4	経営学についての重要な文献の検討３	経営学の知識と思考方法を身につける。
5	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
6	経営学についての重要な文献の検討４	経営学の知識と思考方法を身につける。
7	経営学についての重要な文献の検討５	経営学の知識と思考方法を身につける。
8	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
9	最新の経営学の論文で易しいものを検討１	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
10	最新の経営学の論文で易しいものを検討２	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
11	最新の経営学の論文で易しいものを検討３	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
12	最新の経営学の論文で易しいものを検討４	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
13	最新の経営学の論文で易しいものを検討５	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
14	春学期まとめ	春学期に自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	夏合宿でのケーススタディのプレゼンの内容の再検討１	自分の担当したケースの内容の拡張と深化。
2	夏合宿でのケーススタディの再検討２	ケーススタディの内容の拡張と深化。
3	夏合宿でのケーススタディの再検討	内容の拡張と深化。
4	実践的な（ハウツー的）論文の検討１	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
5	実践的な論文の検討２	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
6	実践的な論文の検討３	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
7	最新の重要なテーマに関する英語文献について解説１	経営学的な雑誌記事、新聞などの英語に慣れる。
8	やや難しい経営関係の論文の検討１	担当者によるプレゼンにもとづいて、ディスカッションを行う。
9	やや難しい経営関係の論文の検討２	プレゼンとディスカッション。
10	やや難しい論文の検討３	プレゼンとディスカッション。各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
11	最新の重要なテーマに関する英語文献について解説２	新聞、雑誌記事などの経営英語に慣れる。
12	やや難しい論文の検討４	各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
13	やや難しい論文の検討５	各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
14	秋学期のまとめ	自分の卒論のテーマを意識しながら、秋学期の内容を各自、自分なりにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。
英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
昨年度は約 30 本の論文を検討。
今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モティベーション、戦略、組織などについての論文とケーススタディ（業界研究も含む）を検討することになる。
どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献ははコピーして配布。

【参考書】
テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】
3 年生はゼミでの発表などの平常点（50 %）、提出するレジュメ（50 %）などにもとづいて評価する予定。
4 年生は卒業論文（100%）にもとづいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】
まず個人の能力アップを図り、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】
ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】
経営管理論Ⅰ/Ⅱ、組織論入門、戦略論入門

【Outline and objectives】
This course deals with relatively complicated or practical theories of management organizing and strategy.Student will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organization and management by reviewing these theories and relevant case studies.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

大木　良子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】
ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。
1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。
2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。
テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。
輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当者以外は、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。
要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。
ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。
卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1 ：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2 ：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1 ：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2 ：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1 ：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2 ：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1 ：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2 ：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1 ：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2 ：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要となる引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1 ：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2 ：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディーテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。
運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。
事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読用テキストとして、以下を指定する。
『産業組織とビジネスの経済学』　花薗誠　有斐閣　2018 年

【参考書】
文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告・議論への主体的な関わり　50 %
提出物　50 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】
経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】
1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN200FA
演習 1　　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

大下　勇二

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】
財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎の涵養を目指します。
さらに、二・三年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を養います。
四年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養います。
二・三年生はレポート等の作成により、四年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
二・三年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくことが必要になります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。テキストに基づく基礎的学習の後、3 グループに分かれて企業分析を行い、複数回報告 (プレゼン) してもらい、最終的に報告書にまとめます。
四年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめます。

授業は教室での学習が中心ですが、この他に証券取引所の見学や合宿を実施する予定です。
春学期の授業については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 23 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介など
第 2 回	財務会計の基礎	3 年生はテキスト第 1 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 3 回	財務諸表の仕組み	3 年生はテキスト第 2 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 4 回	棚卸資産の会計	3 年生はテキスト第 3 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 5 回	有形固定資産の会計	3 年生はテキスト第 4 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 6 回	無形固定資産および繰延資産の会計	3 年生はテキスト第 5 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 7 回	金融資産の会計	3 年生はテキスト第 6 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 8 回	負債の会計	3 年生はテキスト第 7 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 9 回	純資産の会計	3 年生はテキスト第 8 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	収益と費用の会計	3 年生はテキスト第 9 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	税効果会計	3 年生はテキスト第 10 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	外貨換算会計	3 年生はテキスト第 11 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 13 回	企業結合会計	3 年生はテキスト第 12 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 14 回	連結財務諸表	3 年生はテキスト第 13 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	財務諸表の分析 (1)	3 年生はテキスト第 14 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 16 回	財務諸表の分析 (2)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第 17 回	財務諸表の分析 (3)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第 18 回	財務諸表の分析 (4)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第 19 回	グループワークによる企業分析 (1)	複数のグループに分れ、特定の業界・企業を選定する作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 20 回	グループワークによる企業分析 (2)	選定した業界・企業に関するデータの蒐集作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 21 回	グループワークによる企業分析 (3)	蒐集した業界・企業のデータに基づいて様々な観点から分析作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 22 回	グループワークによる企業分析 (4)	各グループごとにまとめた分析結果を中間報告し、議論する。
第 23 回	グループワークによる企業分析 (5)	中間報告での指摘に基づいて、分析の再検討を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 24 回	グループワークによる企業分析 (6)	分析の再検討を反映した最終報告書の作成作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 25 回	グループワークによる企業分析 (7)	各グループごとに最終報告し、これを報告書としてまとめる。4 年生は卒業論文の中間報告
第 26 回	卒業論文の最終報告 (1)	4 年生の卒業論文の最終報告をしてもらう。

第 27 回	卒業論文の最終報告 (2)	4 年生の卒業論文の最終報告をしてもらう。
第 28 回	グループ報告書および卒業論文の提出と総括	グループ報告書と卒業論文を提出してもらい、1 年間のゼミ活動を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
財務会計のスタンダードなテキストを用います。田中建二著『財務会計入門』(最新版)(中央経済社) を使用する予定です。データ分析に関するテキストは最初の授業で指示します。

【参考書】
最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
今期、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるよう工夫したいと思います。

【その他の重要事項】
本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1 年次の簿記入門Ⅰ・Ⅱ、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱの既習者であり、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。
ゼミでの報告は基本的に簿記 3 級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4 月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

【Outline and objectives】
The objective of this subject is to understand the bases of financial accounting and financial data analysis.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

小川　孔輔

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
輪読、事例研究を通してマーケティングを学ぶ。

【到達目標】
個人発表、グループ発表、フィールドワークの発表。プレゼンテーション力、リサーチ能力、グループでの作業を遂行する力などを鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習は以下の 6 つの柱からなる。
1. テキストの輪読（ふだんは英文）、合宿では日本語テキストもあり。
2. マーケティング活動についての事例、および雑誌記事などを材料にしたグループ討論
3. フィールドワーク（市場調査と商品開発）と、インタビュー形式の企業ヒアリング。それらを素材にしたディスカッションとレポートの作成（隔月で課題図書の感想文）： 2004 年から始まっているが、2017 年度はカインズ、ナチュラルローソン (140 店舗でヘルシースナッキング棚提案・林檎ビネガー酎ハイ開発)、アールビーズ (ランナーズ)、シェアードブルワリー（HOSEI CRAFT BEER 開発）を調査対象企業として、企業と協力しながら実施した。2018 年度は、ローソン、ストライプインターナショナル、東京ドーム、魚津市。2019 年度は、福島屋、ストライプインタビュー、レッグス、トラスト中山。これまで 40 社以上と取り組んできている。
4. 卒業論文（フィールドワークの報告書）。
5. 春・夏の合宿
6. 企業での実務研究（3 年次に、インターンシップに参加）、店舗・工場見学（過去、幸楽苑、カインズ、ロック・フィールド、日高屋工場見学）、食品スーパーヤオコーの「感動と笑顔の祭典」で特別プレゼンテーション（2014 年）、大学院生との共同調査（ユニクロ銀座店でバンドル販売の店頭実験、バンコク市内のファミリーマートで調査）など。2019 年度は、トラスト中山の物流システムを見学（埼玉県行田市）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年間の活動内容を計画、決定する
第 2 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（1）	第 2 回から第 14 回までは、共通（テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う）
第 3 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（2）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 4 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（3）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 5 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（4）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 6 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（5）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 7 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（6）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 8 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（7）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 9 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（8）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 10 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（9）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 11 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（10）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 12 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（11）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 13 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（12）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 14 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（13）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏期合宿について
第 16 回	課題図書の個人発表	春学期の課題図書の個人発表とディスカッション
第 17 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（14）	第 17 回から第 29 回までは、共通（テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う）
第 18 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（15）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 19 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（16）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 20 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（17）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 21 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（18）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う

第 22 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（19）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 23 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（20）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 24 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（21）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 25 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（22）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 26 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（23）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 27 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（24）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 28 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（25）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや課題図書の購読、個人発表の準備、グループ発表の準備、フィールドワークに関する調査、準備等。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Kotler, P. and G. Armstrong (2017) 'Principles of Marketing, Global Edtion,' Pearson（今年度予定）。数年前から、マーケティング関連のピアソン教科書シリーズから選書。

【参考書】
小川孔輔（2009）『マーケティング入門』日本経済新聞出版社、
小川孔輔（2011）『ブランド戦略の実際＜第２版＞』日経文庫、
岩崎達也・小川孔輔編著（2017）『メディアの循環』生産性出版。

【成績評価の方法と基準】
個人報告・グループ討議（1/2）、卒業論文（1/4）、隔月実施の「課題図書」（1/4）

【学生の意見等からの気づき】
テキストの選択時に学生の意見を参考にする。

【学生が準備すべき機器他】
個人のスマホ、あるいは、ラップトップ PC

【関連科目】
経営学総論Ⅰ／Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱ、マーケティング論Ⅰ／Ⅱ、流通論Ⅰ／Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ／Ⅱ、情報科学実習Ⅰ／Ⅱ。

【Outline and objectives】
Students who participate in this seminar class will learn about the basic theory of marketing. In addition, they can understand the marketing practices by experiencing application methods and case studies.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

小川　憲彦

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。なお、今年度は学祭への出店を計画しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	合宿総括、夏季休暇の振り返り、秋学期 MBO など	全員、全班が実施
第 2 回	研究デザインについて	調査対象と分析枠組みの検討
第 3 回	調査項目の検討	聞き取り項目、質問票の設計
第 4 回	パイロット調査報告	調査項目に基づく事前調査の実施結果の報告とフィードバック
第 5 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 6 回	分析結果の報告①	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 7 回	分析結果の報告②	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 8 回	合同ゼミでの研究発表	他大学との合同ゼミでの研究発表
第 9 回	合同ゼミの振り返りと、結果の理論的含意の検討	結果の見直し、および結果と先行研究との関係
第 10 回	結果の実践的含意と限界	結果の実践上の意義と研究の限界および今後の課題の検討
第 11 回	卒業研究報告と入ゼミ総括	4 年生と入ゼミ委員会
第 12 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 13 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 14 回	360 度フィードバック	全員、全班の評価と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが
　自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物を総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】
① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A 以上の成績で単位修得すること。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってくること。
④年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥飲み会などいかなる場面でも、私のいる場では禁煙です。
⑦スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑧このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline and objectives】
This seminar aims to develop your basic academic skills to study behaviors in organizations in order to write up your graduation thesis. Juniors are expected to work actively on various home-works and related group activities to operate this seminar, seniors to explore your own theme independently as well as to give helpful support to juniors' activities.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

奥西　好夫

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼン
3.	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
4.	英文ケースの報告と議論（2）	・同 Case 8 ・同 Case 11
5.	英文ケースの報告と議論（3）	・同 Case 12 ・同 Case 13
6.	英文ケースの報告と議論（4）	・同 Case 14 ・同 Case 15
7.	英文ケースの報告と議論（5）	・同 Case 25 ・同 Case 26
8.	英文ケースの報告と議論（6）	・同 Case 27 ・同 Case 34
9.	英文ケースの報告と議論（7）	・同 Case 35 ・同 Case 36
10.	英文ケースの報告と議論（8）	・同 Case 37 ・同 Case 38
11.	英文ケースの報告と議論（9）	・同 Case 39 ・同 Case 51
12.	英文ケースの報告と議論（10）	・同 Case 52 ・同 Case 53
13.	英文ケースの報告と議論（11）	・同 Case 54 ・同 Case 59
14.	英文ケースの報告と議論（12）	・同 Case 60 ・同 Case 65

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告（1）	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論（13）	・同 Case 66 ・同 Case 67
17.	英文ケースの報告と議論（14）	・同 Case 76 ・同 Case 77
18.	英文ケースの報告と議論（15）	・同 Case 78 ・同 Case 85
19.	英文ケースの報告と議論（16）	・同 Case 88 ・同 Case 89
20.	英文ケースの報告と議論（17）	・同 Case 90 ・同 Case 98
21.	英文ケースの報告と議論（18）	・同 Case 99 ・同 Case 103
22.	英文ケースの報告と議論（19）	・同 Case 104 ・同 Case 105
23.	英文ケースの報告と議論（20）	・同 Case 106
24.	組織と人間行動	・映画「チャイナ・シンドローム」
25.	4 年生卒論報告（2）	・研究経過報告（グループ 1）
26.	4 年生卒論報告（3）	・研究経過報告（グループ 2）
27.	ゼミのまとめ（1）	・日本の時事的テーマに関する議論（例:働き方改革）
28.	ゼミのまとめ（2）	・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスブックにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
・なお、4 年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。

【学生の意見等からの気づき】
・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

神谷　健司

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】
　財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
　受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計の基礎、財務諸表の仕組み	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	棚卸資産の会計、有形固定資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	無形固定資産、繰延資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	金融資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	負債の会計、純資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	収益と費用の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	税効果会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	外貨換算会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	企業結合会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	連結財務諸表	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	企業評価の方法	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	定性的な分析と財務データの関連付け	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	財務データの見方	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	財務比率分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	会計方針と企業分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	武田薬品工業の分析	武田薬品の歴史、現状、経営戦略、製薬業界全体の現状について考える
第 14 回	カルビーの分析	カルビーの経営戦略、製菓業界全体の現状について考えある

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　伊藤邦雄『新・現代会計入門 (第 4 版)』日本経済新聞出版社 (2020 年)、伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社 (2014 年)、田村威文他『会計学の手法』中央経済社（2015 年）などを予定している。

【参考書】
　必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
　平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】
　4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているＯＢ・ＯＧに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
　特になし。

【その他の重要事項】
　年 2 回の合宿があります。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加を歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」といえるが、企業分析を行う際には「経営戦略論Ⅰ/Ⅱ」の知識も有用である。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目である。

【関連科目】
簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline and objectives】
This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis.The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally,we will be able to get the skills to think various accounting problems logically.

MAN200FA
演習 1　　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 6　　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 4　　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

川島　健司

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計（財務報告）に関する学習と研究を行い、論文を執筆する。会計とは私たちの生活の営みの 1 つであり、経済的な活動の様子をカネの視点で描写して、計測して、評価して、報告する行いである。それは私たち個人のレベルも含めて様々なレベルで日々行われているが、本演習ではとくに企業のレベルで行われている会計について学習・研究する。
企業レベルの会計では、それぞれの企業が勝手に独自の方法で会計の営みをすると社会的な非効率が生じるので、ある一定のルールが設けられている。そのルールを学ぶことは本演習での学びの 1 つである。そのルールとは具体的に会計法規や会計基準である。一通りのルールを知ると、それぞれのルールの合理性や論理性、あるいはルールの経済的な帰結などについて興味が湧いてくるかもしれない。本演習では、そのような興味を一般に認められている学術的な方法によって研究する。
また、多くの企業は、会計の営みによって財務諸表を作って一般に広く公表している。私たちはこの財務諸表を使って企業の実態を調べることができる。興味のある企業を選び、その企業の財務諸表を入手し、財務諸表の分析方法を学びながら、その企業の分析レポートを書く、ということも本演習の活動の 1 つである。
以上のうち具体的にどれをどのように学ぶかは履修生の関心に依存し、履修生と相談しながら計画して進める。

【到達目標】
1　社会人として通用する文章表現力をつける。
2　会計基準を読解し、基本的な会計処理の技術を理解する。
3　問題提起と仮説・検証の方法を理解し、これを実践する。
4　学術論文（日本語・英語）を身近なものとして読解できる力を得る。
以上のうち本演習が最重視することは、文章表現力をつけること、すなわち「文献を読んで、文章を書くこと」である。次いで、会計学の演習であるから会計処理・計算も正確に行えることを重視する。要するに「読み、書き、計算」である。プレゼンテーションやグループディスカッションよりも、「読み書き計算」がきちんと行えるようになることを目指す。プレゼンやディスカッションはその後である。
具体的には、専門書を読みながら、自分で調べたり考えたりしたことについて、各自 1 年間に A4 で合計 100 ～ 150 ページの量の文章を書く。文章を書いて、それを本演習で発表し、その都度、文章や論理の修正をして、最終的に社会人として通用する文章を書けるようにする。地味な修行であると思って取り組んでいただきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
①会計・財務報告に関する文献の輪読：本年度は、ウィリアム・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』（第 3 版）を 1 年間かけて輪読する予定である。本書を読むためには、会計学とファイナンスの基礎知識が必要であり、その必要に応じて適宜、追加的な文献を選定して知識を補足する。履修生の関心、知識量、理解度、理解の速さなどを考慮しながら、毎回の講義内容を柔軟に決定する。
②法政大学懸賞論文への応募：学習・研究の成果を発表する機会として、履修生は個人で法政大学・懸賞論文大会に論文を提出することを目指す。
③卒業論文の制作： 4 年生は卒業論文の提出を義務づけている。毎年、卒業論文集を制作しており、当該卒業論文集は本演習の教材としても活用している。研究の遂行および論文の執筆にあたり、研究方法に関する文献を輪読する。本年度は、高根正昭『創造の方法学』を輪読する予定である。
④合宿：夏または春に日本国内で 1 泊 2 日のゼミ合宿を開催する。費用は 1 回につき 2 万円程度。
⑤インターゼミナール：研究成果を発表する機会の場として、インターゼミナールを開催する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	輪読『財務報告革命』：第 1 章「革命」	20 世紀に財務報告の分野で起きた「会計革命」を概観、主要論点を認識。主要なステークホルダーにとって会計の役割とは何かを考察する。
2	輪読『財務報告革命』：第 1 章「革命」(つづき)	望ましい「発生主義会計」とは何かを考察する。
3	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」	会計の役割を、会計情報の利用者にとっての意思決定を支援する情報、という観点から捉えて考察。
4	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」(つづき)	会計情報利用者の意思決定モデルとして、ファイナンス分野におけるポートフォリオ理論について学ぶ。
5	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」(つづき)	ポートフォリオ理論を前提に、会計情報の機能やその兼ね備えるべき特性について考察。
6	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」	完全・完備市場を前提に、理想的な望ましい会計利益とは何かを考察。
7	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」(つづき)	資本利子としての経済（学）的利益、および Edwards and Bell の主観的のれんの概念を理解する。
8	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」(つづき)	経済学的利益をベンチマークとして、会計利益を評価する。
9	輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」	完全・完備市場という理想的条件を取り外した場合、経済的利益の性質はどのように変化するかを検討。
10	輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」(つづき)	より現実的な不完備・不完全市場という条件下での会計利益を評価する。
11	輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」(つづき)	会計利益に関する研究課題および論点を整理する。
12	輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」	会計領域における実証的研究の概要とその論文の読み方を知る。
13	輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」(つづき)	会計情報のイベントスタディーに関する研究の方法と主な結果を概観する。

14	輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」(つづき)	会計利益の価値関連性、会計方針の選択に関する実証論文を概観。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	輪読『財務報告革命』：第 6 章「市場の効率性」	市場の効率性という概念について学ぶ。関連する実証論文を概観。
16	輪読『財務報告革命』：第 6 章「市場の効率性」(つづき)	市場の効率性と会計情報との関係について考察する。関連する実証論文を概観。
17	輪読『財務報告革命』：第 7 章「規制」	会計規制が存在する根拠を検討。会計規制に関する主要な論点を認識する。
18	輪読『財務報告革命』：第 7 章「規制」(つづき)	会計規制に関する実証研究を概観する。
19	輪読『財務報告革命』：「訳者あとがき」	輪読のまとめとして「訳者あとがき」を題材に、自由に議論する。
20	過去の卒業論文を読むⅠ	本演習の卒業生が執筆した卒業論文を読む。可能であれば、執筆者当人にゲストとして参加してもらう予定。会計処理の手続き、会計制度に関する研究。
21	過去の卒業論文を読むⅡ	企業の会計行動に関する研究を読む。
22	過去の卒業論文を読むⅢ	企業経営、業界に関する研究を読む。
23	輪読『創造の方法学』	要約担当者による要約と質疑応答。知的創造とは何か。
24	輪読『創造の方法学』（つづき）	要約担当者による要約と質疑応答。問題をどうたてるか。
25	輪読『創造の方法学』（つづき）	要約担当者による要約と質疑応答。理論と経験とをつなぐ。
26	輪読『創造の方法学』（つづき）	要約担当者による要約と質疑応答。数量的研究の方法／全体像をどうつかむか／方法論の一般理論へ
27	輪読『創造の方法学』（つづき）	要約担当者による要約と質疑応答。科学的説明とは何か／数量的研究の方法
28	輪読『創造の方法学』（つづき）	要約担当者による要約と質疑応答。まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読に際し、全員が指定範囲を精読する。発表担当者は指定範囲を要約したレジュメを作成する。研究成果を発表する際にはレジュメを作成する。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
①ウィリアム・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』（第 3 版）, 白桃書房, 2010 年.　②高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書, 1979 年.

【参考書】
①ウィリアム・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社, 2008 年.　②苅谷剛彦『知的複眼思考法ー誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+ α 文庫, 2002 年.　③伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001 年.　④ Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd edition, McGraw-Hill, 2009.　⑤ Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th edition, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。
B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。
A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4 年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。
A＋評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。

【学生の意見等からの気づき】
卒業生との交流の場を増やしてほしいという指摘がある。このため、例年開催している OB・OG 会に加えて、合宿および卒論発表会に卒業生を招待し、現役生と卒業生が交流する機会を増やす。

【関連科目】
簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析、企業評価論

【Outline and objectives】
This seminar is for a student who studies corporate financial accounting and/or financial reporting and writes a dissertation related to those studies. Accounting is one of the activities of our life. It is the act of recording, measuring, evaluating and reporting on the state of economic activities from perspective of money. Although it is performed daily at various levels including at the individual level, in this seminar we study corporate financial accounting. Corporate-level accounting has certain rules, as each company independently conducts accounting in its own way, resulting in social inefficiencies. Learning the rules would be one of the themes. We study such interests using generally accepted academic methods.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

河内谷　幸子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】
IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようになる。ディスカッション能力や発表力を上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は４月２１日（火）に開始します。学習支援システムに登録して下さい。
オンライン授業の場合
学習支援システムでレポートを提出する。
対面授業の場合
講義、文献の輪読、文献検索を中心とした調査、ディスカッションを行う。
学期に１～２回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
2	生体認証	生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
3	IoT	IoT(モノのインターネット) について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
4	AI	AI(人工知能) について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
5	Fintech	クラウドファンディング、金融と IT について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
6	IT と法	著作権法をはじめとする IT 関連の法律や倫理について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
7	自動運転	車の自動運転について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
8	キャッシュレス	キャッシュレスや電子マネーについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
9	スマート農業	農業と IT について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
10	AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)	AR、VR、MR について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
11	ウェアラブルコンピュータ	ウェアラブルコンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
12	仮想通貨	仮想通貨について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
13	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
14	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期ガイダンス	夏休み中に行ったゼミ合宿のまとめを行う。調査発表の方法が適切であったか検討する。
16	レアメタル	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
17	位置情報	人工衛星による測位のしくみ、地図情報システム、GPS を使った行動ターゲティング、位置情報を利用したソーシャルゲーム、プライバシー問題、について文献輪読や文献検索により調べて学び、議論する。
18	セキュリティー	セキュリティー、暗号などについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
19	Web マーケティング	Web マーケティングについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
20	音声	音声認識、声の合成、それらを利用したシステムについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
21	ネット広告	ネット広告に関連する諸問題について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
22	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、フィッシング詐欺、サイバー攻撃などのコンピュータ犯罪について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
23	IT と他分野の融合	医療と IT、政治と IT、教育と IT など IT を利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
24	IT とデザイン	３Ｄプリンタ、デジタルアート、ユーザインタフェース (使いやすさ)、ユビキタスコンピュータ (いつでもどこでも利用可)、ユニバーサルデザイン (文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計) について調べて学び議論する。
25	４年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。

26	４年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。
27	３年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
28	３年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事のチェック、輪読の準備、個人発表の準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用いる。

【参考書】
味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。
苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法　デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第３版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究　クチコミ、e クチコミを中心に』慶應義塾大学出版会、2009 年。
坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。
ドナルド.A. ノーマン (野島久雄訳) 『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。
ＥＹアドバイザリー『世界トップ企業のＡＩ戦略』日経 BP 社、2016 年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムでの提出物で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業の場合は、グループディスカッションに力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】
Word および PowerPoint が使えるパソコンを準備する。
大学の教室が利用可能で対面授業ができる場合はパソコン教室で１人１台パソコンを使用する。

【その他の重要事項】
関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ
入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ない。
４年生は９月以後に卒業論文を作成し、１２月に中間発表を行い、１月に提出する。卒業論文集を電子的に配布する。
希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導する。

【Outline and objectives】
This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

岸　眞理子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。そこでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステミックな方法論の開発を進めることが求められます。
　この様なトピックの一例として、ICT の活用を前提とした企業のナレッジ・マネジメントについて、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】
　「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものをつくるために以下の点を目指します。
・関連する理論や概念の全体像を学習します。
・実際に、特定のテーマについての理論や概念を検討し、理解する力を養います。
・理論に基づいて、実際に特定の事例を分析し、そこから示唆を得る力を養います。
・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学びます。
・また、そのために、関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学びます。
・卒業論文を作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
　春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。本授業の開始日は 4 月 28 日とします。この日までに、具体的な授業の進め方と方法ならびに授業計画の変更を学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の活動のガイダンス
第 2 回	発表の仕方	プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方、文献検索の仕方を学ぶ
第 3 回	文献輪読（1）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 4 回	文献輪読（2）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 5 回	文献輪読（3）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 6 回	ゲスト・スピーカー（1）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 7 回	文献輪読（4）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 8 回	文献輪読（5）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 9 回	文献輪読（6）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（2）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	文献輪読（7）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 12 回	文献輪読（8）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 13 回	文献輪読（9）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 14 回	春学期総括	春学期のまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動のガイダンス
第 16 回	４年生の卒業論文計画報告	4 年生の卒業論文計画報告とディスカッション
第 17 回	２・３年生の事例研究（1）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 18 回	２・３年生の事例研究（2）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 19 回	ゲスト・スピーカー（3）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 20 回	４年生の卒業論文経過報告（1）	4 年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 21 回	４年生の卒業論文経過報告（2）	4 年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 22 回	４年生の卒業論文経過報告（3）	4 年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 23 回	ゲスト・スピーカー（4）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 24 回	２・３年生の事例研究（3）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 25 回	４年生の卒業論文経過報告（4）	４年生の卒業論文の中間報告とディスカッション
第 26 回	４年生の卒業論文経過報告（5）	４年生の卒業論文の中間報告とディスカッション
第 27 回	２・３年生の事例研究報告会	２・３年生の事例研究の最終報告

第 28 回　４年生の卒業論文最終報告会
秋学期総括
４年生の卒業論文の最終報告
秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表や提出物などの準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で提示します。

【参考書】
授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法や基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】
関連記事が以下に掲載されています。
http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html
http://www.houseikeieidousoukai.com/grad_prof/

【関連科目】
経営情報論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、組織行動論Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ・Ⅱなど。

【Outline and objectives】
In this seminar, you will learn the beginning of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on the appropriate method.

MAN200FA
演習 1　　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

岸本　直樹

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパーフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、本演習は、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習になっています。その観点から、春学期の前半に上記の専門分野の中のいずれかの分野の専門書を輪読します。また、時間が許せば、秋学期の後半に、企業、産業、経済等に関して履修者が選んだテーマについて調べ学習を行うことがあります。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表するようにしています。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業は 4 月 27 日から始めます。予定としては、通常どおり、4 時限と 5 時限の時間帯で開きます。また、輪読する書籍は『入門・証券投資論』（岸本直樹、池田昌幸共著）です。また、輪読の担当は、LINE でお知らせしたとおりです。さらに、運営方法は、各回に，担当者が分担部分のレジュメをネット上で配布してそれに基いて分担部分の開設をします。その後、他のゼミ生とオンライン上でディスカッションをして理解を深めます。秋学期には，各ゼミ生が選んだ会社について，投資家の立場から分析をした結果を発表します。そして、その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表で使った資料は、岸本ゼミのウェブページで公表します。さらに、時間が許せば、企業分析とは別に、企業、産業、経済等に関して履修者が関心があるテーマについて調べ（当ゼミでは「自由研究」と呼んでいます）、それをゼミで発表してゼミ生とディスカッションをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 3 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
2	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
3	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
4	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
5	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
6	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 6 回の授業に割り当てられた学生 3 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
7	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 7 と読み替え)
8	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 8 と読み替え)
9	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 9 と読み替え)
10	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 10 と読み替え)
11	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 11 と読み替え)
12	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 12 と読み替え)
13	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 13 と読み替え)
14	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 14 と読み替え)

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	企業分析に関する実習	ゼミ生のうち第 15 回の授業に割り当てられた学生 2 名が、担当企業の分析結果をまとめたレジュメをゼミで発表し、他のゼミ生とディスカッションする。
16	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 16 と読み替え)
17	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 17 と読み替え)
18	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 18 と読み替え)
19	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 19 と読み替え)
20	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 20 と読み替え)
21	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 21 と読み替え)
22	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 22 と読み替え)
23	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 23 と読み替え)
24	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 24 と読み替え)
25	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 25 と読み替え)
26	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 26 と読み替え)
27	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 27 と読み替え)
28	企業分析に関する実習	第 15 回と同様 (15 を 28 と読み替え)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する書籍は、上で指定したとおりです。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、B 以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。
〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕
岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中に退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表に PowerPoint や WORD 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to get students aquainted with the fundamental analysis, which is to analyze corporations from the point of view of investors in stocks and bonds. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on all these functional areas.
Therefore, students in this course are strongly encouraged to apply all the knowledge and skills they have learned in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on reading textbooks in one or two of the above mentioned functional areas. In addition, if time allows, we spend the second half of the Fall semester on small research projects where a group of a few students choose a research topic that are related to business or economy and work on it as a team. Each group presents their analysis in class and upload it at the Web site for this course.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

北田　皓嗣

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題や社会問題が多様化し，複雑化するなかで，また社会統治の仕組みが変化するなかで，問題解消のために企業に求められる責任が高まってきています。また先進的な企業では環境ビジネスやボトム・オブ・ピラミッド（BOP）ビジネスとして，経済成長の新たな軸を構築しようともしています。このような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが，どこに問題の所在があるのか，問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】
当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
課題となるテキストの輪読を中心に進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
2	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
3	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
4	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
5	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
6	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
7	レポートのまとめ方	アウトラインの設定，論理的な考察の方法について考えます。
8	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
9	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
10	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
11	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
12	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
13	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
14	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
16	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
17	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
18	グループワークの進め方	グループで調査する際のマナーについて考えます。
19	公共性	各グループの研究と公共性の概念から比較、検討します。
20	リハーサル１	合同ゼミに向けて、第一回目のリハーサルを行います。
21	リハーサル２	合同ゼミに向けて、第二回目のリハーサルを行います。
22	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
23	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
24	合同ゼミの振り返り１	合同ゼミの反省点を検討します。
25	合同ゼミの振り返り２	合同ゼミの反省点を検討します。
26	卒業論文に向けて	論文作成の基礎的な考え方を学びます。
27	先行研究一覧の作成	論文作成の基礎となる先行研究リストを作成します。
28	まとめ	１年間の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心を持った問題に対して，個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の中で適宜紹介します。

【参考書】
講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の報告（５０％），レポート（５０％）
４年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
企業を訪問したり，企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】
他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSR や公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline and objectives】
Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

木原　章

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①現代社会の動向を新聞を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見いだし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し，⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】
自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成することを目指しています。その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等の能力を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
4 月 22 日 (水) からＺＯＯＭを使ったオンライン授業を行います。
ゼミでは、以下のトレーニングを行います。
①自分のテーマに関係する新聞記事を適切に抽出する能力
②その記事を 200 字程度に要約する能力
③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
⑤輪読を通じて、本を読破する能力
⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。
ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	新聞記事抽出・要約入門	新聞記事を 200 字程度で要約するためのトレーニングを行います。
2	記事要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
3	記事要約・グループ学習	（過去の例）全国民のＤＮＡ採取の義務化は受け入れられるか？
4	記事要約・グループ学習	（過去の例）日本のゴミ問題
5	記事要約・グループ学習	（過去の例）クローン技術は是か非か
6	記事要約・グループ学習	（過去の例）捕鯨問題について
7	記事要約・グループ学習	（過去の例）臓器移植について
8	記事要約・グループ学習	（過去の例）脳死は死か？
9	記事要約・グループ学習	（過去の例）原発を無くすには？
10	記事要約・グループ学習	（過去の例）生物多様性
11	記事要約・グループ学習	（過去の例）ホットなバイオ市場
12	記事要約・グループ学習	（過去の例）有用動物
13	記事要約・グループ学習	（過去の例）遺伝子組み換え表示規制
14	夏ゼミ合宿テーマ選定	（過去の例）バイオ燃料

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	夏ゼミ合宿テーマ決定	（過去の例）築地移転問題
2	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）風力発電の可能性
3	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）原発を支えたエネルギー政策
4	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）ブラック企業
5	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）マクドナルド研究
6	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）再生医療（実状と未来）
7	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）日本のバイオベンチャー研究
8	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）地方再生
9	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）バイオミメティクス
10	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）プロスポーツビジネス
11	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）インバウンド消費
12	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）バイオエタノールの行方
13	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）クローン人間の悲劇性についての考察
14	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず 30 分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】
参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。
ゼミのサイトは
http://bionews.i.hosei.ac.jp/

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】
情報と倫理、情報と職業

【Outline and objectives】
In this class, you will learn the most basic skills for the general business person. Those are reading, writing, and speaking. The final goal is to find the most relevant phenomenon to your own interest as your theme of your graduation research and to summarize your opinion to the theme as an article. On the way to your goal, you will start from summarizing new paper article and book and will make presentation for the summaries in each session, which will improve the three basic skills.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

金　瑢晋

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】
・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
・株式会社の仕組みが分かるようになります。
・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
・資金調達のプロセスが分かるようになります。
・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。
授業は、次の要領で行われます。
①グループディスカッション（春学期）
・ゼミ生は、次回の学習内容について予習を行う。
・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
・グループ毎に課題の解決策を発表する。
・他のグループからフィードバックを受ける。
・講師から補足を行う。
・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
②プロジェクトの発表（秋学期）
・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
③出欠管理
・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題
4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】
授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】
初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】
This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

金　容度

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】
企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表 (4 年生) を通じて、論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
今年度春学期には，オンライン授業 (ZOOM ミーティングシステムを利用) で行う。初回の演習授業は 4 月 22 日 (水)15 時～である (以降，毎週水曜 15 時～) である。授業前に，招待の URL などを学習支援システムの「お知らせ」で案内する。
本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外の企業、産業も多数取り上げられる。なお、ゲスト・スピーカーをお招きしてディスカッションする授業も設ける。
授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。
2	ソニーとパナソニック	ソニーとパナソニックのトップマネジメントの特性を比較分析、議論する。
3	メルカリ	フリマアプリを提供するベンチャー企業、メルカリの成長過程を分析し、ディスカッションする。
4	ZOZO	衣料品通信販売サイトを展開する ZOZO のビジネスモデルと成長過程を分析する。
5	日立，東芝，三菱電機	いわゆる「総合電機メーカー」，日立，東芝，三菱電機 3 社のトップマネジメントの特性について議論する。
6	アップル	APP　Store の展開過程と成功要因を分析、ディスカッションする。
7	サントリー	サントリーの新飲料開発の事例から、成熟市場におけるマーケティング戦略を分析、ディスカッションする。
8	映画産業のビジネスモデルと競争	映画産業の代表的な企業、東宝、東映、松竹 3 社のビジネスモデルと競争を分析、検討する。
9	リクルート	リクルートの成長過程と経営理念を分析する。
10	無印良品 (良品計画)	無印良品の海外進出戦略を分析、ディスカッションする。
11	ウォールマートと IBM	ウォールマートと IBM の経営理念及び企業文化を比較分析する。
12	ニトリ―	日本の家具専門店業界のトップ企業であるニトリ―の成長の軌跡と競争優位の要因を分析する。
13	サムスン電子	韓国のサムスン電子のグローバル戦略を検討、ディスカッションする。
14	GE(General Electric)	アメリカの電子機械大手の GE の事業構造とビジネスモデルを分析する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	アマゾンと楽天	通販大手のアマゾンと楽天のビジネスモデルと顧客満足戦略を比較分析する。
16	日本マクドナルドとモスバーガー	日本のハンバーグ産業の上位 2 社である、日本マクドナルドとモスバーガーの競争戦略を比較分析する。
17	JINS(ジェイアイエヌ)	眼鏡産業における急成長する JINS((ジェイアイエヌ) 社のビジネスモデルと成長要因を分析、ディスカッションする。
18	アイロボット	ロボット掃除機「ルンバ」を製造販売する米アイロボットの事業展開の特徴を分析する。
19	卒業論文の中間報告	4 年生による卒業論文の中間報告会を行う。
20	カゴメ	加工調味料及び食品製造メーカー、カゴメのファン株主拡大戦略についてディスカッションする。
21	アイリスオーヤマ	大阪所在のものづくり企業、アイリスオーヤマの成長過程と経営管理について分析する。
22	演習入試の面接試験	演習入試の面接試験を行う。
23	いずみ	広島に本拠地をおく総合スーパー、いずみの成長過程とビジネスモデルを分析、ディスカッションする。
24	サイクルあさひ	自転車小売りのサイクルあさひの成長要因を分析する。
25	ウーバー	米ウーバーの戦略と成長過程を分析、ディスカッションする。
26	Gunosy	スマートフォン向け情報を開発、運営する Gunosy(グノシー) の成長過程を分析し、ディスカッションする。

27	卒業論文の最終報告	4 年生による卒業論文の最終報告会を行う。
28	株式会社カナモト	北海道で建設機械レンタル事業を展開するカナモトのビジネスモデルと経営戦略、組織を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んで、ディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習の時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】
(1) 東北大学経営学グループ (2019)『ケースに学ぶ経営学 (第 3 版)』有斐閣ブックス
(2) 沼上幹 (2018)『一橋 MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新報社
(3) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017)『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2　市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
(4) 沼上幹 (2016)『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
(5) 橘川武郎・久保文克・佐々木聡・平井岳哉（2015）『アジアの企業間競争』文真堂
(6) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2015)『一橋 MBA 戦略ケースブック』東洋経済新報社
(7) 加藤健太・大石直樹（2013）『ケースに学ぶ日本の企業』有斐閣
(8) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2013)『戦略分析ケースブック Vol.3』東洋経済新報社
(9) 武石彰・青島矢一・軽部大（2012）『イノベーションの理由』有斐閣
(10) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2012)『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社
(11) 伊丹敬之・西野和美編 (2012)『ケースブック　経営戦略の論理 (全面改訂版)』日本経済新聞出版社
(12) ハーバードビジネススクール（2010）『ケーススタディ　日本企業事例集』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
授業での報告（20 %）、毎週のレポート（50 %）、授業中の議論への貢献度（30 %）等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50 %) に含む。

【学生の意見等からの気づき】
今年の授業では、海外企業の事例をより多く取り入れる。

【その他の重要事項】
新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】
本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論 Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
The objective of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods. You will learn logical thinking and basic knowledge on business management, strategy and organizational structure by discussion, presentation, and writing every week paper.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

木村　純子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本演習のキャッチコピー「生涯現役」
サークル活動と違って 4 年生になっても"引退"はありません。
　2016 年度の本演習で開発した法政大学 PB(プライベートブランド) の「ほうせい茶」を 2019 年度にパッケージのリニューアルに取り組みました。
　2020 年度は 4 月からリニューアル商品が新発売されるほうせい茶のプロモーション戦略の立案と、リニューアルの効果測定をグループ・プロジェクトとして行います。
　個人課題として、マーケティング論の各概念を用いた事例調査を行い授業の中で発表を行います。

【到達目標】
活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。
1)　自分で問題意識 (リサーチ・クエスチョン) を設定する力
2)　具体的な事例からデータを収集する力
3)　データを用いて自身の仮説を検証する力
4)　自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
　農産物を利用した地域活性化に取り組みます。EU にならい日本でも「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律 (地理的表示法)」が成立・公布されました。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な GI 登録産品を用いて明らかにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各セッションのテーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への) 投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　石井淳蔵・廣田章光編『1 からのマーケティング第 3 版』中央経済社

【参考書】
　適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】
　春学期、秋学期ともに、
1)　平常点　20 %
2)　グループ活動　80 %
以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
　アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】
マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。
「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「国際マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」

【教員の専門分野】
地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】
(1) 木村純子 (近刊)「SDGs(持続可能な開発目標)」『理科の学ばせ方・教え方事典』教育出版
(2) 木村純子 (近刊)「酪農と SDGs との関わりによる豊かな社会の実現」『日本草地学会誌特集号』
(3) 木村純子 (2019)「SDGs 達成のための酪農セクターの貢献」『農村計画学会誌』第 38 巻第 2 号,90-94.

【Outline and objectives】
Advertising slogan of this seminar "never retire"
Unlike circle groups on campus, their will be no retirement of senior even after Shukatsu (job hunting)
In year 2016, this seminar developed Hosei Cha, the Hosei University private brand product.　In year 2019, the students of this seminar worked on package renewal of Hosei Cha.
In year 2020, this seminar would work on Promotion strategy of relaunched Hosei tea and measure its effectiveness of the renewal as a group project.
As an individual assignment, each student researches a case study using theoretical concept and framework of Marketing and makes presentation in class.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

倉田　俊彦

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。
(1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
(2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関係する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
(3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】
各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。
(1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
(2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
(3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。（線形計画法で標準的に使われる計算などを想定しています。）
いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「単に話を聞いて公式や知識を記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「できる限り芯から考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。
(1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（数学検定などを利用して実力を試す機会も設けたいと考えています。）
(2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 01 回	微分の定義	関数の極限値と導関数の意味を理解する。
第 02 回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分の計算法を習得する。
第 03 回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分の計算法を習得する。
第 04 回	微分の応用	経済学に関連する微分の応用について学習する。
第 05 回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第 06 回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第 07 回	積分の応用	具体的な例題を通して積分の応用について学習する。
第 08 回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の定義と計算方法を理解する。
第 09 回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算方法を習得する。
第 10 回	多変数関数の微分の応用	経済学に関連する偏微分の応用について学習する。
第 11 回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。
第 12 回	戦略型ゲームの純粋戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第 13 回	混合戦略における均衡	混合戦略においてナッシュ均衡の存在する仕組みを理解する。
第 14 回	展開型ゲームの理論	意思決定が交互に行われる状況の部分ゲーム完全均衡について理解する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	プログラミングの準備	コンパイルの方法など、Java を使用する際に必要な知識を纏める。
第 16 回	Java の型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第 17 回	Java の式	ツェラーの公式を通して、演算子や式を利用したプログラミングを学習する。
第 18 回	Java の制御文	微積分の問題を通して、制御文を利用したプログラミングを学習する。
第 19 回	Java の配列	線形代数の問題を通して、配列を利用したプログラミングを学習する。
第 20 回	Java のクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第 21 回	アプリケーションの作成	Application クラスを利用することによって GUI プログラムを作成する。
第 22 回	プログラミングの応用	各自が興味を持った問題に対して、プログラムに基づく分析を行う。
第 23 回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景とその幾何学的な解法について理解する。
第 24 回	線形計画法の基本定理	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。

第 25 回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。
第 26 回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法を理解し、プログラムを利用できるようにする。
第 27 回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価の考え方と計算方法の基礎を理解する。
第 28 回	包絡分析法の応用	包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993 年）
経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年）
など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】
数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。
〔関連科目〕
基礎数学Ⅰ/Ⅱ
発展数学ＬⅠ/Ⅱ
教養数学A/B
計算と言語のしくみ
コンピュータと数理の活用

【Outline and objectives】
In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science. To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Java and Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

児玉　靖司

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、 フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】
文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。 主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
[概要]
経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS(Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、 3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。
[方法]
ゼミのメンバを (原則として)3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書 (教員が指定) を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。
現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献 (専門書) の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 16 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 18 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 21 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（4）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】
特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】
[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%），発表内容について（50%）で評価する。
[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢 (原則としてすべてに参加すること)、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出 (発表) を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】
We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

近能　善範

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。
当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを『てこ』にした経営戦略－すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略－について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。
当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】
当演習では、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになっていただくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
当演習は、二つのステップから構成される予定です。
まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいのか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけ、訓練を積んでいく予定です。
第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。
ここでは、2・3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。
一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告／卒業論文作成を行っていただきます。
スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。
また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーション・マネジメント (1)	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (3)	戦略論の基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (4)	戦略論の基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (5)	戦略論の基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (6)	戦略論の基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (7)	新製品開発マネジメントの基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (8)	新製品開発マネジメントの基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (9)	新製品開発マネジメントの基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (10)	新製品開発マネジメントの基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 11 回	イノベーション・マネジメント (11)	新製品開発マネジメントの基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (12)	新製品開発マネジメントの基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(6)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (13)	新製品開発マネジメントの基礎な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(7)
第 14 回	イノベーション・マネジメント (14)	ケース企業についてのグループ発表

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーション・マネジメント (15)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 2 回	イノベーション・マネジメント (16)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (17)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (18)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (19)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (20)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(6)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (21)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(7)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (22)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(8)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (23)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(9)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (24)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(10)

第 11 回	イノベーション・マネジメント (25)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(11)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (26)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(12)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (27)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(13)
第 14 回	イノベーション・マネジメント (28)	グループワーク最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】
近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（35 %）、②発表（20 %）、③グループ研究／卒業論文（20 %）、④議論への参加（15 %）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10 %）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークへの要望が強いので、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたい思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】
合宿等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。
また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】
関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになります。できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

【Outline and objectives】
The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

坂上　学

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、企業の財務データの分析を中心に学習し、近年注目を集めている分析データの視覚化ツールである Tableau についても扱う予定である。また秋学期には、通常のゼミと平行して日経ストックリーグに参加し、ゼミで学んだ内容を実際の投資意思決定に応用しながら、実践的に学習をおこなう。

【到達目標】
本ゼミでは、会計学のほか、経済学、情報科学といった諸分野の成果を取り入れながら財務報告が果たす役割について概観し、複雑な経済的・政治的環境において、適切な財務意思決定ができるためのスキルを得ることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は２年生および３年生は日経ストックリーグの取り組み、４年生は卒論に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
初回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第 2 回	有価証券報告書と会計基準の設定（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 3 回	有価証券報告書と会計基準の設定（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 4 回	財務諸表におけるストック情報（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 5 回	財務諸表におけるストック情報（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 6 回	財務諸表におけるフロー情報（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 7 回	財務諸表におけるフロー情報（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 8 回	商品販売・サービス提供による収益認識（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 9 回	商品販売・サービス提供による収益認識（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 10 回	棚卸資産会計と営業利益（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 11 回	棚卸資産会計と営業利益（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 12 回	設備投資と有形固定資産会計（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 13 回	設備投資と有形固定資産会計（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 14 回	Tableau の使い方	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	負債性金融商品による資金調達と運用（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 16 回	負債性金融商品による資金調達と運用（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 17 回	資本性金融商品による資金調達と運用（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 18 回	資本性金融商品による資金調達と運用（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 19 回	法人所得税と税効果会計（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 20 回	法人所得税と税効果会計（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 21 回	海外事業展開と外貨換算会計（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 22 回	海外事業展開と外貨換算会計（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 23 回	M&A における企業結合会計（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 24 回	M&A における企業結合会計（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 25 回	連結会計とセグメント情報（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 26 回	連結会計とセグメント情報（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

第 27 回	日経ストックリーグのレポート発表	2 年生および 3 年生による日経ストックリーグで提出レポートの発表。
第 28 回	卒論発表	4 年生による卒論内容の発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。事前にテキストを熟読し、関連する Web サイトを閲覧しておくこと。

【テキスト（教科書）】
西澤茂・上西順子（著）『グローバル企業の財務報告分析』（中央経済社、2017 年）税込定価 3,080 円
※上記テキストには、Tableau の応用事例を紹介する Web サイトが公開されているので、そちらも参照する。（https://www.s2438.com/）

【参考書】
桜井久勝（著）『財務諸表分析（第 7 版）』（中央経済社、2017 年）税込定価 3,740 円
岩橋智宏・今西航平・増田啓志（著）『Tableau で始めるデータサイエンス』（秀和システム、2019 年）税込定価 4,180 円

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（60%）
担当箇所の報告（40%）
最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめ報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
多摩キャンパスでの勉強合宿、ストックリーグへの参加など、ゼミ以外での課外活動が良かったという意見が多かったので、今年度も積極的にそのような活動に参加するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクターを使い発表すること。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
The seminar will focus on analyzing corporate financial data using Tableau, a tool for visualizing analytical data that has been attracting attention in recent years. In the fall semester, you will work on the Nikkei Stock League projects and learn practically through real investment decisions.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

佐野　哲

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業” のあり方について考える」

—

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】
最終的な到達目標は、**「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」**です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR ： Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方” について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI ： Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28	最終プレゼンテーション	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック［改訂３版］』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／ 3,000 円）を使用します。

【参考書】
講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）と試験（50 %）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】
個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】
新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRI には、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。
なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】
This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:
· understand concepts of corporate social responsibility;
· understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
· enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

佐野　嘉秀

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AI の進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。
この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下の３点です。
①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。
実務の人を招いて話を聞くこともあります。
ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。
春学期の授業開始日は 4 月 23 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
2	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
3	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
4	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
5	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
6	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
7	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
8	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
9	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
10	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
11	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
12	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
13	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
14	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	総合研究③	春学期および夏合宿での学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
16	グループ研究⑤	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
17	グループ研究⑥	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
18	グループ研究⑦	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
19	総合研究④	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
20	文献研究⑤	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
21	グループ研究⑧	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
22	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
23	文献研究⑥	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
24	文献研究⑦	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
25	実態調査③	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）

26	グループ発表③	グループ研究の成果発表とディスカッション
27	グループ発表④	グループ研究の成果発表とディスカッション
28	総合研究⑤	1 年間の学習の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外では以下のことに取り組んでもらいます。
1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）
このほか、授業期間外のイベントとして、夏に合宿形式のゼミを開催します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜提示します。

【参考書】
授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 20%
授業内での活動・議論等への積極的貢献： 50%
研究・発表への積極的貢献： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】
マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には、ステレオタイプや根拠のないものが少なくありません。そうした中にあって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】
人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】
Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practises. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

高橋　慎

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なファイナンス理論とデータ分析手法を学び、Excel などのソフトウェアを利用したデータ分析スキルを身につけます。

【到達目標】
・Excel などのソフトウェアを用いてデータ分析ができる。
・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
Zoom によるインタラクティブ授業を 4 月 22 日 15 時に開始します。
・Zoom のミーティング ID とパスワードは授業支援システム経由で通知します。
・質問はシステムの「授業内掲示板」でも受け付けます。
・春学期と秋学期を通して、テキストの輪読を行います。
・実際にデータ分析を行い、内容を発表してもらいます。
・Kaggle、SIGNATE、日経 STOCK リーグなどの学外コンペに参加することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	春学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。また、発表の担当箇所を決定します。
2	輪読およびデータ分析 1	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
3	輪読およびデータ分析 2	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
4	輪読およびデータ分析 3	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
5	輪読およびデータ分析 4	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
6	輪読およびデータ分析 5	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
7	輪読およびデータ分析 6	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
8	輪読およびデータ分析 7	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
9	輪読およびデータ分析 8	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
10	輪読およびデータ分析 9	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
11	輪読およびデータ分析 10	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
12	輪読およびデータ分析 11	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
13	輪読およびデータ分析 12	テキストの輪読を行い、内容について議論する。また、関連するデータ分析を行う。
14	春学期まとめ	春学期の内容を復習します。また、秋学期に行うデータ分析のテーマについて議論します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。また、データ分析のテーマについて議論します。
16	演習 1	データ分析
17	演習 2	データ分析
18	演習 3	データ分析
19	演習 4	データ分析
20	演習 5	データ分析
21	演習 6	データ分析
22	演習 7	データ分析
23	演習 8	データ分析
24	演習 9	データ分析
25	発表 1	データ分析結果の発表、ディスカッション
26	発表 2	データ分析結果の発表、ディスカッション
27	発表 3	データ分析結果の発表、ディスカッション
28	秋学期まとめ	秋学期の内容を振り返り、実際の「統計分析」で得られた知見を共有します。また、今後の展望について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの該当箇所を事前に読み、気付いたことや意見をまとめてディスカッションの準備をします。
・エクセルなどのソフトウェアを使って実際に統計分析を行うことで理解を深めます。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・石野雄一 (2005)『道具としてのファイナンス』日本実業出版社
・畑農鋭矢・水落正明 (2017)『データ分析をマスターする 12 のレッスン』有斐閣アルマ

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点： 50%
・発表： 50%

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
データ分析を行うには、エクセルなどのソフトウェアを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）が必要です。

【その他の重要事項】
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
統計学入門
基礎統計学 I/II
計量経営分析 I/II

【Outline and objectives】
We learn basic finance theory and data analysis methods and acquire data analysis skills using softwares such as Excel.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

高橋　美穂子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では，経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析，さらに企業評価を行うためには，企業の経営戦略を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため，本演習では企業評価のスキルを習得することに加え，企業の経営活動がいかに会計数値に反映されるのか，つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】
・経営分析と企業評価のスキルを習得し，実践できること
・経営活動と会計数値の繋がりが理解できること
・論理的に考える力を養うこと
・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力を養うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインでの開講となります。それにともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。初回授業は 4 月 22 日に web で実施します。本演習を履修する学生は学習支援システムで詳細を確認してください（4/16 変更）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	役職およびテキストの報告担当章の決定，授業の進め方の確認
2	文献の輪読	テキスト１章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
3	文献の輪読	テキスト２章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
4	文献の輪読	テキスト３章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
5	文献の輪読	テキスト３章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
6	文献の輪読	テキスト４章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
7	文献の輪読	テキスト４章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
8	文献の輪読	テキスト５章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
9	文献の輪読	テキスト６章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
10	文献の輪読	テキスト７・８章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
11	文献の輪読	テキスト８章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
12	文献の輪読	テキスト９章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
13	文献の輪読	テキスト１０章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
14	論文・レポートとは何か	問題の設定方法，本文の組み立て方

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	データベースの活用	企業財務データベースの使い方
16	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
17	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
18	文献の輪読	テキスト１１章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
19	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
20	文献の輪読	テキスト１２章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
21	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
22	文献の輪読	テキスト１３章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
23	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
24	文献の輪読	テキスト１４章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
25	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
26	文献の輪読	テキスト１５章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
27	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
28	経営分析・企業評価の実践	グループワークレポート，卒業論文の提出内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者は報告資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し，内容を理解した上で授業に参加してください。また，グループワークの内容を授業で報告する際にも事前準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝著，『財務諸表分析』，中央経済社，最新版.

【参考書】
ランドホルム他著，深井忠他訳『企業価値評価　eval による財務分析と評価』，マグロウヒル・エデュケーション，2015 年.

【成績評価の方法と基準】
春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は学習支援システムで提示します（4/16 変更）。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ），インゼミなどの経験を通して，論理的に考える力が身についた，人間的にも成長できた等の意見が寄せられました。今年度も，テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ，グループワークや他大学の学生と交流する機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
報告資料の作成および報告を行う際は，PC（Word，PowerPoint など）を使用してください。

【その他の重要事項】
・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため，３年次に経営分析Ⅰ/Ⅱを履修してください。
・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析，企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためにも，ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組んでください。

【関連科目】
経営分析Ⅰ/Ⅱ，財務会計論Ⅰ/Ⅱ
経営分析・企業評価は，会計，ファイナンス，経営戦略，マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため，これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline and objectives】
This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who completed this seminar will develop a deep understanding of how the results of firm's business transactions and strategies would be shown in financial information.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

高橋　理香

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と現状について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞、雑誌記事に関する考察を報告してもらいます。さらに、英語での簡単なスピーチにも挑戦していただきます。2・3 年生は、インターゼミナールでのグループ発表に取り組んでもらいます。4 年生は、3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組んでもらいます。

【到達目標】
①経済学を理論的・実証的に理解します
②経済学的思考方法を身につけます
③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力を高めます
④通常のゼミやインターゼミナールなどでの発表により、発表のスキル、論文作成のスキルを高めます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
①テキストを用いた発表と議論（グループ報告）
②英字新聞記事を用いた発表と議論（グループ報告）
③インターゼミナールでの発表論文作成（グループ報告）
④卒業論文の報告
文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンスを行います。
2	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
3	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
4	経済理論および現実の経済に関する学習 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
5	テーマの決め方	卒業論文やインゼミのテーマの決め方を学びます。
6	経済理論および現実の経済に関する学習 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
7	卒論中間報告会 1	卒業論文のテーマを報告します。
8	経済理論および現実の経済に関する学習 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
9	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
10	経済理論および現実の経済に関する学習 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
11	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
12	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
13	卒論中間報告会 2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
14	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
16	インゼミの準備 1	インターゼミナールで発表するテーマと今後の計画を発表します。
17	日常生活に対する経済学的分析 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
18	卒業論文中間報告会 3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
19	日常生活に対する経済学的分析 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
20	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
21	日常生活に対する経済学的分析 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
22	インゼミの準備 2	インゼミに関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
23	卒業論文中間報告会 4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
24	日常生活に対する経済学的分析 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
25	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
26	インゼミの準備 3	インターゼミナールの発表リハーサルを行います。
27	卒業論文最終報告会	卒業論文の最終発表会を行います。
28	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。また、夏休みのゼミ合宿・他大学とのインターゼミナール・OB 会を行っています。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。2019 年度のテキストは初回の講義の際に説明します。
また、論文の作成に関し、下記の文献を使用します。
佐藤望編『アカデミック・スキルズ　第 2 版－大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2016 年。

【参考書】
近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。
【ミクロ経済学・経営経済学・法と経済学・その他】
花薗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年。
丸山雅洋『経営の経済学　新版』有斐閣、2011 年。
矢野誠・中澤正彦『なぜ科学が豊かさにつながらないか？』慶應義塾大学出版会、2015 年。
Levitt, S. and S. Dubner, *Freakonomics,* Harper Collins Publishers, 2005.
【国際経済学・都市経済学・その他】
石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ　第 2 版』有斐閣、2013 年。
伊藤元重『どうなる世界経済- 入門国際経済学- 』光文社新書、2016 年。
佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣ストゥディア、2014 年。
ロスリング, ハンス他『FACTFULNESS』日経 BP 社、2019 年。
Acemoglu, D. and J. A. Robinson, *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty*, Profile Books Ltd, 2013.

【成績評価の方法と基準】
【２・３年生】
平常点・ゼミへの貢献度：５０％
発表内容・インターゼミでの発表論文作成への貢献度：５０％
【４年生】
卒業論文：５０％
平常点・ゼミへの貢献度：２５％
発表内容：２５％
なお、4 年生で卒業論文を提出しない場合は、不合格（D) となります。

【学生の意見等からの気づき】
効果的なプレゼンテーションやディスカッションを行うためには、どのような工夫が必要かをゼミ生自身に考えてもらいたいと思います。以前に行ったインターゼミナールに関するアンケートでは、他者に自分の話を聞いてもらうには、ただ調べて話すだけでは不十分である、とのコメントがありました。本ゼミでは、他者に自分の発表を聞いてもらうためにはどのような工夫が必要か、自分が他者の話を聞くにはどのような姿勢で臨むべきかについて履修者全員で議論を行い、そのための取り組みをゼミの中で実践したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。また、毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。
また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】
①国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。
②主体性のある学生の参加を希望します。
③授業開始時刻になってもゼミが始まらない、ということが無いように、時間の管理を徹底してください。
④本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。提出しない場合は不合格となります。
注意：出席をとります。無断欠席は論外、到底納得できない理由による欠席も評価に強く反映されます。
例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）、他大学とのインターゼミナール、本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生による仕事と勉強に関するパネルディスカッション）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline and objectives】
This class aims to develop logical and strategical thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. The second and the third year students will work on group presentations at an event with other universities. The fourth year students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

竹内　淑恵

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的にしています。 春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミや合宿も実施します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく毎回積極的な参加が必須です。それに見合うだけの指導を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	テキスト輪読と統計解析の実習 (1)	テキスト第 1 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (1 つの変数の記述統計)
2	テキスト輪読と統計解析の実習 (2)	テキスト第 2 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (2 つの変数の記述統計)
3	テキスト輪読と統計解析の実習 (3)	テキスト第 3 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (母集団と標本)
4	テキスト輪読と統計解析の実習 (4)	テキスト第 4 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (統計的仮説検定)
5	テキスト輪読と統計解析の実習 (5)	テキスト第 5 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (2 つの平均値を比較する)
6	テキスト輪読と統計解析の実習 (6)	テキスト第 6 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (一元配置分散分析)
7	テキスト輪読と統計解析の実習 (7)	テキスト第 7 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (二元配置分散分析)
8	テキスト輪読と統計解析の実習 (8)	テキスト第 8 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (回帰分析)
9	テキスト輪読と統計解析の実習 (9)	テキスト第 9 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (因子分析)
10	テキスト輪読と統計解析の実習 (10)	テキスト第 10 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (共分散構造分析)
11	テキスト輪読と統計解析の実習 (11)	テキスト第 11 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (重回帰分析)
12	テキスト輪読と統計解析の実習 (12)	テキスト第 12 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (探索的因子分析)
13	テキスト輪読と統計解析の実習 (13)	テキスト第 13 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (確認的因子分析)
14	テキスト輪読と統計解析の実習 (14)	テキスト第 14 章の輪読 (プレゼンと討議)、R の実習 (潜在変数を伴うパス解析)

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	グループ研究の進捗報告 (1)	2，3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
16	グループ研究の進捗報告 (2)	2，3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
17	グループ研究の進捗報告 (3)	2，3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
18	グループ研究の進捗報告 (4)	2，3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
19	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。
20	グループ研究の進捗報告 (5)	2，3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
21	グループ研究の進捗報告 (6)	2，3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
22	グループ研究の進捗報告 (7)	2，3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
23	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
24	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
25	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
26	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
27	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
28	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2，3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生ゼミ生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとしてサポートしてください。

・論文の書き方を学び、実際にテーマを決め、文章化します。論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・2019 年度、4 年生の卒論グループは日本マーケティング・サイエンス学会のインタラクティブセッションに参加し、特別賞を受賞しました。今年度も学会に参加できるレベルの研究を目指しましょう。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年 (2020)『1 からのマーケティング〈第 4 版〉』碩学舎。
②統計分析の入門書：山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎 (2018)『R によるやさしい統計学』オーム社。
③統計分析の入門書：川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之 (2019)『R による多変量解析入門』オーム社。
上記を春学期に使用します。

【参考書】
参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
・2、3 年生は進級レポート、4 年生は卒論を提出します。これらを完成するためには、各回における個人報告、グループ討議、取り組み姿勢 (4 年生には、2，3 年生へのメンターとしての支援も加点します) が重要になります。
・上記の平常点を加味して、成績評価は進級レポート (100 %)、卒論 (100 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2，3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】
・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline and objectives】
The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze thier data, and finally write a resarch paper.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

田路　則子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】
ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。
ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。
実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。
学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初の講義は、4 月 27 日とする。ZOOM を使用したインタラクティブを予定している。
2020 年度は、デザイン工学部の講義と提携をして、技術シーズを利用した新しい製品サービスの事業化を企画する。通常は 5 時限をコラボレーションの時間にするが、、2020 年度は、夏期集中講義で、コラボレーションを予定している。
ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小数で議論を行って発表する。
ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。
当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1 回	ビジネスプランとは/ コラボレーションプロジェクトのイントロ 1	要素の説明
2 回	アイデアジェネレーション 1/コラプロのイントロ 2	ビジネスモデルキャンバス 1
3 回	アイデアジェネレーション 2/コラプロのチーム結成	ビジネスモデルキャンバス 2
4 回	財務知識の確認 1/コラプロのアイデア創出 1	Cash Flow
5 回	財務知識の確認 2 ／コラプロのアイデア創出 2	BS/PL
6 回	スタートアップの事例分析 1/コラプロのアイデア創出	日本の事例
7 回	スタートアップの事例分析 1/コラプロのアイデアまとめ	日本の事例
8 回	コラプロの中間発表	チーム発表
9 回	起業家概念/コラプロのブラッシュアップ 1	アントレプレナー、スタートアップ、ベンチャー
10 回	イノベーションの担い手/コラプロのブラッシュアップ 2	イノベーションの定義とオープン・イノベーション
11 回	日本の起業家活動/コラプロのブラッシュアップ 3	起業意思、シリアル/ノービスアントレプレナー
12 回	成長のマネジメント/コラプロのブラッシュアップ 4	機会発見と成長プロセス
13 回	財務計画とマーケティング/コラプロのビジネスプラン 1	ビジネスプランの書き方
14 回	資金調達/コラプロのビジネスプラン 2	マルストン投資、資本政策

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1 回	コラプロのビジネスプラン完成	各チーム準備
2 回	コラプロのビジネスプラン発表	発表と質疑
3 回	新規事業のマネジメント/コラプロのコンテスト応募プラン作成	解説
4 回	新規事業の事例分析 1/コラプロのコンテスト応募プラン作成	サービス産業
5 回	日本企業の新規事業を担う組織体制/コラプロのコンテスト応募プラン作成	解説
6 回	新規事業の事例分析 2/コラプロのコンテスト応募プラン作成	製造業
7 回	新規事業の事例分析 2/コラプロのコンテスト応募プラン完成	製造業
8 回	外部スピーカー	新規事業担当者
9 回	新規事業の事例分析 3	製造業
10 回	新規事業の事例分析 3	製造業
11 回	キャリア・デザイン	理論と実例
12 回	スタートアップの事例分析 1	米国の事例

13 回　スタートアップの事例分析 2　米国の事例
14 回　スタートアップの事例分析 3　日本の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4 時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】
「ハイテク・スタートアップの経営戦略」田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年

【参考書】
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュー・ザカラキス, 日経 BP 社,2009 年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健, 日本経済新聞社,2008 年

【成績評価の方法と基準】
毎回のメモ (20%)、議論への貢献 (40%)、グループで行うビジネスプランニング (40%)

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC VTR

【関連科目】
製品開発論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【業績】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント･半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄･田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号,pp172-184,2017 年.
③「IT ビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30 巻,pp.312-325,2016 年
④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014
⑤『ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著　白桃書房,pp.133 ～ 159,2013 年.
⑥「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774.2011 年
⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年
⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009 年
⑨『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005 年

【Outline and objectives】
This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

筒井　知彦

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。
①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。
①について
　通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。
②について
　企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。
　以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】
①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる
②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる
③さまざまな会計ルールを理解できる
④企業分析ができる
⑤チームで力を発揮できる
⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕
進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。
〔授業の方法〕
　①　チーム制による報告及び議論、②　レジュメ作成
〔授業計画〕
2020 年度はビール、製菓、商社の 3 業界を分析する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ビール業界の分析①（経営戦略分析）	ビール業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 2 回	ビール業界の分析②	キリンビールの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 3 回	ビール業界の分析③	アサヒビールの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 4 回	ビール業界の分析④	サッポロビールの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 5 回	ビール業界の分析⑤、商社業界の分析①	ビール業界のまとめ、商社業界の仕組み、特徴
第 6 回	商社業界の分析②	商社業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、三菱商事の特徴、経営戦略
第 7 回	商社業界の分析③	三菱商事の課題の報告とディスカッション、三井物産の特徴、経営戦略
第 8 回	商社業界の分析④	三井物産の課題の報告とディスカッション、伊藤忠商事の特徴、経営戦略
第 9 回	商社業界の分析⑤	伊藤忠商事の課題の報告とディスカッション、住友商事の特徴、経営戦略
第 10 回	商社業界の分析⑥、製菓業界の分析①	住友商事の課題の報告とディスカッション、商社業界のまとめ、製菓業界の仕組み、特徴
第 11 回	製菓業界の分析②	製菓業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、明治 HD の特徴、経営戦略
第 12 回	製菓業界の分析③	明治 HD の課題の報告とディスカッション、森永製菓の特徴、経営戦略
第 13 回	製菓業界の分析④	森永製菓の課題の報告とディスカッション、グリコの特徴、経営戦略
第 14 回	製菓業界の分析⑤、まとめ	グリコの課題の報告とディスカッション、製菓業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けてのＰＤＣＡプラン策定

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ビール業界の財務分析①（定量分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 2 回	ビール業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固資産回転率の報告とディスカッション
第 3 回	ビール業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第 4 回	ビール業界の財務分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥの 3 分解、ＣＶＰ分析の報告とディスカッション
第 5 回	商社業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 6 回	商社業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固資産回転率の報告とディスカッション
第 7 回	オープンゼミ	次年度入ゼミ希望者へのオープンゼミ
第 8 回	商社業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 9 回	商社業界の財務分析④	その他指標の分析：ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥの 3 分解、ＣＶＰ分析の報告とディスカッション
第 10 回	入ゼミ試験	次年度入ゼミ希望者への面接試験
第 11 回	製菓業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 12 回	製菓業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固資産回転率の報告とディスカッション
第 13 回	製菓業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 14 回	製菓業界の財務分析④	その他指標の分析：ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥの 3 分解、ＣＶＰ分析の報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に説明する。

【参考書】
桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレプ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
グループワーク (40%)、プレゼンテーション (30%)、リポート (30%) をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループ研究、ディスカッションの進め方について参加者と相談することにしたい。

【その他の重要事項】
関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline and objectives】
This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

長岡　健

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「創造的なコラボレーションのデザイン」というテーマに関連した幅広い活動を行い、体験的な学習に取り組みます。具体的には、ワークショップ、フィールドワーク、ソーシャル・デザインの実践を通じて、「古い価値観や慣習に囚われず、自由闊達に個性を発揮しながら、一人ひとりの多様性を受け入れる、“未来の常識” を先取りした創造的な活動、場、コミュニティ、働き方、ライフスタイル」を探り、描き、つくる、"未来志向" の実践活動に取り組みます。以下に挙げた４つの領域を中心に「越境活動」を進め、「ソーシャル・デザイン」をめぐる各自の関心テーマを探っていくと同時に、アンラーニング、サードプレイス、ワークショップ、エスノグラフィーといった概念を手掛かりとして、「創造的なコラボレーション」の新たな姿と意味、ローコンテクストなコラボレーションによるソーシャル＆ビジネス・イノベーションの可能性を探るプロジェクトを展開していきます。
（1） ダイバーシティ
多様性な価値観が溢れた社会を実現する［マイノリティ支援；フェアトレード；パラレルキャリア；ソーシャルビジネス］
（2） コミュニティ
自由闊達な空間・場・地域をつくる［まちづくり；サードプレイス；コミュニティビジネス；ワークプレイスデザイン］
（3） ライフスタイル
一人ひとりのスタイルで暮らしを楽しむ［ワークスタイル；フードロス；アップサイクル；サーキュラー・エコノミー；心と体（ウェルネス）］
（4） ラーニング
学びを楽しむ未来型の授業・学校・社会をつくる［ワークショップ；フィールドワーク；カフェゼミ］

【到達目標】
（1） ワークショップ型の活動スタイルを身につける
（2） 多様な背景の人々とのネットワーキングを構築する
（3） 社会にメッセージを発信するスキルを身につける
（4） ローコンテクストなコラボレーションを実践する
（5） 問題解決より問題意識を重視する姿勢を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
「経験する」「表現する」「振り返る」という活動を中心とした参加体験型で進めます。具体的には、以下の（1）～（6）のような多様な活動に取り組んでいきます。
（1） ワークショップ（参加・企画運営・開発）
（2） ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
（3） 読書会
（4） フィールドワーク
（5） 実験的学習イベント（カフェゼミ）の企画・運営
（6） ブログ記事・フリーペーパーの制作

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ	春学期オリエン
第 2 回	フィールドワーク	路上観察＆記録の体験
第 3 回	ワールドカフェ	読書会
第 4 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 5 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 6 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 7 回	フィールドワーク	路上観察＆記録の体験
第 8 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 9 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 10 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 11 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 12 回	ワークショップ	インタビューの体験
第 13 回	アトリエタイム	フリーペーパー制作
第 14 回	ワークショップ	春学期の振り返り

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ワークショップ	秋学期オリエン
第 16 回	ワールドカフェ	読書会
第 17 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 18 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 19 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 20 回	フィールドワーク	路上観察＆記録の体験
第 21 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 22 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 23 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 24 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 25 回	フィールドワーク	路上観察＆記録の体験
第 26 回	ワールドカフェ	読書会
第 27 回	アトリエタイム	フリーペーパーの制作
第 28 回	ワークショップ	秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ参加メンバーは「授業時間外」に、以下の３つの活動に主体的に取り組んでいきます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
（1） 越境活動：
自分の直感と好奇心を手掛かりに、参加体験型フィールドワークを実施し、大学以外に交流を広げて、自分の世界を広げていく。
（2） マイプロジェクト：
自分の関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、取り組んでいくことを通じて、問題意識を深めていく。
（3） 実験的学習イベント：
大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称「カフェゼミ」）に、ゼミ全体で取り組む。

【テキスト（教科書）】
（1） 『プレイフルシンキング』（上田信行・著）
（2） 『ソーシャルデザイン』（グリーンズ編）
（3） 『社会を変えるを仕事にする』(駒崎弘樹・著)
（4） 『ワークシフト』（リンダ・グラットン・著）

【参考書】
（1） 『キャンプ論』（加藤文俊・著）
（2） 『プレゼンテーション・パターン』（井庭崇・著）
（3） 『ワークショップ』（中野民夫・著）
（4） 『ダイアローグ　対話する組織』（中原淳＆長岡健・著）
（5） 『ゆっくり、いそげ』（影山知明・著）
（6） 『コミュニティ・デザイン』（山崎亮・著）

【成績評価の方法と基準】
（1） 活動への参画度　　：60 %
［評価基準］ゼミ活動に全て参加（出席）することが前提
（2） フリーペーパー制作　　：20 %
［評価基準］個人で制作するフリーペーパーの内容を総合的に評価
（3） ブログ記事執筆　　：20 %
［評価基準］個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】
今年度は「フィールドワーク」と「メディア活用」に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】
facebook、twitter、note, slack などネットワークを活用したコミュニケーション活動を積極的に展開していきます。また、フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録していきます。

【その他の重要事項】
「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な “アトリエ” のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】
『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修することが望ましい。

【長岡研究室ウェブサイト】
http://www.tnlab.net
https://www.facebook.com/nagaoka.lab
https://www.facebook.com/cafe.seminar/

【Outline and objectives】
The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon creative collaboration in the field of Social Design, which includes the following four sub-themes: 1) Diversity in society, 2) Local community and areal management, 3) Sustainable life styles, 4) Participatory informal learning out of school-forged settings.
In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.
In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own social design projects in relation to some of the above five sub-themes, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

永山　晋

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「どのような経験が個人やチームのクリエイティビティに結びつくのか？」「どのような仕組みを整えれば組織のクリエイティビティを高めることができるのか？」
本演習ではこのような「クリエイティビティのマネジメント」をテーマに研究を行う。クリエイティビティとは、新規かつ有用なアイデアの創出を意味し、問題解決や新規事業の創造、イノベーションの創出などに深く関係する。
本演習は最終的に卒業論文を個人あるいはチームで作成し、クリエイティビティに関する知見とともに、学術研究の一連のプロセスを体得することを目標とする。そのステップとして、春学期に因果推論、計算社会科学に関わるの知見について日本語の文献、英語の文献を輪読を通じて学習していく。秋学期は、インゼミでの研究発表、論文執筆に向け、各グループがこれまで収集したデータ、知見を材料とし、リサーチデザイン、統計的分析方法、文章作成方法について学習していく。

【到達目標】
（1）特定の経営理論、クリエイティビティの理論的視点を使いこなせるようになる
（2）学術研究の一連のプロセスを体得する
（3）個人でもチームでも自分の力を存分に発揮できる「自律性」を身につける
（4）ゼミの運営、グループワークの実践を通じて「チームマネジメント力」を身につける
（5）世の中の注目を集める興味深い問い、重要な問いを考案する「構想力」を身につける
(6) データの扱い、統計、プログラミングの基礎的な知識を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期）主に輪読とプログラミング演習を通じて基礎的な知識を身につけ、各チームが夏から開始する自身の研究テーマを提示することを目標とする。基本的には毎回、割り当てられた文献のサマリーを担当チームが事前に作成していく。毎回の授業では、担当チームが内容を発表し、教員による解説を交えながら、文献の内容を深く理解していく。
秋学期）データ分析といった研究方法の学習と論文作成方法の学習、チームで行う研究の進捗報告が中心となる。
なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的、進め方について説明する。お互いの自己紹介、輪読のチーム編成を行う
2	因果推論に関わる日本語文献の輪読（1）	担当チームが文献のサマリーを発表
3	因果推論に関わる日本語文献の輪読（2）	担当チームが文献のサマリーを発表
4	因果推論に関わる日本語文献の輪読（3）	担当チームが文献のサマリーを発表
5	計算社会科学に関わる日本語文献の輪読（1）	担当チームが文献のサマリーを発表
6	計算社会科学に関わる日本語文献の輪読（2）	担当チームが文献のサマリーを発表
7	計算社会科学に関わる日本語文献の輪読（3）	担当チームが文献のサマリーを発表
8	計算社会科学に関わる日本語文献の輪読（4）	担当チームが文献のサマリーを発表
9	計算社会科学に関わる日本語文献の輪読（5）	担当チームが文献のサマリーを発表
10	プログラミング演習（1）	四則演算、ベクトル
11	プログラミング演習（2）	オブジェクト、データの型・形式
12	プログラミング演習（3）	データフレームの扱い
13	プログラミング演習（4）	関数、ループ、条件分岐
14	研究テーマ発表	各自が今後行いたい研究テーマについてプレゼンテーションを行う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	研究の経過報告	担当チームの研究途中経過を報告する
2	論文・リサーチデザインの学習（1）	教員が選定した英語論文を輪読する。
3	論文・リサーチデザインの学習（2）	教員が選定した英語論文を輪読する。
4	論文・リサーチデザインの学習（2）	教員が選定した英語論文を輪読する。
5	統計分析の学習と分析結果の報告（1）	収集したデータをもとに記述統計、相関分析を行う
6	統計分析の学習と分析結果の報告（2）	記述統計のビジュアライゼーション
7	統計分析の学習と分析結果の報告（3）	連続変量に対する統計
8	統計分析の学習と分析結果の報告（4）	連続変量に対する統計
9	統計分析の学習と分析結果の報告（5）	離散変量に対する統計
10	統計分析の学習と分析結果の報告（6）	離散変量に対する統計
11	アウトラインの作成	執筆手順について解説し、ターゲットとする読者の設定（社会人向け、学生向け、学術向けなど）と文章のアウトラインを作成する
12	文章の執筆方法の学習（1）	パラグラフ・ライティング
13	文章の執筆方法の学習（2）	一文一義と接続表現
14	文章の執筆方法の学習（3）	引用、参考文献、脚注、文章フォーマットの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・チームメンバーとのグループワークを行い、資料作成や発表準備などを行う
・春学期は自分の興味のある研究テーマを個々が考える。適宜、どのようなことをやりたいかを教員がヒアリングしていく
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜案内する。

【参考書】
適宜案内する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 演習への参加（50%）
• 質問や発言などの授業への貢献度によって評価する
(2) 研究内容の公開（50%）
• 一連の研究活動の成果をレポートあるいは論文で表現し、その成果をウェブなどに公開する。公開された内容の問い・方法・得られた答えの確からしさ、文章表現の質などの総合的な面で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度よりデータサイエンスに注力するため、プログラミング実習を多数盛り込んでいく。

【学生が準備すべき機器他】
各自ノート PC を所持すること（できれば、メモリ 16GB 以上のもの）

【その他の重要事項】
プログラミングを行う（主に、R と Python）。事前知識は必要ないが、自主学習を行うことを望む。

【関連科目】
組織マネジメント論Ⅰ／Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】
This course offers topics related to creativity. To study creativity, students will conduct academic research using statistical analysis.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

新倉　貴士

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに勤めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】
当演習における到達目標は、以下の３つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。
①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は、「ZOOM」を使用したオンライン型での開講とする予定です。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムに提示します。
本授業の開始日は、「2020 年 4 月 23 日」とします。
この日までに具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
2	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
3	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
4	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
5	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
6	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
7	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
8	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
9	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
10	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
11	グループ活動②-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
12	グループ活動②-4	仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
13	グループ活動②-5	仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
14	春学期最終報告会	グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
16	グループ活動③-1	新テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
17	グループ活動③-2	課題の明確化：新グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
18	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：新グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
19	グループ活動③-4	仮説の設定：新グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

20	グループ活動③-5	仮説の検証：新グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
21	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：新グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
22	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
23	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、新グループテーマのについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
24	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、新グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
25	グループ活動④-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、新グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
26	グループ活動④-4	仮説の設定：前半の課題を受けて、新グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
27	グループ活動④-5	仮説の検証：前半の課題を受けて、新グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
28	秋学期最終報告会	グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に案内します。

【参考書】
①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文眞堂、2014 年
③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40 %）、グループ貢献度（30 %）、プレゼンテーション能力（30 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】
複数グループワークのスケジューリングを調整して進める予定です。
協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
履修生は全員、「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。
３年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ／Ⅱ」を履修すべき科目とします。
「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline and objectives】
This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn marketing research method.
-To create original hypothesis.
-To get presentation skills required to communicate marketing plans.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

二階堂　行宣

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】
・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史的変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
・社会科学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視角から分析し、理解する能力を養う。
・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講とせざるを得ません。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
・本授業の開始日は 5 月 11 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、参加者との間で協議することとします。
・協議の方法については、メールを通じて別途指示します。
（4 月 19 日変更　二階堂行宣）
※以下、当初のシラバス
Ⅰ　春学期
・春学期は、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。
Ⅱ　秋学期
・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行います。
・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視角から対象を分析するように心がけてください。
・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視角、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2	導入①	参加者の自己紹介を行う。
3	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
4	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
5	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
6	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
7	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
8	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
9	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
10	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
11	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
12	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
13	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
14	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
16	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
17	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
18	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。

19	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
20	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
21	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
22	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
23	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
24	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
25	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
26	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
27	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
28	最終報告④	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】
・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・オンライン授業化に伴う成績変更方法の変更については、必要に応じて、学習支援システム上で周知します。
（4 月 19 日変更　二階堂行宣）
※以下、当初のシラバス
・報告（40 %）＋平常点（30 %）＋質問・議論への参加（30 %）。
・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】
・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】
・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline and objectives】
・This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
・Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

MAN200FA
演習 1　　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

西川　英彦　（秋学期代講：本條　晴一郎）

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。
①マーケティングの基礎理論を説明できる。
②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習では、主には 5 つのことを実施する。
①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告（秋カンに参加）	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どおりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告（冬カン）	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年.

【参考書】
①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
③ラッセル ベルク ・アイリーン　フィッシャー・ロバート V コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】
The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

西川　真規子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複雑化、不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】
第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法、データ解析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、ディベートや簡単な英語によるコミュニケーション等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。
初回講義は学習支援システムを通じて 4 月 22 日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割決め
2	テキスト研究１ 卒論研究１	今後の授業の進め方/4 年生は卒論のテーマを 4 月中に確定
3	テキスト研究２ 卒論研究２	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は 4 月中に卒論テーマ発表会を開催
4	テキスト研究３ 文献調査の方法１	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/先行文献の探索方法を学習
5	テキスト研究４ 卒論研究３	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は先行文献の検討を開始
6	テキスト研究５ 卒論研究４	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は先行文献の検討
7	テキスト研究６ 文献調査の方法２	先行文献の探索結果を発表/4 年は先行文献の検討結果をまとめ 5 月中に発表
8	テキスト研究７ 卒論研究５	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は先行文献探索を引続き実施、仮説設定へ
9	ディベート テキスト研究８	全員でディベートテーマを決め、ディベートを実施
10	テキスト研究９ 卒論研究６	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は先行文献の検討を引続き実施、仮説設定へ
11	テキスト研究１０ 卒論研究７	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は先行文献の検討を引続き実施、仮説設定へ
12	中間発表準備１ 卒論研究８	3 年はこれまでテキストで扱ったテーマや、ディスカッションの内容をもとにグループプロジェクトを開始/4 年は先行文献の検討を引続き実施、仮説の設定へ
13	中間発表準備２ 卒論研究９	3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は先行文献の検討を引続き実施、仮説の設定へ
14	中間発表準備３ 卒論研究１０	3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は先行文献の検討を引続き実施、仮説設定へ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	中間発表（夏合宿）	3 年はグループプロジェクト発表/4 年卒論中間発表
16	オリエンテーション	秋期活動内容確認/秋期ゼミ目標設定
17	社会調査の方法１ 卒論研究１１	社会調査のさまざまな方法について学習/4 年は調査方法を検討
18	社会調査の方法２ 卒論研究１２	社会調査のさまざまな方法について学習/4 年は調査方法を確定
19	社会調査の方法３ 卒論研究１３	社会調査のさまざまな方法について学習/4 年は調査を設計
20	社会調査の設計１ 卒論研究１４	既存の社会調査を検討/4 年は調査を設計
21	社会調査の設計２ 卒論研究１５	3 年は社会調査を設計/4 年は調査実施
22	社会調査の設計３ 卒論研究１６	3 年は社会調査を設計/4 年は調査実施状況を報告
23	データ分析基礎１ 卒論研究１７	データ分析に関わる統計手法を学習/4 年生は調査データを分析
24	データ分析基礎２ 卒論研究１８	データ分析に関わる統計手法を学習/4 年生は調査データを分析
25	データ分析実践１ 卒論研究１９	SPSS を用いてデータ分析を実施
26	データ分析実践２ 卒論研究２０	SPSS を用いてデータ分析を実施
27	データ分析実践３ 卒論研究２１	SPSS を用いたデータ分析結果を発表/4 年はデータ分析結果報告
28	卒論発表会 プロポーザル発表会	4 年は卒論の最終成果を発表/3 年は来年度の卒論プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。3 年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4 年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは授業初回に指定します。

【参考書】
参考文献は必要に応じて紹介します。
過去に用いたテキストには、ジグムンド・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方　第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年　(原著　Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologicaly 2nd edition*) 、Jon Elster 著 *Nuts and Bolts for Social Sciences*(邦題『社会科学の道具箱』)、亀田達也・村田光二著『複雑さに挑む社会心理学』などがあります。

【成績評価の方法と基準】
3 年:ディスカッションへの参加等平常点 30 %　個人・グループ発表 30 %、ゼミ活動への貢献度 40 %
4 年:ディスカッションへの参加等平常点 20 %、ゼミ活動への貢献度 30 %、卒業論文の報告・提出 50%
＊ゼミ活動への貢献度とは、3 年は割り当てられた委員活動を通じての貢献を、4 年は先輩としてのリーダーシップの発揮を意味します。

【学生の意見等からの気づき】
学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】
双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】
組織行動論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
In this seminar, students will examine social science materials to understand attitudes and behavior of people. They will also choose social phenomena familiar to them, discuss and research into the phenomena individually/collectively. Through the activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to collaborate with others.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

入戸野　健

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報技術の活用とビジネスシステムへの展開、および Web 情報の分析をテーマとする。

【到達目標】
文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要となる基礎データの統計的な分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際の Web に関するデータの分析をまじえて考察する。
授業時間内では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して皆で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日は 4 月 22 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
2	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要となる基礎技能を身につける。
3	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
4	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
5	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外観する。
6	インターネット広告	Google の検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
7	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
8	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
9	AI (人工知能)	AI の考え方を理解し今後の展開を考察する。
10	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
11	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
12	事例研究	Google, Amazon 等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
13	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。
14	ゼミ合宿	夏季ゼミ合宿を実施する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
16	研究テーマの検討	4 年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
17	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
18	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
19	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
20	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
21	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
22	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
23	プログラム開発環境	主に 3 年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
24	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
25	HTML とコンテンツ表現	Web サイトのコンテンツの表現方法を身につける。
26	Web サーバ構築	Web サーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
27	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
28	卒業研究発表	4 年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】
ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視 (70%) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30%) してもらい、それらから総合評価する。
オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ内外におけるディスカッションやコミュニケーションの時間をさらに増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じてノート PC などの情報機器を利用する (詳細は授業内で説明する)。

【その他の重要事項】
問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】
情報技術論Ⅰ/Ⅱ
プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ
ネットワーク論Ⅰ/Ⅱ
情報学発展Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

長谷川　翔平

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。　企業はマーケティング活動を行う際に，様々なデータを収集し，活用している。例えば，新製品開発では消費者ニーズの調査データ，テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば，個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また，Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは，「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため，その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば，商品 A を買った人に商品 B を推薦する，などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年，ビッグデータという単語に注目が集まっているが，マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また，統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は，今後の社会で重要なスキルとなる。
本授業では，様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び，実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
・課題を発見し，解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
・データ分析モデルの説明と実行ができる。
・分析結果を分かりやすく報告できる。
・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業計画や成績評価方法の変更については学習支援システムを参照してください。

[4 月 21 日追記]
学習支援システム掲載のお知らせを Google Classroom にも掲載しています。学習支援システムにアクセスできない学生は，Google Classroom でクラスコード「mgz4iwe」を登録して，春学期の授業方法を確認してください。Google Classroom で授業登録を行うためには法政大学 Gmail にログインする必要があります。
（変更前の内容）
[春学期]
マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し，データ分析に必要な知識を学ぶ。また，統計解析ソフト R（フリーソフト）を使い，データ分析の実習を行う。
[秋学期]
前半①：データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読を行う。
前半②：外部のデータ分析コンテストに参加する。昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」に参加した。
後半：4 年生を中心に卒業研究を行う。4 年生と 2・3 年生のグループを作り，設定したテーマについてデータを収集し，実証的な分析を行い，発表する。テーマ例として昨年度のゼミ生が分析を行ったものを記載する。
・YouTuber による商品販促効果
・若者のひとり旅の期待・阻害要因と SNS の関係
・スマートフォンの機種選択時に消費者が求めること
・定額制音楽配信サービス普及のためのマーケティング戦略

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	テキスト 1・2 章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン，データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
3	テキスト 3 章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
4	テキスト 4 章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
5	テキスト 5 章：市場反応分析 (I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
6	テキスト 6 章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
7	テキスト 7 章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
8	テキスト 8 章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
9	テキスト 9 章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
10	テキスト 10 章：顧客の管理	RMF 分析による顧客管理
11	テキスト 11 章：市場反応分析 (II)	離散選択モデルによる購買予測
12	テキスト 12 章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解
13	テキスト 13 章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
14	テキスト 14 章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	データ分析コンテスト：研究計画発表	分析テーマ，研究計画の発表
16	データ分析コンテスト：中間報告①	利用データや分析手法の報告
17	データ分析コンテスト：中間報告②	利用データや分析手法の報告

18	データ分析コンテスト：中間報告③	データ分析の途中報告
19	データ分析コンテスト：中間報告④	データ分析の途中報告
20	データ分析コンテスト：最終報告①	分析結果の最終報告
21	データ分析コンテスト：最終報告②	分析結果の最終報告
22	卒業研究：研究計画発表	卒業研究テーマの研究背景や目的，研究計画の発表
23	卒業研究：中間報告①	データ収集方法や利用データの報告
24	卒業研究：中間報告②	データ収集方法や利用データの報告
25	卒業研究：中間報告③	データ分析の途中報告
26	卒業研究：中間報告④	データ分析の途中報告
27	卒業研究：最終報告①	分析結果の最終報告
28	卒業研究：最終報告②	分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
[春学期]
・テキストを読み，分析例を自分のパソコンで実行する。
・報告担当者は発表資料を作成する。
[秋学期]
・各グループでデータ収集から分析，結果考察を行い，発表資料を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期：照井伸彦・佐藤忠彦『現代マーケティング・リサーチ』有斐閣（2013）
秋学期（予定）：石田他『R によるスクレイピング入門』C&R 研究所（2017）

【参考書】
・古川一郎・守口剛・阿部誠『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
・星野崇宏・上田雅夫『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
・平岡和幸・堀玄『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】
報告・議論への参加（60 %）
平常点（40 %）
4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】
・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
・計画的に授業を進める

【学生が準備すべき機器他】
データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】
・テキストは数式によるモデルの説明が多いため，初歩的な数学（高校レベルの微分積分）と統計学の知識があることが望ましい。
・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため，ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
・受講希望者は，事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し，内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】
・基礎統計学 I/II
・計量経営分析 I/II
・マーケティング論 I/II
・マーケティング・リサーチ I/II

【Outline and objectives】
Many firms collect various data from consumers and analyze the data for marketing activities. This course's objective is to study the methods of marketing data analysis. Students will learn methods of data collection and analysis, finally write a graduation thesis.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

平田　英明

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
３－４つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト２	１章＋補論の輪読
2	テキスト２	２章と３章の輪読
3	テキスト１	１章の輪読
	テキスト２	４章の輪読
4	テキスト１	２章の輪読
	テキスト２	５章の輪読
5	テキスト１	３章の輪読
	テキスト３	１章の輪読
6	テキスト３	コンピュータ演習１
	懸賞論文	キックオフ会議
7	テキスト１	４章の輪読
	テキスト３	２章の輪読
8	テキスト１	５章の輪読
	テキスト３	３章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト１	６章の輪読
	テキスト３	４章の輪読
11	テキスト１	コンピュータ演習２
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト１	コンピュータ演習３
	テキスト３	５章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト３	６章の輪読
	懸賞論文	仕上げ作業
17	テキスト３	７章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習１
18	テキスト３	８章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習２
19	テキスト３	復習セッション１
20	インゼミ	インゼミ１（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト３	復習セッション２
22	テキスト３	９章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ１
23	テキスト３	１０章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ２
24	インゼミ	インゼミ２（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ３（神奈川大学経済学部）
26	テキスト３	総復習１
27	テキスト３	総復習２
28	テキスト３	総復習３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1．永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』 (有斐閣)
2．中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
3．山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】
1．伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2．福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門 』(有斐閣)
3．蓑谷千凰彦『計量経済学』 （東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度 (25%) で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

福島　英史

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは，企業組織が行う経営戦略の意思決定について，論理的に考え，理解を深め，自分なりの意見をまとめることです．経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに，戦略の意思決定を理解する助けとして組織論や社会学，経済学等の基礎的なアイディアにも触れます．

【到達目標】
経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について，論理的に理解し，説明できるようになることが達成目標です．世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち，問題を立て，自分なりの説明ができるようになることを目標とします．経営学部生として，自分なりに，経営学に関する発表を行い，ゼミ内で話し合い，経営学の論文を書いて卒業していきます．卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はテレビ会議ツールを使用してオンラインでの開講となる．本授業の開始日は 4 月 28 日とし，初回授業のアクセス方法等に関しては，学習支援システムに登録されているメールアドレスまたは演習メンバーが承知する Line アカウント宛にご連絡します．具体的なオンライン授業の方法や授業計画の変更などは，授業内で提示します．（2020 年 4 月追記）
2 つの学習活動に取り組みます．1 つは文献の輪読です．用意したレジュメをもとに，疑問点や議論の論理展開などについて議論します．もう 1 つは，グループで行う調査研究です．3〜4 人のグループがテーマを自由に決めて調査し，月 1 回程報告をします．また他大学とインターゼミを行い，研究成果を発表し，意見交換を行います．3 年生後半から卒業論文制作に入り，卒業までにこれを完成させます．夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います．その際，会社・工場見学に行くことがあります．またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
3	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
4	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
5	研究テーマ報告	調査研究テーマを報告する 問いをたてる
6	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
7	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
8	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
9	調査研究報告	調査研究の報告を行い，議論から改善策の提案を行う
10	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い，議論から改善策の提案を行う
11	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
12	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
13	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
14	調査研究報告	調査研究の報告を行い，議論から改善策の提案を行う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い，議論から改善策の提案を行う
16	工場見学	企業を訪問し生産の現場を知る
17	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
18	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
19	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い，議論から改善策の提案を行う
20	卒論テーマ報告 1	卒論テーマの報告（3 年生） 問いをたてる
21	次年度ゼミ生面接	次年度ゼミ生候補の面接
22	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
23	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
24	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
25	インターゼミ 1	他大学経営学系ゼミと交流し，意見交換を行う
26	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
27	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
28	卒論テーマ報告 2	卒論テーマの報告（3 年生） 改善策の提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
問題意識を持って身近な事例を眺め，考えてみる．ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う．ゼミ及びインターゼミ後には，コメントについて反芻し整理を試みる．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
課題文献は演習初回に指示します．過年度には，D．ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社, 2002），苅谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社+a, 2002），M．ヒット他『戦略経営論』（センゲージ, 2010）などを読みました．

【参考書】
演習中に適宜案内します．

【成績評価の方法と基準】
ゼミに対する準備 (30%)，ディスカッションへの貢献度 (35%)，卒業論文・グループワークおよび各種課題等の評点 (35%) に基づいて評価します．

【学生の意見等からの気づき】
皆の努力をより評価に反映させます．引き続きしっかり議論を進めていきます．

【学生が準備すべき機器他】
パソコン，プレゼンテーションソフト．

【その他の重要事項】

ゼミ参加者全員が報告者であるという姿勢をとり，十分な準備と報告に関するディスカッションへの積極的な参加が強く望まれます．調査研究および卒業研究の成果に関する経過報告では自分なりの説得力とオリジナリティを心がけることが必要です．無断欠席は認めません．関連科目は戦略的意思決定論，経営戦略基礎，経営組織論，経営戦略論，マーケティング論，経営管理論，日本経営論，流通論，技術管理論，製品開発論，国際経営戦略論，中小企業論，組織経済学等ですが，これに限らず様々な学びを歓迎します．

【Outline and objectives】

The outline and objective of this seminar are as follows. We study strategic management and decision making of firms, understand their logic, interaction, mechanism, and dynamism. We make and present our own view on these points. We may talk about basic organizational theory, economics, and sociological view to help our understanding about strategic management.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

福田　淳児

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習１では、企業の経営者や部門管理者が組織内で行う意思決定および企業組織及び下位の組織単位およびその管理者の業績測定・評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念、および理論を理解することを目的とする。演習２では、インゼミに向け２つのグループを編成し，グループごとに報告テーマを設定する。各テーマについて文献レビューを行い、データを収集し分析を行うことを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
演習１では、管理会計の基礎的な概念および重要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。さらに、全社および下位の組織単位の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的指標の意味を理解することを目標とします。
　演習２では、ゼミ参加学生を２つのグループに分け、それぞれのグループでテーマを選択し、毎年 12 月に他大学との間で行われるインターゼミの報告会に向けて文献レビュー、データの収集・分析および議論を行います。演習２では，統計的な分析技法の習得およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期は少なくとも前半は zoom を利用したオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示します。本演習の開始日は 4 月 21 日とし，その日までに具体的な授業へのアクセス方法などを学習支援システムで提示します。
ゼミナールはゼミ生の報告およびディスカッションを中心に授業を進めます。演習１では指定のテキストについて輪読を行います。毎週、各テーマについて、個人またはグループで報告をしてもらい、それについて議論並びに補足を行う形でゼミを進めていきます。テキストはあくまで基礎的な資料ですので、興味のある内容についてはさまざまな資料また経済誌などの記事を当たってみてください。
　演習２では例年 12 月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定，さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 管理会計の目的	講義のスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点、戦略の策定と実行に役立つ管理会計の役割を説明する。
2	経営戦略と管理会計システム	経営戦略と管理会計システムの関係及び戦略的な管理会計について説明を行います。
3	財務情報分析	財務情報分析方法について説明するとともに，実際の企業の実例を用いて分析を行う。
4	短期利益計画	短期利益計画の設定と CVP 分析について議論する。
5	予算管理システム	組織における予算管理のプロセスおよび実務上の問題点について議論する。また，近年の議論についても紹介する。
6	キャッシュフロー管理	資金管理の必要性またキャッシュフローの管理について議論する。
7	原価管理 卒業論文の第 1 回報告	原価維持・原価改善および原価企画の各技法及びそれらの技法間の関係性について議論する。
8	ABC/ABM	製造間接費の配賦の問題についての新しい原価計算方法について
9	差額原価・収益分析	差額原価及び差額収益情報，及びその利用について学習する。
10	投資計画の経済性分析	設備投資の経済性計算の方法を紹介しそれぞれの手法について説明する。
11	組織の特性と管理会計	分権的な組織，特に事業部制や純粋持株会社制を前提とした業績管理の問題について説明する。
12	非営利組織の管理会計	非営利組織の管理会計を営利組織の管理会計との対比で明らかにする。
13	在庫管理のための管理会計手法	在庫管理のための手法を紹介する。計算例についても紹介する。
14	品質原価計算 卒業論文の第 2 回報告	品質原価計算の方法を明らかにするともにその事例を解説する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	インターゼミ（12 月開催予定）に向けてのテーマ選定	ゼミを２つ（または３つ）のグループに分け、それぞれのグループでインゼミでの報告テーマについて検討する。
2	具体的な問題の設定	選択したテーマについて、どのような点を今回の報告で明確にしたい点を明らかにする。
3	文献のレビュー	文献レビューを行い，これまでに何がわかっているのか，何が残された課題なのかを明らかにする。
4	追加的な文献のレビュー 卒業論文の第 3 回報告	追加的に紹介した文献のレビューを行う。
5	問題の明確化	選択したテーマについて、文献レビューをふまえた上で、何をどこまで、今回の研究で明らかにするかを再度明確にする。
6	仮説設定	研究テーマに関わる仮説の設定を行う。
7	仮説の修正	前回の議論に基づいて仮説の修正を行う。

8	必要な情報の入手可能性 卒業論文の第 4 回報告	これまでの文献レビューまた仮説をふまえ収集すべきデータ，また入手方法を明らかにする。
9	データの加工について	仮説の検証に必要なデータの加工方法を考える。
10	データの収集	実際に必要とされる財務的なデータなどの収集を行う。
11	データの分析	入手した情報に基づいて分析を行う。
12	分析結果の検討 卒業論文の第 5 回報告	データの分析結果をふまえ，仮説に照らして議論を行う。
13	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、どのようなことが明らかになったのかを検討する。
14	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミで取り上げられるテーマについて，毎回テキストの該当箇所および紹介した論文を読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。報告担当でない学生は必ず質問内容を考えておくこと。その際，基本的なテクニカルタームについては事前に調べておくこと。秋学期では各グループの選択したテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み，それについて考察を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スタンダードテキスト管理会計論（第２版）、山本浩二他編著、中央経済社、5000 円（税別）

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミで割り当てられた担当テーマの報告内容 (40 %) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (30 %) 及びレポート（４年生は卒業論文）の提出（30 %）に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミの学生からは実務での管理会計技法の利用についてもっと知りたいという要望を受けています。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】
原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline and objectives】
We discuss about management accounting in this seminar. Management accounting is a framework that can be used to manage many organizations, though they are profitable or non-profitable. The framework provides CEOs, managers and employees with both financial and non-financial information to make decisions and manage performance in the organizations.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

福多　裕志

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[財務データに基づく企業の意思決定]
当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】
財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC を常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では日・英両言語で議論することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連配布資料は、すべて学習支援システム（LSS) を通して配布するので、常に注意を払うこと。4 年生にはゼミ論文の提出が義務付けられている。

【重要】
本授業の開始日は、時間割にしたがい 4 月 22 日（水）第 4 時限とし、ZOOM による試験的授業を開始する予定です。ZOOM 授業に必要な情報を学習支援システムに掲示しますので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第 2 回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第 3 回	管理会計の枠組み：財務会計との相違	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第 4 回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第 5 回	発表：その 1	第 4 回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第 6 回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第 7 回	損益分岐点（BEP) 分析：その 1	BEP 分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第 8 回	損益分岐点（BEP) 分析：その 2	BEP 分析とオペレーティング・レバレッジ
第 9 回	損益分岐点（BEP) 分析：その 3	BEP 分析と CVP 分析の比較・検討
第 10 回	財務諸表分析：その 1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第 11 回	財務諸表分析：その 2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第 12 回	財務データの統計処理：記述統計その 1	財務データの基本統計解析
第 13 回	財務データの統計処理：記述統計その 2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討
第 14 回	春学期総括	春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 1	推測統計学と財務諸表分析
第 16 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 2	業界平均値の推定、正規分布
第 17 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 3	業界平均値の推定、t 分布
第 18 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第 19 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t 検定
第 20 回	発表：その 2	推定・検定を応用した事例発表（企業レベル）
第 21 回	発表：その 3	推定・検定を応用した事例発表（業界レベル）
第 22 回	資本予算：その 1	設備投資決定計算の基本枠組み
第 23 回	資本予算：その 2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第 24 回	資本予算：その 3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第 25 回	資本予算：その 4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第 26 回	資本予算：その 5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第 27 回	資本予算：その 6	設備投資決定問題における税金の考慮
第 28 回	資本予算：その 7	設備投資決定問題におけるインフレーションの影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、CMS に掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。**授業支援システムを参照のこと**。

【参考書】
1) 青木茂男『要説　経営分析　五訂版』森山書店, 2016 年.
2) 岡本清『原価計算　六訂版』国元書房, 2000 年.
3) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.
（より詳細な参考文献リストを CMS に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】
3 年生は、授業内貢献度（80 %）、小テスト（20 %）をもって評価する。4 年生は、授業内貢献度（30 %）、ゼミ論文（70 %）をもって評価する。

【重要】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システム上で提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。1、2 年次に電算関連科目を受講するか、もしくは Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】
①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し各自の目的を成就して欲しい。

【関連科目】
計量経営分析Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

藤澤　利治

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第２次世界大戦後、西欧諸国は地域経済統合を進め、欧州の平和と経済的繁栄を実現してきた。しかし、今日様々な困難に直面して、EU 危機が叫ばれている。このゼミナールでは、EU 加盟国の基軸国であるドイツの対応を中軸において、欧州単一通貨ユーロの危機、イギリスの EU 離脱、難民問題等について学ぶ。

【到達目標】
①ヨーロッパの 28 カ国が加盟する、複雑多様な組織である EU を正確に理解する。
② EU を理解することによって、日本やアメリカの政治・経済・社会を考える際の判断基準を身に付ける。
③現在 EU が直面しているユーロ危機の現状とイギリスの EU からの離脱、そして難民危機について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと基礎知識の確認	授業の概要と進め方に関する説明のほか、EU に関する基本的な知識の確認を行う。
第 2 回	欧州の特徴	欧州の歴史的、社会的、地理的そして政治的特徴を概観する。
第 3 回	第 2 次世界大戦後の欧州	第 2 次世界大戦後の欧州各国の経済実態について概観する。
第 4 回	ECSC の設立とその成功	欧州において紛争の原因となってきた独仏間の対立を解決するための試みであった欧州石炭鉄鋼共同体について見る。
第 5 回	EEC と Euratom のスタート	欧州経済共同体と欧州原子力共同体の創設過程を見る。
第 6 回	EC の創設	これまでの 3 つの共同体を再編成して EC が創設される過程を見る。
第 7 回	石油危機下の EC	二度にわたる石油危機によって混乱した EC 経済の立て直し策を検討する。
第 8 回	欧州通貨システムの創設	欧州通貨統合の試みについて見る。
第 9 回	欧州市場統合の完成	欧州における非関税障壁の撤廃と市場統合の完成のプロセスを見る。
第 10 回	マーストリヒト条約の概要	欧州における経済通貨統合への歩みを見る。
第 11 回	マーストリヒト条約の発効	1993 年に発効したマーストリヒト条約の内容を見る。
第 12 回	単一通貨ユーロの創出	単一通貨としてユーロが創設されるプロセスを見る。
第 13 回	ユーロ導入と通貨統合の完成	1999 年のユーロ導入とその後の順調な推移を見る。
第 14 回	PIIGS と財政危機	2009 年以降ユーロ圏を襲った財政経済危機について概観する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ギリシャ危機	ギリシャの財政危機について見る。
第 16 回	アイルランドのバブル経済	アイルランドにおけるバブル発生とその崩壊を見る。
第 17 回	ポルトガルの経済危機	ポルトガルにおける財政危機の発生について見る。
第 18 回	スペインのバブル崩壊	スペインにおけるバブル形成とその崩壊のプロセスを見る。
第 19 回	イタリアの財政危機	イタリアにおける経済と財政について検討する。
第 20 回	ユーロ危機の現状	ユーロ危機がどのような問題であるかを見ていく。
第 21 回	ユーロ危機の克服策	ユーロ危機の克服策を分析する。
第 22 回	イギリスの EU 離脱	2016 年 6 月の国民投票での EU 離脱賛成とその後の対応について見る。
第 23 回	EU と移民・難民問題	EU 域内での移民増加と域外からの難民流入問題について見る。
第 24 回	ゼミナール大会のレジュメ完成	ゼミナール大会に提出するレジュメを完成させる。
第 25 回	ゼミナール大会への準備	討論相手ゼミからのレジュメを検討し、質問票を作成する。
第 26 回	ゼミナール大会用のレジュメの点検	討論相手ゼミからの質問票への回答を作成し、レジュメを点検する。
第 27 回	ゼミナール大会の参加報告とまとめ	ゼミナール大会への参加報告と各自の反省を行う。
第 28 回	ゼミの修了論文の指導	4 年次生のゼミ修了論文についての経過報告と作成指導。3 年次生の関心テーマの発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　EU の概要をあらかじめ予習しておく。
第 2～21 回　報告者はテキストの担当部分を熟読し、報告用レジュメを作成する。他の履修者もテキストを熟読し、質問点をまとめておく。その際、下の参考文献を利用し、予習しておく。
第 22～23 回　報告者は新聞や雑誌論文で、イギリスの EU 離脱の具体的方針や EU の移民と難民の動向を調べておく。
第 24～25 回　自分の担当するテーマについて情報を集め、分析し、ゼミナール大会用のレジュメの原稿を作成する。その際、自主的にサブゼミを開催し、自分の担当するテーマについて作成したレジュメの原稿を持ち寄って相互に調整し、全体を完成させる。
第 26 回　ゼミナール大会での討論相手ゼミのレジュメを検討して質問票を作成する。
第 27 回　ゼミナール大会の反省とレジュメの修正を行う。

第 28 回　4 年次生はゼミ論文について経過報告の準備を行う。3 年次生は自分のゼミ論文のテーマを考えておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤澤利治・工藤章編著『ドイツ経済− EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房、2019 年刊

【参考書】
①伊藤さゆり『EU 分裂と世界経済危機の知識』NHK 出版新書、2016 年
②田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済 [第 5 版]』有斐閣アルマ、2018 年
③ブレイディみかこ『労働者階級の反乱―地べたから見た英国 EU 離脱』光文社新書、2017 年
④ SGCIME 編『グローバル資本主義の変容と中心部経済』日本経済評論社、2015 年
⑤須網隆夫＋ 21 世紀政策研究所『英国の EU 離脱と EU の未来』日本評論社、2018 年
⑥遠藤乾『欧州複合危機』中公新書、2016 年
⑦星野眞三雄『欧州危機と反グローバリズム』講談社+ α 新書、2017 年
⑧鶴岡路人『EU 離脱－イギリスとヨーロッパの地殻変動』ちくま新書、2020 年

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
就職活動でゼミへの貢献度が低下する 4 年生について、ゼミでの学習を活性化するために、報告等の分担を多くする。

【その他の重要事項】
・ゼミは自分の問題意識に従って学習することを前提にしているので、自発的に資料や文献を見つけて調べ、報告や議論に積極的に参加することを求める。さらに、ヨーロッパについての日々の新聞報道や雑誌論文をフォローすることも必要となる。
・関連科目として、産業史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを並行してでも良いから、履修することを求める。

【Outline and objectives】
This course is designed for students to understand key issues of the European Union (EU).
Since the Lehman-shock in 2008, the EU has been facing multiple crises: the problem of the single currency Euro, Greek state debt, Brexit etc. In this course students will analyze and discuss these problems, and prepare the final report.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

藤村　博之

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思います。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思います。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われていることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思います。

【到達目標】
日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	経営資源の一つであるヒトの特徴について学びます。
第 2 回	雇用管理	採用、配置、雇用調整、退職管理
第 3 回	能力開発	OJT と Off-JT の組合せ方
第 4 回	人事制度	従業員が組織の目標達成に向かって力を結集する仕組みの理解
第 5 回	評価制度	評価と目標管理の関係について
第 6 回	報酬管理	賃金制度の組み方
第 7 回	労働時間管理	長時間労働の現状とその解決策
第 8 回	非典型雇用	有期雇用社員の現状と課題
第 9 回	高齢者雇用	日本社会の高齢化と雇用問題
第 10 回	女性労働	女性が出産・育児を経ても働き続けられるようにするにはどうすればいいか
第 11 回	外国人労働者	日本の少子化と人口減少の中で、外国人労働者をどう受け入れていくのか
第 12 回	福利厚生	法定福利と法定外福利の関係
第 13 回	労使関係	労使コミュニケーションの現状と課題
第 14 回	他大学との討論会	立正大学戎野ゼミと討論会を行う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ＡＩと人の労働の関係	ＡＩ導入によって人の労働が必要なくなると言われるが、本当にそうだろうか
第 2 回	インゼミ大会論文執筆Ⅰ	12 月に行われるインターゼミナール大会の論文完成に向けて作業する
第 3 回	インゼミ大会論文執筆Ⅱ	インゼミ大会の論文を完成させる
第 4 回	コミュニケーションを学ぶ	『先生はえらい』を読んでコミュニケーションのあり方を考える
第 5 回	有期雇用契約	有期雇用契約の現状と問題点を政府文書を使って議論する
第 6 回	グローバル経営人材の育成	世界で活躍する経営者を育てるにはどうすればいいかを考える
第 7 回	少子化の現状と対策	少子化がなぜ起こっているのか、少子化はどうすればとまるのかを考える
第 8 回	ワークライフバランス	男性の長時間労働を解消するには何が必要かを考える
第 9 回	高度外国人材の採用	高学歴の外国人を日本企業が雇用して、活用するには何が必要かを考える
第 10 回	生涯現役社会のあり方	働く意欲と能力のある人が何歳になっても働けるようにするにはどうすればいいかを考える
第 11 回	目標管理制度	目標管理制度の正しい使い方
第 12 回	労働組合の役割	日本社会や企業の中で、これから労働組合はどのような役割を担う必要があるかを考える
第 13 回	世界の中の日本	日本は他の国々からどう見られているのか
第 14 回	日本の強み	他国と比べたとき、日本は何を強みとして競争していけるのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでくることが大切な事前学習です。単に読むだけではなく、書かれていることから自分の問題意識をみつけることも重要です。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 [第 6 版]』有斐閣、2019 年

【参考書】
文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。
評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】
それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】
大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。
社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、コクヨ、イトーキ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何？」、「会社の選び方は？」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。
また、立正大学戎野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。
さらに、NPO 人財育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々に集まっていただき開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々に現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。
上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思います。
関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】
＜専門領域＞人材育成論、労使関係論
＜研究テーマ＞産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築
＜主要研究業績＞
①『新しい人事労務管理 [第 6 版]』(佐藤、八代と共著)2019 年 10 月、有斐閣
②「『福岡県 70 歳現役応援センター』の設立にかかわって」『エルダー』2019 年 9 月号
③「優秀な人材は内部養成している企業に集まる『産業訓練』2019 年 1 月号
④「大学教育と就職活動の関係を考える」『人事実務』2018 年 12 月号、
⑤「企業の競争力を高める外国人材の活用を」『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
⑥「考える集団の醸成が競争力を高める」『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
⑦「高度外国人材は企業の競争力を高める」『東京社会保険労務士会会報』2016 年 7 月
⑧ “The challenge of keeping Japanese older people economically active” Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.
⑨「グローバル化と日本企業の課題～広い視野を持った経営者をどう育てるか～」『Work & Life 世界の労働』(日本 ILO 協議会)2015 年 3 月、pp.2-10.
⑩「 70 歳現役をめざして」『エルダー』 2015 年 1 月号、pp.7-11。

【Outline and objectives】
The puopose of the seminar is to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. We have to know real situations of HRM in Japanese companies.

MAN200FA
演習 1　　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

洞口　治夫

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。 中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。 本年度は、マーケティングに関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択ための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】
ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本文に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験があり、コーチのもとで毎日の訓練に自主的に取り組んだことのある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
＜本授業の開始日時は 4 月 23 日木曜日午後 3 時 00 分です。遠隔会議システム Zoom の URL を授業のお知らせに掲示します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるので、カメラとマイクのついたパソコンでつなげることが望ましいでしょう。携帯電話でも接続可能ですが、共有資料の閲覧がやりにくい、という問題があります。＞授業時間には英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論し、理解を深めます。春合宿、夏合宿では日本国内あるいは海外の工場を見学します。過去には、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2 年生は進級レポート、3 年生はグループでの論文作成、4 年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行い、優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	慶應義塾大学とのインターゼミのためのグループ分け。
第 2 回	テキスト音読、発音矯正。	テキスト 1 ページ目の音読と発音チェック。
第 3 回	テキスト輪読。ＯＢ会の企画立案。	テキスト１～２ページ目の英語理解。
第 4 回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英会話での状景描写。
第 5 回	テキスト学習と英文和訳。	テキスト 2～3 ページ目の英語理解。
第 6 回	マーケティング論入門。	テキスト 3～4 ページ目の英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト購読と発音矯正。	テキスト 4～5 ページ目の英語理解。
第 8 回	夏合宿の企画立案。3 年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	リスニングとテキスト輪読。	テキスト 5～6 ページ目の英語理解。
第 10 回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト 6～7 ページ目の英語理解。
第 11 回	テキスト関連企業の調査。	テキスト 7～8 ページ目の英語理解。
第 12 回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。
第 13 回	英語の発音矯正とリスニング。	テキスト 8～9 ページ目の英語理解。
第 14 回	グループ研究の中間報告、ビジネス英語会話	インターゼミ準備、英会話。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	三年生グループ研究の中間報告	慶応とのインターゼミ準備。
第 16 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 10～11 ページ目の英語理解。
第 17 回	三年生グループ研究の最終報告	中小企業懸賞論文の執筆と校正。
第 18 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 12～15 ページ目の英語理解。
第 19 回	四年生の卒論、二年生の進級レポート中間報告	東京大学インゼミに向けた論文の書き直し作業。
第 20 回	テキスト購読と英文和訳	テキスト 16～17 ページ目の英語理解。
第 21 回	テキストの輪読とディスカッション	テキスト 18～19 ページ目の英語理解。
第 22 回	四年生卒業論文中間報告	インターゼミ準備。
第 23 回	四年生卒業論文プレゼン練習	研究経過のプレゼンテーション。
第 24 回	東大インターゼミ準備のための四年生プレゼン	パワーポイント・プレゼンの準備と相互批評。
第 25 回	テキストに関する英語ディスカッション	ゼミ生の作成したテキストの翻訳を参照。
第 26 回	テキスト内容に関する英語討論	英文テキストを参照した例題についての議論。
第 27 回	年間の英単語ボキャブラリー増加確認	一年間に学んだ新たな英単語の復習。
第 28 回	二年生進級レポート発表	論文作成の技法確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
合宿やインターセミナーなど、授業時間外の活動には欠席せずに参加する必要があります。三年生はＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出します。英会話、英語の発音、英語のリスニングなどの学習は、各自行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
① Kotler, P. and Armstrong, G. Principles of Marketing, 17th edition, Pearson, 2017.

2020 年度は、Chapter 15. Advertising and Public Relations, Chapter 17. Direct, Online, Social Media, and Mobile Marketing を読みます。
②石黒昭博監修『総合英語 Forest』桐原書店、第７版.
＜マーケティング・テキストの英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞

【参考書】
①洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008 年. ＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
②洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門　経営学－はじめて学ぶ人のために－』同友館.
③洞口治夫 (2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂.

【成績評価の方法と基準】
授業の参加（28 %）、合宿への参加（12 %）宿題の提出と工場見学レポートの提出（20 %）、進級レポート (2 年次)、グループでの進級論文と卒業論文構想 (3 年次)、卒業論文 (4 年次)（40 %）によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】
「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。

【学生が準備すべき機器他】
音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をします。

【その他の重要事項】
①ゼミの学生諸君には、「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去 18 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がＯＢ・ＯＧとなっています。この成果は偶然ではないでしょう。
③ＳＡプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④英語の基準に到達したら、GBP 科目の International Business を履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。2019 年度は金融部門の準賞を獲得した学生がいました。

【Outline and objectives】
This seminar of International Business is designed to understand the basic ideas of international business, focusing on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills involve presentation skills in Japanese and in English, understanding the ways in which internationalization strategies enable field research on small and medium sized multinational corporations. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and processes for decision making across borders.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

宮澤　信二郎

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて，経済学の考え方を用いて検討し，参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ，主に，企業の戦略，組織，財務に関する具体的な問題について，理論的に分析し，発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】
1）人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
2）論理的に検討して，その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性がありますが，現時点では以下の内容を考えています。
1）日本経済新聞の記事について，参加者のうち数名が報告し，参加者全員が議論する。
2）設定した共同研究のテーマに関して，グループ・ワークを行うとともに，数回に分けて，関連する経済理論の学習を行う。
3）夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行い，秋学期の最後に，共同研究の成果報告書を提出する。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方について確認する。
第 2 回	時事トピックス（1）／経済の仕組み	直近の時事問題について報告・議論する。また，経済の仕組みに関する理解を確認する。
第 3 回	時事トピックス（2）／ミクロ経済学の基礎（1）	直近の時事問題について報告・議論する。また，ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 4 回	時事トピックス（3）／ミクロ経済学の基礎（2）	直近の時事問題について報告・議論する。また，ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 5 回	共同研究のテーマ設定	共同研究のテーマについて，検討・決定する。
第 6 回	時事トピックス（4）／グループ・ワーク（1）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。
第 7 回	時事トピックス（5）／グループ・ワーク（2）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。
第 8 回	時事トピックス（6）／経済理論の学習（1）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 9 回	時事トピックス（7）／グループ・ワーク（3）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，中間報告の準備を行う。
第 10 回	共同研究の春学期（中間）報告	共同研究に関する中間報告を行い，残された課題について検討する。
第 11 回	時事トピックス（8）／グループ・ワーク（4）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。
第 12 回	時事トピックス（9）／グループ・ワーク（5）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。
第 13 回	時事トピックス（10）／経済理論の学習（2）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 14 回	グループ・ワーク（6）／まとめ	共同研究のテーマについて，グループごとで，成果報告（夏合宿）の準備を行う。また，春学期のまとめと，夏合宿に向けた準備について話し合う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期のイントロダクション／共同研究に関する再検討	春学期（および夏合宿）の内容に関して復習・確認した上で，共同研究に関する再検討を行う。
第 16 回	時事トピックス（11）／グループ・ワーク（7）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。
第 17 回	時事トピックス（12）／グループ・ワーク（8）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。
第 18 回	時事トピックス（13）／経済理論の学習（3）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 19 回	時事トピックス（14）／グループ・ワーク（9）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，中間報告の準備を行う。
第 20 回	共同研究の秋学期（中間）報告（1）	共同研究に関する中間報告を行い，残された課題について検討する。
第 21 回	共同研究の秋学期（中間）報告（2）	前回の続きを行う。
第 22 回	時事トピックス（15）／グループ・ワーク（10）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。
第 23 回	時事トピックス（16）／グループ・ワーク（11）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，情報収集・議論する。

第 24 回	時事トピックス（17）／経済理論の学習（4）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 25 回	時事トピックス（18）／グループ・ワーク（12）	直近の時事問題に関して，新聞記事を参考に直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，成果報告書の作成を行う。
第 26 回	時事トピックス（19）／グループ・ワーク（13）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマについて，グループごとで，成果報告書の作成を行う。
第 27 回	時事トピックス（20）／経済理論の学習（5）	直近の時事問題について報告・議論する。また，共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 28 回	グループ・ワーク（14）／まとめ	共同研究のテーマについて，グループに分かれて，成果報告書の作成を行う。また，全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）毎日，日本経済新聞を読む
2）分担に従い，共同研究を進める。
3）夏合宿に参加する。
4）日経 TEST を受験する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて，開講後に指定します。

【参考書】
伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』（有斐閣，2012 年）

【成績評価の方法と基準】
春学期は平常点（100 %）で評価します。秋学期は平常点（70 %）と最終報告書（30 %）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度，中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「グループ・ワークをしたい」という意見が多いですので，グループ・ワークの時間を多めに設定し，理論を学習する時間は，必要に応じて調整するようにしています。また，さまざまな考え方などに触れる必要があることから，定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き，学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメやスライドを作成する必要がありますので，パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】
1）日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて，なるべく毎日，日本経済新聞を読むようにしてください。
2）3 年生は，ミクロ経済学（特にゲーム理論）の分析手法を学ぶため，「応用経済学Ⅰ/Ⅱ」を同時履修する（必ず出席する）ようにしてください。
3）毎回出席することを前提として授業を進めます。
4）夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には，必ず参加するようにしてください。

【Outline and objectives】
In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

山岩　輝

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】
以下の 4 つを到達目標に掲げます。
①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表１
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表２
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表３

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II　実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I　理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング　第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】
This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN200FA
演習１　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

横内　正雄

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいきなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】
以下の４点を到達目標とする。
①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
②グローバリゼーションの問題に関する正確な知識を身につける。
③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
④論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
グローバリゼーションという言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしいが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかにして行き着いたのかということを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。
本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で外国為替相場等の分析・予想に関して具体的な考察を行い金融のグローバル化の過程について理解を深める。
本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学等で構成される。合宿は夏（9 月）と冬（2 月）に行う。ゼミ参加者は、2〜3 年生は進級レポート、4 年生は卒業レポートの提出義務がある。
また、毎週１人が日経ヴェリタス等の新聞から興味深い記事を取り上げ、報告してもらい、それについてディスカッションを行う。
このゼミは、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文意把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の活動計画を決定する。
第 2 回	国際収支の意味を理解する	テキスト①第１章「国際収支」の輪読とディスカッション
第 3 回	国際決済のメカニズムについて理解する	テキスト①第２章「国際決済のメカニズムと外国為替」の輪読とディスカッション
第 4 回	外国為替相場について理解する	テキスト①第３章「外国為替相場」の輪読とディスカッション
第 5 回	外国為替市場について理解する	テキスト①第４章「外国為替市場」の輪読とディスカッション
第 6 回	為替相場制度と為替介入について理解する	テキスト①第５章「為替相場制度と為替介入」の輪読とディスカッション
第 7 回	先物為替と金利平価について理解する	テキスト①第６章「先物為替と金利平価」の輪読とディスカッション
第 8 回	校外施設見学	東京証券取引所の見学（予定）
第 9 回	外国為替相場の決定に関する古典理論について理解する	テキスト①第７章「外国為替相場の理論Ⅰ」の輪読とディスカッション
第 10 回	外国為替相場の決定に関する近代理論について理解する	テキスト①第８章「外国為替相場の理論Ⅱ」の輪読とディスカッション
第 11 回	国際収支に関する弾力性アプローチについて理解する	テキスト①第 12 章「国際収支の理論Ⅰ」の輪読とディスカッション
第 12 回	国際収支に関する貯蓄投資バランスアプローチについて理解する	テキスト①第 13 章「国際収支の理論Ⅱ」の輪読とディスカッション
第 13 回	マンデルフレミングモデルについて理解する	テキスト①第 14 章「国際金融とマクロ経済政策」の輪読とディスカッション
第 14 回	まとめ	春学期に購読した文献のまとめと総括的ディスカッション

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動計画を策定する。
第 16 回	金融システムの構造について理解する	テキスト② Unit 1の学習
第 17 回	中央銀行の機能を理解する	テキスト② Unit 9の学習
第 18 回	外国為替の機能について理解する	テキスト② Unit13 の学習
第 19 回	株式市場について理解する	テキスト② Unit15 の学習
第 20 回	買収・合併について理解する	テキスト② Unit17 の学習
第 21 回	校外施設見学	日本銀行見学（予定）
第 22 回	進級レポート中間報告 (1)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第 23 回	進級レポート中間報告 (2)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第 24 回	進級レポート中間報告 (3)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第 25 回	卒業レポート中間報告 (1)	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション

第 26 回　卒業レポート中間報告 (2)　4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第 27 回　卒業レポート中間報告 (3)　4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第 28 回　秋学期のまとめ　1 年間のゼミ活動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
①横内正雄『国際金融論Ⅰ』通信教育部テキスト、2020 年.
② I.MacKenzie, *English for Financial Sector,* Cambridge University Press, 2008.
③ J.Ravenhill(ed,),*Global Political Economy*, 5th Edition, OUP, 2017.
※テキスト③は予定。

【参考書】
①秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ [第 4 版]』有斐閣、2012 年.
②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012 年.
③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010 年.
④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論 [第 4 版]』有斐閣、2012 年.

【成績評価の方法と基準】
報告内容と討論への参加（50 %）、進級レポート（2 年次生と 3 年次生）あるいは卒業レポート（4 年次生）の内容（50 %）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
個人によるプレゼンテーションだけではなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【関連科目】
専門基礎科目Ｂ群の「金融論Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論Ⅰ/Ⅱ」を並行して履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
In this seminar, students learn about modern international financial issues. Nowadays, events on international finance, ex foreign exchange rates fluctuations, are having a major impact on the economy of a country. For this reason, knowledge of international finance is essential for understanding modern economy. However, the issues of international finance are complex and difficult to understand. So, we first try to acquire basic knowledge about international finance, and then approach to real international finance issues.

MAN200FA
演習 1　2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

横山　斉理

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】
到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更いついては、授業支援システム等でその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム等で提示します。
具体的には、ほとんどすべてを演習形式で進めます。
①輪読
流通・マーケティング関連の文献を輪読します。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定３級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。
②マーケティング・ゲーム
1 グループ（3〜5 人）を 1 社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。
③フィールドワーク
グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察･インタビュー･アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。
④マーケティング・コンペティションへの応募
学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ることです。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。
⑤企業コラボワークショップ
企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただき、それについてマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。
⑥卒業論文
流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？！」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い出迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念の確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
4	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③
6	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
7	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
8	マーケティング・コンペの最終発表	コンペに向け、提案する内容の最終発表を行い、プランを改善する
9	マーケティング・コンペの振り返り	マーケティング・コンペへの参加からの学びを内省する
10	ワークショップ①	企業の方にお越しいただき、課題とそれを取り巻く状況をプレゼンしてもらう
11	ワークショップ②	グループに別れて課題の解題を行い、プラン完成までのスケジュールを確認する
12	ワークショップ③	各自でグループワーク
13	ワークショップ④	企業の担当者の前でマーケティング・プランをプレゼンし、講評してもらう
14	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	演習概要の説明

16	卒業論文テーマ発表	卒業論文のテーマについて発表しディスカッションを行う
	マーケティング・ゲーム①	マーケティング・ゲームの概要説明およびチーム分け
17	マーケティング・ゲーム②	マーケティング・ゲームの戦略決定および実施
18	マーケティング・ゲーム③	マーケティング・ゲームの実施
19	マーケティング・ゲーム④	マーケティング・ゲームの実施および学びの振り返り
20	卒業論文中間発表	卒業論文の中間発表についてディスカッションする
21	フィールドワーク①	フィールドワークの概要説明およびチーム分け
22	フィールドワーク②	フィールドワークのテーマについてディスカッションし、予備調査を実施する
23	フィールドワーク③	フィールドワークを実施する
24	フィールドワーク④	フィールドワークを実施する
25	フィールドワーク⑤	フィールドワークの成果をまとめプレゼン内容を吟味する
26	フィールドワークの最終発表	フィールドワークの成果についてプレゼンを行い、学びを振り返る
27	卒業論文の最終発表	卒業論文の内容をについてプレゼンを行い、学びを振り返る
28	秋学期総括	秋学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】
（公社）日本マーケティング協会監修『ベーシック・マーケティング（第 2 版）』同文舘出版、2019 年※第 2 版です、お間違えのないように。

【参考書】
河野安彦『マーケティング検定 3 級試験 公式問題集＆解説』日本マーケティング協会、2019 年

【成績評価の方法と基準】
調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（= 100%）。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。
ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】
適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論は卒業までに必ず履修するようにしてください。
流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline and objectives】
The purpose of this seminar is to understand marketing and distribution.

MAN200FA
演習１
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習５・６
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習３・４
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習１・２
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習６
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習５
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習４
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習３
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習２
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

吉田　健二　（代講：高橋　正泰）

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を、特に組織との関係で理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略論と組織論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業という組織は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。 また、本の要約や自分の考えなどを、パワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期は、広い意味での経営戦略の本を積極的に読む予定です。昨年に勉強した様々な理論をもとにしながら、経営戦略論についてさらに広く深く理論と実践を学ぶことにしたいと思います。また、「カンブリア宮殿」や「ガイアの夜明け」などの企業や経営者の番組を参考にしながら、実際の企業戦略や経営者の経営理念やリーダーとしての資質を検討します。演習では、担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行 います。また、報告に関連したビデオを見ることによって、理解を深めていきます。 できれば、企業の方をお招きして話を伺ったり、企業を訪問したりすることも考えています。昨年は、フランチャイズチェーンによるハンバーガー専門店「モス バーガー」を全国展開しているモスフードサービスを訪問して、モスグルー プの概要やフランチャイズの仕組み、マーケティング戦略などについて説明 して頂き、その後本社内を見学するという経験をしました。また、各自が夏休み中に『トヨタ物語』（野地秩嘉、日経 BP 社、2018 年）や『SHOE DOG　靴にすべてを。』（フィル・ナイト、東洋経済新報社、2017 年）、『LIFE SHIFT（ライフ・シフト）』（リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット、 東洋経済新報社、2016 年）の中から選んだ 1 冊について、感想文を 800 字で書きました。 秋学期は、モスフードサービスから今後の経営戦略の策定、時間帯売上向上に向けた新施策の提案、MOS にこんなサービスがあったらという 3 つの研究課題を頂き、グループごとに研究を行い、12 月に本社でそれぞれパワーポイ ントで発表しましたはずです。今年はまだ決めていませんが、ゼミ生と相談して、何らかのグループ研究を行いたいと考えています。 合宿については、ゼミ生と話し合って決める予定ですが、毎年夏に行っています。合宿は 2 泊 3 日で勉強とレクリエーショ ンの両方を行いたいと思いますし、4 年生が後輩のために就職活動についてのアドバイスを行いたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	春学期のゼミの説明	ゼミの概要や進め方等の説明とテキストの決定
2	テキストの輪読（1）	担当者の発表と全員によるディスカッ ション

3	テキストの輪読（2）	担当者の発表と全員によるディスカッション
4	テキストの輪読（3）	担当者の発表と全員によるディスカッション
5	テキストの輪読（4）	担当者の発表と全員によるディスカッション
6	テキストの輪読（5）	担当者の発表と全員によるディスカッション
7	テキストの輪読（6）	担当者の発表と全員によるディスカッション
8	テキストの輪読（7）	担当者の発表と全員によるディスカッション
9	テキストの輪読（8）	担当者の発表と全員によるディスカッション
10	テキストの輪読（9）	担当者の発表と全員によるディスカッション
11	企業訪問	企業を訪問して、経営戦略等の説明を聞き、社内を見学する
12	テキストの輪読（10）	担当者の発表と全員によるディスカッション
13	テキストの輪読（11）	担当者の発表と全員によるディスカッション
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏合宿の準備

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のゼミの説明	グループ研究の発表会とその準備等の説明
16	グループ研究の発表会の準備と中間発表（1）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
17	グループ研究の発表会の準備と中間発表（2）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
18	グループ研究の発表会の準備と中間発表（3）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
19	グループ研究の発表会の準備と中間発表（4）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
20	グループ研究の発表会の準備と中間発表（5）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
21	グループ研究の発表会の準備と中間発表（6）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
22	グループ研究の中間発表会	グループ研究の中間発表会に参加し、グループごとに発表を行う
23	グループ研究の発表会の準備と中間発表（7）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
24	グループ研究の発表会の準備と中間発表（8）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
25	グループ研究の発表会の準備と中間発表（9）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
26	グループ研究の発表会の準備と中間発表（10）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
27	グループ研究の発表会の準備と中間発表（11）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
28	グループ研究の発表会	グループ研究の発表会に参加し、グループごとに発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、テキストを事前に読み、疑問点や自分の意見等を整理してくること。また、発表者は、発表の準備を行うこと。 秋学期は、グループごとにグループ研究の発表会の中間発表の準備をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生と話し合って決める予定です。

【参考書】
①網倉久永･新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社､2011 年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
③廣田俊郎『企業経営戦略論の基礎解明』税務経理協会、2016 年。
④ D. J. ティース『ダイナミック・ケイパビリティの企業理論』中央経済社、2019 年。
⑤ G. ジョンソン・A. ラングレイ・L. メリン・R. ウィッティントン『実践としての戦略』文眞堂、2012 年
⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
⑦ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版)』ダイヤモンド社､1995 年。
⑧ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下)』ダイヤモンド社、2003 年。
①②は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の基礎を解明した本で、④⑤は最近の戦略論を論じた本、⑥⑦⑧は経営戦略論の古典といわれる本です。 他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内での発表やコメント、質問などの平常点（45 %）、グループ研究への参加（45 %）、レポート（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすいゼミにするつもりです。 また、皆でディスカッションしやすい環境にします。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等

【その他の重要事項】
少なくとも、１年生で経営学総論Ⅰ・Ⅱを、２年生で経営戦略論Ⅰ/Ⅱとマー ケティング論Ⅰ/Ⅱ、および経営組織論Ⅰ/Ⅱを受講することをお勧めします。「がっちりマンデー!!」(TBS テレビ、日曜日)、「カンブリア宮殿」(テレビ東 京、水曜日)、「ガイアの夜明け」(テレビ東京、火曜日)、「未来世紀ジパング」 (テレビ東京、月曜日)、「プロフェッショナル　仕事の流儀」(NHK テレビ、 月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、 それらの番組を見ることをお勧めします。

【経営戦略論Ⅰ/Ⅱ】
経営戦略論に関するさまざまな知識を学ぶことができます。

【経営組織論Ⅰ/Ⅱ】
経営組織論について、経営戦略論との関係を学ぶことが重要です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn concepts and theories of strategic management concerning with organizational theory and their applications in order to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

MAN200FA
演習 1　　2 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6　　4 年次／ 4 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4　　3 年次／ 4 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2　　2 年次／ 4 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6　　4 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5　　4 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4　　3 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3　　3 年次／ 2 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2　　2 年次／ 2 単位 ［秋学期授業/Fall］

吉田　康伸

この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】
①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は 4 月 22 日から学習支援システム内で開始します。
ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。
また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。
以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第 2 回	時事トピックス、教員による健康講義①	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 3 回	時事トピックス、教員による健康講義②	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 4 回	時事トピックス、教員による健康講義③	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 5 回	発表（健康）・ディスカッション①	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（健康）・ディスカッション②	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（健康）・ディスカッション③	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表（健康）・ディスカッション④	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション①	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション②	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション③	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション④	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 13 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション⑤	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第 16 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション①	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 17 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション②	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 18 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション③	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 19 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション①	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 20 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション②	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 21 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション③	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 22 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション④	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 23 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション①	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 24 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション②	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第 25 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション③	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 26 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション④	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 27 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション⑤	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 28 回	授業総括とレポート提出	授業の総括を行った後、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 %の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べることができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】
授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】
特になし。

【Outline and objectives】
Learn about two themes of health manegement and leadership in sports and deepen their understanding.

MAN200FA
演習 1
2 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN400FA
演習 5・6
4 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN300FA
演習 3・4
3 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN200FA
演習 1・2
2 年次／ 6 単位 ［年間授業/Yearly］

MAN400FA
演習 6
4 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN400FA
演習 5
4 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN300FA
演習 4
3 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

MAN300FA
演習 3
3 年次／ 3 単位 ［春学期授業/Spring］

MAN200FA
演習 2
2 年次／ 3 単位 ［秋学期授業/Fall］

李　瑞雪（代講：恩田　登志夫）

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル経済の進展により、企業の取引活動もあらゆる国・地域に活発に進出している。その大きな要因として、国際貿易量の増大と国際物流の役割の増大がある。したがって、国際貿易と国際物流の現場を実証研究することにより、現状と課題を学ぶことができる。

【到達目標】
1．調査研究スケジュール計画表が作成できる。
2．先行研究として文献調査ができる。
3．自ら調査・研究のテーマについて、仮設を設定できる。
4．プレゼン手法を理解して、報告ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、4 月 23 日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期のゼミナールの概要を説明する。
第 2 回	国際貿易の基礎知識	国際貿易の基本的な仕組みを説明する。
第 3 回	国際貿易の概要説明	インコタームズ 2010 を説明する。
第 4 回	国際輸送の基礎知識	海上輸送、航空輸送の現状と課題を説明する。
第 5 回	国際輸送の概要説明	海上貨物運賃、航空貨物運賃計算方法を説明する。
第 6 回	国際輸送の現場見学	国際輸送の現場見学
第 7 回	国際輸送の現場見学（2）	国際輸送の現場見学
第 8 回	国際物流の基礎知識	国際物流の基本的仕組みを説明する。
第 9 回	国際物流の概要説明	国際物流のコスト計算を説明する。
第 10 回	国際物流事業者の現場見学	国際物流事業者の現場見学　通関
第 11 回	国際物流事業者の現場見学（2）	国際物流事業者の現場見学　倉庫
第 12 回	ロジスティクスの基礎知識	ロジスティクスの考え方を説明する。棚卸資産粗利益率
第 13 回	ロジスティクスの基礎知識	収益性劣化率による国際輸送手段の選定方法を説明する。
第 14 回	まとめ	春学期を振り返り、秋学期にむけて事前学習の確認

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	オリエンテーション	秋学期のゼミナールの概要を説明する。
第 16 回	論文作成手法	論文構成を説明する。
第 17 回	論文作成手法（2）	論文作成のルールを説明する。
第 18 回	スケジュール管理手法	調査・研究するための作業項目の抽出と作業日程の策定方法を説明する。
第 19 回	調査・研究スケジュール報告	学生各自が作成した調査・研究スケジュールをプレゼンする。
第 20 回	調査・研究スケジュール報告（2）	学生各自が作成した調査・研究スケジュールをプレゼンする。
第 21 回	文献調査方法	文献調査方法を説明する。
第 22 回	文献調査報告	学生各自が文献研究の概要をプレゼンする。
第 23 回	文献調査報告（2）	学生各自が文献研究の概要をプレゼンする。
第 24 回	仮説の設定報告	学生各自が設定した仮説をゼミナール内で討議する。
第 25 回	仮説の設定報告（2）	学生各自が設定した仮説をゼミナール内で討議する。
第 26 回	仮説の設定報告（3）	学生各自が設定した仮説をゼミナール内で討議する。
第 27 回	調査・研究スケジュールの進捗状況報告	各自が作成した研究スケジュールの進捗状況を報告する。
第 28 回	調査・研究スケジュールの進捗状況報告（2）	各自が作成した研究スケジュールの進捗状況を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示した課題に対して、対応すること。
授業準備時間は 2 時間、授業復習時間は 2 時間

【テキスト（教科書）】
事前に授業支援システムに講義スライドをアップします。

【参考書】
『貿易実務ガイドライン』寺尾秀雄、文眞堂、2017 年
『国際物流の理論と実務』鈴木暁、成山堂書店、2017 年
『国際複合輸送業務の手引き』JIFFA,2013 年
『トヨタ式カイゼンの会計学』田中正知、中経出版、2009 年
『ジェトロ貿易ガイドブック』JETRO、2020 年

【成績評価の方法と基準】
春学期のすくなくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用するため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
なし

【関連科目】
特になし。

【Outline and objectives】
Due to the development of the global economy, business activities of companies are actively expanding into all countries and regions. As a major factor, there is an increase in the role of growth and international logistics of international trade volume. Therefore, it is possible to learn the current situation and issues by proof study on the sites of international trade and international logistics

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（C 言語）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　1〜4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　1〜4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　1〜4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（2016〜2017 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（2016〜2017 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（2016〜2017 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（2016〜2017 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（C 言語）（2018 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（C 言語）（2018 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（C 言語）（2018 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（C 言語）（2018 年度入学者）　1〜4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（C 言語）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　1〜4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（C 言語）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　1〜4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（C 言語）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　1〜4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

寺脇　由紀

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
C 言語を通して，ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます．またプログラミングを学習することを通じて，コンピュータという機械の正体，プログラムの正体といった，コンピュータの本質的な側面を理解していきます．

【到達目標】
C 言語を使って，自ら考えプログラムが作成できるようになる．
C 言語による学習を通じて，コンピュータの本質的な側面を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
仮登録期間を延長するという大学の発表に伴い，本講義の授業開始は，5 月 7 日とします．
本講義を希望する学生は，Hoppii および，google classroom に登録をお願いします．
火曜日 2 限の履修を希望する学生向けの classroom のクラスコード： ltmlf2l
木曜日 2 限の履修を希望する学生向けの classroom のクラスコード： ptqo5ml
==========
C 言語を習得し，プログラミングの基礎概念である変数，関数，制御構造，基礎的なデータ構造を理解します．
講義と実習によって進めます．一つの要素をゆっくり確実に解説しします．その後，教員とともに，プログラムを作成することを通じて理解を深め，最終的には自分でプログラムを作成し,PC 上で挙動を確認します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴，プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します．
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と，プログラムの実行までの流れを学習します．
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら，好ましいプログラムの書き方を学びます．
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます．
第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します．また，C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します．
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり，他の計算に利用したりする方法を学びます．
第 7 回	ユーザの入力の読み込み	ユーザからの入力を読み込む方法を学びます．
第 8 回	変数	変数を扱う方法を学びます．
第 9 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます．
第 10 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や，複雑な条件分岐の書き方を学びます．
第 11 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます．
第 12 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます．
第 13 回	関数の呼び出し	関数とその呼び出し方を学びます.C 言語の標準関数を使ってみましょう．
第 14 回	関数の作成	関数を自身で定義する方法を学びます．

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	変数の寿命	関数を習得すると，変数の扱いに注意が必要です．プログラムを部品にするために重要な概念を解説します．

第 16 回	複数の変数を一括してあつかう	たくさんの変数をまとめて計算に使う方法を解説します.
第 17 回	配列の基礎	より複雑なデータを扱うことができるようになることを目指します. 第一歩として, 配列の扱い方の基礎を学びます.
第 18 回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます.
第 19 回	文字列の基礎	文字列の扱い方の基礎を学びます.
第 20 回	文字列の活用	より複雑な文字列処理をする方法を学びます.
第 21 回	構造体の基礎	構造体を使ったより複雑なプログラミングについて学びます.
第 22 回	構造体の活用	構造体を使ったより複雑なプログラミングについて学びます.
第 23 回	ポインタの基礎	ポインタについて学びます. ポインタは,C 言語において難しいといわれる項目ですので着実に理解していきましょう.
第 24 回	ポインタの活用	ポインタの活用法を学びます.
第 25 回	複数の型の扱い	種類の異なる変数をまとめて計算に使う方法を解説します.
第 26 回	ファイルからの入力	ファイルの内容を読み込む方法を学びます.
第 27 回	ファイルへの出力	データをファイルに書き込む方法を学びます.
第 28 回	まとめ	総括をおこないます.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プログラミングの知識や経験は不要です.
しかしコンピュータの扱い, 特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります．キーボードでの入力に不慣れな人は，タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです．1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください.
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします.
授業中に完成できなかったことは，授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう.

【テキスト（教科書）】
教員の作成する教材で進めます. 教材は, 授業終了後に電子的に配布します.

【参考書】
1) 株式会社アンク著,C の絵本 第 2 版 C 言語が好きになる新しい 9 つの扉, 翔泳社,2016,ISBN-10: 479815038X.
2) David Griffiths,Dawn Griffiths 著, 中田秀基監訳, 木下哲也訳: Head First C -頭とからだで覚える C の基本-, オライリージャパン,2013,ISBN-10: 4873116090.
次に挙げるのは定番の教科書です. 少し難しいので, 余裕のある人向けです.
3) B.W. カーニハン,D.M. リッチー著, 石田 晴久訳:プログラミング言語 C 第 2 版, 共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926.

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う課題やレポート，授業内に作成するプログラムへの取り組み態度で総合的に評価します (100%).

【学生の意見等からの気づき】
毎年度，多くの学生から好評いただいたように, 今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します. これは便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるための最初の一歩を確実に踏み出すために大切なことです．このため場合によっては, 授業の進行が前後することがあります.

【学生が準備すべき機器他】
実習教室の PC を使います.
授業支援システムを利用します.

【その他の重要事項】
講義と実習にてすすめます．講義に注力することで確実に実習をすすめてください.
授業内容についてわからない点は，質問をする，自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください.
私語などを含め，授業に参加していない学生は退席させる場合があります．他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする，あるいは，自己努力をしていない学生は評価できない場合があります.

【関連科目】
なし

【オフィスアワー】
授業に関する相談は，授業時間の終了後に受け付けています．また，授業支援システムを活用して質問を受け付けます.

【Outline and objectives】
We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.
Through learning programming, we will understand the essential aspects of computers and program.

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　1～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

飯塚　康至

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【2020 年 04 月 13 日記述】
本年度は当面オンラインでの授業実施が想定されます。授業は 4 月 27 日（月）よりオンラインで行います。エントリーポイントは学習支援システム Hoppii です。
【変更前原文】
授業は，実習室において講義と実習を行う。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習によって Java の基礎を身につける。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としないが、Windows の一般的な利用スキルは必要とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
2	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
3	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
4	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
5	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
6	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
7	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
8	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
9	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
10	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
11	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
12	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
13	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
2	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
3	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
4	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
5	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
6	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
7	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
8	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
9	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
10	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
11	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
12	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
13	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
14	秋学期復習	秋学期復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初級 Java ―やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【2020 年 04 月 13 日】
当面オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示します。
【変更前原文】
成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内課題・期末課題 50 点にて決定します。60 点以上が合格となります。

発行日：2020/5/1

【学生の意見等からの気づき】
前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　1～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　1～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

神林　靖

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要:プログラミングに取り組むのが初めてという人を対象にして，Java 言語を使ったプログラミングを初歩から学びます。春学期には Java 言語の基本文法を学び，プログラミングの基本構造を使ってプログラムを構築します。秋学期には，オブジェクト指向プログラムの概念を学び，並行処理を実行するプログラムの構築までを丁寧に学習します。
授業の目的：この科目を履修することによって学生は，Java 言語を使用したオブジェクト指向プログラムの構築ができるようになるにとどまらず並行処理プログラムも構築できるようになる。

【到達目標】
例題や練習問題で基本的な Java 言語の機能を理解し，それらを組み合わせて多少複雑なプログラムを作成することができる。そして “オブジェクト指向” とは何かについても理解し，説明することができる。オブジェクト指向プログラムを作成できる。更に並行処理プログラムの概念を理解し，マルチスレッドを用いた単純なプログラムを作成することができる。プログラムからファイルを扱うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
（講義の概要）
オブジェクト指向という概念にもとづいたプログラミング言語 Java について，簡単な例題を理解して練習問題のプログラムを作成することによって，Java の基礎について学習します。後半では，現代のプログラミングでは避けることのできない “オブジェクト指向” についても学びます。
本講義を受講するには，一般的なコンピュータの知識があれば十分で，プログラミングに関しての予備知識は必要としません。
（授業方法）
授業は，実習室において講義と実習を行います。教科書の例題や基本的なプログラム例を説明した後，それを応用した練習問題について考え，実際にプログラミングを行うことによってコンピュータ上で動作を確認します。
春学期で Java プログラミングに慣れて，秋学期はオブジェクト指向を用いた Java 言語らしいプログラミングを中心に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Java プログラムとコンピュータの関係	コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアの関係を学びましょう。
2	コンパイルと実行	人間が記述する文字列としてのプログラムをハードウェアが理解するプログラムへと変換することを学びます。併せてプログラミング環境の使い方も学びます。
3	計算してみよう	コンピュータは “電子計算機” です。コンピュータに計算をさせてみましょう。
4	変数と代入	プログラムにおける変数と，それへの値の設定について学びます。
5	入出力（1）	記述するプログラムが，どのようにして外部と情報のやり取りをするかについて学びます。
6	四則演算と型変換	プログラム上で四則演算ができるようにします。また整数と実数ではコンピュータ内部でのデータ表現が異なることを学びます。
7	プログラム構造（条件の表現）	プログラムで作業を行う際に必要となる制御（プログラムの流れ) を変化させる条件の表現方法を学びます。
8	プログラム構造（もっと細かい条件の表現）	多くの選択肢の中から 1 つを選んで実行するプログラムの構造について学びます。
9	プログラム構造（繰返し）	コンピュータに一定の作業を繰り返し行わせるためのプログラム制御構造を学びます。

10	文字列と繰り返し	文字列を用いて繰り返しの構造について理解を深めます。
11	クラスとメソッド（ちょっとだけオブジェクト指向）	Java 言語の基本概念であるクラスとメソッドについて学びます。
12	1 次元配列	多くのデータを保存し利用するための配列と呼ばれる構造を使えるようになりましょう。
13	2 次元配列	行列のようなデータ表現をプログラムでどのように実現するかを学びます。
14	クラスとコンストラクタ（もうちょっとだけオブジェクト指向）	Java プログラムでは，クラスを実体化することでプログラムが生成されます。実体化のためにコンストラクタと呼ばれるメソッドが実行されることを学びます。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	これまでの復習	Java 後半は，オブジェクト指向プログラミングについて学びます。春学期に学んだことを思い出しましょう。
16	クラスとインスタンス	オブジェクト指向プログラミング特有の用語があります。慣れましょう。インスタンスはクラスから精製されます。
17	クラスフィールドとクラスメソッド	クラスフィールドとクラスメソッドを学ぶことで，クラスとインスタンスの違いをはっきりさせます。
18	スーパークラスとサブクラス	クラスは “拡張” することができます。拡張されたクラスがサブクラスです。
19	継承と抽象クラス	拡張するクラス（サブクラス）では，元のクラス（スーパークラス）のフィールドとメソッドが使えます。継承の方法を学びます。
20	入出力と例外処理	プログラムが外部と自由度の高い情報のやり取りを行う方法を学びます。また期待したデータと異なる入力に対処する方法（例外処理）を学びます。
21	様々な例外処理	例外には様々なものがあります。例外の “階層” を学び，全体像を理解しましょう。
22	インタフェース	インタフェースを実装することで，クラス構造に柔軟性をもたせることができます。インタフェースとは何かを学びます。
23	クラスとインタフェース	クラスとインタフェースを比較することによって，それぞれをどのような場面で使用することが効率的かを学びます。
24	スレッド	スレッドとは，プログラムを実行している主体です。スレッドの概念を学びます。
25	スレッドを作る方法 (1)	スレッドを作る方法には 2 通りあります。Thread クラスを拡張してスレッドを生成してみましょう。
26	スレッドを作る方法 (2)	Runnable インタフェースを実装してスレッドを生成してみましょう。
27	生産者／消費者問題 (1)	これまで学んだことの総仕上げとして複数のスレッドを使用した生産者／消費者問題のシステムを構築します。待ち行列の管理には排他制御が必要です。
28	生産者／消費者問題 (2)	生産者／消費者問題を完成させます。プログラムはオブジェクト指向で設計し実装します。クラス変数を使って複数の生産者と消費者を管理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習は確実に各自が時間外に行ってください。授業では，毎時間新しいことを学びます。出席は厳格に要求しませんが，休んだ箇所は，各自で独習しておいてください。「授業を休んのでわかりません」というのは許されません。独習した上でわからなければ質問してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
結城浩，Java 言語プログラミングレッスン第 3 版　上，下，ソフトバンククリエイティブ，2012.

【参考書】
柴田望洋，明解 Java 入門編，ソフトバンククリエイティブ，2007.

【成績評価の方法と基準】
主として課題提出により評価します。課題はすべて提出してください。すべて提出してはじめて評価されます。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
積極的に質問してください。わからないことをわからないままにして先に進まないでください。具体的にどこがわからないかを指摘してください。授業を休んだのでわからない場合は，まずは自習してその上でわからないという質問は歓迎します。
迷ったら質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
PC を用いて実習しつつ講義を行います。

【その他の重要事項】
コンピュータリテラシーを身につけていることが望ましい。無償で入手できる統合開発環境 Eclipse を用いて実習するので，自宅学習（予習・復習）可能です。学習内容を復習して，より理解を深めてください。授業中にできなかった課題は，完成しておいてください。

【オフィス・アワー】
・授業後に質問を受け付ける。
・質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【関連科目】
特になし

【Outline and objectives】
This class provides student how to program in Java language. Students are not expected any programming background, even though they are expected the minimum knowledge of computers. In the spring semester, student lean the grammar of Java language as well as the basic structure of computer programs. In the fall semester, students learn how to practice the object-oriented programming, and how to construct concurrent programs. After completion of this class, the students can be members of any kind of large scale software development projects.

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（VBA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　1～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（BASIC）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（BASIC）（2018 年度入学者）　1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（VBA）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

高田　美樹

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBA という）を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】
表計算ソフトウェア Excel について理解し、マクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し、適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日 (金) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
自分専用でなく家族と共用でよいので、Microsoft Excel が動作する Windows パソコンを用意してください。自分専用のパソコンでない場合には USB メモリなどを用意してください。
コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し、プログラミングの基本を実習を通して学ぶ。春学期にはシート上でのプログラムを展開し、秋学期には、ユーザフォームを使ったアプリケーションを記述できるように繰り返し実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1年を通した計画を把握し、マクロとは、プログラミングとは、という概念を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの仕組み	プログラミングの学習に先立って、コンピュータの仕組みを簡単に学ぶ。
第 3 回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて、サブルーチンの呼び出しと実行順序について学ぶ。
第 4 回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式、書式を自動的に設定する方法を学ぶ。
第 5 回	繰り返し処理（1）	Excel シートの全行に同じ処理を行う構文を学ぶ。
第 6 回	繰り返し処理（2）	回数がわかっているときの繰り返しの構文を学ぶ。
第 7 回	分岐（1）	状況に応じて、二者から選択する構文を学ぶ。
第 8 回	分岐（2）	状況に応じて、多肢選択する構文を学ぶ。
第 9 回	変数	値を一時記憶しておく変数の使い方を学ぶ。
第 10 回	配列	インデックスの使い方と考え方を学ぶ。
第 11 回	総合演習（1）	興味のあるデータを収集して、クレンジングする。
第 12 回	総合演習（2）	大量のデータから必要な情報を抽出する。
第 13 回	総合演習（3）	大量のデータの簡単な統計処理をする。
第 14 回	総合演習（4）	制作したアプリケーションのドキュメントを作成する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	VBA の基礎	春学期の復習
第 16 回	シートの取り扱い	複数のシートを切り替えて使う方法を学ぶ。
第 17 回	サブルーチンの応用的使い方	引数の受け渡しを学ぶ。
第 18 回	ファンクション	戻り値の戻し方を学ぶ。
第 19 回	文字列処理	プログラム中で文字を扱う。
第 20 回	探索処理	探索のアルゴリズムを学ぶ。
第 21 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの作り方を学ぶ。
第 22 回	イベントドリブン	イベント発生に対する処理を学ぶ。
第 23 回	コントロール	フォーム上の各種コントロールを利用したプログラムを学ぶ。
第 24 回	クラスの設計	オブジェクト指向の考え方を学ぶ。
第 25 回	クラスの利用	データをクラスに取り込んで操作する方法を学ぶ。
第 26 回	制作課題（1）	興味のあるデータを収集して可視化するアプリケーションを制作する。
第 27 回	制作課題（2）	アプリケーションの制作
第 28 回	制作課題（3）	制作したアプリケーションのドキュメントを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プログラミングは積み上げ科目であり、今日わからなければ来週は「ない」。その日に学んだことを復習し、次週までにプログラムを完成させる。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】
適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義で行った実習結果と小テスト　50%
複数回の課題提出　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義の最後に提出してもらうまとめレポート・アンケートにより、復習を加え、難易度を調整する。
難しくなりすぎないように、また、同じ内容を素材を変えて、繰り返し実習を行う。

【学生が準備すべき機器他】
通学できない間は、各自で Microsoft Excel が動作できる Windows パソコンを用意してください。古くても家族と共用でも大丈夫です。
実習室においてコンピュータを利用して実習を行う。
USB メモリを用意しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】
情報学入門

【Outline and objectives】
Master programming skill and datamining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

PRI100FA
プログラミング言語Ⅰ（スクリプト言語）（2019年度以降入学者）
学部専門科目　1～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

PRI100FA
プログラミング言語Ⅱ（スクリプト言語）（2019年度以降入学者）
学部専門科目　1～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

入戸野　健

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このコースではスクリプト言語として Python を学習する。プログラミングの初歩から基本文法を学んで行き、授業の後半ではいくつかの応用事例を学習する。

【到達目標】
　プログラミングの考え方を身につける。解決したい問題に対して、簡単なプログラムを自分で作成し、直接あるいは間接的に解決に役立てられるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
　授業は基本的に毎回 PC を使って実習形式で進める。まずテキストの解説などで基本的な考え方や文法を理解した上で、例題の入力と実行確認を行う。さらに関連した練習問題のプログラム作成に取り組む。
　春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日は 5 月 7 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	Python の特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行う。
2	簡単な計算	簡単な四則演算の計算を行い、インタープリタの操作に慣れる。
3	数値と変数	整数と実数の計算、変数への代入と計算式について学習する。
4	文字列の操作	文字の結合、文字列からの一部分の取り出しなどを学ぶ。
5	関数を使う	関数の形式、モジュールの読み込み、標準ライブラリについて理解する。
6	条件分岐	if 文による基本的な条件分岐の書き方について学習する。
7	繰り返し	for 文を使って処理を繰り返し実行する方法を学ぶ。
8	例外処理	実行中に発生するエラーをプログラム内で処理する方法について理解する。
9	関数の作成	ユーザー関数の定義の仕方、標準ライブラリの使用法について学ぶ。
10	リストとタプル	複数のデータをまとめて扱うためのリストとタプルについて学習する。
11	セットと辞書	データの集まりを集合や辞書のように扱う方法を学ぶ。
12	イテレータと内包表記	データの集まりから次々に要素を取り出したり、繰返しデータを作成する方法を学習する。
13	ソート・検索・抽出	データを並べ換えたり、条件を指定して特定のデータを探し出す方法を学ぶ。
14	基礎プログラム作成演習	各自で基礎的なオリジナルプログラムを作成する演習を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	オブジェクトとクラス	オブジェクト指向プログラミングの考え方について理解する。
2	クラスの定義	オブジェクトを定義するクラスの作成方法について学習する。
3	メソッドの作成	オブジェクトを操作するメソッドの書き方について学ぶ。
4	プロパティの利用	オブジェクト内にあるデータの扱いについて理解する。
5	クラスの継承	既存のクラスを基にして新たなクラスを作成する方法を学習する。
6	ファイル処理	ファイルからのデータ読み込みと、処理したデータの書き出し方法を学ぶ。
7	配列の計算	配列 (NumPy) を利用して 2 次元以上の数の並びを計算する方法を学習する。
8	データのグラフ可	データを折れ線グラフや棒グラフなどで表現 (可視化) する方法を学ぶ。
9	グラフ編集	軸や凡例などの様々なグラフの構成部分の編集方法について学習する。
10	事例 1: Web データ処理	Web サイトからデータを収集（スクレイピング）して集計処理を実行する。
11	事例 2: データサイエンス入門	Python による基礎的な統計的データ分析を行う。
12	事例 3: AI (人工知能) 入門	AI の基礎技法を用いて手書き文字を認識する方法について初歩的な処理を実行する。
13	応用プログラム作成演習	幾つかのテーマの中から各自で問題を選び、プログラムを作成する演習を行う。
14	プログラムの効率について	作成したプログラムの実行速度を計測し、処理の効率について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　特に、各回の授業内での目標まで終わらなかった場合は、次回までに各自で完了させておくなどの授業外での学習が必要になる。
　本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　開講時に提示する。

【参考書】
「Python チュートリアル 第 3 版」Guido van Rossum、2016、オライリージャパン
「Python 言語によるプログラミング イントロダクション 第 2 版」John V. Guttag、2017、近代科学社

【成績評価の方法と基準】
平常点 (25%)　　：実習が中心のため、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になる。
課題レポート (15%)：授業内容に沿った課題を 2 回程度出題する。
課題演習 (60%)　　：終盤に授業内で行う課題演習で作成した成果物を提出してもらう。
　オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
　授業内での実習の時間を引き続き、十分に確保できるよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
　実習は情報実習室の PC で行う。
　作成したプログラムやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参する (詳細は授業内で説明する)。

【関連科目】
ネットワーク論 (通信ネットワーク) Ⅰ/Ⅱ
情報学発展 (情報通信ネットワーク) Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
This course focuses on Python as a scripting language. The course aims to provide understanding of elementary programming techniques. In the latter part of the course, it also focuses on some application cases.

COT300FA
応用プログラミングⅠ（計量分析）

3～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

COT300FA
応用プログラミングⅡ（計量分析）

3～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

長原　徹

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の日々の生活は数字に囲まれている。例えば、アルバイトで得られた給料を何にいくらつかうかなど、われわれは生活の必要性に迫られて数字（データ）の把握と分析を無意識に行っているのである。この授業は、受講生がこの定量的分析手法すなわち、統計的手法ないし計量経済学的手法を習得し、それを活用して現実経済を分析する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
第一の到達目標は、統計学や計量経済学の基本概念と分析手法を習得し、それらを現実の経済分析に応用できるようになることである。第二の到達目標は、R による基本的なプログラミングを習得しデータ分析ができるようになることである。第三の到達目標は、仮説を設定しそれを定量的に検証するという分析手法を、主体的に用いられるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP1-4」、「心理学」、「地理学」、「政治学」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は５月１１日し、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の目的／計量経済学の分析方法と事例紹介	経済学における分析の方法やその限界を、具体例を交えながら紹介
第 2 回	R の基礎 (1)	四則演算の実践、統計学の復習
第 3 回	R の基礎 (2)	平均値、中央値、分散などの計算を R で実践
第 4 回	R の基礎 (3)	c 関数の使用、データファイルの読み込み
第 5 回	相関分析／第一回問題演習	相関係数の計算を R で実践、問題演習の資料を配布
第 6 回	回帰分析 (1)	第一回問題演習の解説、回帰分析とは何か、最小二乗法の考え方、簡単な回帰分析を R で実践
第 7 回	回帰分析 (2)	散布図を R で描く、決定係数について解説、データを提供して回帰分析を実践
第 8 回	回帰分析 (3)	推定結果の解釈方法を解説、t 検定の復習、データを提供して回帰分析を実践
第 9 回	回帰分析 (4) ／第二回問題演習	重回帰分析の紹介、データを提供して回帰分析を実践、問題演習の資料を配布
第 10 回	回帰分析 (5)	第二回問題演習の解説、多重共線性の説明、回帰分析によるさまざまな分析例の紹介
第 11 回	回帰分析 (6)	自由度修正済決定係数の説明、仮説検証の考え方について
第 12 回	前期末レポートについて	前期末レポートに向けて単回帰分析と重回帰分析を R で実践
第 13 回	仮説検証について	仮説検証の考え方についていくつかの事例を用いて紹介
第 14 回	前期末レポートの提出	データを提供し、受講生各自に R を用いた回帰分析に取り組んでもらう

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	回帰分析の復習	計量経済学における分析の方法やその限界を、具体例を交えながら紹介
第 16 回	回帰分析の復習、R 操作の復習	仮説検証の考え方の復習、データを提供して回帰分析を実践
第 17 回	重回帰分析 (1)	多重共線性と自由度修正済決定係数の解説、データを提供して回帰分析を実践
第 18 回	重回帰分析 (2)	ダミー変数法の説明、データを提供して回帰分析を実践
第 19 回	重回帰分析 (3)	定数項ダミーや係数ダミーの事例紹介、データを提供して回帰分析を実践
第 20 回	重回帰分析 (4) ／第一回問題演習	結果の解釈の仕方について、データを提供して回帰分析を実践、問題演習の資料を配布
第 21 回	回帰分析の応用 (1)	第一回問題演習の解説、政治学への応用、データを提供して回帰分析を実践
第 22 回	回帰分析の応用 (2)	データの絞り込みを R で実践 (filter 関数と subset 関数)
第 23 回	回帰分析の応用 (3)	2 つ以上の条件を設定したデータ絞り込みを R で実践
第 24 回	回帰分析の応用 (4) ／第二回問題演習	決定係数と自由度修正済決定係数について、モデルの改良、問題演習の資料を配布
第 25 回	最終レポートに向けて (1)	第二回問題演習の解説、データ収集の方法について
第 26 回	最終レポートに向けて (2)	テーマ設定と仮説検証について、先行研究の調べ方や活用について
第 27 回	R の総復習	単回帰分析と重回帰分析の総復習、データを提供して回帰分析を実践
第 28 回	最終レポートの提出	各自が研究テーマを自由に選び、データ収集、プログラムの作成と実行を行う。その結果をレポートとして提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに毎回の授業資料をアップするので、それをもとに復習を行う。また、授業内で出した応用的な問題にも取り組んでもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布するため、特定の教科書の指定はなし。

【参考書】
地道正行『R による統計学独習』裳華房、2018 年
秋山裕『R による計量経済学 (第 2 版)』オーム社、2018 年
今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門 (上、下)』岩波書店、2018 年（粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からのレポート提出は紙媒体でなく、添付ファイルの形で提出してもらうこととする。これによりレポートの提出があったか否かについて、きちんと記録が残るようにする。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master a quantitative analytical method and analyze the economic phenomenon that students feel involved in.　Students are expected to acquire statistical and econometric methods, and analyze various kinds of economic phenomena.

COT300FA
応用プログラミングⅠ（統計）
3〜4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT300FA
応用プログラミングⅡ（統計）
3〜4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

中平　千彦

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜学習支援システムで講義が開始される予定日＞
⇒5 月 1 日 (金) または 5 月 8 日 (金) を予定しています。(未確定)
この講義は、経営学部、文学部、法学部の学生を対象としています。1・2年次に統計学の基礎を習得していない受講生にも配慮した講義を行います。
受講生のみなさんは、統計学やデータ分析について、どのような印象を持っているでしょうか？ 統計学は人文科学、社会科学、自然科学の幅広い分野に応用されている、データ分析の科学です。この講義を履修して、統計学とデータ分析の基礎を学び、また、R によるデータ分析とプログラミングの基礎を習得し、自ら統計解析を行うことができるようになりましょう。

【到達目標】
・統計学の基礎理論を理解し、それをデータ分析に応用できるようになる。
・社会科学における各種のデータを用い、自らデータ分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP1-4」、「心理学」、「地理学」、「政治学」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
⇒ 講義開始日は、5 月 1 日 (金) または 5 月 8 日 (金) を予定しています。(未確定)
本講義では、まずは統計学の基礎的手法を学び、次に、R の基本的なコマンドとプログラムを理解しながらデータ分析を行います。適宜、Excel も併用しますが、単に表計算ソフトとして用いるのではなく、統計解析のツールとして利用します。
オープンソースの統計解析システム・環境 "R" の機能は国際的に評価されており、また、フリーソフトであるため、自由にダウンロードして利用することができます。従って、本講義で R の基本的なプログラミングを習得すれば、自宅のコンピューターでも、高度なデータ分析を行うことが可能になります。
以上のように、まずは統計学の基礎を学び、次に、R の基本的なプログラミングを理解しながらデータ分析の基本的手法を習得すれば、自ら統計的な実証分析を行うことができるようになります。
ぜひ、この機会に統計学の基礎、そして R によるデータ分析とプログラミングの基礎を学び、それらを将来の発展的な学習や研究へと繋げてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 01 回	R の導入と基本操作 (1)	R の導入・起動・終了、データと変数、データとプログラムの入力と編集
第 02 回	R の導入と基本操作 (2)	データ編集、行列における演算と関数、プログラミング
第 03 回	データ整理 (1)	統計学と情報、データ整理
第 04 回	データ整理 (2)	データの性質を探る
第 05 回	データ整理 (3)	データ処理のプロセス
第 06 回	確率と確率分布 (1)	事象と確率
第 07 回	確率と確率分布 (2)	確率変数、確率分布と期待値
第 08 回	確率と確率分布 (3)	連続型分布、離散型分布
第 09 回	確率と確率分布 (4)	統計量の分布、分布間の関係 (1)
第 10 回	確率と確率分布 (5)	統計量の分布、分布間の関係 (2)
第 11 回	推定と検定 (1)	点推定と区間推定 (1)
第 12 回	推定と検定 (2)	点推定と区間推定 (2)
第 13 回	推定と検定 (3)	検定における仮説と有意水準 (1)
第 14 回	推定と検定 (4)	検定における仮説と有意水準 (2)

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	統計的仮説検定	検定における仮説と有意水準
第 16 回	1 標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する 1 標本の場合における推定と検定 (1)
第 17 回	1 標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する 1 標本の場合における推定と検定 (2)
第 18 回	2 標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する 2 標本の場合における推定と検定 (1)
第 19 回	2 標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する 2 標本の場合における推定と検定 (2)
第 20 回	多標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (1)
第 21 回	多標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (2)
第 22 回	多標本の場合における推定と検定 (3)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (3)
第 23 回	プログラミング演習	プログラミング演習
第 24 回	相関分析	2 次元正規分布における相関
第 25 回	回帰分析 (1)	単回帰分析の理論
第 26 回	回帰分析 (2)	単回帰分析の応用
第 27 回	回帰分析 (3)	重回帰分析の理論
第 28 回	回帰分析 (4)	重回帰分析の応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
*テキストは受講生との相談により変更される可能性があります。
・長畑秀和 (著)『R で学ぶ統計学』共立出版，2009 年.

【参考書】
・青木繁伸 (著)『R による統計解析』オーム社，2009 年.
・秋山裕 (著)『統計学基礎講義 (第 2 版)』慶應義塾大学出版会，2015 年.
・ウィックハム, H.(著), 石田基広 / 市川太祐 / 高柳慎一 / 福島真太朗 (訳)『R 言語徹底解説』共立出版，2016 年.
・大森崇 / 阪田真己子 / 宿久洋 (著)『R Commander によるデータ解析 (第 2 版)』共立出版，2014 年.
・白石修二 (著)『例題で学ぶ Excel 統計入門 (第 2 版)』森北出版，2012 年.
・ジュール, A. / イエノウ, E. / ミースター, E.(著), 石田基広 / 石田和枝 (訳)『R 初心者のための ABC』丸善出版，2012 年.
・辻谷将明 / 和田武夫 (著)『R で学ぶ確率・統計』共立出版，2012 年.
・長畑秀和 / 中川豊隆 / 國米充之 (著)『R コマンダーで学ぶ統計学』共立出版，2013 年.
・野間口謙太郎 / 菊池泰樹 (著)『統計学: R を用いた入門書 (改定第 2 版)』共立出版，2016 年.
・福地純一郎 / 伊藤有希 (著)『R による計量経済分析』朝倉書店，2011 年.
・宮川公男 (著)『基本統計学 (第 4 版)』有斐閣，2015 年.
・村井潤一郎 (著)『はじめての R:ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』北大路書房，2013 年.
・山田剛史 / 杉澤武俊 / 村井潤一郎 (著)『R によるやさしい統計学』オーム社，2008 年.
・ランダー, J. P.(著), 高柳慎一 / 津田真樹 / 牧山幸史 / 松村杏子/ 簑田高志 (訳)『みんなの R(第 2 版)』マイナビ出版，2018 年.
・リゲス, U.(著), 石田基広 (訳)『R の基礎とプログラミング技法』丸善出版，2012 年.
・Akinkunmi, Mustapha, *Introduction to Statistics Using R*(pap), Morgan & Claypool, 2019.
・Alvaro, Felix, *R: Easy R Programming for Beginners, Your Step-by-step Guide to Learning R Programming*(pap), CreateSpace Independent Publishing, 2016.
・Bolar, Kartikeya, *Rapid Statistics using R*(pap), Independently Published, 2017.
・Crawley, Michael J., *Statistics: An Introduction Using R*(2nd ed.)(pap), Wiley, 2014.
・Dalgaard, Peter, *Introductory Statistics with R (Statistics and Computing)*(2nd ed.)(pap), Springer, 2008.
・Field, Andy, Miles, Jeremy, and Zoe Field, *Discovering Statistics Using R*, SAGE Publications, 2012.
・Prashant, Joshi, *Introduction to Statistics Using R*(pap.), LAP Lambert Academic Publishing, 2014.
・Schumacker, Randall E., *Learning Statistics Using R*(pap), SAGE Publications Inc., 2014.
・Schumacker, Randall E., and Sara Tomek, *Understanding Statistics Using R*, Springer, 2015.
・Verzani , John, *Using R for Introductory Statistics*(2nd ed.), Chapman & Hall / CRC, 2014.
・Zeitlin, Wendy.　and Charles Auerbach, *Basic Statistics for the Behavioral and Social Sciences Using R*(pap), Oxford Univ Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】
・今年度は新型コロナウイルス対策期間の特別な措置によって、成績を決定します。(詳細未定)

【学生の意見等からの気づき】
・講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【その他の重要事項】
テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】
講義日の 12:30〜12:45:講義教室、または個別に時間を相談して対応

【関連科目】
経営学部、文学部、法学部、あるいはその他の学部で開講された、統計学やデータ分析を用いる科目とします。

【Outline and objectives】
The aim of the course is to provide students with an oppotunity to gain and enhance the knowledge of statistics and data analysis for humanities, social sciences, and natural sciences. We learn how to program in R and how to use R for data analysis. R is a free software environment for statistical analysis. This course is a comprehensive guide on how to get started with R programming and how you can learn it.

COT300FA
応用プログラミングⅠ（2016〜2017 年度入学者）
3〜4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

COT300FA
応用プログラミングⅠ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）
3〜4 年次／ 4 単位[年間授業/Yearly]

COT300FA
応用プログラミングⅡ（2016〜2017 年度入学者）
3〜4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

長原　徹

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の日々の生活は数字に囲まれている。例えば、アルバイトで得られた給料を何にいくらつかうかなど、われわれは生活の必要性に迫られて数字（データ）の把握と分析を無意識に行っているのである。この授業は、受講生がこの定量的分析手法すなわち、統計的手法ないし計量経済学的手法を習得し、それを活用して現実経済を分析する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
第一の到達目標は、統計学や計量経済学の基本概念と分析手法を習得し、それらを現実の経済分析に応用できるようになることである。第二の到達目標は、R による基本的なプログラミングを習得しデータ分析ができるようになることである。第三の到達目標は、仮説を設定しそれを定量的に検証するという分析手法を、主体的に用いられるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP1-4」、「心理学」、「地理学」、「政治学」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講生は統計学や計量経済学に関する理論を講義形式で学んだ後、統計分析用フリーソフトの R をつかった演習に取り組む。最終的には、受講生自身でテーマを決め、実証分析を駆使したレポートを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の目的／計量経済学の分析方法と事例紹介	経済学における分析の方法やその限界を、具体例を交えながら紹介
第 2 回	R の基礎 (1)	四則演算の実践、統計学の復習
第 3 回	R の基礎 (2)	平均値、中央値、分散などの計算を R で実践
第 4 回	R の基礎 (3)	c 関数の使用、データファイルの読み込み
第 5 回	相関分析／第一回問題演習	相関係数の計算を R で実践、問題演習の資料を配布
第 6 回	回帰分析 (1)	第一回問題演習の解説、回帰分析とは何か、最小二乗法の考え方、簡単な回帰分析を R で実践
第 7 回	回帰分析 (2)	散布図を R で描く、決定係数について解説、データを提供して回帰分析を実践
第 8 回	回帰分析 (3)	推定結果の解釈方法を解説、t 検定の復習、データを提供して回帰分析を実践
第 9 回	回帰分析 (4) ／第二回問題演習	重回帰分析の紹介、データを提供して回帰分析を実践、問題演習の資料を配布
第 10 回	回帰分析 (5)	第二回問題演習の解説、多重共線性の説明、回帰分析によるさまざまな分析例の紹介
第 11 回	回帰分析 (6)	自由度修正済決定係数の説明、仮説検証の考え方について
第 12 回	前期末レポートについて	前期末レポートに向けて単回帰分析と重回帰分析を R で実践
第 13 回	仮説検証について	仮説検証の考え方についていくつかの事例を用いて紹介
第 14 回	前期末レポートの提出	データを提供し、受講生各自に R を用いた回帰分析に取り組んでもらう

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	回帰分析の復習	計量経済学における分析の方法やその限界を、具体例を交えながら紹介
第 16 回	回帰分析の復習、R 操作の復習	仮説検証の考え方の復習、データを提供して回帰分析を実践
第 17 回	重回帰分析 (1)	多重共線性と自由度修正済決定係数の解説、データを提供して回帰分析を実践
第 18 回	重回帰分析 (2)	ダミー変数法の説明、データを提供して回帰分析を実践
第 19 回	重回帰分析 (3)	定数項ダミーや係数ダミーの事例紹介、データを提供して回帰分析を実践
第 20 回	重回帰分析 (4) ／第一回問題演習	結果の解釈の仕方について、データを提供して回帰分析を実践、問題演習の資料を配布
第 21 回	回帰分析の応用 (1)	第一回問題演習の解説、政治学への応用、データを提供して回帰分析を実践
第 22 回	回帰分析の応用 (2)	データの絞り込みを R で実践 (filter 関数と subset 関数)
第 23 回	回帰分析の応用 (3)	2 つ以上の条件を設定したデータ絞り込みを R で実践
第 24 回	回帰分析の応用 (4) ／第二回問題演習	決定係数と自由度修正済決定係数について、モデルの改良、問題演習の資料を配布
第 25 回	最終レポートに向けて (1)	第二回問題演習の解説、データ収集の方法について
第 26 回	最終レポートに向けて (2)	テーマ設定と仮説検証について、先行研究の調べ方や活用について
第 27 回	R の総復習	単回帰分析と重回帰分析の総復習、データを提供して回帰分析を実践
第 28 回	最終レポートの提出	各自が研究テーマを自由に選び、データ収集、プログラムの作成と実行を行う。その結果をレポートとして提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに毎回の授業資料をアップするので、それをもとに復習を行う。また、授業内で出した応用的な問題にも取り組んでもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布するため、特定の教科書の指定はなし。

【参考書】
福地純一郎・伊藤有希『R による計量経済分析』朝倉書店、2011 年
秋山裕『R による計量経済学 (第 2 版)』オーム社、2018 年
今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門 (上、下)』岩波書店、2018 年（粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳）

【成績評価の方法と基準】
各学期 2 回のレポート提出と最終レポートの提出が単位認定の必要条件である。2 回のレポート（30 % ×2）、最終レポート（40 %）である。

【学生の意見等からの気づき】
学生からのレポート提出は紙媒体でなく、添付ファイルの形で提出してもらうこととする。これによりレポートの提出があったか否かについて、きちんと記録が残るようにする。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【関連科目】
None.

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master a quantitative analytical method and analyze the economic phenomenon that students feel involved in.　Students are expected to acquire statistical and econometric methods, and analyze various kinds of economic phenomena.

COT300FA
応用プログラミングⅠ（2016〜2017 年度入学者）
3〜4 年次／ 2 単位[春学期授業/Spring]

COT300FA
応用プログラミングⅠ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）
3〜4 年次／ 4 単位[年間授業/Yearly]

COT300FA
応用プログラミングⅡ（2016〜2017 年度入学者）
3〜4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

中平　千彦

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜学習支援システムで講義が開始される予定日＞
⇒5 月 1 日 (金) または 5 月 8 日 (金) を予定しています。(未確定)
　この講義は、経営学部、文学部、法学部の学生を対象としています。1・2 年次に統計学の基礎を習得していない受講生にも配慮した講義を行います。
　受講生のみなさんは、統計学やデータ分析について、どのような印象を持っているでしょうか？ 統計学は人文科学、社会科学、自然科学の幅広い分野に応用されている、データ分析の科学です。この講義を履修して、統計学とデータ分析の基礎を学び、また、R によるデータ分析とプログラミングの基礎を習得し、自ら統計解析を行うことができるようになりましょう。

【到達目標】
・統計学の基礎理論を理解し、それをデータ分析に応用できるようになる。
・社会科学における各種のデータを用い、自らデータ分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP1-4」、「心理学」、「地理学」、「政治学」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
⇒ 講義開始日は、5 月 1 日 (金) または 5 月 8 日 (金) を予定しています。(未確定)
　本講義では、まず統計学の基礎的手法を学び、次に、R の基本的なコマンドとプログラムを理解しながらデータ分析を行います。適宜、Excel も併用しますが、単に表計算ソフトとして利用するに留まらず、統計解析のツールとして利用するための手法を学びます。
　オープンソースの統計解析システム・環境 "R" の機能は国際的に評価されており、また、フリーソフトであるため、自由にダウンロードして利用することができます。従って、本講義で R の基本的なプログラミングを習得すれば、自宅のコンピューターでも、高度なデータ分析を行うことが可能になります。
　ぜひ、この機会に統計学の基礎、そして R によるデータ分析とプログラミングの基礎を学び、それらを将来の発展的な学習や研究へと繋げてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 01 回	R の導入と基本操作 (1)	R の導入・起動・終了、データと変数、データとプログラムの入力と編集
第 02 回	R の導入と基本操作 (2)	データ編集、行列における演算と関数、プログラミング
第 03 回	データ整理 (1)	統計学と情報、データ整理
第 04 回	データ整理 (2)	データの性質を探る
第 05 回	データ整理 (3)	データ処理のプロセス
第 06 回	確率と確率分布 (1)	事象と確率
第 07 回	確率と確率分布 (2)	確率変数、確率分布と期待値
第 08 回	確率と確率分布 (3)	連続型分布、離散型分布
第 09 回	確率と確率分布 (4)	統計量の分布、分布間の関係 (1)
第 10 回	確率と確率分布 (5)	統計量の分布、分布間の関係 (2)
第 11 回	推定と検定 (1)	点推定と区間推定 (1)
第 12 回	推定と検定 (2)	点推定と区間推定 (2)
第 13 回	推定と検定 (3)	検定における仮説と有意水準 (1)
第 14 回	推定と検定 (4)	検定における仮説と有意水準 (2)

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	統計的仮説検定	検定における仮説と有意水準
第 16 回	1 標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する 1 標本の場合における推定と検定 (1)
第 17 回	1 標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する 1 標本の場合における推定と検定 (2)
第 18 回	2 標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する 2 標本の場合における推定と検定 (1)
第 19 回	2 標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する 2 標本の場合における推定と検定 (2)
第 20 回	多標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (1)
第 21 回	多標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (2)
第 22 回	多標本の場合における推定と検定 (3)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (3)
第 23 回	プログラミング演習	プログラミング演習
第 24 回	相関分析	2 次元正規分布における相関
第 25 回	回帰分析 (1)	単回帰分析の理論
第 26 回	回帰分析 (2)	単回帰分析の応用
第 27 回	回帰分析 (3)	重回帰分析の理論
第 28 回	回帰分析 (4)	重回帰分析の応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
＊テキストは、第 1 回の講義で受講生と相談して変更する可能性があります。
・長畑秀和 (著)『R で学ぶ統計学』共立出版，2009 年.

【参考書】
・青木繁伸 (著)『R による統計解析』オーム社，2009 年.
・秋山裕 (著)『統計学基礎講義』慶應義塾大学出版会，2009 年.
・ウィックハム, H.(著), 石田基広 / 市川太祐 / 高柳慎一 / 福島真太朗 (訳)『R 言語徹底解説』共立出版，2016 年.
・大森崇 / 阪田真己子 / 宿久洋 (著)『R Commander によるデータ解析 (第 2 版)』共立出版，2014 年.
・白石修二 (著)『例題で学ぶ Excel 統計入門 (第 2 版)』森北出版，2012 年.
・ジュール, A. / イエノウ, E. / ミースター, E.(著), 石田基広 / 石田和枝 (訳)『R 初心者のための ABC』丸善出版，2012 年.
・竹内淳 (著)『高校数学でわかる統計学』講談社，2012 年.
・辻谷将明 / 和田武夫 (著)『R で学ぶ確率・統計』共立出版，2012 年.
・長畑秀和 / 中川豊隆 / 國米充之 (著)『R コマンダーで学ぶ統計学』共立出版，2013 年.
・野間口謙太郎 / 菊池泰樹 (著)『統計学: R を用いた入門書 (改定第 2 版)』共立出版，2016 年.
・福地純一郎 / 伊藤有希 (著)『R による計量経済分析』朝倉書店，2011 年.
・宮川公男 (著)『基本統計学 (第 4 版)』有斐閣，2015 年.
・村井潤一郎 (著)『はじめての R:ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』北大路書房，2013 年.
・山田剛史 / 杉澤武俊 / 村井潤一郎 (著)『R によるやさしい統計学』オーム社，2008 年.
・ランダー, J. P.(著), 高柳慎一 / 津田真樹 / 牧山幸史 / 松村杏子/ 簑田高志 (訳)『みんなの R(第 2 版)』マイナビ出版，2018 年.
・リゲス, U.(著), 石田基広 (訳)『R の基礎とプログラミング技法』丸善出版，2012 年.
・Akinkunmi, Mustapha, *Introduction to Statistics Using R*(pap), Morgan & Claypool, 2019.
・Alvaro, Felix, *R: Easy R Programming for Beginners, Your Step-by-step Guide to Learning R Programming*(pap), CreateSpace Independent Publishing, 2016.
・Bolar, Kartikeya, *Rapid Statistics using R*(pap), Independently Published, 2017.
・Crawley, Michael J., *Statistics: An Introduction Using R*(2nd ed.)(pap), Wiley, 2014.
・Dalgaard, Peter, *Introductory Statistics with R (Statistics and Computing)*(2nd ed.)(pap), Springer, 2008.
・Field, Andy, Miles, Jeremy, and Zoe Field, *Discovering Statistics Using R*, SAGE Publications, 2012.
・Prashant, Joshi, *Introduction to Statistics Using R*(pap.), LAP Lambert Academic Publishing, 2014.
・Schumacker, Randall E., *Learning Statistics Using R*(pap), SAGE Publications Inc., 2014.
・Schumacker, Randall E., and Sara Tomek, *Understanding Statistics Using R*, Springer, 2015.
・Verzani , John, *Using R for Introductory Statistics*(2nd ed.), Chapman & Hall / CRC, 2014.
・Zeitlin, Wendy.　and Charles Auerbach, *Basic Statistics for the Behavioral and Social Sciences Using R*(pap), Oxford Univ Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】
・今年度、春学期 (Ⅰ) は新型コロナウイルス対策期間の特別な措置によって、成績を決定します。秋学期 (Ⅱ) は、春学期の状況に基づいて調整いたします。(詳細未定)

【学生の意見等からの気づき】
・講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】
講義日の 12:20～12:40:講義教室、または個別に時間を相談して対応

【関連科目】
経営学部、文学部、法学部、あるいはその他の学部で開講された、統計学やデータ分析を用いる科目とします。

【Outline and objectives】
The aim of the course is to provide students with an oppotunity to gain and enhance the knowledge of statistics and data analysis for humanities, social sciences, and natural sciences. We learn how to program in R and how to use R for data analysis. R is a free software environment for statistical analysis. This course is a comprehensive guide on how to get started with R programming and how you can learn it.

COT200FA
情報学応用Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
情報学応用Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

木村　昌史

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンライン授業 (Zoom) 開始日
４月２２日（水）３限
４月２４日（金）３限
PC、ネットワーク、Excel、Access、MySQL の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法
授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
2	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
3	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
4	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
5	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
6	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
7	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
8	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
9	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
10	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
11	Excel によるデータ分析 分析ツール R との連携	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
12	データベースソフトとは Access の位置づけ Excel との関係	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excel ファイルのエクスポート
13	Access の基本操作 (1) データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索条件の指定について クエリとは何か
14	Access の基本操作 (2) フォームの作成 春学期のまとめ	入力フォームと出力フォームについて レポートとは

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	リレーショナルデータベースとは データベースソフト	データベースのしくみ データベース管理システムについて
16	データベースの操作言語とは SQL の基本	データベースの基本操作の射影、選択、結合について SQL による操作
17	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Access のテーブルの作成と編集
18	Access のデータ編集 (1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
19	Access のデータ編集 (2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
20	テーブルの操作 (1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
21	テーブルの操作 (2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
22	データベースの設計 (1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
23	データベースの設計 (2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
24	外部データベースへの接続 Web 上のデータベース	Web 上のデータベースと Access の関係および MySQL の理解
25	外部データベースの操作 インポートとエクスポート	MySQL との間のテーブルのインポートとエクスポートの実行
26	Access のマクロとは マクロの活用	Access VBA とデータベース操作の自動化について
27	総合演習 (1) Web フォームの設計	フォームの設計とデータ検索処理の対応について
28	総合演習 (2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境の確認（予習）
2. ネットワークの仕組みについて調べる（予習）
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習（予習と復習）
4.～14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
15.～28. 配布資料の予習・復習　データ検索の復習
予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
各回教材については開講時に指示する。

【参考書】
タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～
著者：内田治 編著　藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著
発行：サイエンス社　発行日： 2016 年 1 月 10 日
他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。
実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。
法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学入門を中心として情報関係科目全般

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline and objectives】
Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society

COT200FA
情報学応用Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
情報学応用Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

三宅　修平

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンライン授業 (Zoom) 開始日
4 月 22 日（水）4 限,5 限
PC、ネットワーク、Excel、Access、MySQL の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法
授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
2	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
3	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
4	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
5	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
6	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
7	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
8	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
9	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
10	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
11	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
12	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
13	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
14	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	リレーショナルデータベースとは データベースソフト	データベースのしくみ データベース管理システムについて

16	データベースソフトとは Access の位置づけ Excel との関係	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excel ファイルのエクスポートについて
17	Access の基本操作 データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力フォームについて
18	データベースの操作言語とは SQL の基本	データベースの基本操作の射影、選択、結合について SQL による操作
19	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Access のテーブルの作成と編集
20	Access のデータ編集 (1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
21	Access のデータ編集 (2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
22	テーブルの操作 (1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
23	テーブルの操作 (2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
24	データベースの設計 (1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
25	データベースの設計 (2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
26	Access のマクロとは マクロの活用	Access VBA とデータベース操作の自動化について
27	総合演習 (1) 基本テーブルの作成とフォームの設計	基本テーブルとフォームの設計、フォーム上での計算式について
28	総合演習 (2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
15.～28. 配布資料の予習・復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～
著者：内田治 編著　藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著
発行：サイエンス社
発行日： 2016 年 1 月 10 日
タイトル： 30 時間でマスター　Access2013
著者：実教出版編集部
発行：実教出版株式会社
発行日： 2014 年 09 月 20 日

【参考書】
タイトル： 30 時間アカデミック　情報リテラシー　Office2016
タイトル： 30 時間でマスター　パーフェクト演習　Excel2016
著者：実教出版編集部
発行：実教出版株式会社
他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 60 %、演習課題 40 %とする。
期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。
実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システ Classroom も利用し効率的な授業を行う。
法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】
情報関係科目全般に関連する。

【Outline and objectives】
Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society.

COT200FA
情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（CG）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（CG）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（CG）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（CG）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

飯塚　康至

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。
1）プログラミングの可視化（C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
2）データ分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
3）グラフ化・機械学習・深層学習（AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. C 言語を利用し簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【2020 年 04 月 13 日記述】
本年度は当面オンラインでの授業実施が想定されます。授業は 4 月 21 日（火）または 4 月 27 日（月）よりオンラインで行います。エントリーポイントは学習支援システム Hoppii です。
＝＝変更前原文＝＝
【授業の概要】
前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの起訴を身につけます。
後期はエクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い。データの可視化の手法について学びます。
【授業の方法】
　演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
(1)	プログラミングの基本	変数等プログラムの基本を学び可視化します。
(2)	図形の描画～制御構造～	図形描画を行いながら制御構造について学びます。
(3)	独自の図形描画～関数とランダムな数値～	独自の図形を描画しながら効率よくプログラムを作成する方法について学びます。
(4)	図解を動かす (アニメーション)	プログラミングで図形を描画しアニメーションさせる方法について学びます。
(5)	たくさんの図形を効率よく動かす	繰返し文を使い図解を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
(6)	【シューティングゲームの作成】キーボードからの動きとプレイヤーの作成	キーボードの入力値を受け付ける方法について学びます。
(7)	【シューティングゲームの作成】敵の描画とあたり判定	敵の描画方法と当たり判定について学びます。
(8)	【シューティングゲームの作成】弾の描画とあたり判定	弾の描画と当たり判定について学びます。
(9)	【シューティングゲームの作成】ゲームを完成させよう	得点の表示やランキングなどそのほかのゲームの要素について学びます。
(10)	プログラムの基本 (その 2-1)	そのほかの条件分岐や繰返し文、配列などの 文法を学びます。
(11)	プログラムの基本 (その 2-2)	ポインターといった C 言語特有の文法について学びます。
(12)	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（1）	ソートアルゴリズムを可視化しアルゴリズムによる動作の違いを確認します。

(13)	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（2）	関数の再帰呼び出しを可視化しフラクタル図形を作成します。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
(1)	ビジネスデータ分析とは	エクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学ぶ。
(2)	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学ぶ。
(3)	PPM 分析	エクセルで PPM 分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学ぶ。
(4)	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学ぶ。
(5)	相関関係	2 つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学ぶ。
(6)	ABC 分析	構成の偏りを ABC 分析を利用し可視化する方法について学ぶ。
(7)	Python でできること	AI や機械学習で利用される Python の概要について学ぶ。
(8)	Matpliotlib を利用したグラフの作成（1）	Python のライブラリである Matpliotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
(9)	Matpliotlib を利用したグラフの作成（2）	Matpliotlib を利用しデータを可視化する方法について学ぶ。
(10)	機械学習 (1)	scikit-learn を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。
(11)	機械学習 (2)	scikit-learn を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。
(12)	深層学習 (1)	Keras を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。
(13)	深層学習 (2)	Keras を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。
(14)	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
前期テキスト：楽しく学ぶ C 言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】
後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
【2020 年 04 年 13 日記述】
当面オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示します。
＝＝変更前原文＝＝
成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
新規科目です。可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
In this lesson, you will learn how to visualize the following items.
1) Learn how to visualization of programming
2) Learn how to data analysis and visualize data using Excel
3) Learn how to visualize mathematical formulas and machine learning.

COT200FA
情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者)情報関係科目　2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）　2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）　2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）　2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）　2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）　2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）　2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）　2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）　2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）　2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）　2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者)情報関係科目　2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者)情報関係科目　2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者)情報関係科目　2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

上野　京子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 静止画から動画を作成、音声や楽曲などを加え、発表形式ではないプレゼンテーションを作成する
(2) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
(3) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得する
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	動画のプレゼンテーション	動画編集ソフトを使用したプレゼンテーションの紹介
第 2 回	動画編集ソフトの機能	動画編集ソフトの概要、基本操作、応用操作（ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジットなど）
第 3 回	動画作成演習 1	計画・要素作成
第 4 回	動画作成演習 2	動画作成（ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジット追加）
第 5 回	動画鑑賞と相互評価 1	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価
第 6 回	動画鑑賞と相互評価 2	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価
第 7 回	自己評価	自身の動画の評価を集計し、レポート作成、提出
第 8 回	コンテンツ作成の技術（数値データの加工編）	表計算ソフトを利用した数値データの集計、加工
第 9 回	コンテンツ作成の技術（数値データの可視化編）	表計算ソフトを利用したグラフ作成とグラフ化の意思の明確な可視化
第 10 回	コンテンツ作成の技術（データ分析編）	表計算ソフトを利用した集データ分析
第 11 回	配布資料の作成方法	日本語文書処理ソフトを利用した資料作成（目次、索引、引用、脚注など）

第 12 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 14 回	春学期まとめ	春学期に学習したことの総復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 6 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 7 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 2	計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 4	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

COT200FA
情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）情報関係科目　2～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）　2～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）　2～4年次／4単位［年間授業/Yearly］

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）　2～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）　2～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）　2～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）情報関係科目　2～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

江島　夏実

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC等を活用したプレゼンテーション能力(表現能力)を高めるための科目である。本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことをより具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
■春学期
学習支援システムで本授業を開始するのは2020年4月22日（水）とする。
(1)　プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(2)　比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
■秋学期
(3)　ストーリーの組み立てが必要な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションの設計の重要性を認識し、論理的なプレゼンテーションを行えるようにする。
(4)　実際にありそうな状況・テーマを設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、実践的で自然な印象を与えるプレゼンテーションを行えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの要素	文字、写真、チャート、映像等の取扱い方法
第2回	プレゼンテーションの要素	文字、写真、チャート、映像等の取扱い方法
第3回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第4回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第5回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第6回	プレゼンテーションの技術	手順・流れ、時間、色使い、レイアウト
第7回	プレゼンテーションの技術	手順・流れ、時間、色使い、レイアウト
第8回	比較的簡単なプレゼンテーション演習1	①プレゼンの計画
第9回	比較的簡単なプレゼンテーション演習1	②プレゼンの要素作成
第10回	比較的簡単なプレゼンテーション演習1	③プレゼンの実施
第11回	比較的簡単なプレゼンテーション演習2	①プレゼンの計画
第12回	比較的簡単なプレゼンテーション演習2	②プレゼンの要素作成
第13回	比較的簡単なプレゼンテーション演習2	③プレゼンの実施
第14回	比較的簡単なプレゼンテーション演習2	総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第15回	論理的なプレゼンテーション演習1	①プレゼンの計画
第16回	論理的なプレゼンテーション演習1	②プレゼンの要素作成
第17回	論理的なプレゼンテーション演習1	③プレゼンの実施
第18回	論理的なプレゼンテーション演習2	①プレゼンの計画
第19回	論理的なプレゼンテーション演習2	②プレゼンの要素作成
第20回	論理的なプレゼンテーション演習2	③プレゼンの実施
第21回	実践的なプレゼンテーション演習1	①プレゼンの計画
第22回	実践的なプレゼンテーション演習1	②プレゼンの要素作成
第23回	実践的なプレゼンテーション演習1	③プレゼンの要素作成
第24回	実践的なプレゼンテーション演習1	④プレゼンの実施
第25回	実践的なプレゼンテーション演習2	①プレゼンの計画
第26回	実践的なプレゼンテーション演習2	②プレゼンの要素作成
第27回	実践的なプレゼンテーション演習2	③プレゼンの要素作成
第28回	実践的なプレゼンテーション演習2	④プレゼンの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PowerPointを使ったことがあるという程度を前提に授業をスタートするので、そのレベルまで至っていない場合は、あらかじめ参考書等を利用して、また、学校のPC等を活用して予習をしたり、授業についていけるように課外学習などを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「マッキンゼー流　プレゼンテーションの技術」東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
※春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

基本的な考え方は、平常点 50%、オンライン授業の中で行う演習 50%するものである。なお、定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。
一部、スマートフォンの活用も行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用することも検討する。

【関連科目】
情報科学実習各科目

【オフィス・アワー】
（1）授業後に質問を受け付ける。
（2）質問がある場合は E-mail で受け付ける。

【Outline and objectives】
It is a subject to raise the presentation skill (expression ability) utilizing PC etc. In this subject, in particular, we will cover the expressive ability in on-screen presentation using presentation software.

COT200FA
情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019 年度以降入学者）　情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
データ処理論Ⅱ（空間情報システム）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
データ処理論Ⅰ（空間情報システム）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019 年度以降入学者）　情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

沼尻　治樹

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
　空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
　社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。
　授業開始日は 4 月 27 日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第 12 回	ジオプロセシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 16 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 17 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 18 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 19 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスタデータへ変換する
第 20 回	ジオリファレンス (幾何補正) の行い方	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え，空間情報を取得する
第 21 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 22 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 23 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 3	任意の演算式によって空間情報を取得する
第 24 回	空間解析の実践 1	空間補間 (内挿) を行い空間情報の推定を行う
第 25 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 26 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 27 回	空間情報の作成・分析と考察 2	データ処理を実践する
第 28 回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
　その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
　成績評価の配分は，平常点を 60 %，レポート課題を 40 %とする。
【4 月 14 日　加筆変更】
　春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
　質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，授業支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【Outline and objectives】
The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

COT200FA
情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）

情報関係科目　2～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

2～4年次／4単位［年間授業/Yearly］

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

2～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（2016～2017年度入学者）

2～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）

2～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）

2～4年次／2単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）

情報関係科目　2～4年次／2単位［秋学期授業/Fall］

入戸野　健

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットやLANなどのコンピュータネットワークに関する基礎知識を身につけながら、Webサイトを構築して情報発信する方法を学ぶ。

【到達目標】
インターネットを中心とする現在のコンピュータネットワークの仕組みを理解すると同時に、HTMLとCSSを記述してホームページを作成する方法を習得し、自らWebページで情報発信できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
インターネットなどの通信ネットワークの基礎については、スライド等を使って部分的に講義形式で解説を行うが、Webサイトの構築に関しては基本的に毎回実習形式で授業を進める。
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日は5月7日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	通信ネットワークの発展	これまでの通信技術の変遷について学ぶ。
2	LANの仕組みと構成	ローカルエリアネットワーク(LAN)とWi-Fi通信について学習する。
3	インターネットの仕組み	インターネットのプロトコルとその動作について学ぶ。
4	Webサイトの構成要素	Webサイトの構築に必要なハードウェアとソフトウェアについて習得する。
5	HTMLの基礎知識	タグを入力してページを構成する考え方を理解する。
6	Webページ作成環境	エディタでのコード入力、ブラウザでの表示確認などの操作に慣れる。
7	HTMLの要素とプロパティ	HTMLの各部分を表現するタグとプロパティの基本的な書き方を学ぶ。
8	HTML文書の基本編集	文書の見出し、段落、文書内での画像表示などの基本的な表現方法を学習する。
9	表とフォーム	Webページでの表の作り方、ページからのデータ入力のための仕組みの作り方を学ぶ。
10	リンクの作成	ページ間を結びつけるリンクの作成方法を学習する。
11	CSSの基礎知識	Cascading Style Sheets (CSS)によるページの装飾の考え方と基本文法を学ぶ。
12	CSSによる基本装飾	文字色や背景色などの基本的なデザインの設定方法を習得する。
13	レイアウト作成	文字の中央揃えや、段組みなどのレイアウトの作成方法を学ぶ。
14	Webページ作成演習	基礎的なHTML文法とCSSによる装飾を利用したホームページを作成する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	発展的な開発環境	文法チェック機能を持つエディタなどの環境を整え、より効率的にページ作成ができるようにする。
2	サイトの構築とページの設計	Webサイトの各々のページをコーディングする際に検討すべき点などを理解する。
3	文書のアウトラインの作成	章・節・項のようなきちんとした文書構造を作成する方法を学習する。
4	タイトルやロゴのレイアウト	ページ冒頭のタイトルやロゴ画像の作成とそれらのレイアウト方法について学習する。
5	メニュー項目の作成	各ページ共通でデザインされたメニュー（グローバルナビゲーション）の作成方法を習得する。
6	CSSによる応用的なデザイン	背景のグラデーションや文字・ボックスの影などの応用的なデザインの作り方を学ぶ。
7	CSSによる移動や変形	CSSの設定で画像などを移動・変形する方法を学習する。
8	CSSによるアニメーション	CSSの機能で動きのある画像やボタンなどを作成する方法を学ぶ。
9	各種のフォントや数式の利用	デザインされた多様なWebフォントや見やすい数式の表示方法について学習する。
10	レスポンシブWebデザイン	Webページを様々な端末で見やすいようにするための方法を学ぶ。
11	スマートフォンへの対応	特にスマートフォンによる表示を優先的に考えたページのデザイン方法を学習する。
12	各種の関連技法	JavaScriptやCGIなどの関連する技術について概観する。
13	Webサイトの構築演習	授業内で取り上げた各種の技法を使用して、各自のWebサイトを構築する。
14	Webサイトの設置と確認	完成させたサイトをWebサーバーへ設置して動作確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に、各回の実習で目標まで完了させることができなかった場合は、各自で次回までに進めておくなどの時間外学習が必要になる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。必要に応じて補助プリントを適宜配付する。

【参考書】
講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(25%)　：実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になる。
課題レポート(15%)：授業内容に沿った課題を2回程度出題する。
課題演習(60%)　：後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらう。
オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
例題・練習問題等の実習を行う時間をより長く取り、また、丁寧な解説を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】
実習は情報実習室の PC で行う。
作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参する (詳細は授業内で説明する)。

【関連科目】
プログラミング言語 (スクリプト言語) Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】
This course is designed to provide a fundamental understanding of the Internet and LAN, and also provide skills concerning to construction and utilization of web sites.

COT200FA
情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）

情報関係科目　2～4 年次／2 単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

2～4 年次／4 単位［年間授業/Yearly］

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位［秋学期授業/Fall］

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018 年度入学者）

2～4 年次／2 単位［秋学期授業/Fall］

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018 年度入学者）

2～4 年次／2 単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）

情報関係科目　2～4 年次／2 単位［秋学期授業/Fall］

飯塚　康至

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。
インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【2020 年 04 月 13 日記述】
本年度は当面オンラインでの授業実施が想定されます。授業は 4 月 21 日（火）よりオンラインで行います。エントリーポイントは学習支援システム Hoppii です。
【変更前原文】
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
講義前半では主にコンピューターネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。後半では Web ページの作成技術を中心に Web サイトの構築方法について学習します。
授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
2	コンピューターの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピューターの構成について理解します。
3	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
4	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
5	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
6	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
7	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
8	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
9	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
10	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
11	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
12	ホームページ作成の基礎①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
13	ホームページ作成の基礎②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
16	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
17	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
18	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
19	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
20	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
21	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
22	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
23	画像アップローダーの作成 1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
24	画像アップローダーの作成 2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
25	画像アップローダーの作成 3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
26	スマートフォンアプリの作成 1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
27	スマートフォンアプリの作成 2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
28	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
【2020 年 04 月 13 日記述】
当面オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示します。
【変更前原文】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前にミニッツペーパー（振り返りシート）を作成します。

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security.
You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.

COT200FA
情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019 年度以降入学者） 情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

上野　京子

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	インターネットと情報セキュリティ	インターネットを支える技術、情報セキュリティ対策について学習する
2	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
3	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
4	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
5	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
6	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
7	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
8	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
9	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
10	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
11	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
12	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
13	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
14	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15	フォームの作成	form の基本構造を理解する
16	便利なフォーム機能	ふりがな入力欄、パスワード入力欄、検索ワード入力欄、日付入力欄を作成する
17	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する
18	カテゴリーとコンテンツモデル	カテゴリーとコンテンツモデルを理解する
19	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する

20	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
21	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
22	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
23	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
24	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
25	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
26	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
27	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
28	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報科学実習Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline and objectives】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

COT200FA
情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）　2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA
ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018 年度入学者）　2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA
情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

高田　美樹

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し，情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得することを目的とします。

【到達目標】
到達目標は，以下のとおりです.
1）インターネットの仕組みを理解する.
2）Web ページを企画し，制作する.
3）Web データベースシステムの仕組みを理解し、制作する.
.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
パソコンを用いた実習授業です。Windows でも Mac でも可。古くても家族などと共用でも可。共用の場合は、自分専用に USB メモリを用意してください。
実習室で行う実習授業です.（新型コロナウイルスの影響により、各自のパソコンで実習を行います）
春学期には，主にクライアント側で動作するカタログを表示するホームページの制作を行います.
秋学期には，春学期に制作したページをベースに，サーバ側で動作する本格的な web データベースシステムにより投票サイトを構築します.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ホームページの全体像	ホームページが社会にもたらしている影響から全体像を学習します。
第 2 回	ネットワークの仕組みとプロトコル	TCP/IP と IP アドレスについて学習し，ホームページを実現する技術を理解します。
第 3 回	HTML と CSS による静的なページ	ホームページがどのように表示されるのかについて，実際にページを制作して学習します。
第 4 回	HTML・CSS 各論（1）	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習します。
第 5 回	HTML・CSS 各論（2）	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習します。
第 6 回	class と ID	ページの中の一部だけに設定を行う方法を学びます。
第 7 回	画面レイアウトの設計	HTML と CSS を組み合わせたページを企画，制作します。
第 8 回	フォームの作成	入力することのできるページを制作します。
第 9 回	画像の加工	ホームページで利用できるように画像を加工します。
第 10 回	JavaScript による動的なページの作成（1）	マウス操作などで変化するページを制作します。
第 11 回	JavaScript による動的なページの作成（2）	入力データをチェックしてエラーを表示するページを制作します。
第 12 回	jQuery の利用	jQuery を利用した変化のあるページを制作します。
第 13 回	サイト制作 1（1）	オリジナルページを制作します。
第 14 回	サイト制作 1（2）	オリジナルページを制作します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	web データベースシステムの全体像	登場サイトを例に，ホームページ技術の全体像をイメージします。
第 16 回	フォームデータのチェックとエコーバック	入力情報をサーバ側で処理する技術を学習します。
第 17 回	PHP による動的なページの作成（1）	データを入れ替えるだけで内容が変化するページを制作します。
第 18 回	PHP による動的なページの作成（2）	データを入れ替えるだけで内容が変化するページを制作します。
第 19 回	データベースの構築	データを管理するためのデータベース技術を学習します。
第 20 回	データベースと PHP の連携	PHP からデータベースの呼び出し方を学びます。
第 21 回	データベースから読み出したデータの表示	データベースの保管されたデータを取り出してページに反映する技術を学びます。
第 22 回	ログインの実装	ユーザ ID とパスワードをチェックするページを制作します。
第 23 回	ユーザ登録の実装	ユーザ登録を行うページを制作します。
第 24 回	セッションによる情報の引き継ぎ	ログインした情報を次のページに引き継ぐ技術を学習します。
第 25 回	セッション管理	ペログアウトし，情報へのアクセスを拒否する技術を学習します。
第 26 回	サイトの設計	オリジナルサイト制作の企画書を作成します。
第 27 回	サイト制作２（1）	オリジナルサイトを制作します。
第 28 回	サイト制作２（2）	オリジナルサイトを制作します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ホームページは多くの技術の集大成ですが，一つひとつの技術にはたくさんの項目があり，授業だけではそのすべてを網羅することはできません。参考文献などを調べ，「やってみる」ことを心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を提供します。

【参考書】
オンライン大学講座 JMOOC で公開されている動画を使います。この動画を見るためには、登録が必要です（無料）。公の機関なので、勧誘など一切ありません。できれば登録してください。強制ではありません。
https://www.fisdom.org/F00000126/
JMOOC とは
https://www.jmooc.jp/
このページの下の方に「JMOOC って？」というコーナーがあります。

【成績評価の方法と基準】
春学期は，カタログサイトを制作します.
　トップページの制作 (20%)
　写真を配した複数のページの制作 (60%)
　ページの切り替え (10%)
　入力フォームの制作 (10%)
秋学期は，投票サイトを制作します.
　データベースの構築（20%)
　データベースからの読み出し (40%)

投票機能 (40%)

【学生の意見等からの気づき】
前年度は、データベースの構築に手間取り、PHP からの呼び出しに時間がかかった。
Step by Step で確認しながら進めていけるように、講義資料を工夫しています。
１年を通して、秋学期での最終ゴールを意識した制作を行っていきます。
講義で学習しながらオリジナルページが制作できるよう教材を工夫しています。

【学生が準備すべき機器他】
通学できない間は、各自でパソコンを用意してください。Windows でも Mac でも可能です。古くても、家族などと共用でも可能です。共用の場合は、自分専用の USB メモリを用意してください。
大学内のコンピュータを使います。
USB メモリを用意しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
前提知識は必要ありません。
自らのオリジナルサイトを制作したいという意欲を持って参加してください。
積み上げ科目なので，今日の講義は今日理解するように努め，わからないことがあれば些細なことでも臆せずに質問してください。
法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールのチェックをしてください。

【関連科目】
情報学入門

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。メールでも受け付けます。

【Outline and objectives】
Understand Computer Network and Create Website with Database.

COT200FA
情報学発展Ⅰ（システム科学）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業/Spring］

COT200FA
情報学発展Ⅱ（システム科学）（2019 年度以降入学者）情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業/Fall］

高田　美樹

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミング言語 Python を利用してデータ分析の基礎を学ぶ。データの収集・可視化・分析・レポートに至る一連の流れを実習する。

【到達目標】
1) プログラミングの考え方を理解し、利用できるようになる。
2)Python を用いて大量のデータを扱えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日（金）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
通学できない間は、各自でインターネットに接続できるパソコンを用意してください。Windows でも Mac でも可能です。古くでも、家族などとの共用でも構いません。共用の場合は自分専用の USB メモリを用意してください。
実習室で行う実習授業である。
手を動かして、体験する。Python の簡単な例題からはじめ、同じ内容を繰り返し実習しながら、応用的発展に進んで行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	プログラミングで何ができるのか。とりあえずやってみる
第 2 回	Python の基礎（1）	簡単な計算と変数
第 3 回	Python の基礎（2）	条件分岐
第 4 回	Python の基礎（3）	繰り返し
第 5 回	Python の基礎（4）	リストとタプルと文字列
第 6 回	Python の基礎（5）	辞書
第 7 回	Python の基礎（6）	関数の定義
第 8 回	Python の基礎（7）	関数の引数と戻り値
第 9 回	Python の基礎（8）	例外処理
第 10 回	簡単な統計処理	Numpy を利用して、多量のデータについて簡単な統計情報を得る
第 11 回	データの可視化	matplotlib を利用して、各種グラフを作成する。
第 12 回	web スクレイピング	インターネットからの情報収集を行う。
第 13 回	制作実習（1）	収集した情報を可視化、分析するプログラムを作成する。
第 14 回	制作実習（2）	分析結果をレポートにまとめる。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	Python の基礎	春学期の復習
第 16 回	クラスとオブジェクト（1）	オブジェクト指向の考え方に則ったプログラミング
第 17 回	クラスとオブジェクト（2）	クラスを利用したプログラムの作成
第 18 回	データ形式（1）	CSV ファイルの扱い
第 19 回	データ形式（2）	JSON データの取り扱い
第 20 回	外れ値	多量のデータの中から外れ値を検出する。
第 21 回	クラスタリング	多量のデータを分類する。
第 22 回	回帰直線	多量のデータの傾向を知り、予測する。
第 23 回	シミュレーション（1）	モデリングによるシミュレーション
第 24 回	シミュレーション（2）	乱数によるシミュレーション
第 25 回	シミュレーション（3）	待ち行列
第 26 回	総合演習（1）	テーマを決め、データを収集して分析する。
第 27 回	総合演習（2）	分析結果を可視化して、エビデンスを調べる
第 28 回	総合演習（3）	分析結果をレポートにまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要。
毎回の講義の内容を理解して、次週までに完成させる。標準的には、2時間程度を要する。
授業時間外の質問をメールでの質問も受け付けているので、わからない点がある場合には、積極的に連絡してください。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】
適宜、講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義のので実習した内容と小テスト　50%
複数回の課題提出　50%

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため、フォードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
通学できない間は、各自でインターネットに接続できるパソコンを用意してください。Windows でも Mac でも可能です。古くても家族と共用でも可能です。共用の場合は、自分専用の USB メモリを用意してください。
実習室においてコンピュータを用いて実習を行う。
USB メモリを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】
情報学入門

【Outline and objectives】
Learn Data Science with Python programming.　Practice From Collecting Data, visualization, analysis , to report.

LAW200FA

民法

連環科目　　2～4 年次／ 4 単位[年間授業/Yearly]

松田　佳久

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部の学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。

【到達目標】
取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。
具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」、「DP5」、「法律」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は 4 月 27 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を始めるに際しての諸注意
	民法典とその構成 (1)	民法の意味、民法典の編纂、民法典の構成
第 2 回	民法典とその構成 (2)	物権と債権
第 3 回	売買契約の有効な成立（1）	契約の成立要件
第 4 回	売買契約の有効な成立（2）	契約の有効要件
第 5 回	契約の有効要件 (1)	意思の不存在（心裡留保、虚偽表示、錯誤） 取消と無効
第 6 回	契約の有効要件 (2)	契約の効果帰属要件（代理）
第 7 回	契約の有効要件 (3)	契約の効果帰属要件（無権代理） 条件と期限
第 8 回	売主の義務と買主の義務（1）	物の引き渡し
第 9 回	売主の義務と買主の義務（2）	金銭の支払
第 10 回	売主の義務と買主の義務（3）	消費貸借契約 利息契約
第 11 回	売主の義務と買主の義務（4）	債権関係の終了
第 12 回	売主の義務と買主の義務（5）	相殺 その他の債権の消滅原因
第 13 回	売主の義務と買主の義務（6）	債務不履行と債権者の救済手段
第 14 回	売主の義務と買主の義務（7）	損害賠償の請求

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	売買契約による所有権の移転（1）	物権変動の基本原則
第 16 回	売買契約による所有権の移転（2）	不動産取引と登記
第 17 回	売買契約による所有権の移転（3）	不動産登記
第 18 回	売買契約による所有権の移転（4）	動産取引における公示の原則と公信の原則
	所有権と占有権（1）	物権法の基本原則
第 19 回	所有権と占有権（2）	所有権の特別な取得原因
第 20 回	債権の回収と債権の担保（1）	債権の回収の基本原則
第 21 回	債権の回収と債権の担保（2）	詐害行為取消権
第 22 回	債権の回収と債権の担保（3）	責任財産の拡大による債権の担保（保証）
第 23 回	債権の回収と債権の担保（4）	特殊な保証
第 24 回	債権の回収と債権の担保（5）	優先弁済権の確保による債権の担保（担保物権、抵当権）
第 25 回	債権の回収と債権の担保（6）	根抵当権 非典型担保（仮登記担保、譲渡担保、所有権留保）
第 26 回	法律の規定に基づいて生ずる債権（1）	事務管理、不当利得
第 27 回	法律の規定に基づいて生ずる債権（2）	一般的不法行為
第 28 回	法律の規定に基づいて生ずる債権（3）	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宮本健蔵編著『第二版　コンダクト　民法』2020 年 4 月　嵯峨野書院

【参考書】
民法判例百選 Ⅰ、Ⅱ (第８版)　有斐閣
基本法コンメンタール　日本評論社

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、中間試験（50 点満点）と期末試験（50 点満点）の合計により行います。
中間試験を受験しない人がいますが、受験しないとこの講座の単位取得はできません。
場合によっては、中間試験が教室で実施できない場合があります。
そのときは、学習支援システムに中間試験の問題を掲載しますので、中間試験の所定の期間内に実施してください。

【学生の意見等からの気づき】
基本的には、毎回出席して、講義をしっかりと聞くことが必要になりますが、春学期の講義で教室が使えない場合は、学習支援システムを活用します。

【学生が準備すべき機器他】
基本は板書ですが、春学期の講義で教室が使えない場合は、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
Civil law is the most fundamental and important law in civil life. Civil law is broadly divided into property law, which centers on transactions, and family law, which centers on family life.Since this lecture is aimed at students in the business administration department, I will focus on the former property law.

LAW200FA

会社法

連環科目　　2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

鬼頭　俊泰

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、会社法が規定する株式会社を中心に講義する。
履修学生は、会社に関する制度や基礎概念、ひいては会社法が会社関係者の利害をどのように調整・規律しているのか、会社の利益をどのように分配するのかなど、会社法が定める制度の全体像を理解することを目的とする。
本講義は、かかる理解に基づきながら、実際に問題となった紛争事例やその解決への道筋、すなわち制度の運用面において妥当な解決策を導き出すための能力を涵養する。

【到達目標】
本講義では、履修学生が、①講義内で取り上げた会社法の各制度を説明できるようになること、②会社法が関係する具体的な事例に対して、関連する条文や制度に基づきながら、一定の妥当な結論を導き出せるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンライン（資料配信型）での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本講義の開始日は４月２４日（金）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
オンライン講義を行うにあたっては、難解な専門用語やわかりづらい制度について平易な言葉で説明することで講義内容の理解を促す。また、適宜、学生からのリアクションペーパーの提出を求めることで学生の講義内容に対する理解状況の把握に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1回	Orientation・会社法総論	全体の講義計画・各回講義概要・成績評価方法、基準等を説明したうえで、会社法の意義や株式会社制度について説明する。
2回	会社の種類とその性質	会社法が規定する会社の種類（株式会社・持分会社）とそれぞれの会社の特徴を説明し、それぞれの会社の長所・短所などを比較・検討する。
3回	会社の資金調達方法	会社による資金調達の必要性と会社法が規定する資金調達方法を概括的に説明する。
4回	株式会社の設立方法・設立手続き	会社法が規定する株式会社の設立方法（発起設立・募集設立）および設立手続きを説明する。
5回	株式会社の設立過程における法的問題点	会社設立時の法律問題のうち、仮装払込みを取り上げ説明・検討するとともに、かかる問題に対する会社法の規律を整理する。
6回	株式の意義	株式とは何か、どのような機能を有しているのかを説明する。
7回	株主の地位と株主間の利害調整	株主個人の権利義務と他の株主との関係をどのように調整するのか、会社法の規律を整理したうえで、事例を用いて検討する。
8回	種類株式とその活用法	特殊な種類の株式の内容とその活用方法につき、会社法の規律をもとに説明・検討する。
9回	募集株式発行手続き	株式はどのような手続きに従い発行されるのか、発行時の法的問題（有利発行・不公正発行等）とともに、整理・検討する。
10回	株式の譲渡手続き	株主の投下資本回収方法としての譲渡手続きは会社法上どのように設定されているのか、事例も交えて説明する。
11回	自己株式の意義と機能	自己株式とは何か、どのような機能を有しているのか・会社法が一定程度規制を課している理由はどこにあるのか、会社による払い戻しや関連事例を取り上げながら説明・検討する。
12回	新株予約権の意義と機能	新株予約権とは何か、どのような機能・問題点を有しているのか、株式の内容と比較しながら説明・検討する。
13回	社債・新株予約権付社債の意義と機能	社債・新株予約権付社債とは何か、どのような機能・問題点を有しているのか、株式・新株予約権と比較しながら説明・検討する。
14回	春学期のまとめと理解度チェック	１回～１３回の講義内容を振り返るとともに、学生の理解度をテストによりチェックする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
15回	株式会社の機関設計	株式会社の内部は会社法によってどのように組織することができるのか、会社法が許容する機関設計を総論的に説明する。
16回	株主総会の意義と機能	株主総会とは何か、どのような機能を有しているのか、会社法の規定をもとに説明する。
17回	株主総会の瑕疵	株主総会に関する法的問題のうち、いわゆる瑕疵ある株主総会に対して会社法がどのような規律を定めているのか、関連事案とともに整理・検討する。
18回	取締役・取締役会の意義と機能	取締役・取締役会とは何か、どのような機能を有しているのかにつき、会社法の規定を中心に整理説明する。
19回	取締役の法的義務	取締役の会社・株主に対する法的義務につき、善管注意義務・忠実義務の説明を土台とした上で、内部統制システム構築義務・競業避止義務・利益相反取引規制に関する法的問題を関連事案を取り上げながら説明・検討する。
20回	監査役・監査役会・会計監査人・会計参与の意義と内容	会社法が定める、監査役・監査役会・会計監査人・会計参与の内容につき、整理・説明する。
21回	役員の責任と責任追及のための仕組み	役員の責任（対会社責任・対第三者責任など）および、同責任に違反した役員への責任追及方法につき、それぞれ会社法がどのような規定を置いているのか関連事例をもとに説明・検討する。

22 回	委員会設置会社（監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社）の意義と概要	監査役・監査役会を置く従来型の株式会社以外の会社類型につき、会社法の規定をもとに説明する。
23 回	役員報酬	会社法が役員報酬に対して各種規定を置き規律している理由と、役員報酬が問題となった事例を説明・検討する。
24 回	株式会社の計算	株式会社の計算に関する会社法上の規定について、①財務情報開示、②剰余金分配規制との関係から説明する。
25 回	株式会社の組織再編	会社法が定める組織再編行為（組織変更・合併・分割・株式交換・株式移転）について、会社法の規定をもとに内容・手続きを説明する。
26 回	M&A に対する法規制	会社組織再編時に発生する各種法的問題（具体的には、反対株主による株式買取請求時の「公正な価格」の算定方法など）を説明・検討する。
27 回	持分会社の意義と概要	会社法が定める持分会社（合名・合資・合同会社）につき、株式会社と比較しつつ会社法の規定内容を説明する。
28 回	秋学期のまとめと理解度チェック	１５回～２７回の講義内容を振り返るとともに、学生の理解度をテストによりチェックする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料配信時に次回の講義内容を連絡するので、テキスト該当箇所を予習しておく。
本講義の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
会社法講義３０講、松嶋隆弘編、中央経済社、２０１５年
六法（最新版の六法が望ましい）

【参考書】
会社法判例百選（第３版）、岩原紳作ほか編、有斐閣、２０１６年

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準は以下のとおりとする。
試験（８０％）、平常点（２０％）により成績を評価する。
※いずれもレポート課題を予定。
※※具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
※※※履修学生が新型コロナウイルスの影響でオンライン授業について試行錯誤することが予想されるため、かかる学生の状況を極力配力したうえで採点を行う。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】
４月２０日時点では、Zoom などを利用した双方向型のオンライン授業は予定していません。ただ、学習支援システムを利用した情報資料の配信を行う予定なので、同資料をダウンロードあるいは閲覧できる情報環境（PC・スマートフォンなど問わず）は整えておいてください。

【その他の重要事項】
履修にあたって何か不都合が生じた場合は、気兼ねすることなく、教員や事務局まで問い合わせてください。

【関連科目】
民法

【Outline and objectives】
Topics include the promotion and formation of corporations; the distribution of power between management and shareholders; the limitations on management powers imposed by corporate law etc.
Students who take this class aim to understand about the above points.
And, based on this understanding, we develop legal problem-solving skills, that is, “legal mind”.

LAW200FA

労働法

連環科目　　2～4 年次／ 4 単位[年間授業/Yearly]

山本　圭子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働基準法、労働契約法、労働組合法等の意義と内容を理解することを目的とする。労働基準法、労働契約法、労働組合法などの労働法の基礎を理解し、法令、判例、学説に沿った問題解決ができることを到達目標とする。

【到達目標】
学生が、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、4 月 27 日以降、随時レポート課題を出して、提出させる。
その際、インターネットサイトの動画見てもらうことがある。
機器などの準備が整えば、リモート授業を行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	・ガイダンス ・労働法概論	・講義内容や評価方法の説明。 ・労働法の全体像について学習する。
第 2 回	労働基準法概論	労基法の概要と労働憲章を学ぶ
第 3 回	就職活動と法	募集、採用に係る法理を学ぶ
第 4 回	労働契約	労働契約、就業規則、労働協約の学ぶ
第 5 回	就業規則	就業規則の作成、変更法理を学ぶ
第 6 回	賃金	賃金決定、賃金支払原則を学ぶ
第 7 回	賞与・退職金	賞与、退職金を学ぶ
第 8 回	労働時間①法定労働時間	労働時間規制の変遷と休憩を学ぶ
第 9 回	労働時間②変形制等	変形労働時間制を学ぶ
第 10 回	休日、時間外労働	休日付与と時間外・休日労働を学ぶ
第 11 回	年次有給休暇	年次有給休暇について学ぶ
第 12 回	雇用平等	雇用平等について学ぶ
第 13 回	ワークライフバランス	育介法について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	試験を実施し、まとめと講評を行う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	人事異動	配転、出向、転籍を学ぶ。
第 16 回	懲戒処分	服務規律と懲戒を学ぶ
第 17 回	労働契約の終了①解雇	労働契約の終了、解雇を学ぶ
第 18 回	労働契約の終了②退職等	雇止め、退職、定年を学ぶ
第 19 回	労働基本権	労働組合法を学ぶ
第 20 回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済を学ぶ
第 21 回	労働協約・労働争議	労働協約と争議行為を学ぶ
第 22 回	安全と労災保険	安衛法と労災保険法を学ぶ
第 23 回	労働者の人格権保障	ハラスメント、プライバシーを学ぶ
第 24 回	パート有期法	パート有期法を学ぶ
第 25 回	労働者派遣法	労働者派遣法を学ぶ
第 26 回	雇用保険	雇用保険法を学ぶ
第 27 回	労働市場法	労働市場法の変遷を学ぶ
第 28 回	試験・まとめと解説	試験を実施し、まとめと講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020 年 5 月発刊予定、2,300 円（予価）＋税

【参考書】
労働六法編集委員会編『労働六法 2020』（旬報社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
今回が初年度のため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムでワードファイルで宿題を提出することがある。

【その他の重要事項】
関連科目：「民法」

【オフィスアワー】
講義後に講師控え室にて受け付ける

【Outline and objectives】
The goal of this lecture is to understand the significance of the Labor Standards Law, the Labor Contract Law, and the Trade Union Law, and to be able to solve problems in accordance with laws, ordinances, and theories.

MAN200FA

広告論

特殊講義　　2〜4 年次／2 単位[オータムセッション/Autumn Session

小林　健一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。
この講座では、「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の一手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。

【到達目標】
①「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
② 広告の機能/役割について理解し、説明できる。
③ 広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
④ 広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
●講義は、電通出身の教員が勤めます。
●講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題、授業内小テストを併用します。
●将来広告の仕事に携わる受講生ばかりではないことを考え、授業内に「今週の広告」「今週の言葉」「仕事の力裏表」等のミニコーナーを設け、幅広い知識見識が身につくようにします。
●また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めるために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
●ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。
（授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける広告の機能と役割	マーケティングにおける 広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーションとは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、 その他の広告関連企業の機能と役割 広告会社の組織と機能
第 5 回	広告戦略/広告計画 1	広告計画立案の流れ 広告計画の意味と重要性 状況分析と広告目標の設定
第 6 回	（ゲスト講師）事業会社	事業会社における広告業務 （昨年度は 資生堂ジャパン株式会社 メディア統括部長 高橋 満 氏）
第 7 回	広告戦略/広告計画 2	戦略とは？ 広告戦略の基本
第 8 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 9 回	（ゲスト講師）広告会社	実体験を核としたマーケティング・コミュニケーション （昨年度は（株）電通ライブ シニア・クリエーティブディレクター 原田 和明 氏）
第 10 回	表現計画	広告表現とは？ 広告表現の類型化
第 11 回	（ゲスト講師）広告会社	広告表現制作の実際 （昨年度は （株）電通 エグゼクティブクリエーティブディレクター 佐藤 義浩 氏）
第 12 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 13 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ
第 14 回	ブランドと広告	ブランドとは？ ブランドと広告の関係 授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけるよう努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】
「現代広告論 第３版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聰（編）有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】
出席はとりません。
授業内課題 30 ％　授業内小テスト 70 ％の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話したいと思います。
・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは授業終了後、授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】
教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】
なし

【Outline and objectives】
Marketing and advertising
This course aims to clarify the role of "advertisement" at first and then focus on
"advertisement" as a means of "marketing communication", to learn the theory and
practical knowledge.

LAN200FA

Skills for SA

特殊講義　　2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

パワー　トーマス　G

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to help students prepare to study abroad at a university outside Japan. Students will use English as a means of communication and will learn useful academic, social, and intercultural communication skills necessary to gain confidence for success in a foreign country.

【到達目標】
The goal of this course is to improve all aspects of English study in preparation to study abroad. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic format and structure of a paragraph and an essay will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid students in their preparation for presentations on the topics covered. Students will read articles, write reports, participate in discussions, give presentations, and learn more about social and intercultural communication issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」と「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
Active participation is essential. Students will work in pairs and in small groups. Homework will be given to help students prepare for the following class. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course Outline, Explanation of topics and expectations
Week 2	Social Skills	Communicating and expressing opinions; discussion skills. Conversation topic: holidays and festivals
Week 3	Academic Skills	Paragraph and essay writing; Format and structure; Quoting and paraphrasing
Week 4	Intercultural Communication Skills	Communicating clearly. Effect of Aimai and Amae on individual and group behavior.
Week 5	Social Skills	Traveling abroad and culture shock Conversation topic: music
Week 6	Academic Skills	Effective presentation skills, delivery and non-verbal communication
Week 7	Intercultural Communication Skills	Stereotypes and generalizations; appreciation of diversity.
Week 8	Mid-term presentations	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics so far studied.
Week 9	Social Skills	Building confidence and connecting with people; Belief in yourself. Conversation topic: sports
Week 10	Academic Skills	Note-taking, quoting, paraphrasing, summarizing, citing sources / APA style
Week 11	Intercultural Communication Skills	Interview an exchange student; Conversation topic: popular sightseeing spots
Week 12	Academic Skills	From paragraph to essay: outline, format and structure
Week 13	Academic Skills	Preparation of final essay Research skills: In-text citation and a reference list
Week 14	Final Paper and Assessment	Submission of final papers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be given to help students prepare for the following lesson. Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class. If you are absent, it is your responsibility to submit work and find out what you need to do for the following lesson. Missing more than three classes will seriously impact your final grade in this course.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
There is no assigned textbook for this course.
The instructor will provide online resources and will distribute classroom handouts and reading materials.

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.
Cottrell, Stella. (2019) The Study Skills Handbook. 5th Edition. London: Red Globe Press. ISBN 978-1-137-61087-4
Zemach, Dorothy E. and Ghulldu, Lisa A. (2011) Writing Essay: From Paragraphs to Essay. London: Macmillan Publishers. ISBN 978-0-230-41592-8
Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

【成績評価の方法と基準】
You will be graded on:
20% Active participation in English
40% Weekly homework & assignments
20% Mid-term presentation
20% Final Report
More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【関連科目】
Not applicable.

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students prepare to study abroad at a university outside Japan. Students will use English as a means of communication and will learn useful academic, social, and intercultural communication skills necessary to gain confidence for success in a foreign country.

社会貢献活動と企業

特殊講義　　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

洞口　治夫、小池　祐二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、社会貢献や社会的課題解決を志す経営者や起業家など、多彩なゲストスピーカーを迎えて、その取り組みについてお話をいただきます。社会貢献という切り口から、企業経営のあり方やイノベーションについて議論していきます。企業の社会貢献に関する歴史や様々な背景、世界における企業の経営思想、経営戦略などについて学び、日本で行われている取り組みの事例を学習します。そうした基礎知識をもとに、現代の中小企業や大企業経営における社会貢献の意味や役割など考えます。企業の社会貢献とは、顧客や従業員、取引先、地域社会といった利害関係者、また社会全体に広く配慮し、長期的に企業価値を高めることを意味しています。この講義では、さまざまな分野で社会貢献に取り組む企業について、それぞれの会社の当事者にお越し頂いて事例を学習していきます。その分野とは、日本における格差と貧困問題、環境対策や持続可能性への対応、ダイバーシティへの取り組み、食品ロス対策などです。

【到達目標】
①世界における企業の社会貢献活動と社会問題解決のための取り組みを学び、経営学の現代的課題を学びます。
②現代の日本企業がどのような社会貢献を行っているのか、その背景や考え方、実践を知り、社会的課題への対応を知り、未来における企業経営のありかたを考える素養を身につけます。
③企業が、その社会貢献のために、どのような製品開発を行い、ソリューションを探索し、イノベーションを起こしてきたか、について理解する論理的思考力を身につけます。
③公務員、病院、教育機関、研究機関といった公的機関による社会問題の取り組みと、企業による社会問題の取り組みを比較し、それぞれの優位性と限界を考察するための基礎概念を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
全 14 回のうち５回は＜講義＞であり、配布資料やテキストの読解を中心として講義を進めます。８回の授業は＜ケース＞として、社会貢献に力を入れる企業経営者などゲストスピーカーをお招きして、それぞれの取り組みについて講演をしていただきます。講演内容から企業の社会貢献の実際を知り、この授業で学ぶべき事柄を総合的に理解していきます。最終回は、講義のまとめと授業内テストあるいはレポートの提出を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	【授業の概要と目的（何を学ぶか）】【到達目標】【授業の進め方と方法】の説明。授業構成と成績評価方法の説明。授業内でスマホや PC を使い、一部上場企業の HP などを参考にして、企業が行っている社会貢献活動はどのようなものかを調べるグループワークを行う。この作業を通じて企業の社会貢献という、この授業の主題、問題意識について認識し、専門用語を学習する。
第 2 回	＜講義＞資本主義の発達と企業経営、経営思想の変遷	19 世紀から 21 世紀に至る資本主義の特徴と企業の社会貢献活動の歴史を確認する。石炭採掘に女性労働や児童労働が用いられた時代もあり、繊維産業では 1 日 16 時間労働が課された時代もあった。フォード、シャネル、渋沢栄一、松下幸之助、本田宗一郎、ジョブスなどの事例を通じて、企業家の経営思想の変遷を捉え、フィランソロピーにとどまらず、企業の社会貢献活動が強調されるようになった理由を考える。資本主義発達の歴史的過程をたどり、産業革命、世界大戦、高度経済成長の歪み、リーマンショックなどの大きな事象と、それに起因する企業の社会的貢献を振り返る。
第 3 回	＜ケース＞環境問題	環境問題に取り組んでいる企業の方にお越しいただき、お話を伺う。企業が取り組むイノベーションの中から、持続可能な社会づくりについてのヒントを考える。この授業では株式会社チャレナジーの事業担当者より、持続可能なエネルギーの確保について講演して頂く。自然エネルギーを活用する普通タイプの風力発電機は、強風時には破損防止のためプロペラを止め、発電を中止しなければならない。その欠点を解消し、強風下でも発電を可能にする垂直軸型マグナス風力発電機の開発を行っているのが、株式会社チャレナジーというベンチャー企業である。このタイプの風力発電機は、強風時でも発電が可能であるため、台風の通り道にあたる国や地域、離島などでの電力供給や、災害時の仮設の風力発電装置としての用途も期待されており、フィリピン政府などとのコラボレーションも展開している。
第 4 回	＜ケース＞資源循環	緑産株式会社は、生物資源の循環をベースにした「農業機械システム」、「地域社会の環境保全機器」、「緑地の造成管理機械」、「生物資源エネルギー」開発を主な活動領域としている企業である。最新の灌漑システム、高収益酪農をめざす高度家畜処理システム、家畜糞尿、食品残渣、選定枝、苅草などの生物系廃棄物のコンポスト化システム、未利用木質資源の木質バイオマス化システムなどの先進的機器とエンジニアリングの提供によって、持続可能な社会の実現を目指している。
第 5 回	＜講義＞ SDGs、SRI、ESG 投資	SDGs（Sustainable Development Goals ：持続可能な開発目標）と SRI（Socially Responsible Investment ：社会的責任投資）、ESG（Environmental、Social、Corporate Governance）投資などについて、国連が定めたアジェンダや民間による認証制度である ISO26000、ISO20400 などを紹介しつつ、現代の企業経営に求められているものは何かを、伊藤園、住友化学、ディズニーなどの事例をもとに考える。
第 6 回	＜ケース＞ダイバーシティの実現	授業にお越しいただくのは吉藤健太朗（吉藤オリィ）氏（株式会社オリィ研究所代表）である。吉藤氏は OriHime（オリヒメ）と名付けられた小さなロボットを使って、遠隔地との円滑なコミュニケーションをとることを目指している。テレワーク、遠隔教育、筋萎縮性側索硬化症（ALS）などで、体を動かしたり言葉を発したりすることができない人のコミュニケーションと就業支援を柱にすえ、事業を展開している。小さなロボットを使って遠隔地にいる人に、あたかも自分がその場にいるかのように認知してもらうことによって深い交流をはかる、遠隔コミュニケーションの在り方を追求している。
第 7 回	＜ケース＞ダイバーシティへの寄与	WHILL 株式会社の開発担当者ないし経営者の方からご講演頂く。WHILL 株式会社は、徹底した顧客重視の観点から、これまでの車いすや電動車いすの不便さを大幅に解消した、次世代型電動車いすを開発・製造しているメーカーである。その製品は、最大斜度 10 度の坂道走行や 7.5cm の段差越え、砂利道での走行、ほぼその場での 360 度の回転などを実現した画期的なものである。デザインのスタイリッシュさから、自宅にこもりがちな車椅子ユーザーの心理的バリアの解消にも成功し、車いすユーザーの積極的な社会進出を促すことを目指している。

第 8 回	＜講義＞ソーシャル・ビジネスと BOP 市場の開拓、ソーシャル・マーケティング	この講義では、途上国の経済発展の進める手法としてのビジネスを考える。ノーベル賞受賞者であるユヌスが展開するグラミン銀行グループ（マイクロクレジットなど）の事例を通じて、ソーシャル・ビジネスの実際と有効性について考える。世界の最貧困層ともいえる BOP（Bottom of the Pyramid ：経済ピラミッドの底辺層）を新しい市場として考え、その市場をイノベーションによって貧困から脱却させようとする企業戦略と、それに関係するマーケティング手法としてのソーシャル・マーケティングについて、ユニリーバ、フィリップスなどの企業と公共セクターとの協創について考える。
第 9 回	＜ケース＞食品ロス低減	この授業にお越しいただくのは、ジャーナリストの井出留美氏である。井出氏は『食品ロスをなくしたら 1 ヶ月 5,000 円の得』（マガジンハウス）、『賞味期限のウソ』（幻冬舎新書）などの著作を通じて「食品ロス」問題を世に問い、多くのムーブメントを巻き起こしているジャーナリストである。国の政策にも大きな課題を提起しており、可能な限り食品ロスを削減し、食品添加物を使わず、ほとんどの商品を 100 円という価格で提供することに成功しているアクアベーカリーとのコラボなど、企業経営の面からも食品ロス問題の解消による持続可能な社会の構築を目指して活動している。
第 10 回	＜ケース＞食文化の発展	この授業にお越しいただくのは平出淑恵氏（株式会社コーポ・サチ代表取締役）である。平出氏は若手蔵元の全国組織である日本酒造青年協議会の酒サムライの活動サポートを社外社会貢献活動として、日本酒のすばらしさの再認識活動、蔵元支援による日本酒製造振興と販売の支援を行っている。また、ロンドンで行われている世界最大規模のワインコンペティション「IWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）」の日本酒部門開設に尽力し、日本酒の魅力を世界に発信し、海外での販売促進を支援している。現在の世界的な和食ブーム、日本酒ブームを演出した立役者の一人である。
第 11 回	＜講義＞メセナ、CSR、CSV	企業の社会貢献活動の形態として知られているメセナ（Mécénat ：企業による文化・芸術活動の支援）や CSR（Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任）について、小林一三の思想やヤマハの楽器製造、劇団四季、シーメンス、PPR（グッチ）グループなどの事例を参考にして、その考え方を理解する。また、それらに対する日欧の考え方の違いを理解する。続いて、ハーバード・ビジネススクールのマイケル・ポーター教授が新しい競争優位の戦略として提起した CSV（Creating Shared Value ：共通価値の創造）について、ナイキ、ネスレ、ファーストリテイリングなどの事例を参考にして理解し、これからの企業経営のあり方を展望する。
第 12 回	＜ケース＞人材育成	この授業には学校法人三光学園が運営する株式会社によるビジネスについて紹介して頂く。50 以上の学校を運営する同学園の理事であり、その中核企業である㈱日本教育クリエイトの代表取締役社長である鳥居敏さんにお越し頂き、医療事務、高齢者福祉事業、児童福祉事業などを通じた専門学校を中心とした社会貢献人材の育成システムについてお話を伺う。また、三光学園の運営する東京未来大学や通信制高校である飛鳥未来高等学校など、学校法人の運営を行う立場から日本における社会貢献人材育成システムとその未来像についてお話を伺う。
第 13 回	＜ケース＞起業支援	この授業にお越しいただくのは、浜野慶一氏（株式会社浜野製作所代表取締役 CEO）である。浜野氏は高度な技術を持つ金属加工工場の CEO であり、「どんなに精度や性能の高いものを作っても世の中の役に立たなければ意味がない。社会の問題を解決できるものでなければ、それは、ただの作り手の自己満足に過ぎない。」という経営哲学のもと、ものづくりを通じて社会の課題解決を目指す若者のベンチャー企業のスタートアップ支援や、技術コンサルティングを事業化し、いくつもの企業を育てている。その事業は広く海外でも紹介され、アメリカのビジネススクールの視察なども多い。
第 14 回	まとめと授業内試験	これまでの１３回の講義とゲストスピーカーの皆さんのお話をもとに、企業の社会貢献のあり方や、これからの社会における企業の役割について、まとめをおこなう。また、授業の後半部分で授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習としては、各時限ごとの予習に 100 分、復習に 100 分を標準とします。予習としては課題となる論文や図書、資料を読む作業が必要となります。復習としては、＜講義＞や＜ケース＞の内容を自分自身のノートにまとめ直す作業が必要となります。ゲスト講師をお呼びする前には、その企業についてウェブサイトを調べる作業を行う必要があります。参考文献の指定箇所を読み、ノートにまとめることが必要です。その他、授業前に必用な学習内容や授業後の課題などを、学習支援システム（H'etude）で提示するので、授業前後に確認する必要があります。

【テキスト（教科書）】
・洞口治夫・小池祐二編著『集中講義　高校生の経営学－経営学部の受験を考えている人に－』文眞堂、2018。
・上記のほかに必要な資料は授業内で指示します。また、学習支援システム（H'etude）を資料配布に利用する場合があります。

【参考書】
適宜、授業中に紹介するが、以下のものは、簡便で参考になる。
・コトラー他『コトラーのマーケティング３・０―ソーシャル・メディア時代の新法則』朝日新聞出版、2010。
・ユヌス『３つのゼロの世界　貧困０・失業０・CO_2 排出０の新たな経済』早川書房、2018。
・名和高司『CSV 経営戦略―本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する』東洋経済新報社、2015。
・事業構想研究所・白田範史編『SDGs の基礎』事業構想大学大学院大学出版部、2018。

【成績評価の方法と基準】
・＜講義＞での平常点（出席、授業内容の要約作成、グループワークへの参加、２％ × ６回）・１２％
・＜ケース＞での質問や問題提起などの授業への貢献（２％ × ８回）・１６％
・授業内で提示するレポート課題・３２％
・期末の授業内試験・４０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの新設科目であるために該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム（H'etude）への登録をして、その利用ができる PC やスマホを持参すること。

【その他の重要事項】
＜講義＞および＜ケース＞の日程は変更になる可能性があります。ゲストスピーカーのお話に関する課題を提示するので、毎回、遅刻しないように出席すること。また、講義や質疑応答の内容をしっかりとノートにとり、学んだ事柄を記録すること。

【関連科目】
経営戦略論、マーケティング論、人的資源管理論、国際経営論、国際経営戦略論、産業史。ただし、これらの科目を履修済みである必要はない。

【Outline and objectives】
In this class, we will have a variety of guest speakers, such as managers and entrepreneurs who want to contribute to society and solve social issues, and talk about their efforts. We will discuss corporate management and innovation from the perspective of social contribution. Students will learn about the history and various backgrounds of corporate social contribution, corporate management philosophy and business strategy in the world, and learn examples of initiatives being carried out in Japan. Based on such basic knowledge, we consider the meaning and role of social contribution in the management of modern small and medium-sized enterprises and large enterprises. Corporate social contribution means to increase corporate value over the long term by giving due consideration to stakeholders such as customers, employees, business partners, and local communities, as well as society as a whole. In this lecture, we will invite the presenters from each company and learn the cases of companies that contribute to society in various fields. These fields include inequality and poverty in Japan, environmental and sustainability initiatives, diversity initiatives, and food loss management.

EU 経済とドイツ

特殊講義　　2～4 年次／ 2 単位[秋学期授業/Fall]

藤澤　利治

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ連合（EU) における経済通貨統合の現状と問題点について、EU の基軸国ドイツに焦点を当てて分析する。
1、ヨーロッパ統合の理念と目標について理解する。
2、ヨーロッパ経済通貨統合の歴史プロセスについて理解する。
3、単一通貨ユーロ導入のプロセスとその意義を理解する。
4、ユーロ危機とその対応策について理解する。
5、イギリスの EU からの離脱について理解する。

【到達目標】
1、EU の経済統合について、歴史的歩みと現状を説明できるようになる。
2、単一通貨ユーロの誕生とねらいについて説明できるようになる。
3、ユーロの問題点と 2009 年からのギリシャ危機・ユーロ危機について説明できるようになる。
4、イギリスが EU から離脱する原因と意味、そしてその EU への影響について説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
EU（欧州連合）は 2019 現在、ヨーロッパの 28 カ国が加盟し、5 億人を超える人口を擁している。さらに GDP で見て、アメリカを上回る経済規模に達している。この EU を、欧州統合のスタート時点から今日までの歴史をたどりながら、創設の理念、仕組みと組織、経済統合の内容、通貨統合のプロセス、単一通貨ユーロの導入と現状、そして 2008 年のリーマンショック以降の EU 経済とユーロ危機、イギリスの EU 離脱問題、移民・難民問題と反 EU 勢力の台頭を、順に見ていく。
講義の方法は、毎回前半では各回のテーマに沿って講義し、後半では履修生と質疑応答を行い、理解を深める予定でいる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のガイダンス。ヨーロッパ・EU・ユーロについての概観	履修上の注意。EU の概要、ユーロについて説明する
第 2 回	ヨーロッパ統合の理念と歴史。第 2 次世界大戦後のヨーロッパ	ヨーロッパ統合の理念と歴史を概観し、独仏の対立、戦争の結果、平和と繁栄を目指す再建方針を説明する
第 3 回	ヨーロッパ統合の歴史Ⅰ（ECSC、EEC、EURATOM）	独仏対立の原因を無くす試み、経済統合の歩みについて説明する
第 4 回	ヨーロッパ統合の歴史Ⅱ（EC 創設、加盟国の拡大）	統合の進化と拡大のプロセスについて概観する
第 5 回	ヨーロッパ統合の歴史Ⅲ（通貨統合への始動）	共通通貨の創設を目指すプロセスについて説明する
第 6 回	冷戦の終結とドイツ統一そして EU へ	欧州での東西冷戦の終結と東西ドイツの再統一、EU への発展について説明する
第 7 回	マーストリヒト条約と EU の目標	EU（欧州連合）を創設する条約（マーストリヒト条約）を概説する
第 8 回	EC/EU の構造分析Ⅰ（単一市場、共通農業政策）	EC/EU の仕組みと機能について説明する。まず経済統合の中心である市場統合と共通農業政策を分析する
第 9 回	EC/EU の構造分析Ⅱ（財政の仕組み、社会政策、地域政策）	EC/EU の財政、社会政策、地域政策を説明する
第 10 回	EC/EU の構造分析Ⅲ（政治統合、統治機構）	EC/EU の政治統合・統治機構を分析する
第 11 回	EU の東方拡大とその問題点	EU が東欧諸国を統合する理由と問題点について分析する
第 12 回	単一通貨ユーロ導入のプロセスとユーロ危機の勃発	単一通貨ユーロの導入についてその動因とプロセスを説明し、ユーロ危機の原因と対応策について説明する
第 13 回	移民・難民問題と反 EU 勢力の台頭、そしてイギリスの EU 離脱問題	EU における移民・難民の急増、反 EU 感情の増大そしてイギリスの EU 離脱問題を説明する
第 14 回	まとめと展望	ユーロ危機からの脱出、政治統合の意義、イギリスの EU 離脱、反 EU 勢力への対応策について概観する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業の中で毎回の予習と復習内容を指示するので、参考書をもとに自習すること。また、新聞や雑誌、テレビ等で日々報道される EU と加盟各国に関連するニュースをフォローしておくこと。

【テキスト（教科書）】
藤澤利治・工藤章編著『ドイツ経済− EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房、2019 年刊。
また、毎回の講義レジュメと資料を配布する。

【参考書】
①藤井良広『EU の知識〈第 16 版〉』日経文庫、2013 年
②アンソニー・ギデンズ『揺れる大欧州－未来への変容の時』岩波書店、2015 年
③ SGCIME 編『グローバル資本主義の変容と中心部経済』日本経済評論社、2015 年
④田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治『現代ヨーロッパ経済〈第 5 版〉』有斐閣アルマ、2018 年
⑤鶴岡路人『EU 離脱－イギリスとヨーロッパの地殻変動』筑摩新書、2020 年

【成績評価の方法と基準】
EU 統合の理念と歴史を正確に説明できること、EU の組織や具体的な成果を説明できること、さらに EU の現在抱えている問題を説明できることを、成績評価の基準とする。
評価の方法は、期末試験の成績の基づいて行う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目のため、アンケートを実施していないが、履修生が講義に積極的に加われるように、毎回質疑応答の時間を確保する予定でいる。

【その他の重要事項】
各回の授業になかで、ヨーロッパ経済についての自由な質疑応答にする予定でいる。それゆえ、毎回自分が取り上げるテーマを、前もって新聞や雑誌、テレビ等のニュースでフォローしておくこと。

【Outline and objectives】
This course is designed for students to understand the historical process of the european economic integration and key issues of the European Union (EU).
Since the Lehman-shock in 2008, the EU has been facing multiple crises: the problem of the single currency Euro, Greek state debt, Brexit etc. In this course students analyze these problems, and take the final examination.

ECN200FA

寄附講座・資本市場の役割と証券投資

特殊講義　　2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

鷲田　賢一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村證券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が 14 回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。
【授業の目的・意義】生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。

【到達目標】
・金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
・「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
・自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
野村グループの各講師による講義を主軸に進めていきます。
適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやりとりが発生することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	金融市場と私たちの生活がどのように密接に結びついているかを理解し、金融リテラシーを身に着けることの重要性、本講義で学習する意義を理解する。
第 2 回	経済情報の捉え方	我々の周りにある様々な経済情報を通じて、どのように経済というものが成り立っているかを理解する。企業・家計・国・海外と各項目に分け、関連性を確認する。
第 3 回	金融資本市場の役割とその変化	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを解説し、今後の展望を交えながら金融市場の役割を理解する。
第 4 回	証券投資のリスク・リターン	「投資とは」「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習した後、リスクコントロールの基本的な考え方である「長期投資」の考え方とその具体的手法を学ぶ。
第 5 回	ポートフォリオ・マネジメント	ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方と、その元となる「リスク・リターン」の関係について学習する。
第 6 回	外国為替相場とその変動要因について	「外国為替」の基本的事柄を紹介し、外国為替レートの変動要因について確認する。また世界の外国為替の状況を知る。
第 7 回	債券市場の役割と投資の考え方	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（＝金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第 8 回	株式市場の役割と投資の考え方	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について解説した後、株価の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第 9 回	投資信託の役割とその仕組み	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。
第 10 回	グローバル化する世界と資本主義の果たす役割	野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。
第 11 回	資本市場における投資家心理	証券投資を行なう際の心構えとして、私たちの投資判断に影響を与える様々な心理的バイアスについて理解するとともに、その具体例を通して対処法と投資行動への応用法を学習する。
第 12 回	産業展望と投資の考え方	成長産業とこれからの日本に期待される成長戦略について考える。具体的にどの産業がどのように変貌するのかを可能な限り具体的解りやすく解説する。
第 13 回	ライフプランニングと資産形成	なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。
第 14 回	資産形成と非課税制度、並びに「期末試験」	ライフプランニングの実践にあたり、資産形成の基礎となる NISA 等の非課税制度に関して学ぶ。また、近年、制度の充実により加入者が拡大中の確定拠出年金に加え、国民年金や財形制度に関してもその概要を学ぶ。 授業内に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。各回の講義用資料による事後学習が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】
「入門証券論　第 3 版」
榊原 茂樹、城下 賢吾、姜 喜永、福田 司文、岡村 秀夫 著 ／ 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点・小レポート 30 %（リアクションペーパーを参考とする。当日の講義内容のポイントや感想などを簡単に記述し提出）

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な事柄を重視しつつも、より現場感覚を盛り込んだ講義内容にするなど、資本市場をより身近なものと感じられる工夫をしてまいります。

【学生が準備すべき機器他】
講義の 1 週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【実務経験のある教員による授業】
全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。
証券投資提案、ライフプランニング、トレーディング、M＆A、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての実例を交えながら講義を行います。

【Outline and objectives】
Role of the Capital Markets and the Securities Investment

物流産業論

特殊講義　　年次／単位　　［秋学期授業/Fall］

安藤　康行

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営にとって、大きな関心事となっている「物流・ロジスティクス」を基礎から学習する。物流サービスや技術に関して先進的な取り組みを行っている企業から講師を招き、その企業の実例を紹介しながら講義を行うことにより、普段は見ることがない「物流・ロジスティクス」の世界を理解する力を育てる。また本科目は日本マテリアル・ハンドリング（MH）協会との連携講座である。

【到達目標】
物流産業に関する基礎知識を身に付けてもらうことにより、注目を集めつつあり、企業も力を入れている「物流・ロジスティクス」についての理解を深め、学生の視野を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「物流・ロジスティクス」に関して先進的な取り組みをしている企業より専門家を派遣してもらい、各回ごとの講義の形式で行います。講義中でのインタラクティブな質疑応答と終了時にはリアクションペーパーで各講義の理解度を確認し、最終回には参加企業の最新事例などを紹介してもらいます。併せて定期試験の期間にテストを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・イントロダクション・物流業・MH 業の産業概論	本講座の意義・目的を紹介後、物流産業の歴史的な意義及び現在までの進化について紹介する。
2	物流の概念と物流管理	あまりなじみのない物流・ロジスティクスの概念とより具体的な物流管理全般に関する知識を紹介する。3 回以降に繋がる内容。
3	物流サービス管理	物流の最も重要な役割である「サービス管理」について、YKK-AP で実際に運用している方式をベースにわかりやすく解説する。
4	物流システム管理	物流を効率的に行うためにはそれを管理するシステムが重要であり、その内容を実例を基に講義する
5	在庫管理・物流コスト管理	物流として効果を目に見える形で評価する際の重要な要素である、在庫管理（キャッシュフロー）とコスト管理を解説する。
6	アマゾンのイノヴェーションを支えるフルフィルメントセンター	より具体的な通販の最先端物流を支える仕組み（フルフィルメントセンター）を中心に講義する
7	包装（荷姿）	物流の実際の運用を支える包装に関して、専門家よりその内容をよりわかりやすく解説する
8	ユニットロード	現在の大量・高速輸送を支える基礎としてのユニットロードシステムに関して効率化の面から紹介する
9	荷役・MH・保管の合理化	最も物量の多い自動車産業の例を用い、効率的な荷役・MH・保管について解説し、併せて今後の方向性についても紹介する
10	荷役機器及び保管機器	実際の物量を処理するための機器について、先進企業の実例を基に紹介する。併せて今後の課題なども解説する
11	物流拠点の基礎知識	国内の物流ネットワークを考える上で、重要な役割となる物流拠点に関する知識及びそれを活用して何ができるかを解説する。
12	輸送・輸配送システム	日本で進んでいる、輸送・輸配送システムに関しその内容と今後の課題などについて専門家から紹介する。
13	物流のグローバル化と国際輸送	すでにグローバル化されている物流の実態とと国際物流を企画・実行するうえで、必要となる基礎知識を解説する。
14	企業の最新物流事例/ケース・スタディの紹介	現時点で物流に関連する企業の最新の事例などを紹介し、学生の視野を拡げてもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考書に記載

【参考書】
ビジネス・キャリア検定試験　標準テキスト
・ロジスティクス管理３級
・ロジスティクス・オペレーション３級
中央職業能力開発協会　編
発売元　社会保険研究所

【成績評価の方法と基準】
①「平常点」10%：授業中でのインタラクティブな Q&A で回数をベースに参加度を評価します
②各授業毎にリアクションペーパーを準備します。授業終了前に配布して内容は授業内容の理解度を確認する内容となります。２回目～１３回目までの１２回で１０点満点で評価しますが、全体の配分では 30%となります。１回目と 14 回目はありません。
③最終確認テストは定期試験期間中に「選択問題」と「記述問題」で約 30 問で 60 点満点とします
① 10%
② 30%
③ 60%
で合格は 60 点以上となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【関連科目】
特になし

【Outline and objectives】
Learning about Basical Physical Distribution & Logistics Therory by teaching from advanced logistics & Material handling company.Expected outputu will be deep understanding of logitics business world through actual example or experience to meet for corporate concern as logistics innovation.

上場会社におけるディスクロージャー制度

特殊講義　　2～4 年次／単位［春学期授業/Spring］

水沼　久雄

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、ディスクロージャーに関する様々な事例を取り上げながら、ディスクロージャー制度の基本的　な知識と役割、法定のディスクロージャー書類の見方、ディスクロージャー制度が果たす役割などを学習する。

【到達目標】
上場会社の非財務情報を含めたディスクロージャー制度を理解し、上場会社の正確かつ詳細な情報を活用する能力を身につけることを目的としている。成果イメージとしては、この講義を履修することで、履修生の専門分野の研究や就職活動の企業研究を進める際に、自ら上場会社のディスクロージャー情報を入手して活用できるようになることである。
　さらに、上場とは何か、上場の目的と効果、上場後の上場会社の現状など通じて、上場会社の本質を理解し、経済誌や新聞などで話題になる上場会社の時事問題をより身近に理解できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講 (学習支援システムにて資料を配信し、同システムにて確認小テストを実施）となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は 4 月 21 日としますが、４月に行う第１回、第２回の授業は５月中旬まで学習支援システム上に公開しますので、履修決定後、速やかに第１回、第２回の資料を読み確認小テストを実施して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（上場会社の優位性とディスクロージャー)	証券取引所に上場するメリットは何か、またなぜディスクロージャーが必要なのかについて解説する。
2	法定ディスクロージャー書類の事例研究①（有価証券報告書）	「有価証券報告書」とは何か、どのようなことが記載されているかについて、事例を交えながら具体的に学ぶ。
3	法定ディスクロージャー書類の事例研究②（株主招集通知）	「株主招集通知」とは何か、どのようなことが記載されているかについて、事例を交えながら具体的に学ぶ。
4	上場会社のＩＲにおけるディスクロージャー	上場会社が自主的に行うＩＲ (Investor Relations) について、その目的、具体的な開示内容、問題点などを解説する。
5	統合報告書の事例研究	「統合報告書」とは何か、どのようなことが記載されているかについて、事例を交えながら具体的に学ぶ。
6	上場会社におけるタイムリーディスクロージャー	東京証券取引所が上場会社に義務づけるタイムリーディスクロージャー制度について、事例を交えながら具体的に学ぶ。
7	コーポレート・ガバナンス（企業統治）とディスクロージャー	近年話題となっているコーポレートガバナンスについての背景等を学ぶとともに、上場会社の開示についても解説する。
8	ディスクロージャー情報の入手方法	有価証券報告書、株主招集通知、タイムリーディスクロージャー情報等の入手方法について事例をもとに解説する。また企業情報データベース（eol データサービス）の利用方法も紹介する。
9	株式公開（上場要件）	上場審査制度の内容を具体的に解説しながら、上場会社に求められる基本的な要件について学ぶ。
10	M＆Aとディスクロージャー	M＆Aについて具体的事例を踏まえながら手法を学ぶとともに、M＆A時のディスクロージャーについて解説する。
11	米国のディスクロージャー	日本のディスクロージャー制度と比較しながら米国のディスクロージャー制度について具体的事例を交えながら学ぶ。
12	ビジネスモデル把握の事例研究（ディスクロージャー情報からの把握）	実際の上場会社を事例に、その会社のビジネスモデルについて開示されている情報をもとに解説することにより、ビジネスモデルの把握方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ディスクロージャー情報は、その企業のウェブサイト、EDINET や東証ホームページから入手可能です。授業前には各テーマに基づく準備学習を、授業後は復習として授業で扱った事例について自分でも調べるようにしてください。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料（レジュメ）を配布（オンラインを含む）します。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業で適宜実施する「確認小テスト」の成績、「授業感想・アンケート等」の提出状況等）60 %
②課題レポート（課題提示は 2 回を予定）40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the basic knowledge and role of the disclosure system, how to read statutory disclosure documents, and the role of the disclosure system, through various examples of the disclosure.

法政大学
HOSEI University